

令和4年度
「障がい者の生涯学習」に関する
実態およびニーズ調査
報告書

令和4年11月
大分県教育庁社会教育課

目次

I. アンケート調査概要	1
1. アンケート調査の目的	1
2. 調査対象	1
3. 調査事項	1
4. 調査期間	1
5. 調査方法	1
6. 回収状況	1
II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果	2
1. 回答者の基本情報について	2
2. 学び（学習活動）への思い・現状について.....	11
3. 学びにつながる情報・機会について.....	42
4. 今後の学びのあり方について	69
III. B：家族・職員・支援者等向けアンケート結果	88
1. 回答者の基本情報について	88
2. 学びにつながる情報・機会について.....	90
3. 今後の学びのあり方について	117
IV. C：社会教育施設対象アンケート結果	130
1. 施設について.....	130
2. 事業や講座の現状について	132
3. 今後の展望について	146
V. D：生涯学習担当部局アンケート結果	155
1. 事業や講座の現状について	155
2. 今後の展望について	162
VI. 考察	165
1. 障がい当事者及び家族・職員・支援者.....	165
2. 社会教育施設.....	166
3. 生涯学習担当部局.....	166
VII. 参考資料	168
1. 調査票.....	168
①本人（障がい当事者）向けアンケート	168
②家族・職員・支援者向けアンケート	174
③社会教育施設対象アンケート	178
④生涯学習担当部局用アンケート.....	182

I. アンケート調査概要

1. アンケート調査の目的

大分県に暮らす障がいがある方やその保護者、支援者等に対し、生涯学習に関する実態およびニーズに関する調査と分析を行い、その現状を把握するとともに、今後の取組に活かすことを目的とする。

2. 調査対象

- ①特別支援学校高等部3年生、保護者、教職員
- ②公立社会教育関係施設
- ③市町村の生涯学習担当課
- ④障がい者就労支援施設

3. 調査事項

- (1) A：本人（障がい当事者）向けアンケート
- (2) B：家族・職員・支援者等向けアンケート
- (3) C：社会教育施設対象アンケート
- (4) D：生涯学習担当部局用アンケート

4. 調査期間

令和4年9月8日（木）～9月28日（水）

5. 調査方法

郵送による調査票の配布・回収

6. 回収状況

回答方法	A	B	C	D
配布部数	851	467	222	18
回収数	567	338	162	13
回収率	66.6%	72.4%	73.0%	72.2%

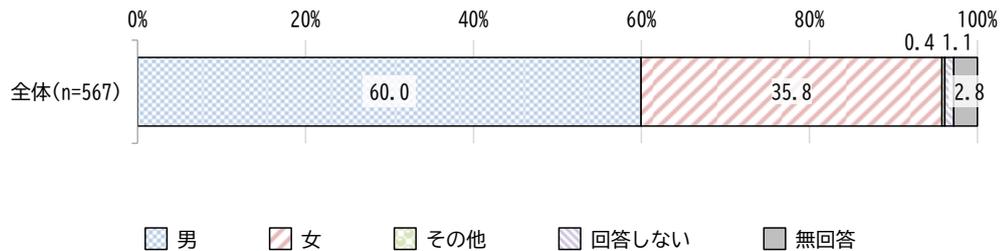
II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

1. 回答者の基本情報について

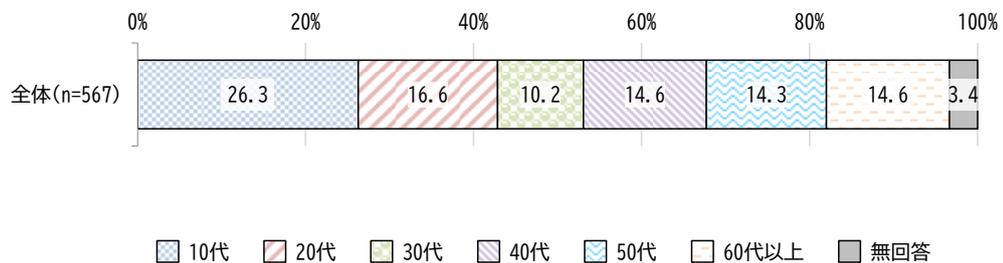
問1 性別

●回答者では、「男性」(60.0%)、「女性」(35.8%)、「その他」(0.4%)、「回答しない」(1.1%)となっています。



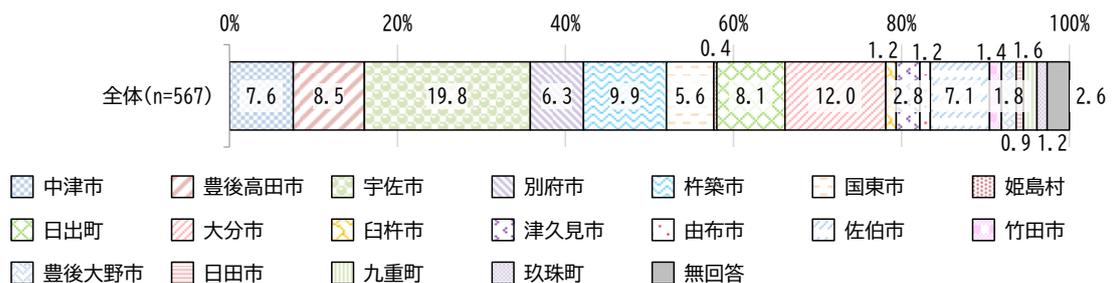
問2 年齢

●年齢では、「10代」(26.3%)の割合が最も高く、次いで「20代」(16.6%)、「40代」「60代以上」(ともに14.6%)となっています。



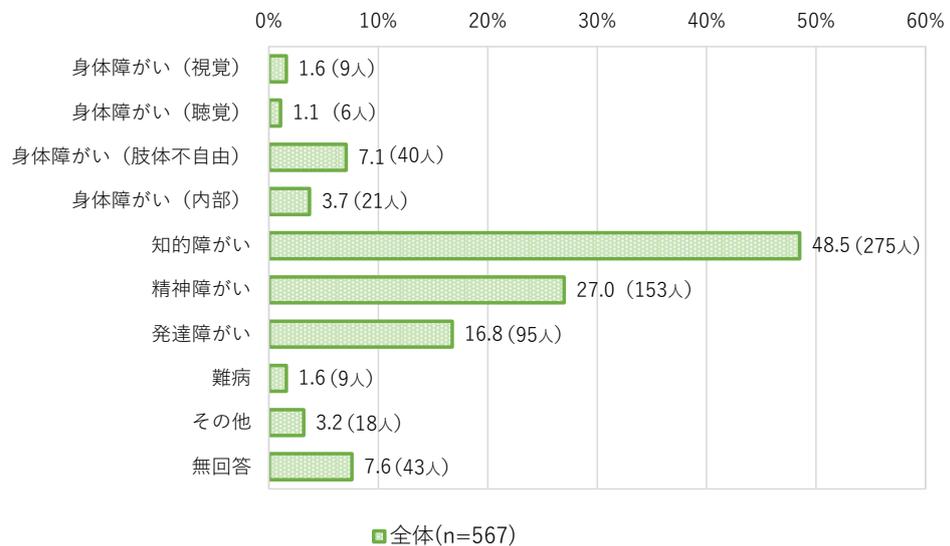
問3 住んでいる市町村

●居住地域では、「宇佐市」(19.8%)の割合が最も高く、次いで「大分市」(12.0%)、「杵築市」(9.9%)となっています。



問4 障がいの種類について（複数回答可）

- 障がいの種類では、「知的障がい」（48.5%）の割合が最も高く、次いで「精神障がい」（27.0%）、「発達障がい」（16.8%）となっています。
- 性別にみると、男女ともに「知的障がい」の割合が最も高く、次いで「精神障がい」、「発達障がい」となっています。
- 年齢別にみると、どの年代も「知的障がい」の割合が最も高くなっていますが、「20代」までは「発達障がい」の割合が、「30代」以上では「精神障がい」の割合が他と比べて高くなっています。
- 居住地別にみると、どの居住地も「知的障がい」の割合が最も高くなっていますが、「佐伯教育事務所管内」及び「日田教育事務所管内」では「精神障がい」の割合が最も高くなっています。



() 内は実数

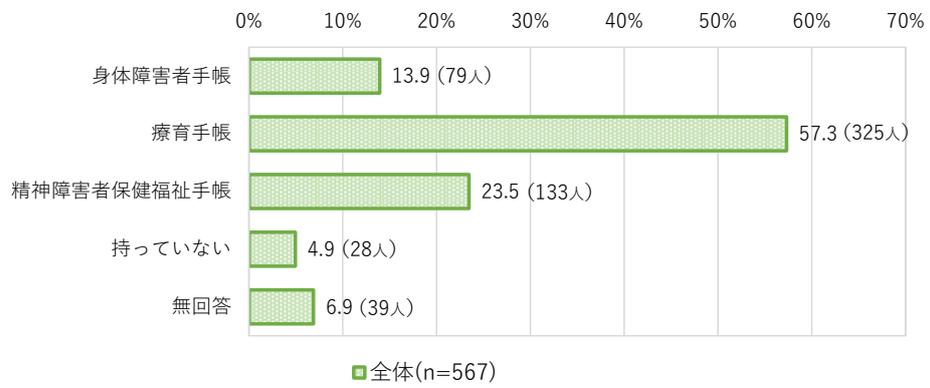
II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

(上段：人 下段：%)

		標本数(人)	身体障がい(視覚)	身体障がい(聴覚)	身体障がい(肢体不自由)	身体障がい(内部)	知的障がい	精神障がい	発達障がい	難病	その他	無回答
全体(単純集計)		567	9 1.6%	6 1.1%	40 7.1%	21 3.7%	275 48.5%	153 27.0%	95 16.8%	9 1.6%	18 3.2%	43 7.6%
性別	男性	340	6 1.8%	2 0.6%	25 7.4%	12 3.5%	166 48.8%	92 27.1%	61 17.9%	6 1.8%	13 3.8%	20 5.9%
	女性	203	3 1.5%	4 2.0%	15 7.4%	9 4.4%	105 51.7%	58 28.6%	31 15.3%	3 1.5%	4 2.0%	8 3.9%
	その他	2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	該当しない	6	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%	2 33.3%	2 33.3%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%
年齢	10代	149	2 1.3%	1 0.7%	9 6.0%	5 3.4%	106 71.1%	9 6.0%	48 32.2%	4 2.7%	5 3.4%	8 5.4%
	20代	94	0 0.0%	1 1.1%	3 3.2%	3 3.2%	54 57.4%	15 16.0%	25 26.6%	1 1.1%	5 5.3%	7 7.4%
	30代	58	0 0.0%	0 0.0%	5 8.6%	1 1.7%	19 32.8%	28 48.3%	7 12.1%	0 0.0%	3 5.2%	2 3.4%
	40代	83	0 0.0%	0 0.0%	5 6.0%	1 1.2%	35 42.2%	36 43.4%	10 12.0%	3 3.6%	2 2.4%	2 2.4%
	50代	81	1 1.2%	2 2.5%	10 12.3%	7 8.6%	32 39.5%	33 40.7%	2 2.5%	1 1.2%	2 2.5%	3 3.7%
	60代以上	83	6 7.2%	2 2.4%	6 7.2%	4 4.8%	25 30.1%	32 38.6%	2 2.4%	0 0.0%	1 1.2%	7 8.4%
居住地別	大分市	68	1 1.5%	2 2.9%	8 11.8%	5 7.4%	35 51.5%	12 17.6%	29 42.6%	2 2.9%	3 4.4%	1 1.5%
	別府市	36	1 2.8%	0 0.0%	6 16.7%	0 0.0%	15 41.7%	10 27.8%	10 27.8%	2 5.6%	2 5.6%	0 0.0%
	中津教育事務所管内	203	0 0.0%	2 1.0%	18 8.9%	7 3.4%	106 52.2%	52 25.6%	21 10.3%	1 0.5%	8 3.9%	12 5.9%
	別府教育事務所管内(別府市除く)	136	5 3.7%	2 1.5%	6 4.4%	6 4.4%	69 50.7%	43 31.6%	12 8.8%	3 2.2%	2 1.5%	10 7.4%
	大分教育事務所管内(大分市除く)	30	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	22 73.3%	4 13.3%	4 13.3%	0 0.0%	1 3.3%	2 6.7%
	佐伯教育事務所管内	40	2 5.0%	0 0.0%	1 2.5%	2 5.0%	11 27.5%	17 42.5%	6 15.0%	1 2.5%	2 5.0%	3 7.5%
	竹田教育事務所管内	18	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 44.4%	4 22.2%	5 27.8%	0 0.0%	0 0.0%	3 16.7%
	日田教育事務所管内	21	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.8%	6 28.6%	10 47.6%	6 28.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
障がいの種類	身体障がい(視覚)	9	9 100.0%	0 0.0%	3 33.3%	1 11.1%	2 22.2%	1 11.1%	0 0.0%	1 11.1%	0 0.0%	0 0.0%
	身体障がい(聴覚)	6	0 0.0%	6 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	1 16.7%	2 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	身体障がい(肢体不自由)	40	3 7.5%	0 0.0%	40 100.0%	1 2.5%	12 30.0%	3 7.5%	0 0.0%	2 5.0%	1 2.5%	0 0.0%
	身体障がい(内部)	21	1 4.8%	0 0.0%	1 4.8%	21 100.0%	6 28.6%	3 14.3%	1 4.8%	1 4.8%	0 0.0%	0 0.0%
	知的障がい	275	2 0.7%	1 0.4%	12 4.4%	6 2.2%	275 100.0%	10 3.6%	41 14.9%	2 0.7%	5 1.8%	0 0.0%
	精神障がい	153	1 0.7%	1 0.7%	3 2.0%	3 2.0%	10 6.5%	153 100.0%	11 7.2%	3 2.0%	0 0.0%	0 0.0%
	発達障がい	95	0 0.0%	2 2.1%	0 0.0%	1 1.1%	41 43.2%	11 11.6%	95 100.0%	1 1.1%	3 3.2%	0 0.0%
	難病	9	1 11.1%	0 0.0%	2 22.2%	1 11.1%	2 22.2%	3 33.3%	1 11.1%	9 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
	その他	18	0 0.0%	0 0.0%	1 5.6%	0 0.0%	5 27.8%	0 0.0%	3 16.7%	0 0.0%	18 100.0%	0 0.0%

問5 持っている障害者手帳について（複数回答可）

- 障害者手帳所持状況では、「療育手帳」（57.3%）の割合が最も高く、次いで「精神障害者保健福祉手帳」（23.5%）、「身体障害者手帳」（13.9%）となっています。
- 性別では男性、女性では特に大きな差はみられませんでした。
- 年齢別にみると、どの年代も「療育手帳」の割合が最も高くなっていますが、「30代」以上では「精神障害者保健福祉手帳」の割合が他と比べて高くなっています。
- 居住地別にみると、どの居住地も「療育手帳」の割合が最も高くなっていますが、「佐伯教育事務所管内」では「精神障害者保健福祉手帳」（50.0%）の割合が最も高くなっています。



() 内は実数

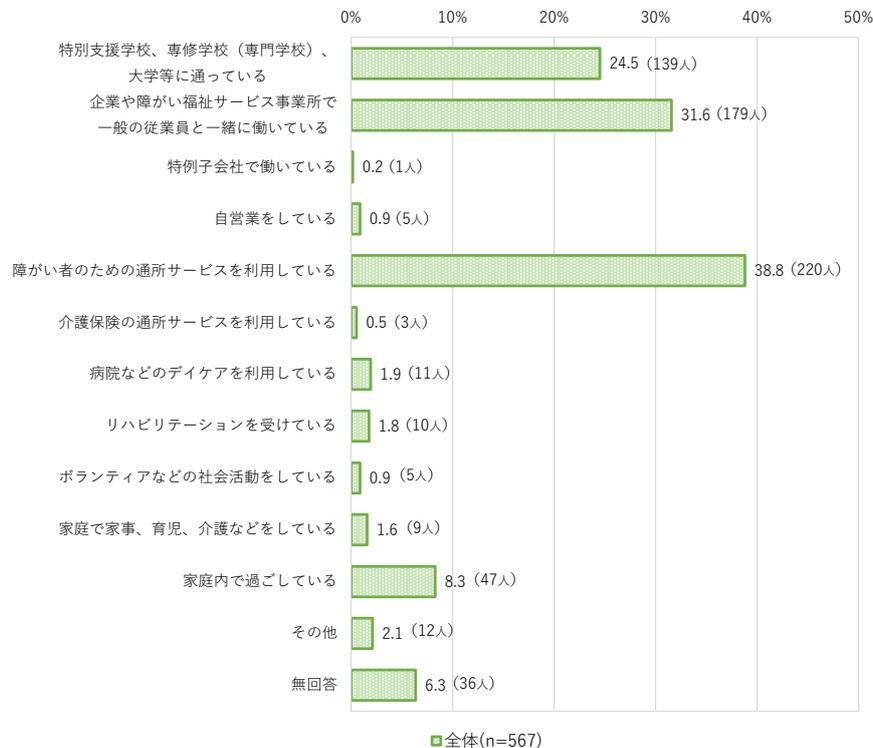
II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

(上段：人 下段：%)

		標本数 (人)	身体障 害者手帳	療育手帳	精神障 害者保 健福祉手帳	持っ ていな い	無回 答
全体 (単純集計)		567	79 13.9%	325 57.3%	133 23.5%	28 4.9%	39 6.9%
性別	男性	340	47 13.8%	197 57.9%	83 24.4%	16 4.7%	17 5.0%
	女性	203	31 15.3%	124 61.1%	46 22.7%	12 5.9%	7 3.4%
	その他	2	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%
	該当しない	6	0 0.0%	2 33.3%	3 50.0%	0 0.0%	1 16.7%
年齢	10代	149	19 12.8%	129 86.6%	11 7.4%	2 1.3%	5 3.4%
	20代	94	7 7.4%	65 69.1%	15 16.0%	3 3.2%	6 6.4%
	30代	58	8 13.8%	28 48.3%	21 36.2%	4 6.9%	4 6.9%
	40代	83	8 9.6%	37 44.6%	36 43.4%	5 6.0%	2 2.4%
	50代	81	17 21.0%	34 42.0%	23 28.4%	8 9.9%	3 3.7%
	60代以上	83	18 21.7%	29 34.9%	26 31.3%	6 7.2%	6 7.2%
居住地別	大分市	68	17 25.0%	43 63.2%	17 25.0%	1 1.5%	0 0.0%
	別府市	36	8 22.2%	18 50.0%	11 30.6%	0 0.0%	2 5.6%
	中津教育事務所管内	203	28 13.8%	125 61.6%	37 18.2%	13 6.4%	11 5.4%
	別府教育事務所管内 (別府市除く)	136	20 14.7%	80 58.8%	34 25.0%	2 1.5%	9 6.6%
	大分教育事務所管内 (大分市除く)	30	0 0.0%	23 76.7%	3 10.0%	0 0.0%	4 13.3%
	佐伯教育事務所管内	40	5 12.5%	13 32.5%	20 50.0%	5 12.5%	1 2.5%
	竹田教育事務所管内	18	0 0.0%	12 66.7%	3 16.7%	3 16.7%	0 0.0%
	日田教育事務所管内	21	1 4.8%	9 42.9%	7 33.3%	4 19.0%	0 0.0%
障がいの種類	身体障がい (視覚)	9	9 100.0%	1 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	身体障がい (聴覚)	6	5 83.3%	3 50.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%
	身体障がい (肢体不自由)	40	36 90.0%	13 32.5%	3 7.5%	0 0.0%	2 5.0%
	身体障がい (内部)	21	12 57.1%	11 52.4%	1 4.8%	2 9.5%	1 4.8%
	知的障がい	275	19 6.9%	260 94.5%	9 3.3%	3 1.1%	3 1.1%
	精神障がい	153	13 8.5%	22 14.4%	105 68.6%	17 11.1%	4 2.6%
	発達障がい	95	7 7.4%	67 70.5%	25 26.3%	4 4.2%	2 2.1%
	難病	9	4 44.4%	5 55.6%	1 11.1%	2 22.2%	0 0.0%
	その他	18	3 16.7%	7 38.9%	4 22.2%	1 5.6%	3 16.7%

問6 日中、おもにどのような活動をしていますか（複数回答可）

- 日中の活動状況では、「障がい者のための通所サービスを利用している」（38.8％）の割合が最も高く、次いで「企業や障がい福祉サービス事業所で一般の従業員と一緒に働いている」（31.6％）、「特別支援学校、専修学校（専門学校）、大学等に通っている」（24.5％）となっています。
- 性別では男性、女性では特に大きな差はみられませんでした。
- 年齢別にみると、「10代」では「特別支援学校、専修学校（専門学校）、大学等に通っている」（87.9％）の割合が、「20代」及び「30代」では「企業や障がい福祉サービス事業所で一般の従業員と一緒に働いている」の割合が、「30代」以上では「障がい者のための通所サービスを利用している」の割合が最も高くなっています。
- 居住地別にみると、「中津教育事務所管内」では「企業や障がい福祉サービス事業所で一般の従業員と一緒に働いている」の割合が、「別府教育事務所管内（別府市除く）」「佐伯教育事務所管内」「日田教育事務所管内」では「障がい者のための通所サービスを利用している」の割合が、それ以外では「特別支援学校、専修学校（専門学校）、大学等に通っている」の割合が最も高くなっています。
- 障がい種類別にみると、「身体障がい（聴覚）」では「企業や障がい福祉サービス事業所で一般の従業員と一緒に働いている」（50.0％）の割合が、「発達障がい」では「特別支援学校、専修学校（専門学校）、大学等に通っている」（47.4％）の割合が最も高くなっていますが、それ以外は「障がい者のための通所サービスを利用している」の割合が最も高くなっています。



() 内は実数

II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

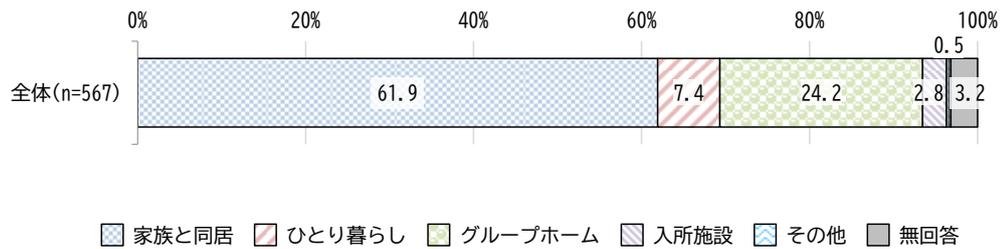
(上段：人 下段：%)

		標本数(人)	特別支援学校、専門学校(専門学校)、大学等に通っている	企業や障がい福祉サービス事業所で一般の従業員と一緒に働いている	特例子会社で働いている	自営業をしている	障がい者のための通所サービスを利用している	介護保険の通所サービスを利用している	病院などのデイケアを利用している	リハビリテーションを受けている	ボランティアなどの社会活動をしている	家庭で家事、育児、介護などをしている	家庭内で過ごしている	その他	無回答	
全体(単純集計)		567	139 24.5%	179 31.6%	1 0.2%	5 0.9%	220 38.8%	3 0.5%	11 1.9%	10 1.8%	5 0.9%	9 1.6%	47 8.3%	12 2.1%	36 6.3%	
性別	男性	340	85 25.0%	118 34.7%	1 0.3%	5 1.5%	129 37.9%	0 0.0%	6 1.8%	7 2.1%	4 1.2%	5 1.5%	26 7.6%	3 0.9%	15 4.4%	
	女性	203	50 24.6%	59 29.1%	0 0.0%	0 0.0%	89 43.8%	3 1.5%	5 2.5%	3 1.5%	1 0.5%	3 1.5%	17 8.4%	7 3.4%	6 3.0%	
	その他	2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	該当しない	6	4 66.7%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	2 33.3%	2 33.3%	0 0.0%
	年齢	10代	149	131 87.9%	9 6.0%	0 0.0%	1 0.7%	25 16.8%	0 0.0%	1 0.7%	3 2.0%	0 0.0%	3 2.0%	21 14.1%	3 2.0%	4 2.7%
	20代	94	5 5.3%	55 58.5%	0 0.0%	0 0.0%	29 30.9%	1 1.1%	1 1.1%	0 0.0%	1 1.1%	2 2.1%	10 10.6%	3 3.2%	3 3.2%	
	30代	58	0 0.0%	27 46.6%	0 0.0%	2 3.4%	27 46.6%	0 0.0%	1 1.7%	1 1.7%	0 0.0%	1 1.7%	4 6.9%	2 3.4%	1 1.7%	
	40代	83	2 2.4%	32 38.6%	0 0.0%	0 0.0%	43 51.8%	1 1.2%	2 2.4%	1 1.2%	0 0.0%	1 1.2%	5 6.0%	1 1.2%	4 4.8%	
	50代	81	0 0.0%	24 29.6%	0 0.0%	1 1.2%	50 61.7%	0 0.0%	1 1.2%	2 2.5%	3 3.7%	1 1.2%	3 3.7%	0 0.0%	5 6.2%	
	60代以上	83	0 0.0%	31 37.3%	1 1.2%	0 0.0%	45 54.2%	1 1.2%	4 4.8%	3 3.6%	1 1.2%	0 0.0%	2 2.4%	3 3.6%	5 6.0%	
居住地別	大分市	68	40 58.8%	16 23.5%	0 0.0%	1 1.5%	16 23.5%	0 0.0%	2 2.9%	3 4.4%	0 0.0%	2 2.9%	9 13.2%	2 2.9%	2 2.9%	
	別府市	36	23 63.9%	8 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	10 27.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	
	中津教育事務所管内	203	33 16.3%	86 42.4%	1 0.5%	2 1.0%	68 33.5%	1 0.5%	6 3.0%	7 3.4%	3 1.5%	2 1.0%	14 6.9%	5 2.5%	16 7.9%	
	別府教育事務所管内(別府市除く)	136	11 8.1%	48 35.3%	0 0.0%	1 0.7%	73 53.7%	2 1.5%	1 0.7%	0 0.0%	1 0.7%	2 1.5%	7 5.1%	3 2.2%	2 1.5%	
	大分教育事務所管内(大分市除く)	30	12 40.0%	9 30.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 30.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.3%	1 3.3%	2 6.7%	2 6.7%	
	佐伯教育事務所管内	40	8 20.0%	2 5.0%	0 0.0%	0 0.0%	30 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	
	竹田教育事務所管内	18	7 38.9%	5 27.8%	0 0.0%	0 0.0%	3 16.7%	0 0.0%	1 5.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 11.1%	0 0.0%	2 11.1%	
	日田教育事務所管内	21	5 23.8%	4 19.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 47.6%	0 0.0%	1 4.8%	0 0.0%	1 4.8%	1 4.8%	3 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	
	障がいの種類	身体障がい(視覚)	9	2 22.2%	2 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	5 55.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
身体障がい(聴覚)		6	1 16.7%	3 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
身体障がい(肢体不自由)		40	11 27.5%	14 35.0%	1 2.5%	1 2.5%	16 40.0%	0 0.0%	3 7.5%	6 15.0%	2 5.0%	1 2.5%	1 2.5%	1 2.5%	1 2.5%	
身体障がい(内部)		21	5 23.8%	7 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	7 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 9.5%	0 0.0%	1 4.8%	3 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	
知的障がい		275	97 35.3%	86 31.3%	0 0.0%	2 0.7%	99 36.0%	1 0.4%	4 1.5%	3 1.1%	0 0.0%	3 1.1%	19 6.9%	4 1.5%	9 3.3%	
精神障がい		153	8 5.2%	54 35.3%	0 0.0%	2 1.3%	83 54.2%	2 1.3%	3 2.0%	2 1.3%	2 2.0%	3 2.6%	17 11.1%	5 3.3%	2 1.3%	
発達障がい		95	45 47.4%	23 24.2%	0 0.0%	0 0.0%	38 40.0%	0 0.0%	3 3.2%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.1%	18 18.9%	2 2.1%	0 0.0%	
難病		9	3 33.3%	2 22.2%	0 0.0%	1 11.1%	3 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	2 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	
その他		18	5 27.8%	5 27.8%	0 0.0%	0 0.0%	7 38.9%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 11.1%	3 16.7%	0 0.0%

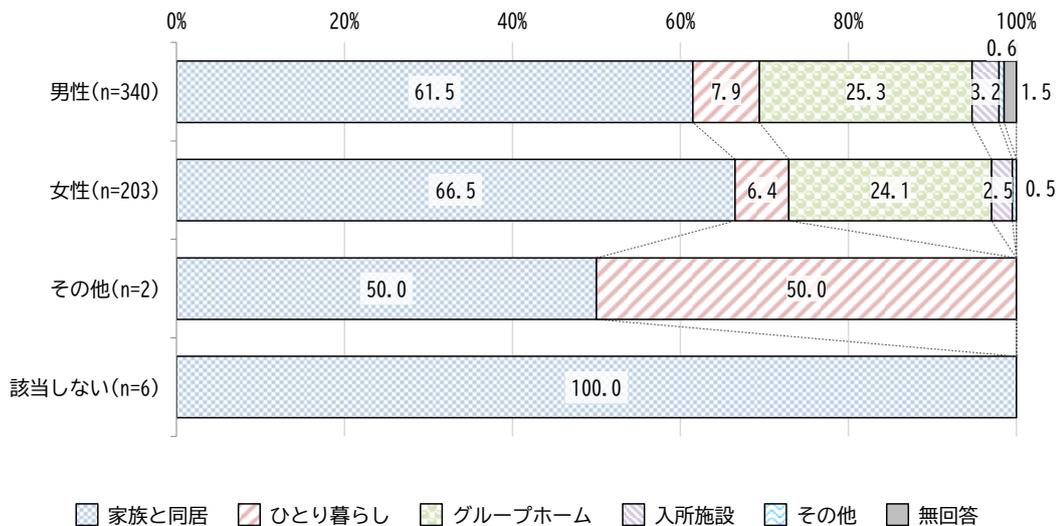
問7 生活状況について

- 生活状況について全体では、「家族と同居」(61.9%)の割合が最も高く、次いで「グループホーム」(24.2%)、「ひとり暮らし」(7.4%)となっています。
- 性別では男性、女性では特に大きな差はみられませんでした。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるにつれ「家族と同居」の割合が低くなり、「ひとり暮らし」「グループホーム」の割合が高くなっています。
- 居住地別にみると、どの居住地も「家族と同居」の割合が最も高くなっていますが、「別府教育事務所管内（別府市除く）」では「グループホーム」(47.1%)の割合が他と比べて高くなっています。
- 障がい種別別にみると、どの種別でも「家族と同居」の割合が最も高く、特に「身体障がい（聴覚）」「発達障がい」では9割を超えて高くなっています。また、「身体障がい（視覚）」では「ひとり暮らし」(33.3%)の割合が他と比べて高くなっています。

【全体】

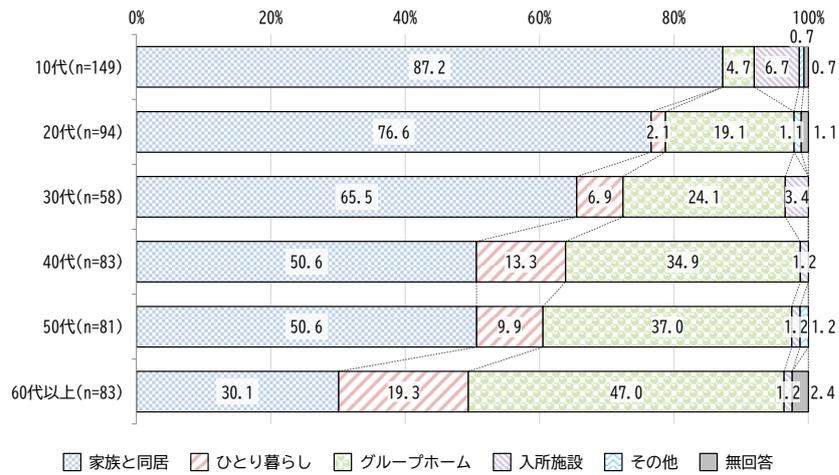


【性別】

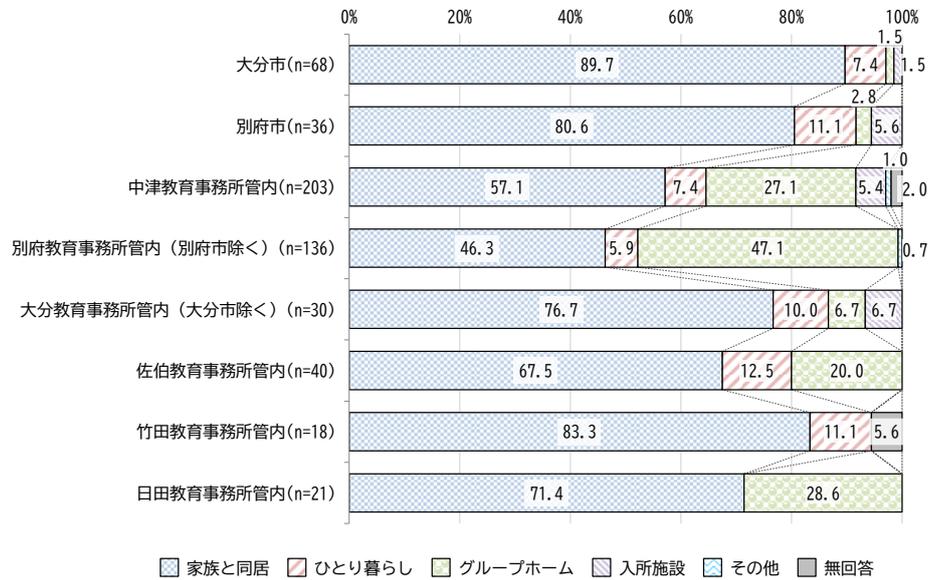


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

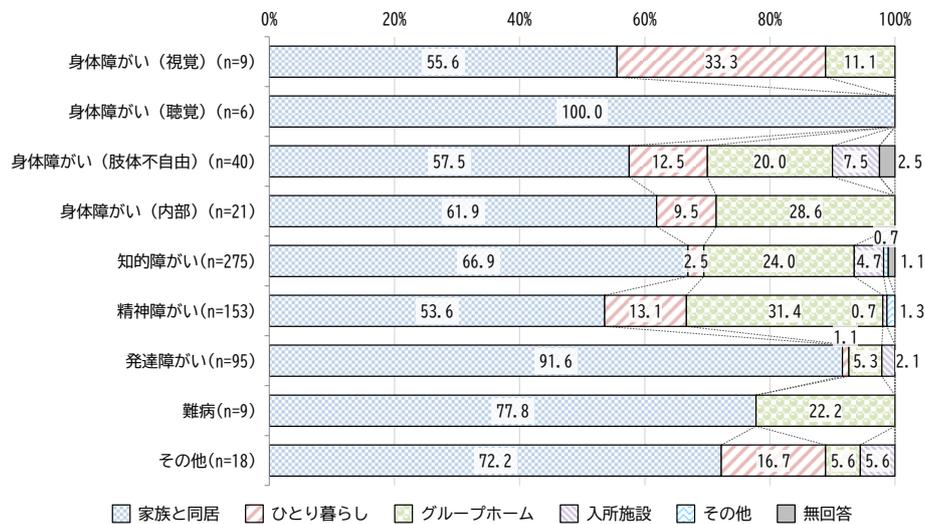
【年齢別】



【居住地別】



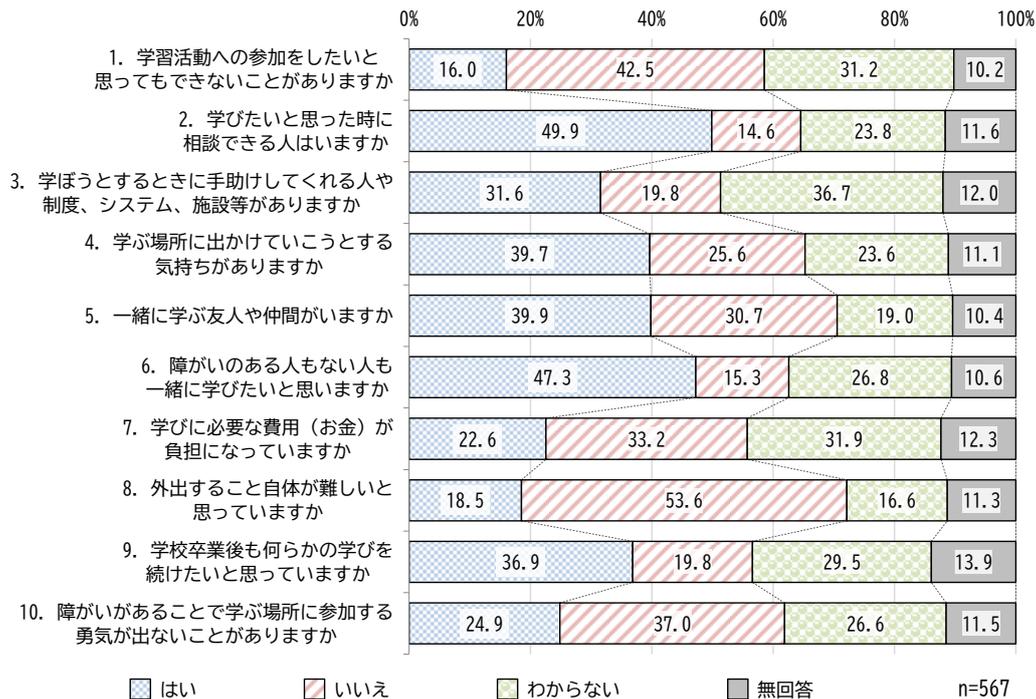
【障がい種別】



2. 学び（学習活動）への思い・現状について

問8 学びに関する1～10それぞれの項目についてどのように思いますか。

●学び（学習活動）について、「はい」の割合が最も高いのは「学びたいと思った時に相談できる人はいますか」（49.9%）、「いいえ」の割合が最も高いのは「外出すること自体が難しいと思っていますか」（53.6%）、「わからない」の割合が最も高いのは「学ぼうとするときに手助けしてくれる人や制度、システム、施設等がありますか」（36.7%）となっています。



【学習活動への参加をしたくてもできない理由】

- ◆人前に出ることが辛い、緊張する
- ◆交通手段がないため、費用が負担となる
- ◆学習機会もないし、移動手段もない
- ◆障がい者の学びの機会・会場が少ない
- ◆体調不良や精神での不安
- ◆（コロナが理由）グループホームにいたのでルールがきびしく、外出がむずかしい
- ◆読んだり書いたりすることが出来ない
- ◆皆とあった時にどう反応するのか分からない、僕が来た瞬間嫌がると思う
- ◆仕事をしている為、時間がない（施設就労）
- ◆親の理解を得られない可能性がある、行動できる範囲にそのような場所がない
- ◆同年代の人がいなく、疎外感を覚えるため
- ◆設備のバリア（会場に段差がある）や会場までのアクセス（送迎が無いといけない）
- ◆場所が遠くて行けない

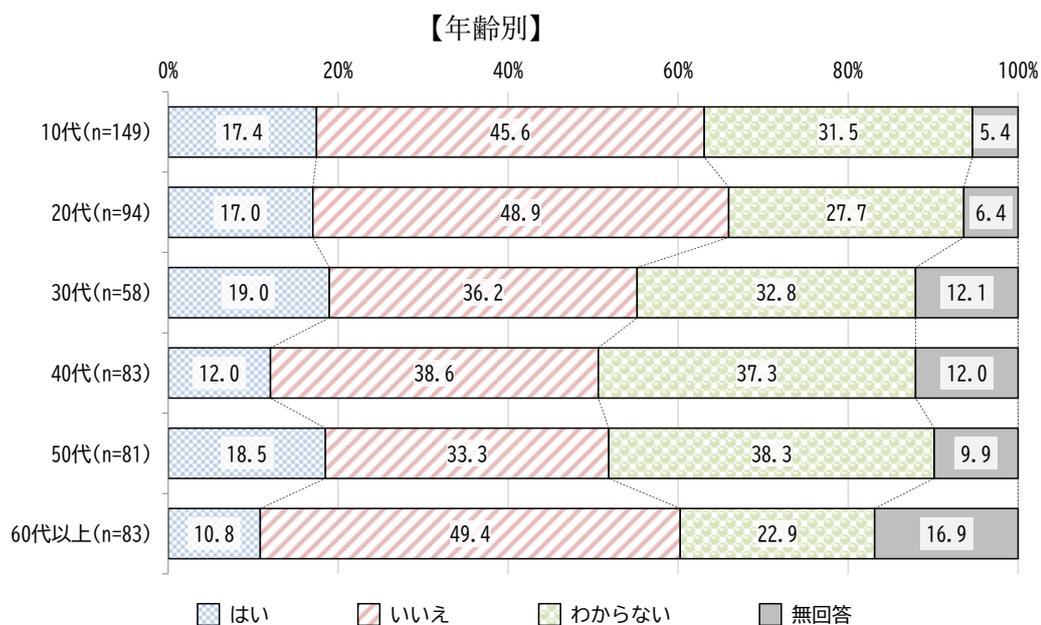
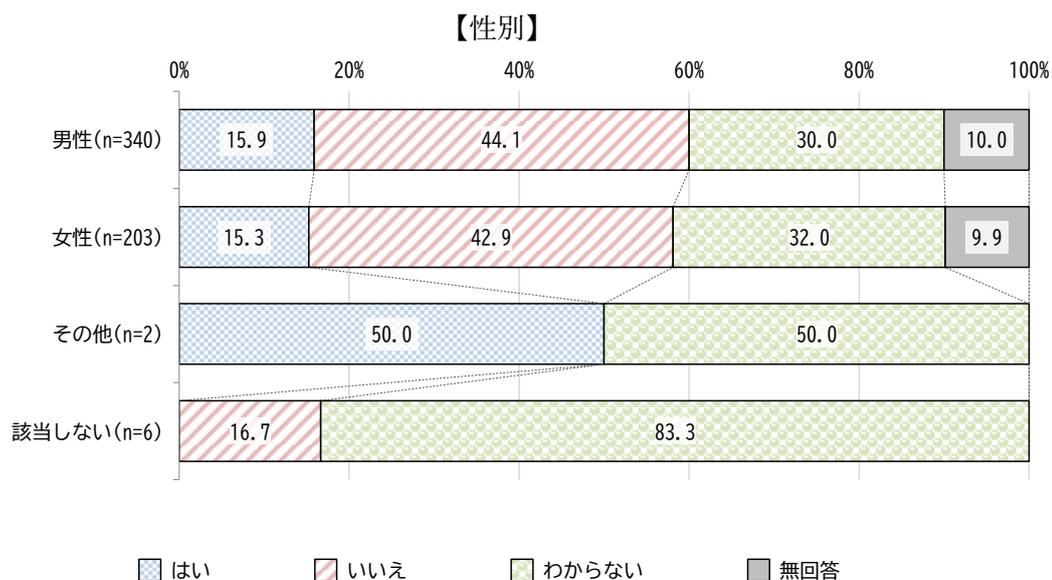
【学ぼうとする時に手助けしてくれる人や制度、システム、施設等】

- ◆先生・家族・相談事務所、担当相談者、就労支援相談所の方、ヘルパーステーション
- ◆きずな（编者注：就労支援B型事業所）、エール、ぬくもり暖（编者注：相談支援事業所）
- ◆友人、会社の同僚、webで調べる、公共機関など
- ◆職員のサポート
- ◆学べる場がない、情報
- ◆移動支援

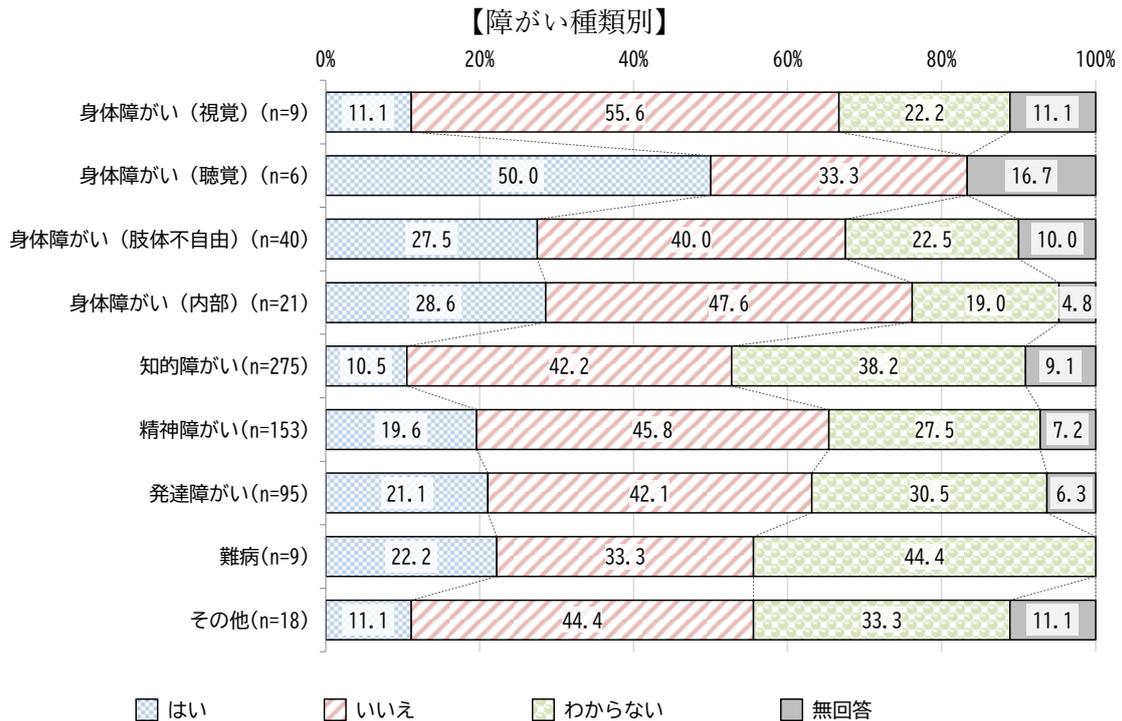
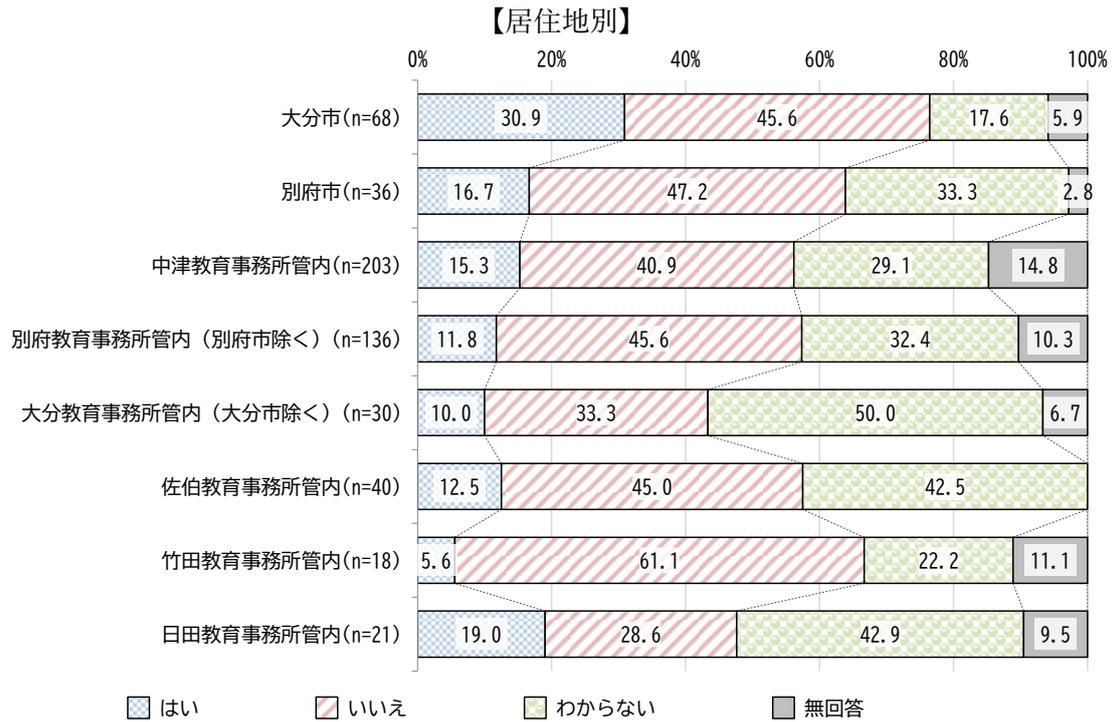
II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

① 学習活動への参加をしたいと思ってもできないことがありますか。

- 学習活動への参加をしたいと思ってもできないことがあるかについて、性別、年齢別では特に大きな差はみられませんでした。
- 居住地別にみると、「大分市」では「はい」（30.9％）の割合が、「竹田教育事務所管内」では「いいえ」（61.1％）の割合が他と比べて高くなっています。
- 障がい種類別にみると、「身体障がい（聴覚）」では「はい」（50.0％）の割合が他と比べて高くなっています。



II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

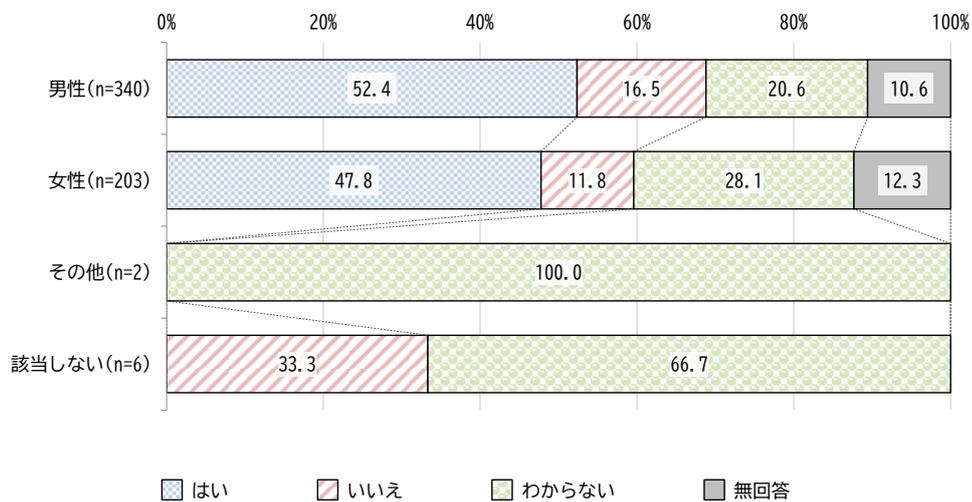


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

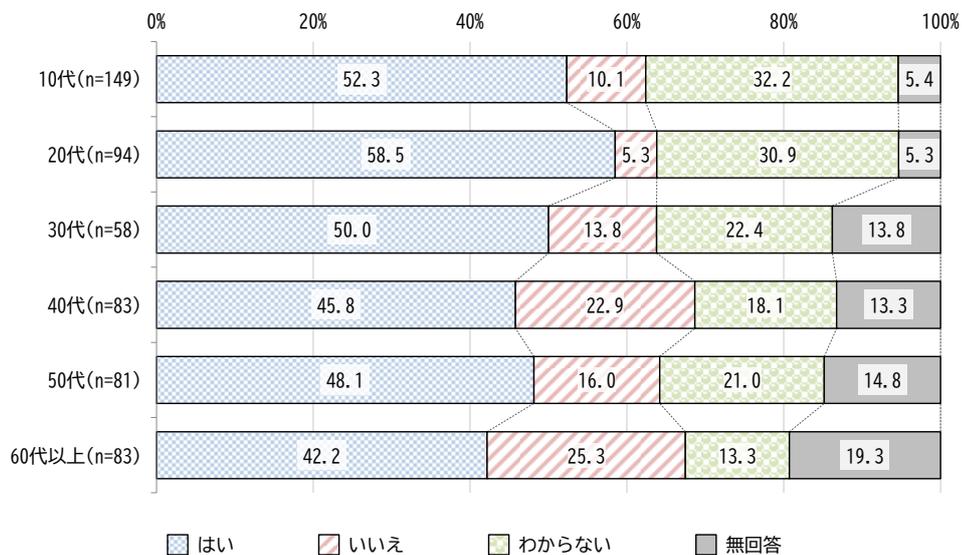
② 学びたいと思った時に相談できる人はいますか。

- 学びたいと思った時に相談できる人がいるかについて、性別では特に大きな差はみられませんでしたが。
- 年齢別にみると、「30代」以下では「はい」の割合が5割を超えて高くなっており、また「20代」以下では「わからない」の割合が他と比べて高くなっています。
- 居住地別にみると、「別府市」では「はい」(63.9%)の割合が、「大分教育事務所管内(大分市除く)」では「わからない」(40.0%)の割合が他と比べて高くなっています。
- 障がい種別別にみると、どの種別でも「はい」の割合が約5割なのに対し、「身体障がい(視覚)」では(11.1%)と他と比べてかなり低くなっており、それに伴い「いいえ」(33.3%)、「わからない」(55.6%)の割合が他と比べて高くなっています。

【性別】

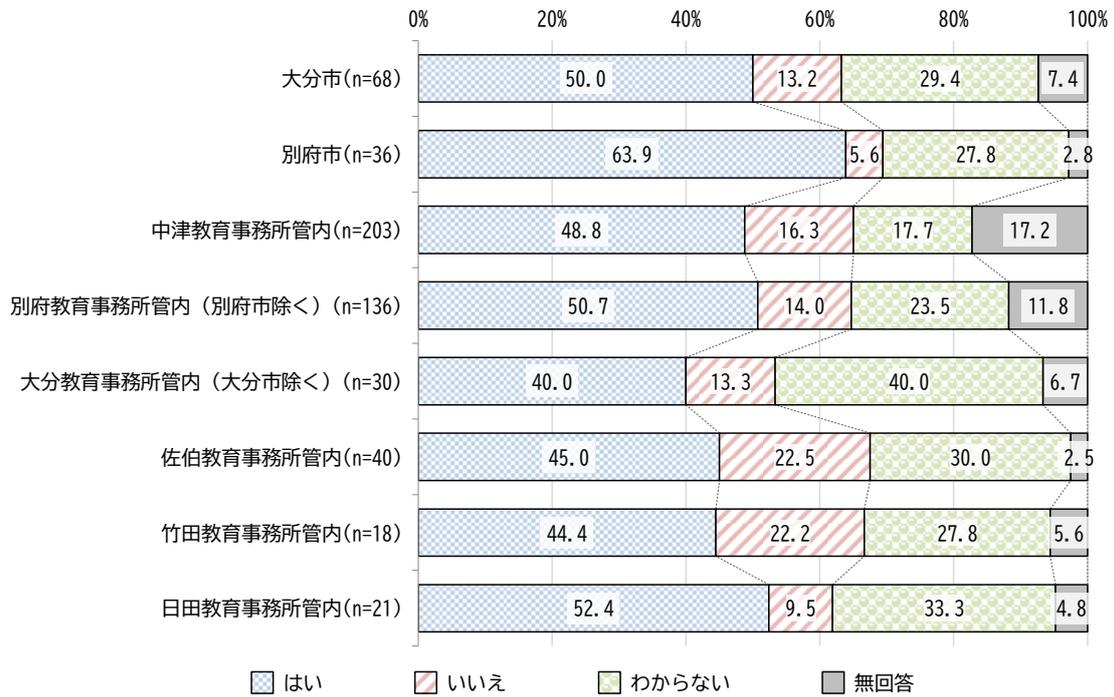


【年齢別】

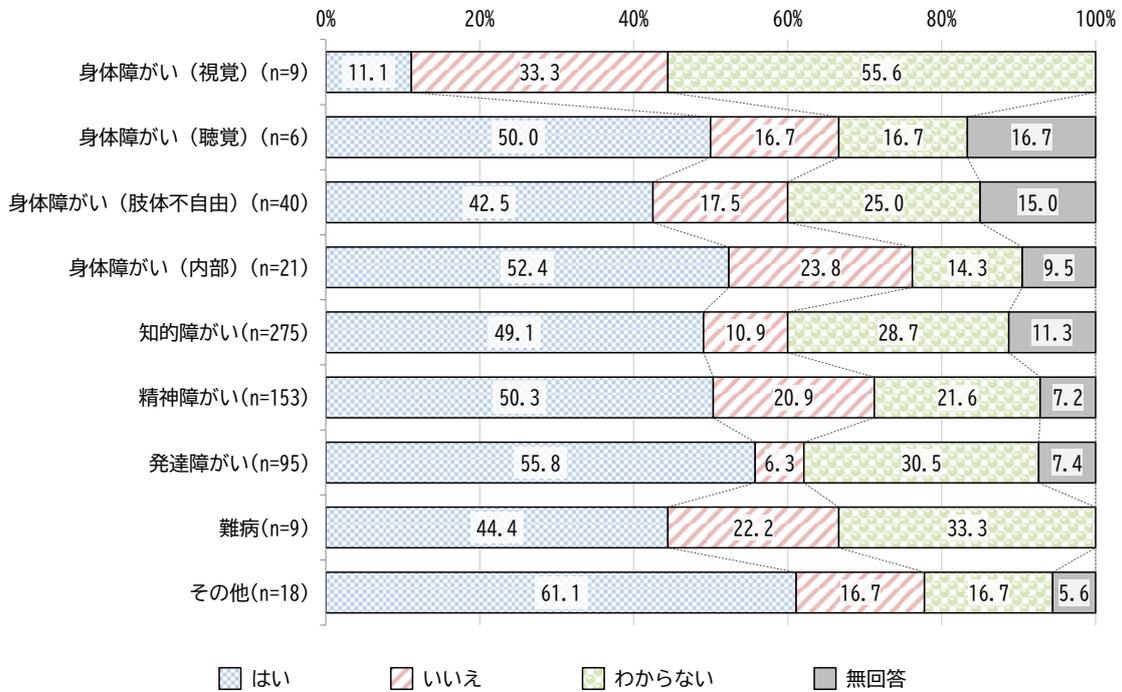


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

【居住地別】



【障がい種類別】

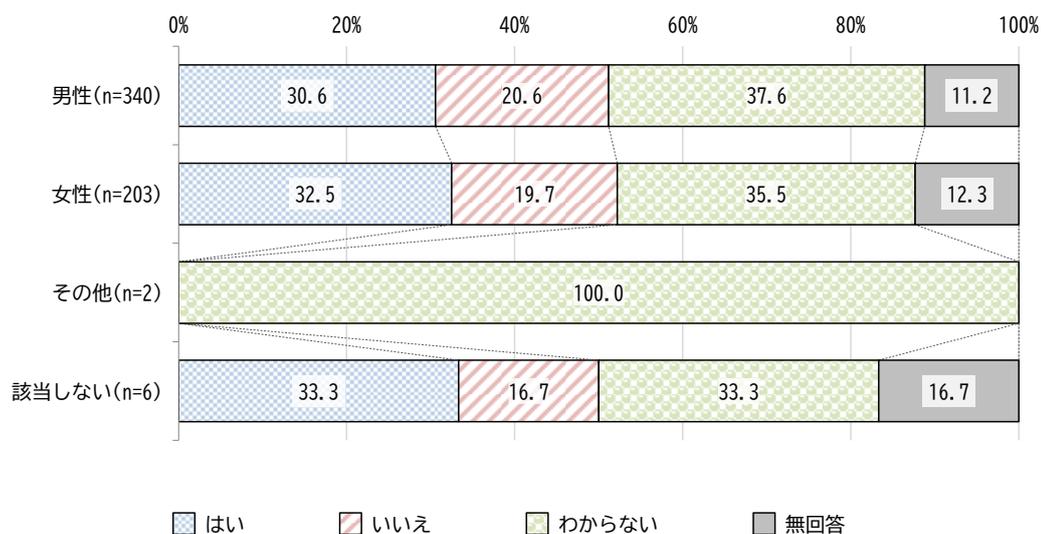


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

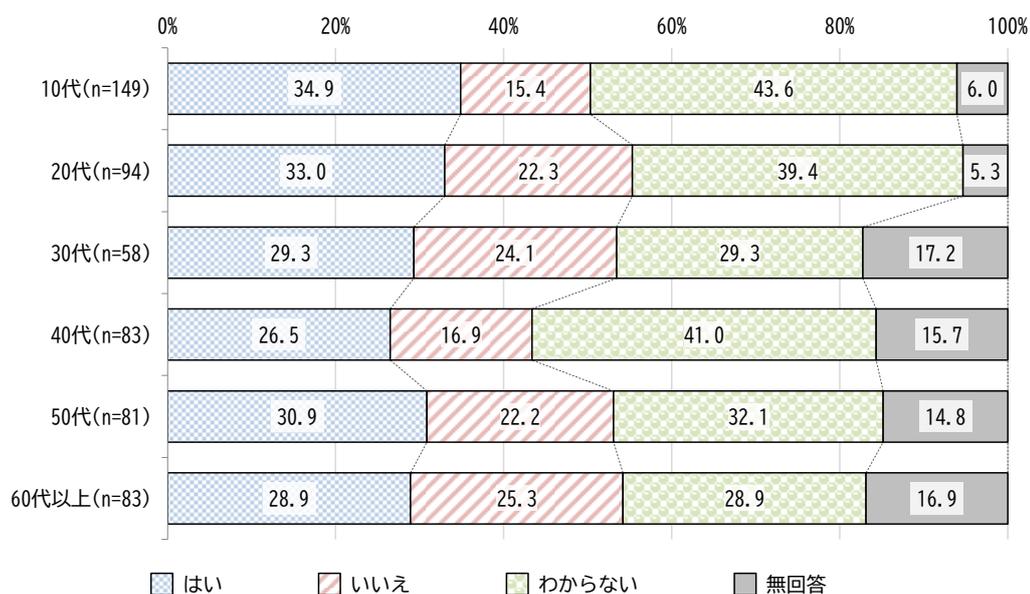
③ 学ぼうとするときに手助けしてくれる人や制度、システム、施設等がありますか。

- 学ぼうとするときに手助けしてくれる人や制度、システム、施設等があるかについて、性別、年齢別では特に大きな差はみられませんでした。
- 居住地別にみると、「別府市」及び「日田教育事務所管内」では「はい」の割合が、「竹田教育事務所管内」では「いいえ」の割合が他と比べて高くなっています。
- 障がい種類別にみると、「身体障がい（視覚）」及び「身体障がい（聴覚）」では「いいえ」の割合が他と比べて高く、特に「身体障がい（聴覚）」では6割を超えて高くなっています。

【性別】

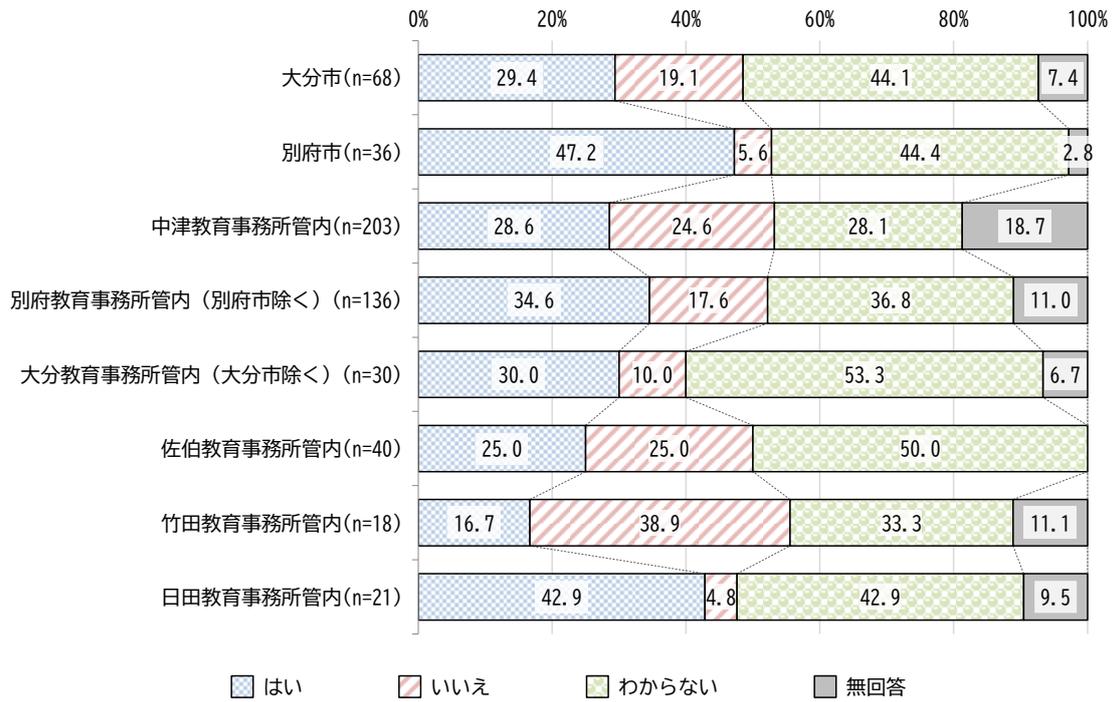


【年齢別】

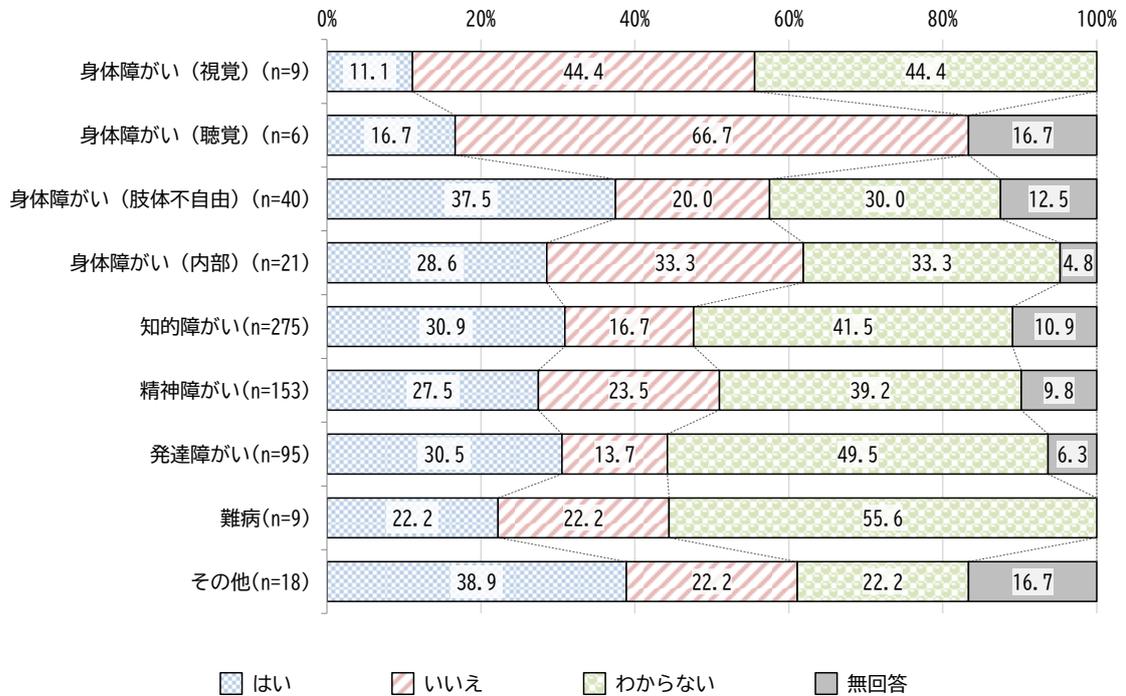


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

【居住地別】



【障がい種別】

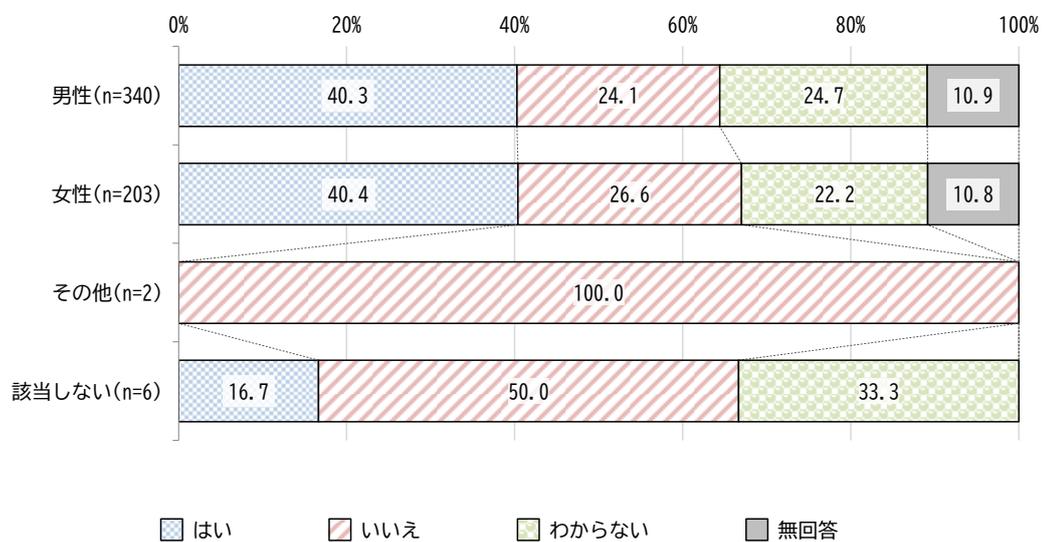


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

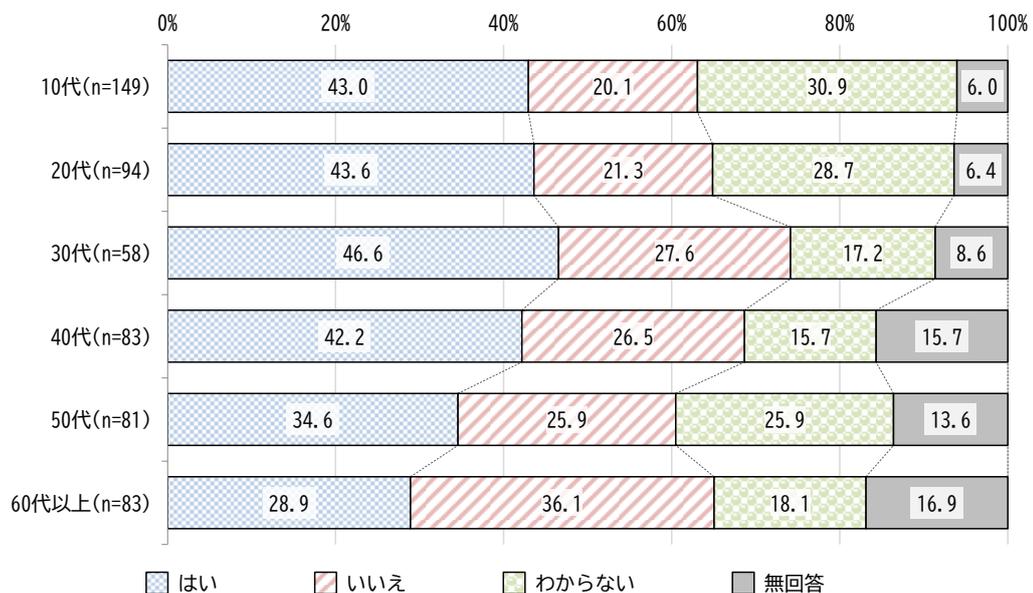
④ 学ぶ場所に出かけていこうとする気持ちがありますか。

- 学ぶ場所に出かけていこうとする気持ちがあるかについて、性別では大きな差はみられませんでした。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるにつれ「はい」の割合が低くなっています。
- 居住地別にみると、どの居住地でも「はい」の割合が3割から5割の間なのに対し、「日田教育事務所管内」では（71.4%）と他と比べてかなり高くなっています。
- 障がい種類別にみると、「身体障がい（視覚）」では「はい」の割合が低く、「いいえ」及び「わからない」の割合が他と比べて高くなっています。

【性別】

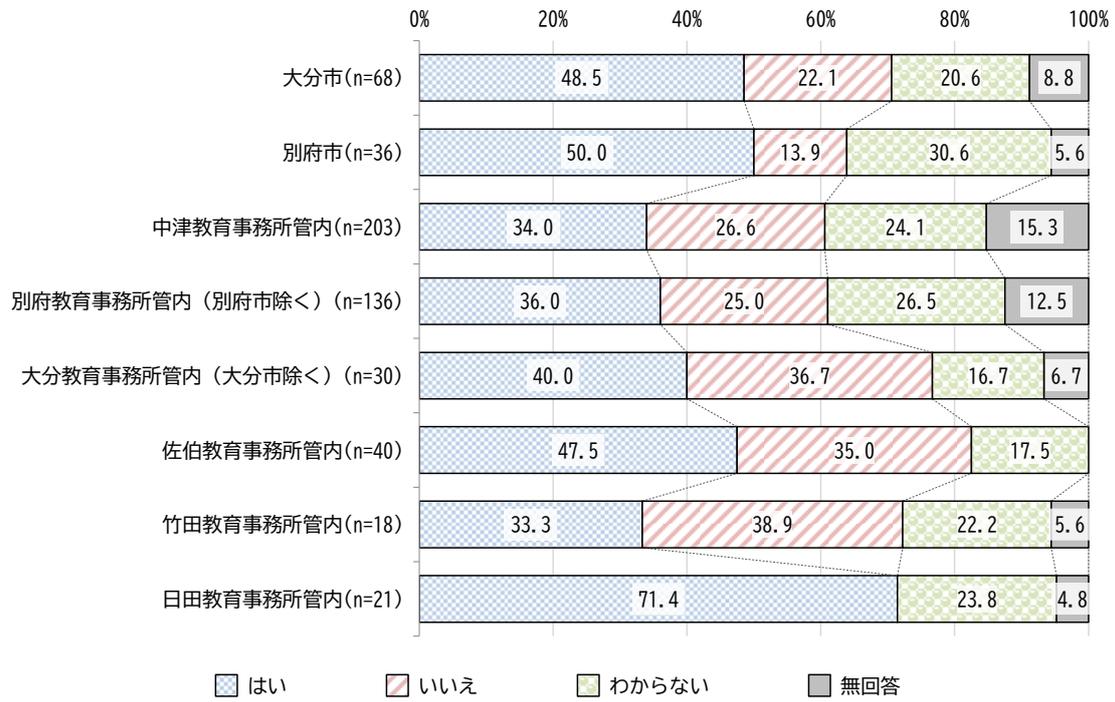


【年齢別】

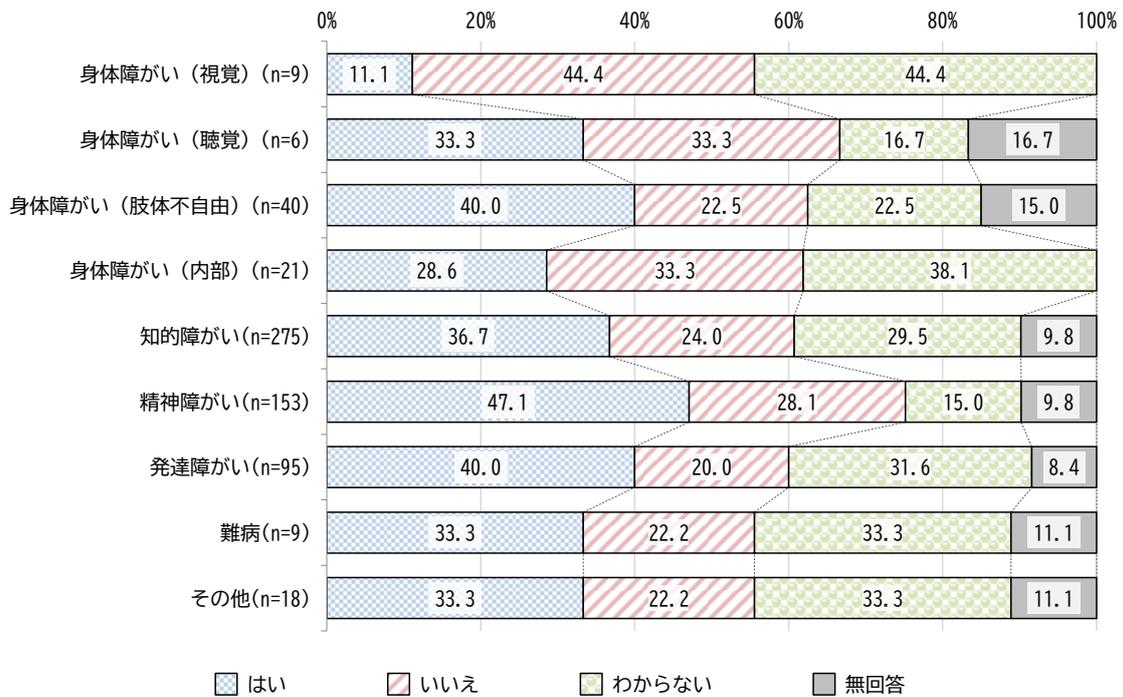


Ⅱ. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

【居住地別】



【障がい種別】

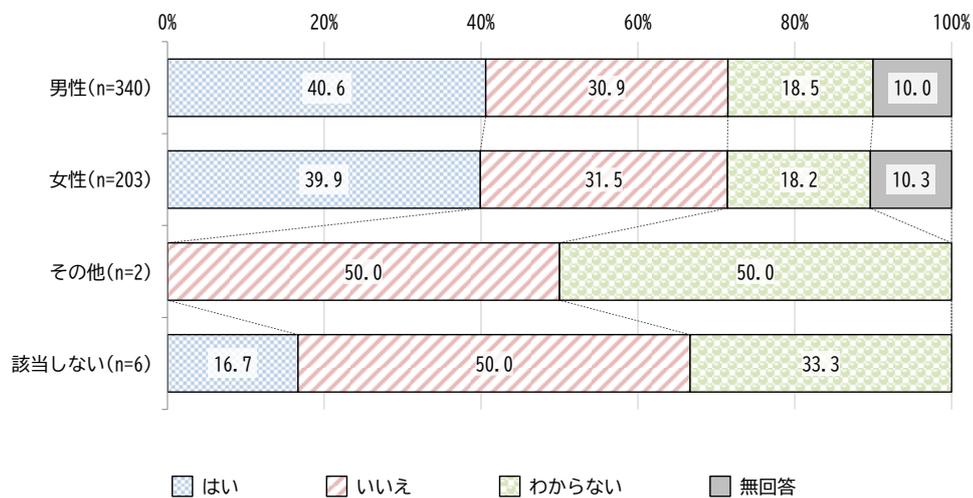


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

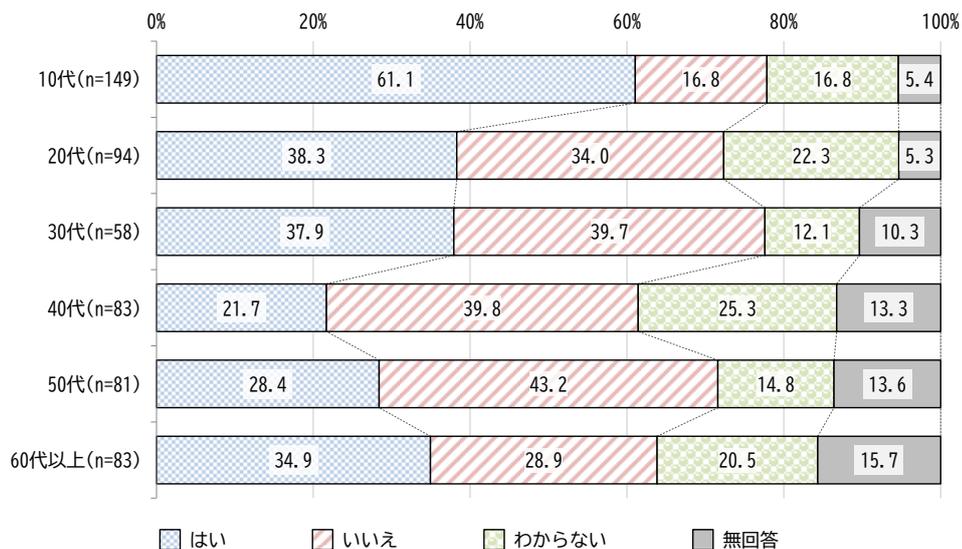
⑤ 一緒に学ぶ友人や仲間がいますか。

- 一緒に学ぶ友人や仲間がいるかについて、性別では特に大きな差はみられませんでした。
- 年齢別にみると、どの年代でも「はい」の割合が2割から3割台なのに対し、「10代」では（61.1%）と他と比べてかなり高くなっています。
- 居住地別にみると、どの居住地でも「いいえ」の割合が2割から3割台なのに対し、「佐伯教育事務所管内」では（52.5%）と他と比べてかなり高くなっています。
- 障がい種類別にみると、「身体障がい（聴覚）」及び「難病」「その他」では「いいえ」の割合が他と比べて高くなっています。

【性別】

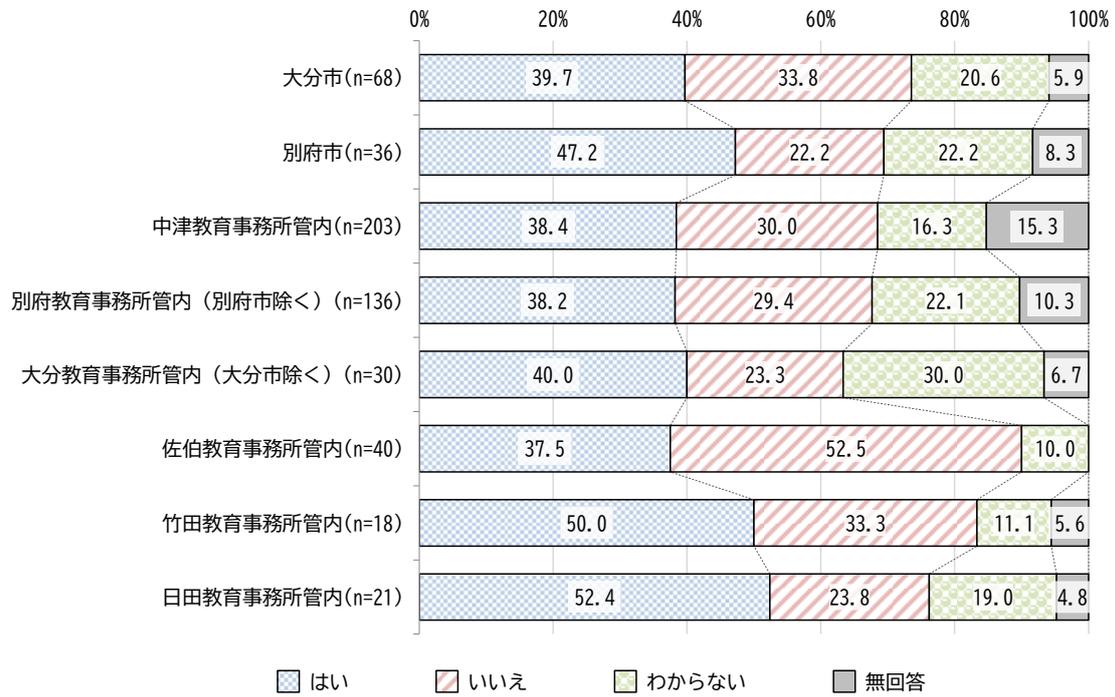


【年齢別】

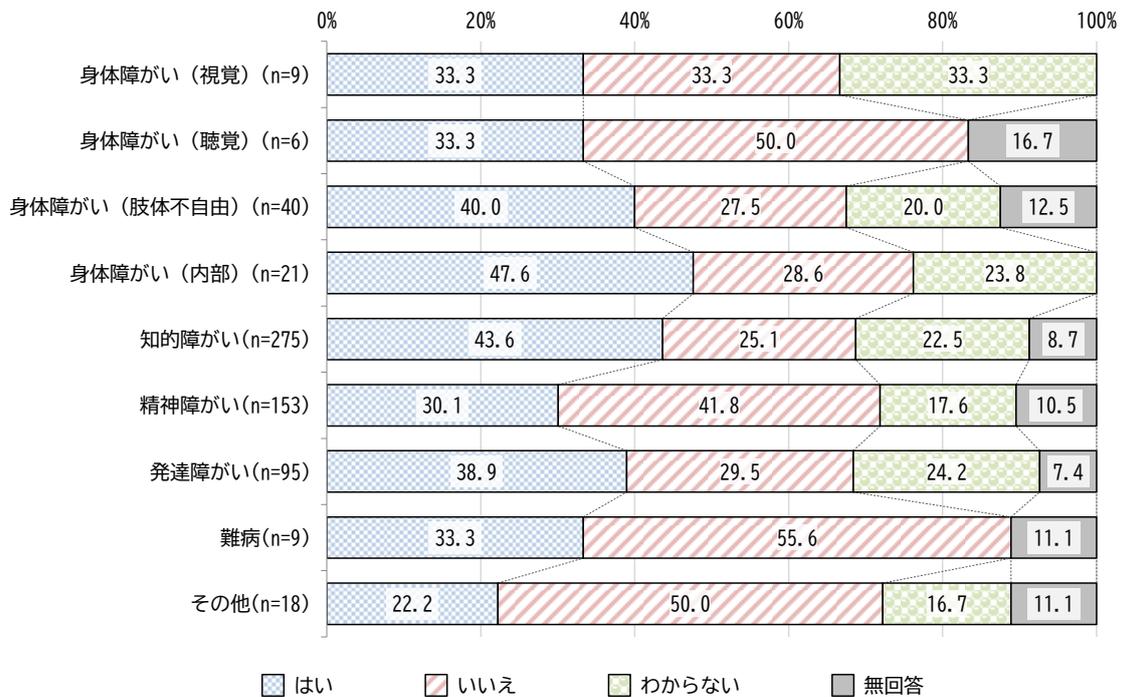


Ⅱ. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

【居住地別】



【障がい種類別】

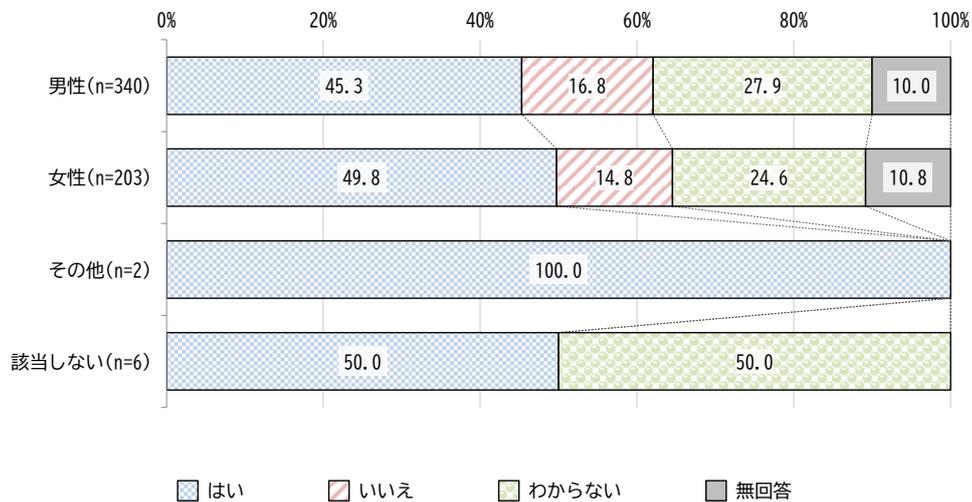


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

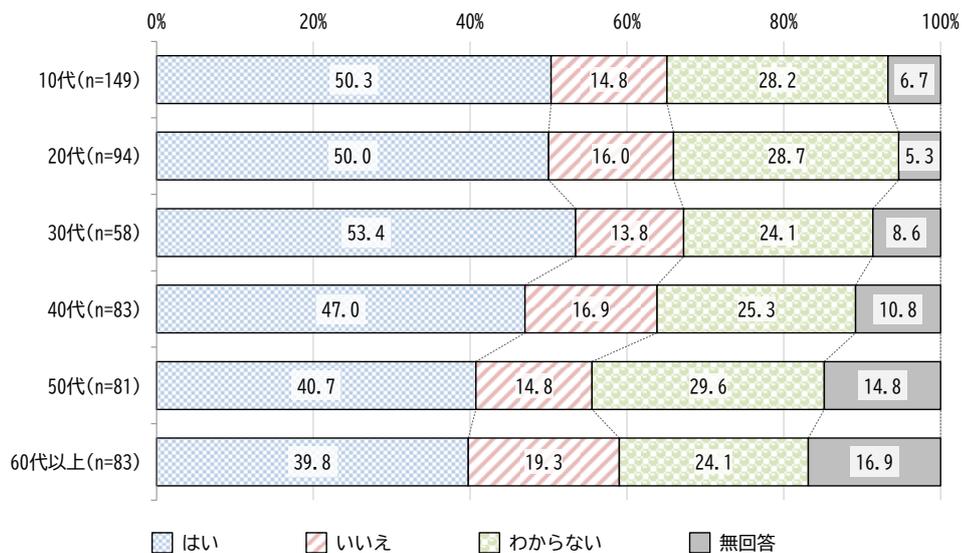
⑥ 障がいのある人もない人も一緒に学びたいと思いますか。

- 障がいのある人もない人も一緒に学びたいと思うかについて、性別では特に大きな差はみられませんでした。
- 年齢別にみると、年齢があがるにつれ「はい」の割合が低くなっています。
- 居住地別にみると、「大分教育事務所管内（大分市除く）」では「はい」（30.0％）の割合が他と比べて低く、「わからない」（50.0％）の割合が他と比べて高くなっています。
- 障がい種類別にみると、「身体障がい（肢体不自由）」及び「精神障がい」では「はい」の割合が他と比べて高くなっています。

【性別】

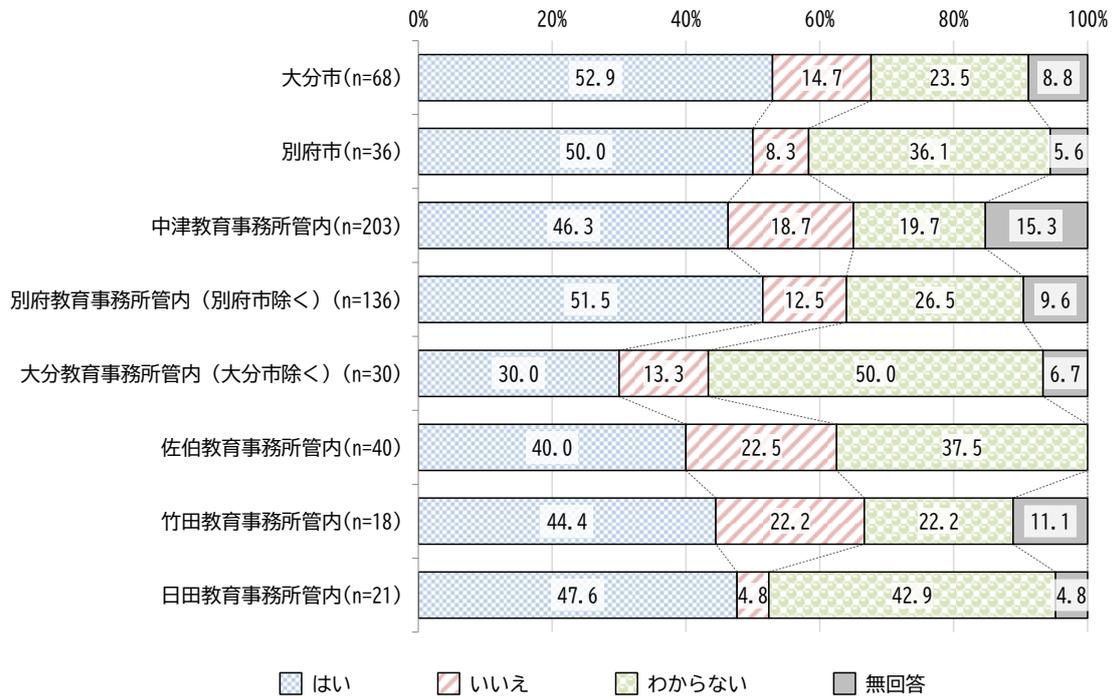


【年齢別】

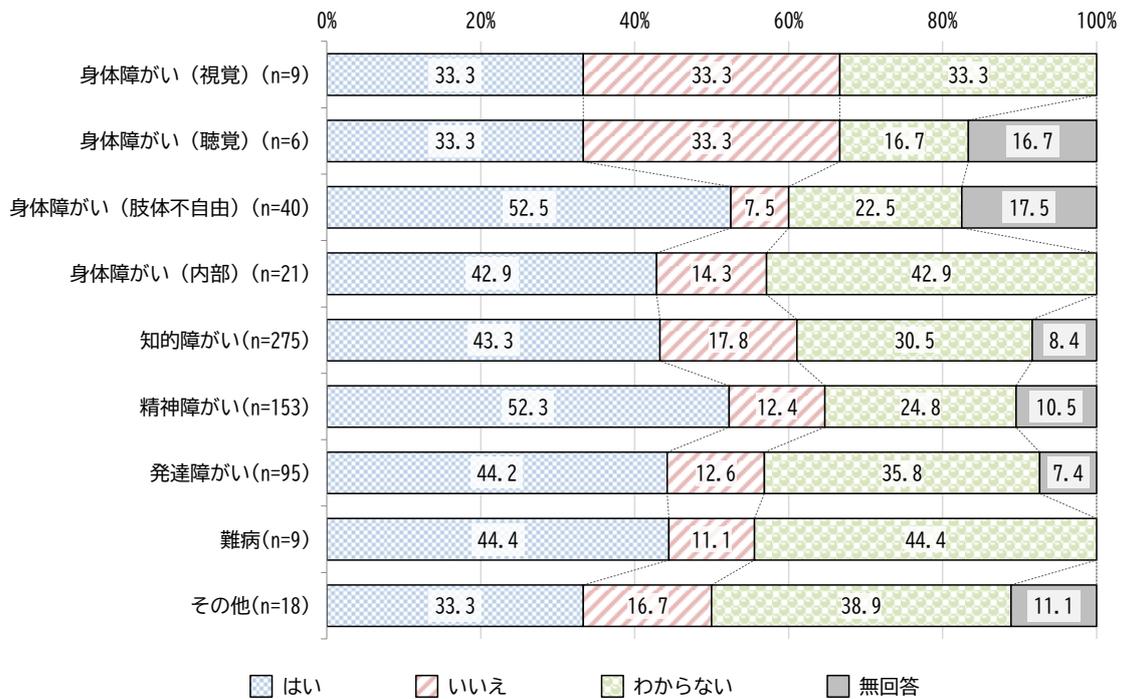


Ⅱ. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

【居住地別】



【障がい種類別】

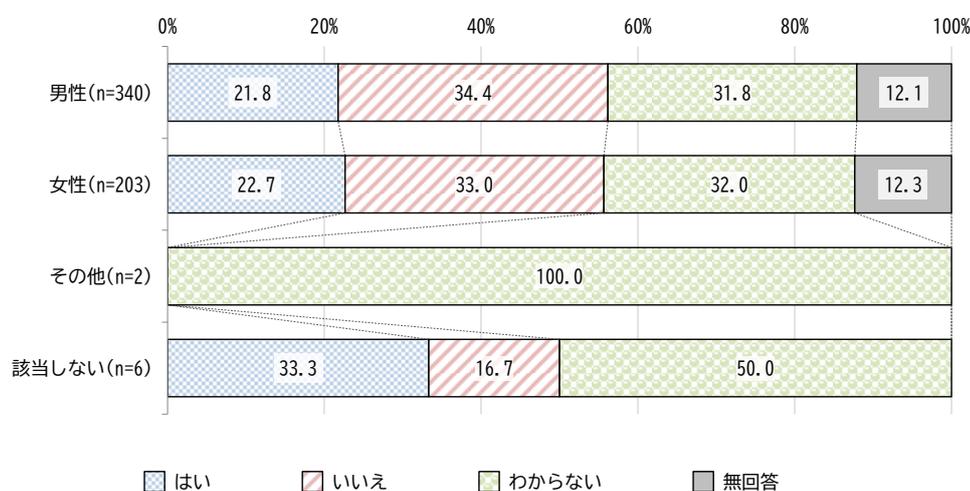


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

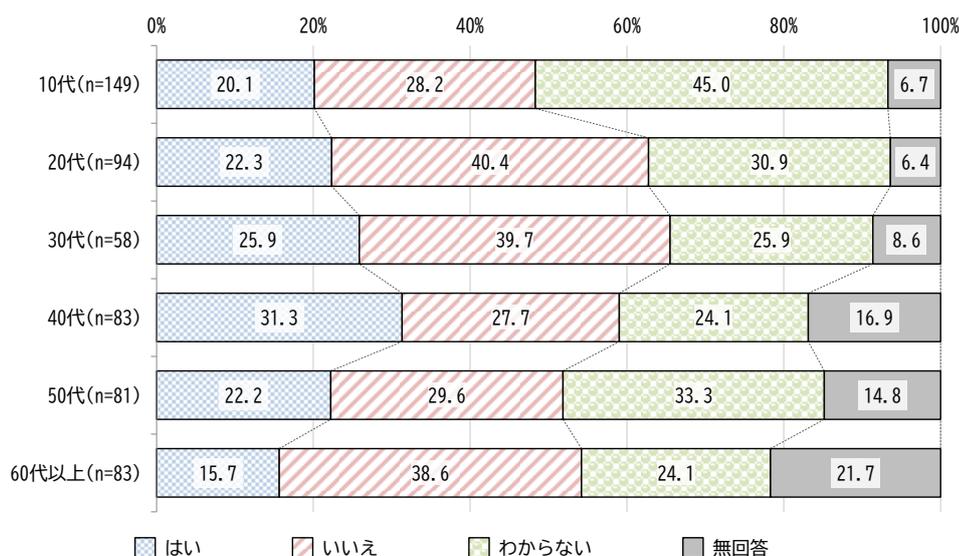
⑦ 学びに必要な費用（お金）が負担になっていますか。

- 学びに必要な費用（お金）が負担になっているかについて、性別では特に大きな差はみられませんでした。
- 年齢別にみると、「10代」及び「50代」では「わからない」の割合が、「40代」では「はい」の割合が、それ以外の年代では「いいえ」の割合が最も高くなっています。
- 居住地別にみると、「大分教育事務所管内（大分市除く）」では他と比べて「いいえ」（16.7%）の割合が低く、「わからない」では他の居住地は4割台以下なのに対し、（63.3%）と6割を超えて高くなっています。

【性別】

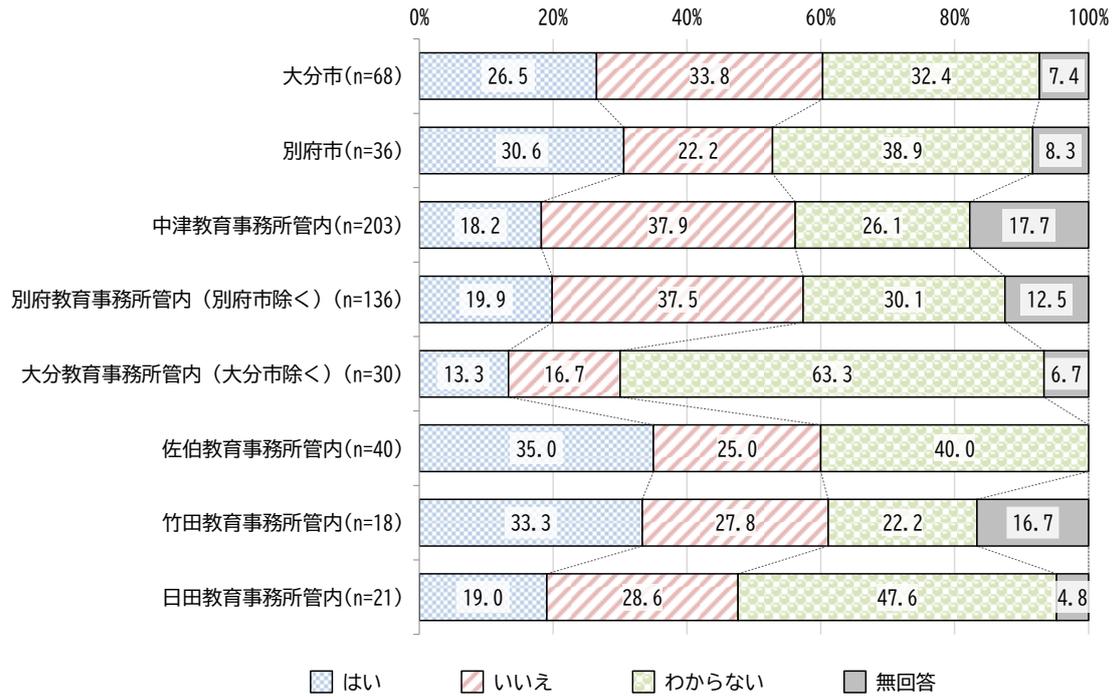


【年齢別】

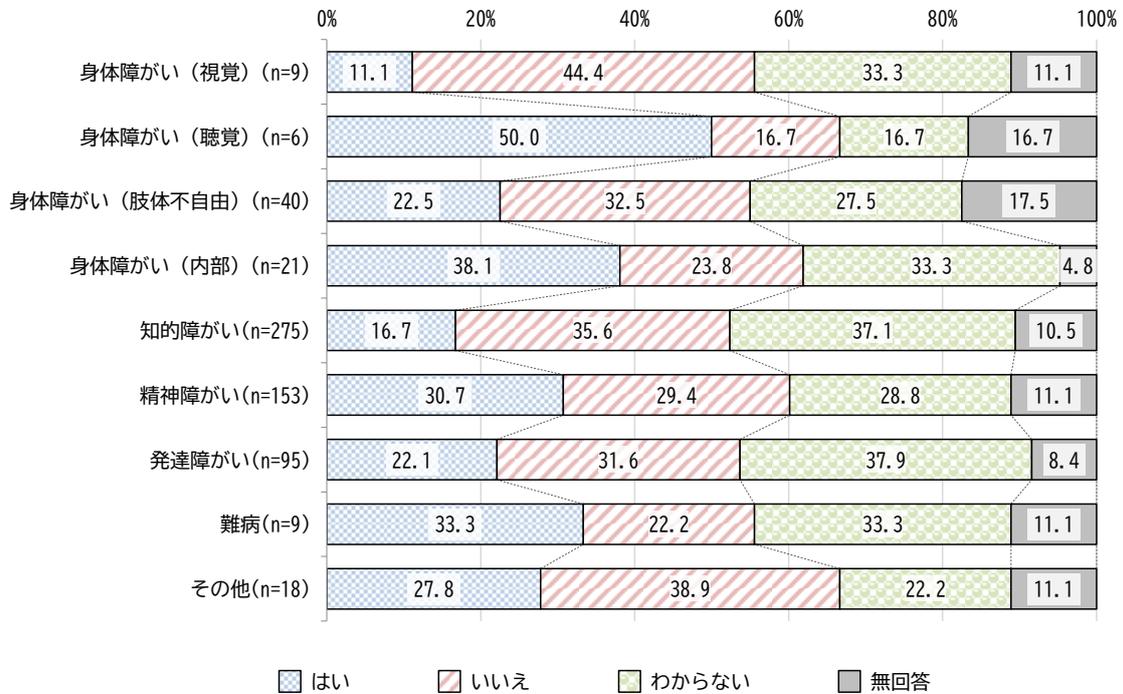


【居住地別】

II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果



【障がい種別別】

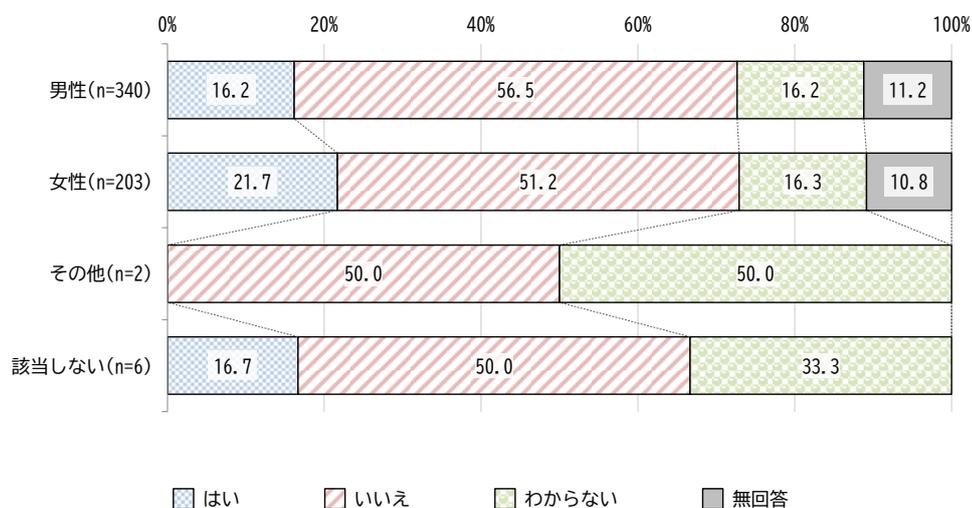


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

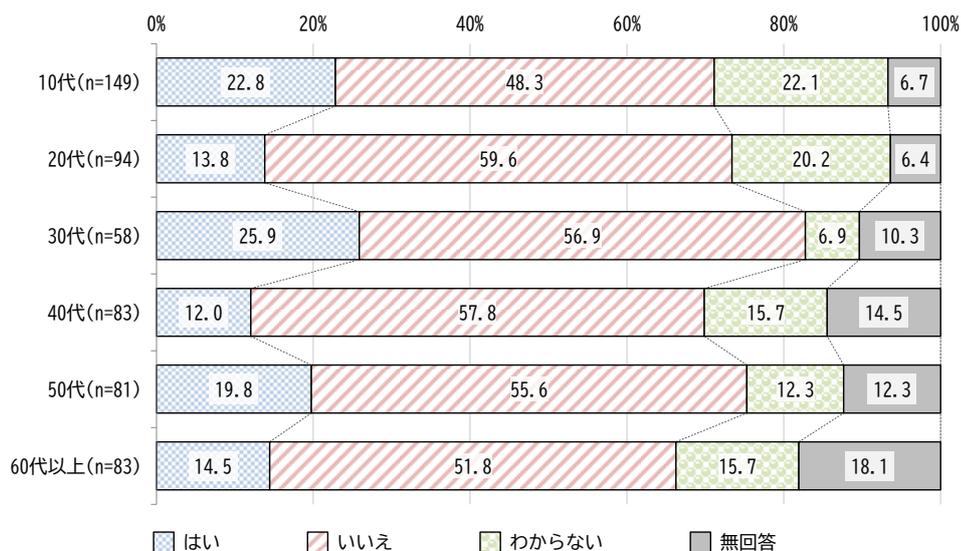
⑧ 外出すること自体が難しいと思っていますか。

- 外出すること自体が難しいと思っているかについて、性別では特に大きな差はみられませんでした。
- 年齢別にみると、どの年代も「いいえ」の割合が最も高くなっています。
- 居住地別にみると、どの居住地も「いいえ」の割合が最も高くなっていますが、「別府市」では「はい」（36.1％）の割合が他と比べて高くなっています。
- 障がい種類別にみると、どの種別も「いいえ」の割合が最も高くなっています。

【性別】

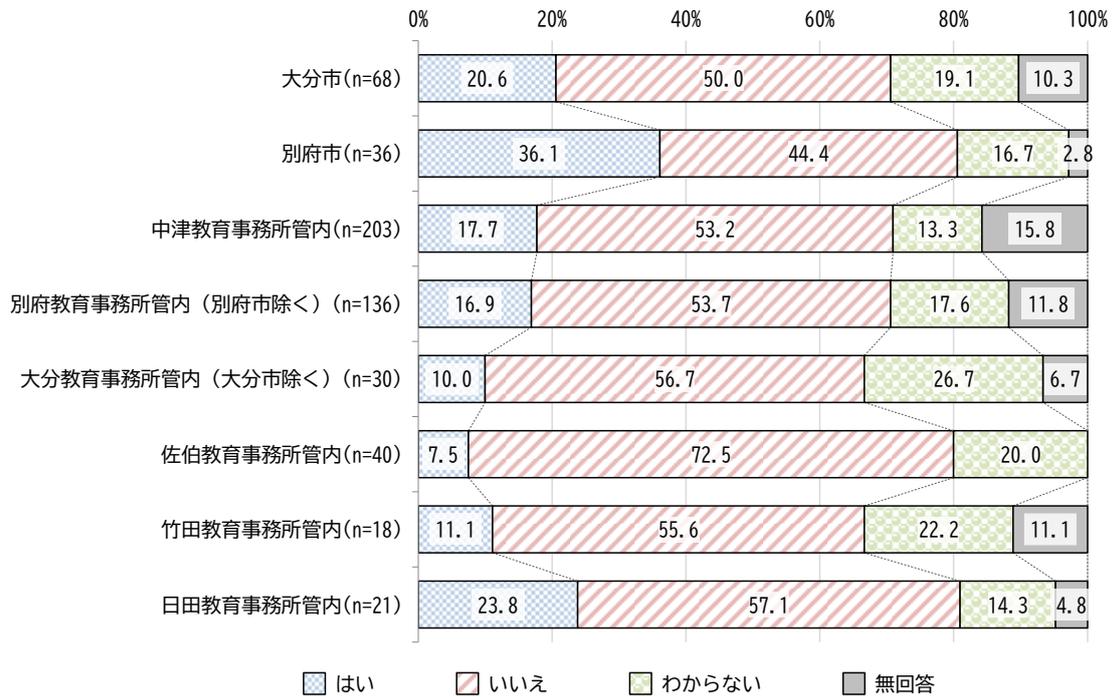


【年齢別】

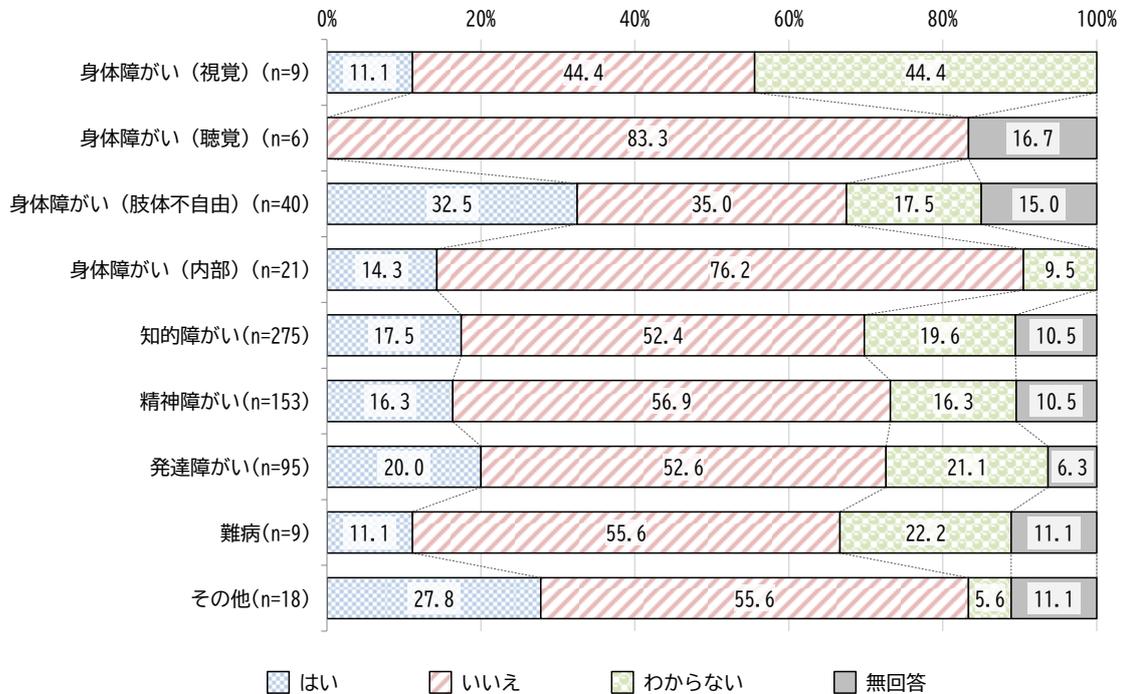


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

【居住地別】



【障がい種類別】

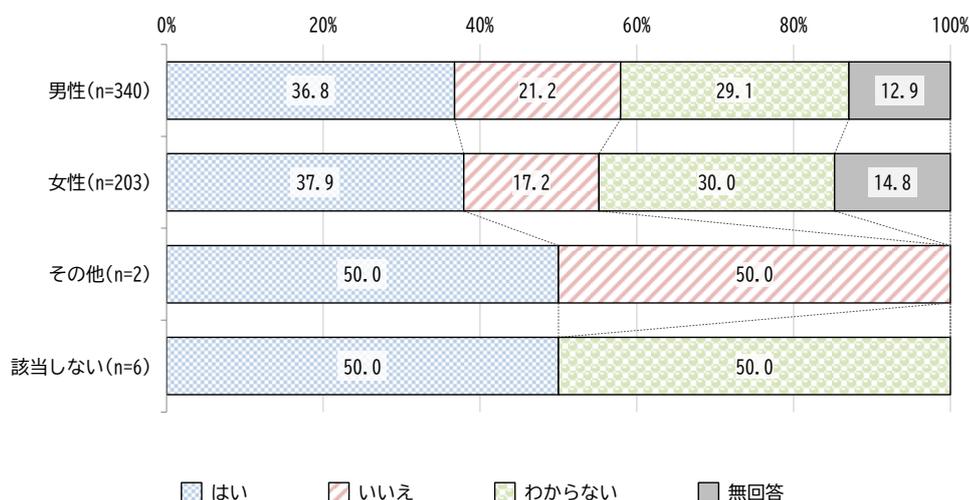


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

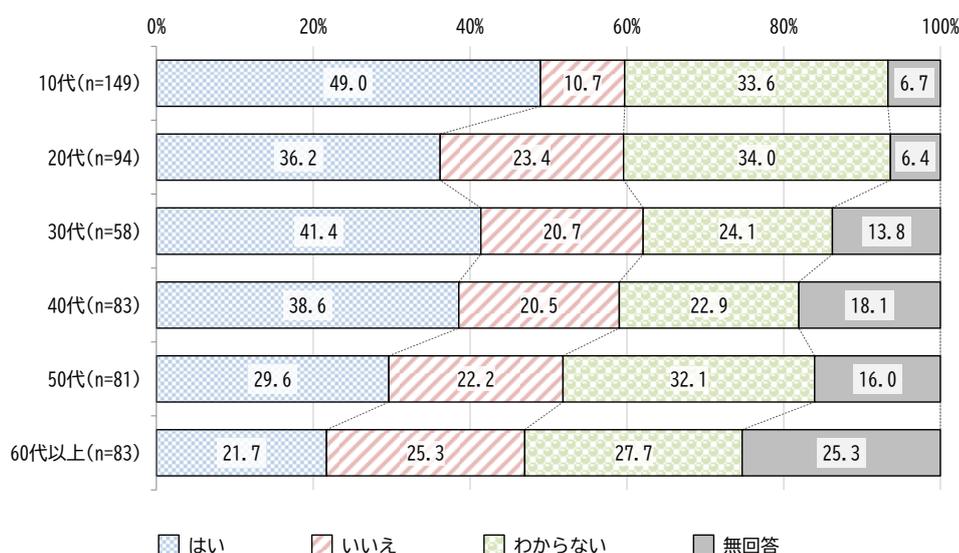
⑨ 学校卒業後も何らかの学びを続けたいと思っていますか。

- 学校卒業後も何らかの学びを続けたいと思っているかについて、性別では特に大きな差はみられませんでした。
- 年齢別にみると、「40代」までは「はい」の割合が最も高くなっていますが、「50代」以上では「わからない」の割合が最も高くなっています。
- 居住地別にみると、どの居住地でも「はい」の割合が最も高くなっていますが、「大分教育事務所管内（大分市除く）」では「わからない」（40.0%）の割合が最も高くなっています。
- 障がい種類別にみると、「身体障がい（視覚）」では「はい」（11.1%）の割合が他と比べて低く、「いいえ」（44.4%）の割合が他と比べて高くなっています。

【性別】

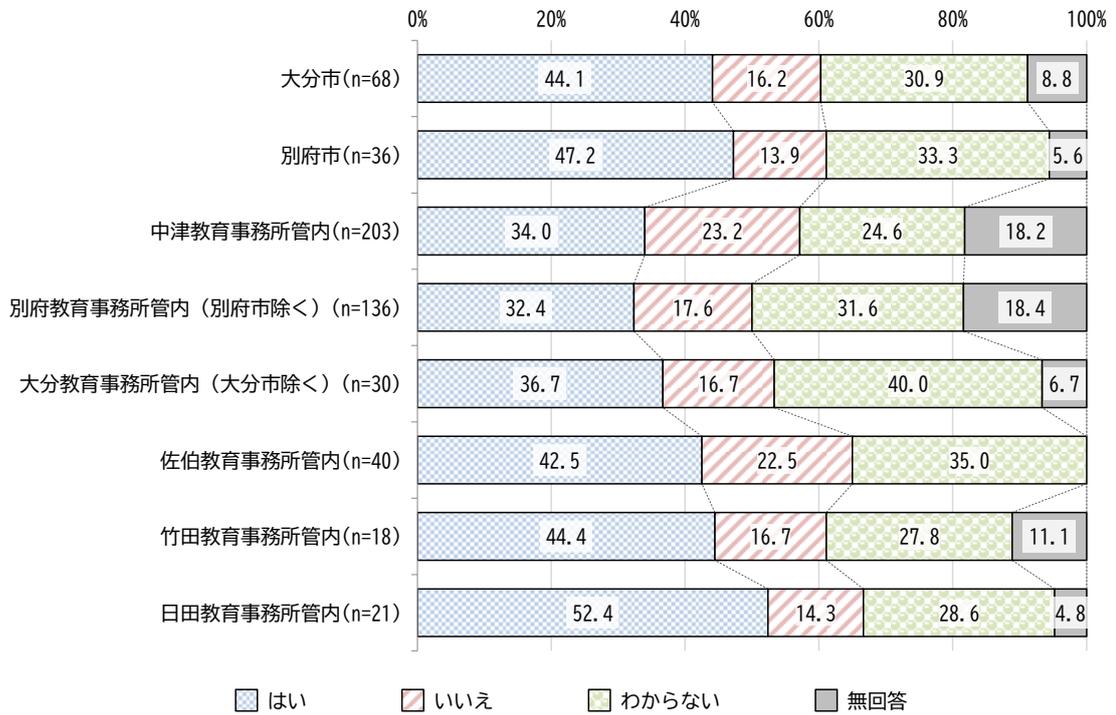


【年齢別】

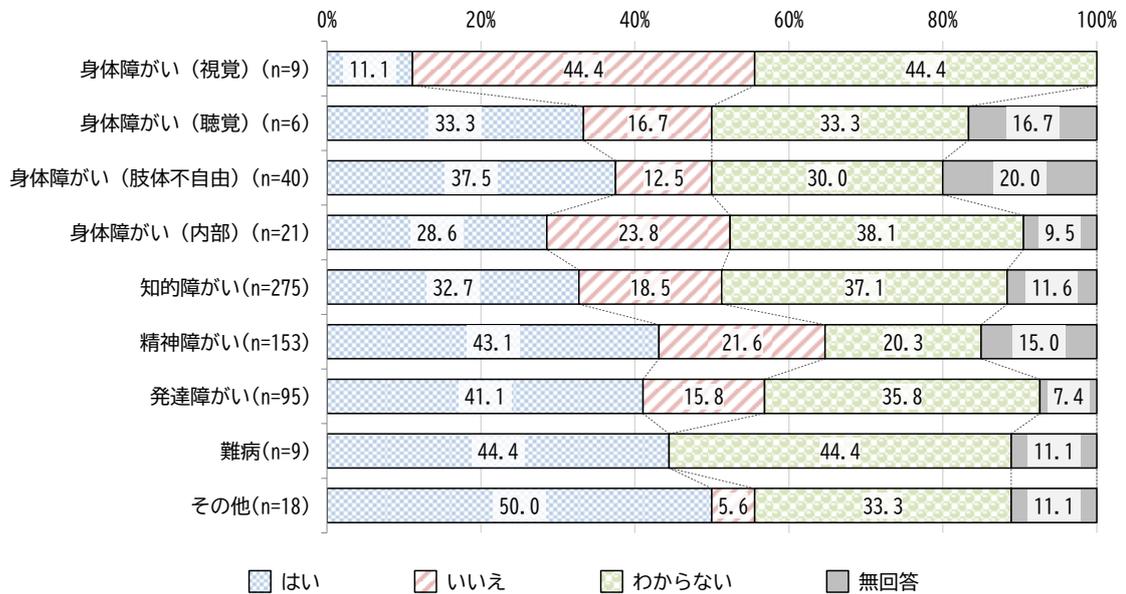


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

【居住地別】



【障がい種別】

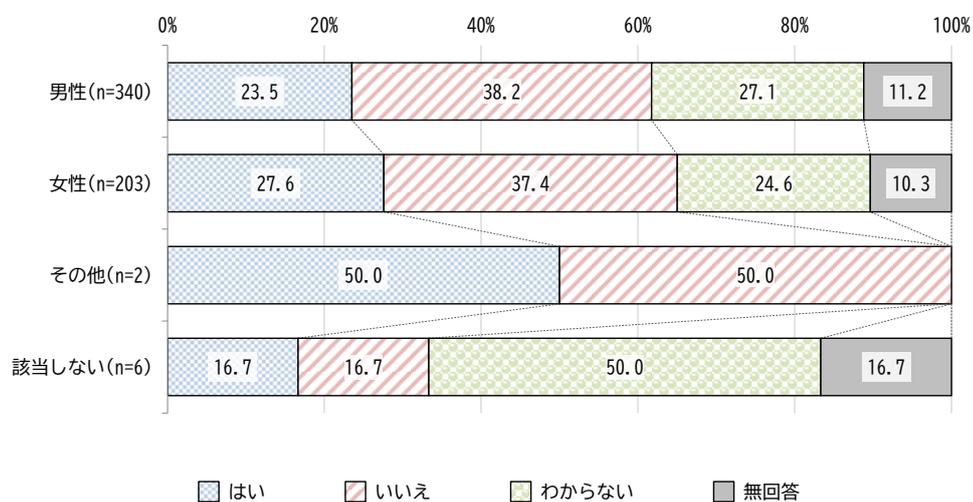


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

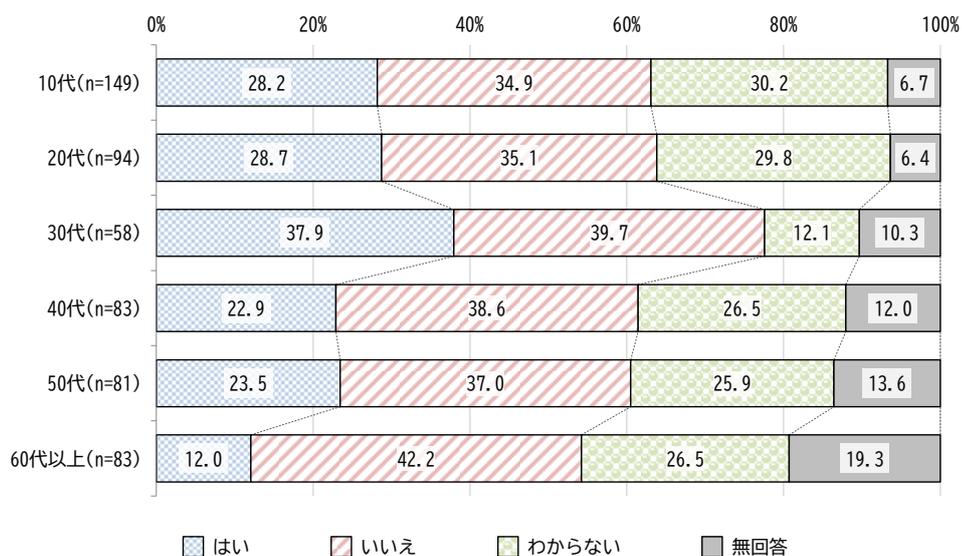
⑩ 障がいがあることで学ぶ場所に参加する勇気が出ないことがありますか。

- 障がいがあることで学ぶ場所に参加する勇気が出ないことがあるかについて、性別では特に大きな差はみられませんでした。
- 年齢別にみると、「30代」では「はい」（37.9%）の割合が他と比べて高く、「わからない」（12.1%）の割合が他と比べて低くなっています。
- 居住地別にみると、どの居住地も「いいえ」の割合が最も高くなっています。
- 障がい種類別にみると、どの種別でも「いいえ」の割合が最も高くなっていますが、「身体障がい（聴覚）」「身体障がい（内部）」「発達障がい」では「はい」の割合が最も高くなっています。

【性別】

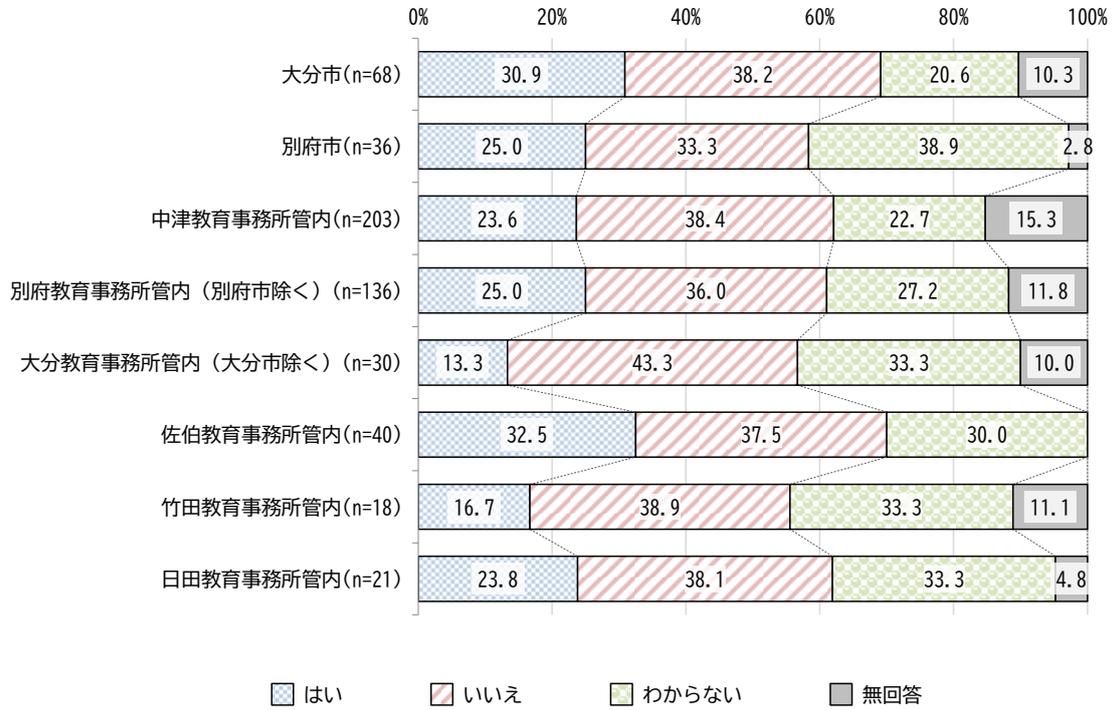


【年齢別】

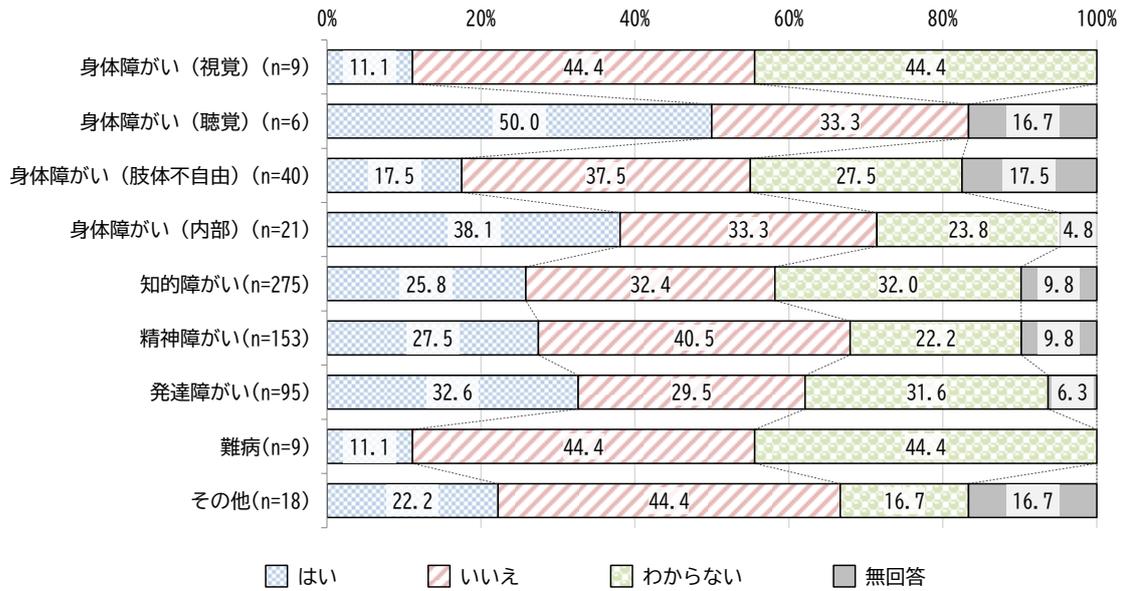


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

【居住地別】



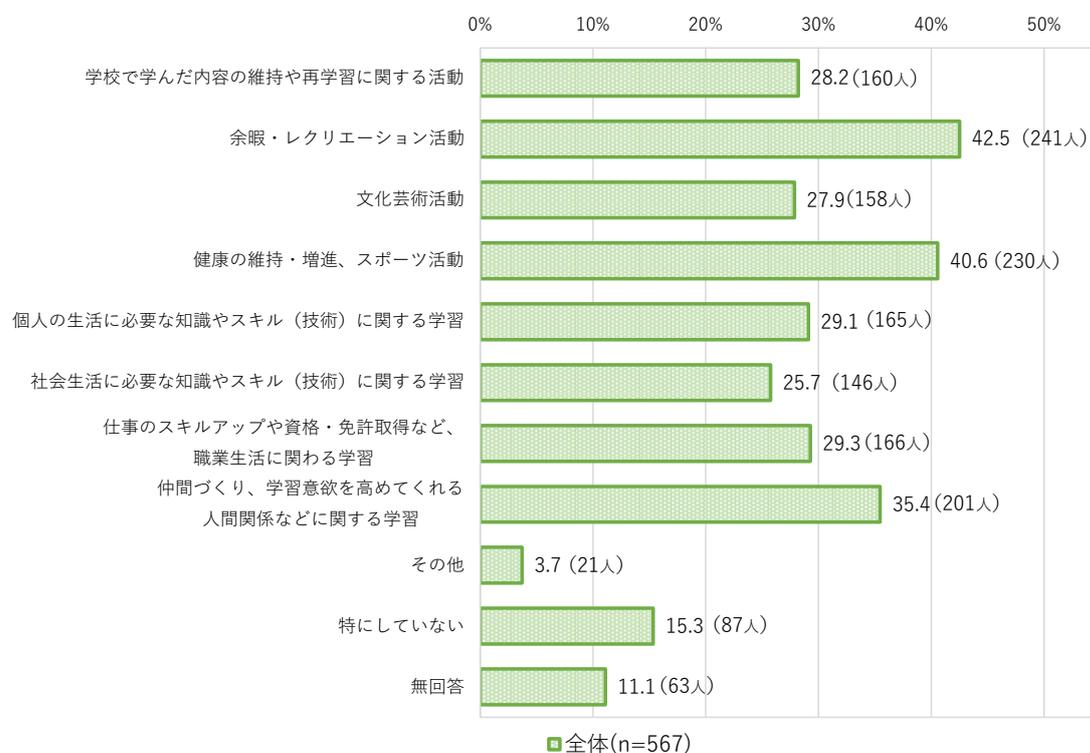
【障がい種別】



II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

問9 この1年間くらいの中に、以下のような学び（学習活動）をしましたか。（複数回答可）

- 過去1年間の学び（学習活動）では、「余暇・レクリエーション活動」（42.5%）の割合が最も高く、次いで「健康の維持・増進、スポーツ活動」（40.6%）、「仲間づくり、学習意欲を高めてくれる人間関係などに関する学習」（35.4%）となっています。
- 性別にみると、「女性」では「文化芸術活動」「個人の生活に必要な知識やスキル（技術）に関する学習」「仲間づくり、学習意欲を高めてくれる人間関係などに関する学習」の割合が「男性」より高くなっています。
- 年齢別にみると、「30代」及び「50代」では「健康の維持・増進、スポーツ活動」の割合が最も高くなっていますが、それ以外では「余暇・レクリエーション活動」の割合が最も高くなっています。
- 居住地別にみると、「中津教育事務所管内」では「健康の維持・増進、スポーツ活動」（40.4%）の割合が、「大分市」「別府市」「別府教育事務所管内（別府市除く）」「大分教育事務所管内（大分市除く）」では「余暇・レクリエーション活動」の割合が、それ以外では「仲間づくり、学習意欲を高めてくれる人間関係などに関する学習」の割合が最も高くなっています。
- 障がい種類別にみると、「身体障がい（視覚）」では「仲間づくり、学習意欲を高めてくれる人間関係などに関する学習」（55.6%）の割合が、「精神障がい」では「健康の維持・増進、スポーツ活動」（35.9%）の割合が最も高く、それ以外では「余暇・レクリエーション活動」の割合が最も高くなっています。



() 内は実数

【学び（学習活動） その他】

- ◆体操教室 1ヶ月3回程 ◆手話 ◆みのりスマイル ◆合気道 ◆読書、ぬりえ
- ◆ボランティア ◆したくない、できない

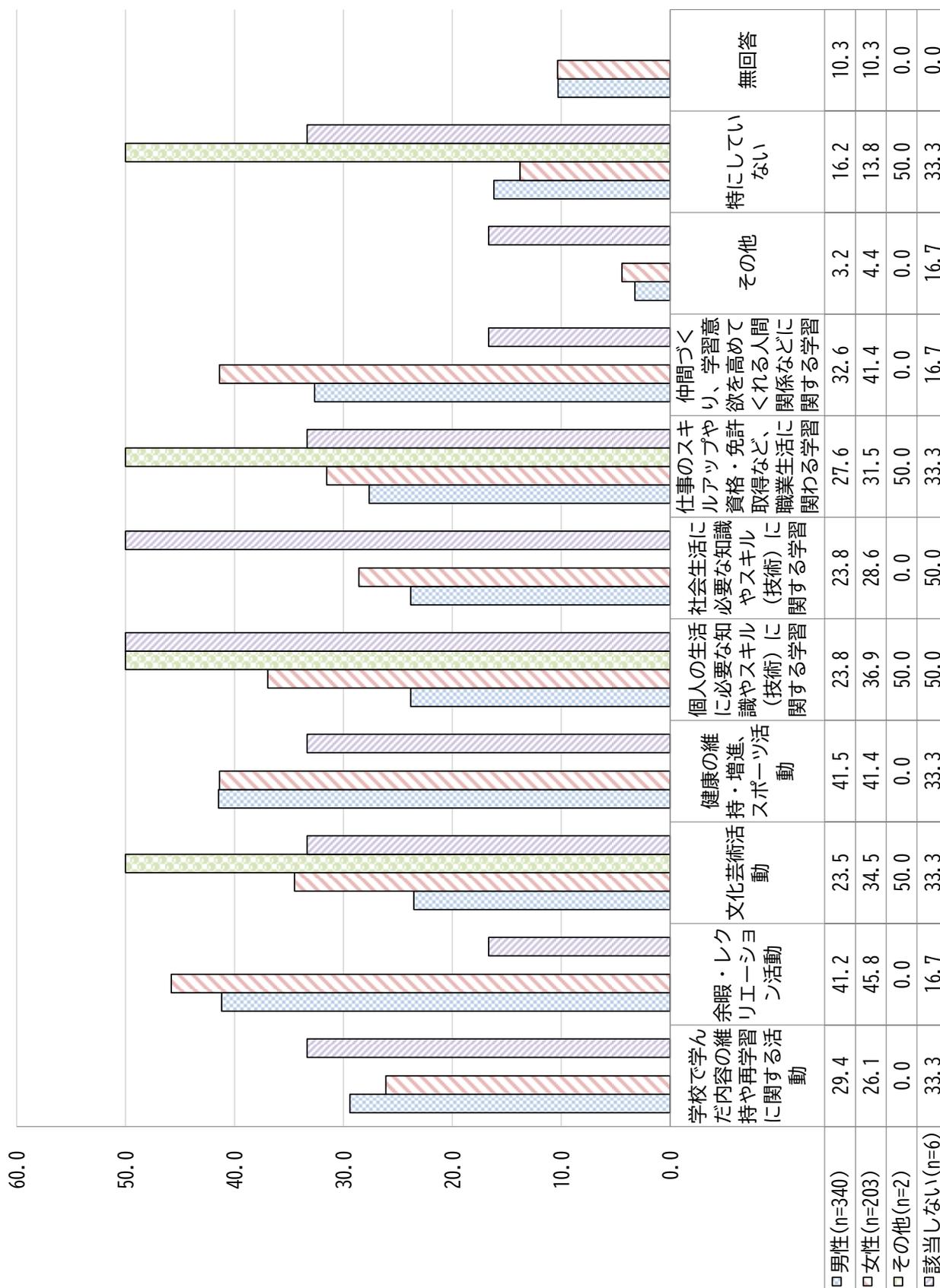
【学び（学習活動）を特にしていない理由】

- ◆どのようにして良いか分からない為、また何かをやりたいという意欲が特になかった為
- ◆自宅にて、治療しなくてはいけない為、制限がある
- ◆作業所に行っている。作業所での活動は参加している
- ◆時間的余裕がなかったため ◆やりたいことを探し中 ◆金銭、休日 ◆必要ない

II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

問9 この1年間くらいの中に、以下のような学び（学習活動）をしましたか。（複数回答可）

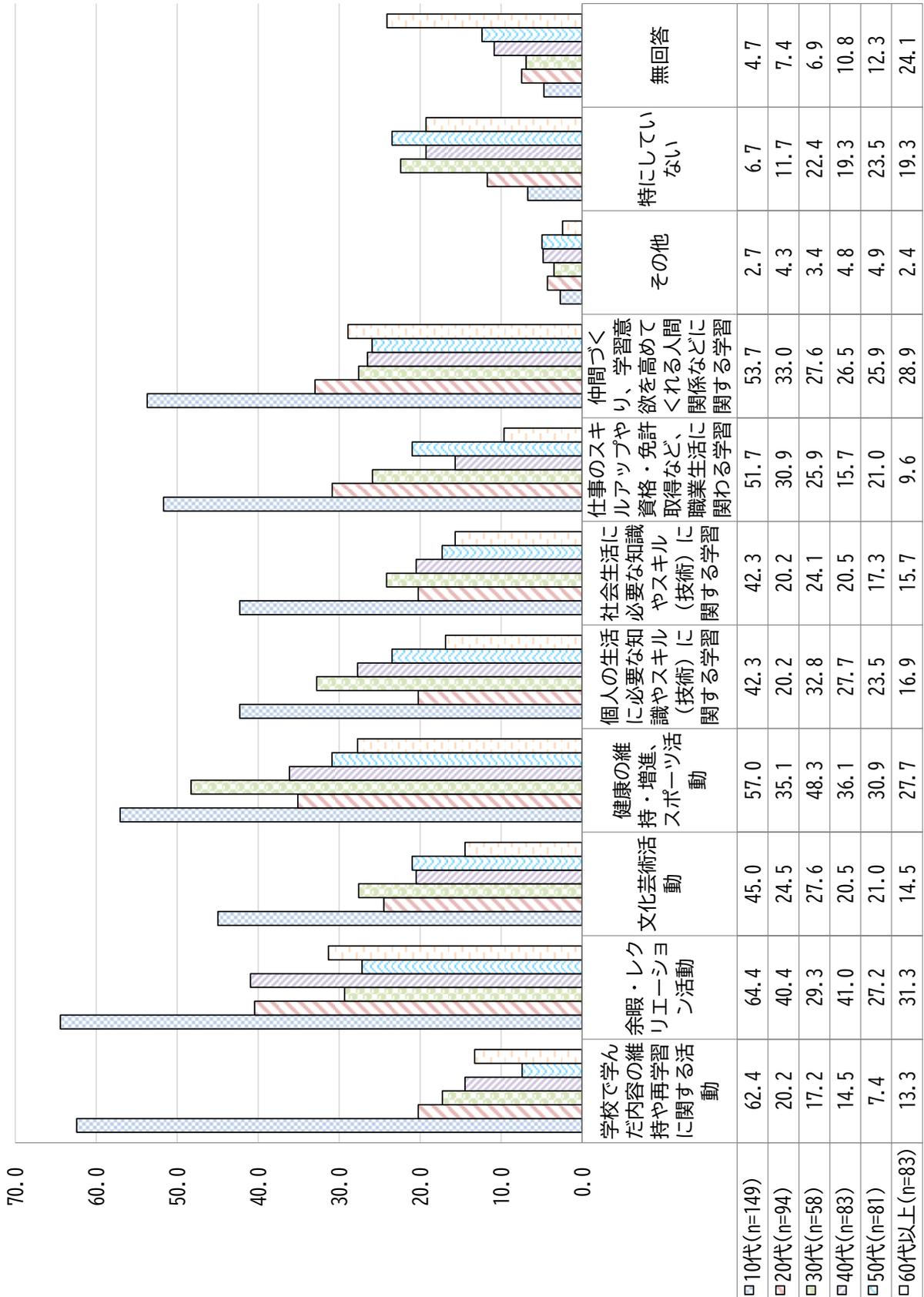
【性別】



II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

問9 この1年間くらいの中に、以下のような学び（学習活動）をしましたか。（複数回答可）

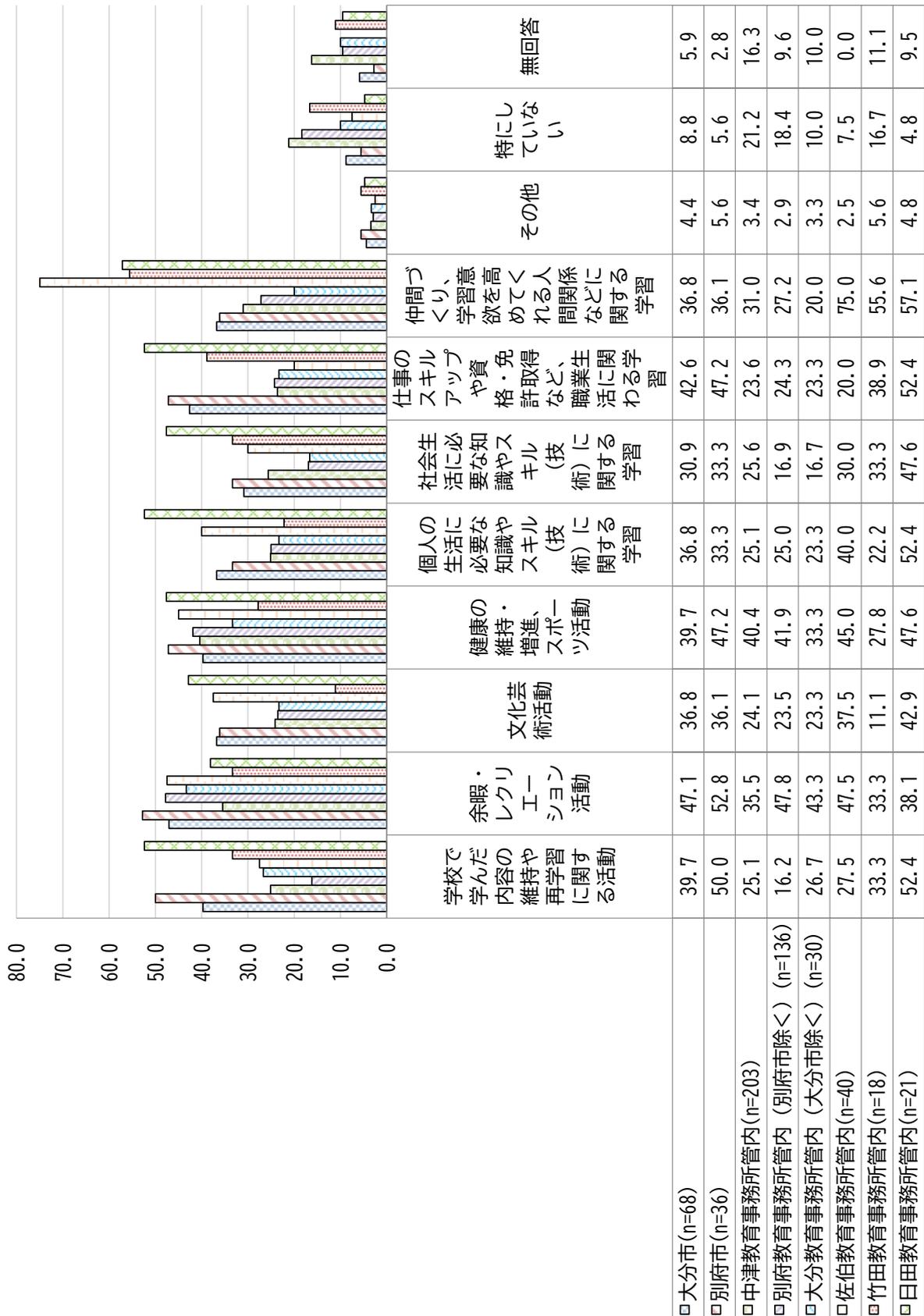
【年齢別】



II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

問9 この1年間くらいの間、以下のような学び（学習活動）をしましたか。（複数回答可）

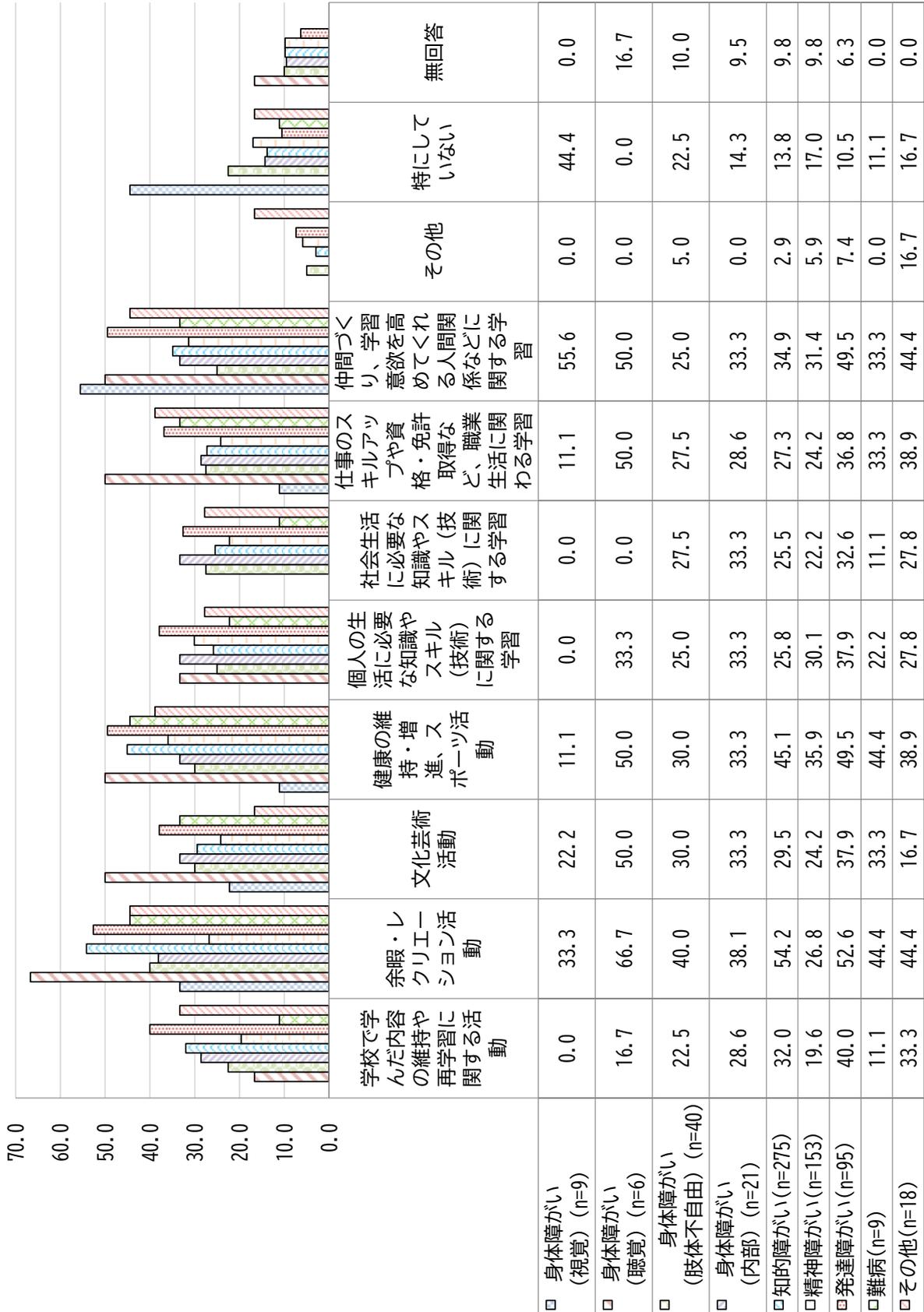
【居住地別】



II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

問9 この1年間くらいの中に、以下のような学び（学習活動）をしましたか。（複数回答可）

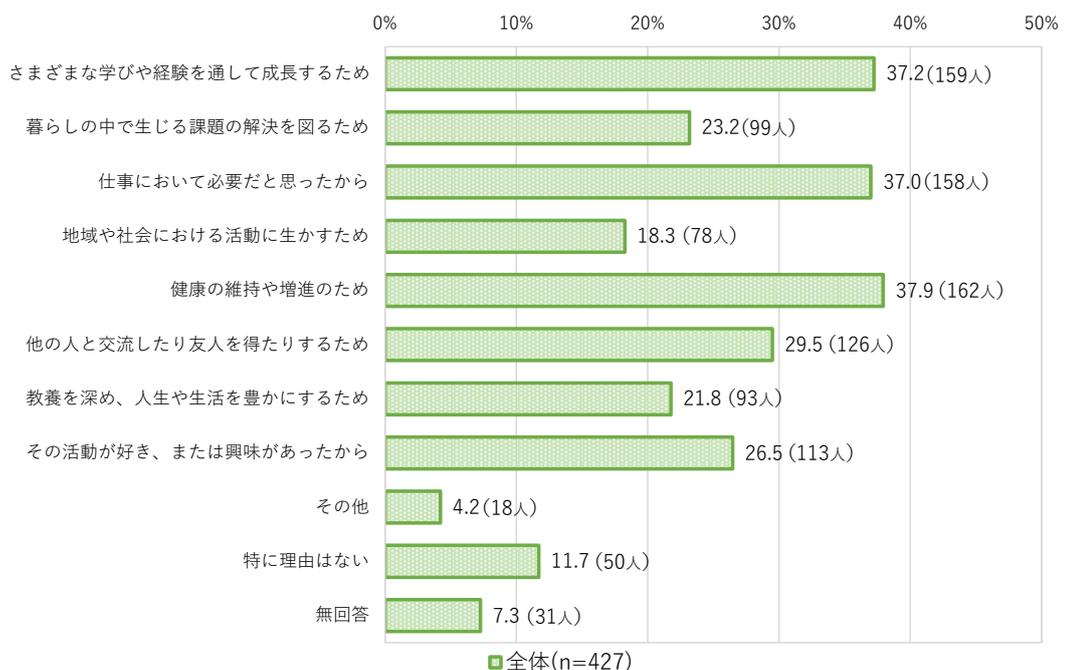
【障がい種類別】



II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

問10 問9で1～9を選んだ方（学習活動をした方）は、なぜその活動に取り組もうと思われましたか。（複数回答可）

- 過去1年間の学び（学習活動）に取り組んだ理由では、「健康の維持や増進のため」（37.9%）の割合が最も高く、次いで「さまざまな学びや経験を通して成長するため」（37.2%）、「仕事において必要だと思ったから」（37.0%）となっています。
- 性別にみると、「男性」では「仕事において必要だと思ったから」（40.8%）の割合が、「女性」では「健康の維持や増進のため」（43.0%）の割合がそれぞれ最も高くなっています。
- 年齢別にみると、「30代」までは「さまざまな学びや経験を通して成長するため」の割合が最も高くなっていますが、「40代」以上では「健康の維持や増進のため」の割合が最も高くなっています。
- 居住地別にみると、「大分教育事務所管内（大分市除く）」では「さまざまな学びや経験を通して成長するため」（12.0%）、「暮らしの中で生じる課題の解決を図るため」（4.0%）、「教養を深め、人生や生活を豊かにするため」（8.0%）の割合が、また「竹田教育事務所管内」では「その活動が好き、または興味があったから」（7.7%）と他と比べて低くなっています。
- 障がい種類別にみると、「身体障がい（視覚）」では「暮らしの中で生じる課題の解決を図るため」及び「その他」（ともに40.0%）の割合が、「身体障がい（聴覚）」では「仕事において必要だと思ったから」「他の人と交流したり友人を得たりするため」（ともに80.0%）の割合が最も高く、それ以外では「さまざまな学びや経験を通して成長するため」「健康の維持や増進のため」の割合が高くなっています。



() 内は実数

II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

【学び（学習活動）に取り組んだ理由 その他】

- ◆成長のため、生活するため、自分のため ◆少しでも健康になるため ◆学校での授業
- ◆生きるための仕事をするため

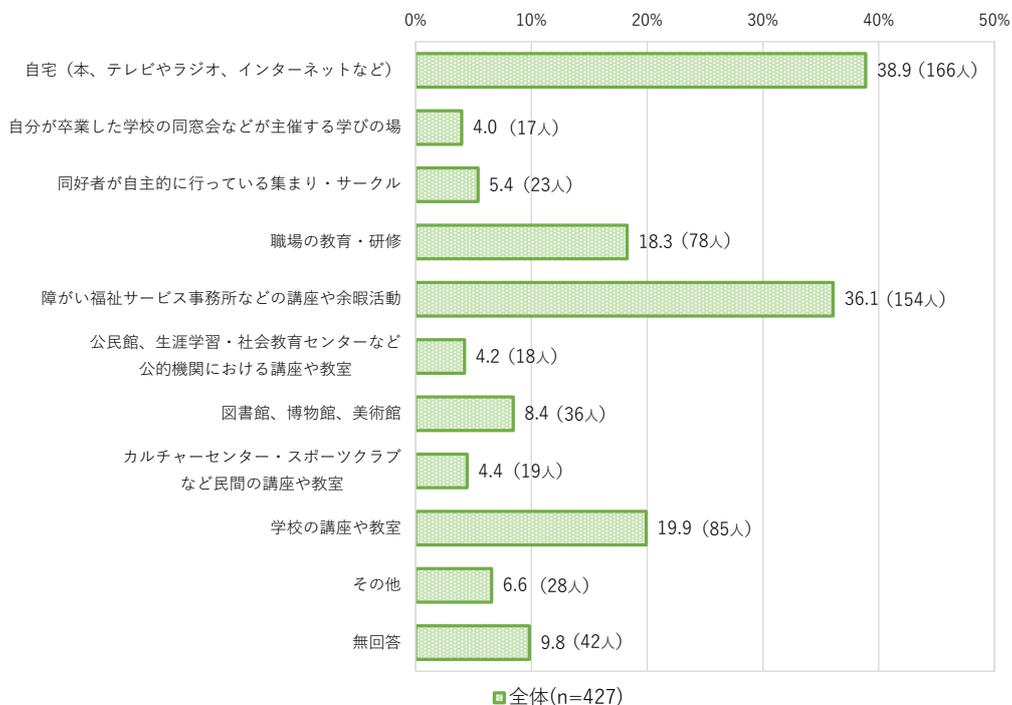
(上段：人 下段：%)

		標本数（人）	長 さ ま ざ ま な 学 び や 経 験 を 通 し て 成 熟 す る た め	関 心 す る た め	仕 事 に お い て 必 要 と 思 っ た か ら	地 域 や 社 会 に お け る 活 動 に 生 か す た め	健 康 の 維 持 や 増 進 の た め	其 他 の 人 と 交 流 し た り 友 人 を 得 た り す る た め	教 養 を 深 め 、 人 生 や 生 活 を 豊 か に す る た め	あ つ た か ら	そ の 他	特 に 理 由 は な い	無 回 答	
全体（単純集計）		427	159 37.2%	99 23.2%	158 37.0%	78 18.3%	162 37.9%	126 29.5%	93 21.8%	113 26.5%	18 4.2%	50 11.7%	31 7.3%	
性別	男性	255	92 36.1%	57 22.4%	104 40.8%	45 17.6%	88 34.5%	71 27.8%	54 21.2%	62 24.3%	10 3.9%	28 11.0%	13 5.1%	
	女性	158	63 39.9%	38 24.1%	50 31.6%	29 18.4%	68 43.0%	51 32.3%	37 23.4%	50 31.6%	6 3.8%	20 12.7%	16 10.1%	
	その他	2	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
	該当しない	4	1 25.0%	2 50.0%	3 75.0%	1 25.0%	3 75.0%	1 25.0%	2 50.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%
年齢	10代	134	58 43.3%	27 20.1%	49 36.6%	20 14.9%	37 27.6%	36 26.9%	23 17.2%	37 27.6%	6 4.5%	25 18.7%	5 3.7%	
	20代	77	34 44.2%	21 27.3%	33 42.9%	15 19.5%	31 40.3%	27 35.1%	21 27.3%	26 33.8%	5 6.5%	4 5.2%	2 2.6%	
	30代	41	18 43.9%	13 31.7%	18 43.9%	9 22.0%	16 39.0%	13 31.7%	9 22.0%	9 22.0%	4 9.8%	5 12.2%	4 9.8%	
	40代	58	21 36.2%	12 20.7%	20 34.5%	10 17.2%	32 55.2%	18 31.0%	17 29.3%	20 34.5%	1 1.7%	4 6.9%	3 5.2%	
	50代	54	12 22.2%	9 16.7%	17 31.5%	9 16.7%	21 38.9%	12 22.2%	8 14.8%	10 18.5%	1 1.9%	7 13.0%	7 13.0%	
	60代以上	51	12 23.5%	14 27.5%	18 35.3%	12 23.5%	22 43.1%	18 35.3%	13 25.5%	10 19.6%	0 0.0%	4 7.8%	8 15.7%	
居住地別	大分市	59	24 40.7%	20 33.9%	25 42.4%	10 16.9%	21 35.6%	15 25.4%	12 20.3%	16 27.1%	4 6.8%	5 8.5%	2 3.4%	
	別府市	33	14 42.4%	8 24.2%	12 36.4%	3 9.1%	8 24.2%	7 21.2%	9 27.3%	8 24.2%	5 15.2%	7 21.2%	1 3.0%	
	中津教育事務所管内	133	54 40.6%	25 18.8%	52 39.1%	31 23.3%	53 39.8%	41 30.8%	28 21.1%	28 21.1%	3 2.3%	17 12.8%	11 8.3%	
	別府教育事務所管内（別府市除く）	99	27 27.3%	21 21.2%	29 29.3%	17 17.2%	40 40.4%	28 28.3%	19 19.2%	39 39.4%	3 3.0%	12 12.1%	11 11.1%	
	大分教育事務所管内（大分市除く）	25	3 12.0%	1 4.0%	7 28.0%	2 8.0%	7 28.0%	3 12.0%	2 8.0%	5 20.0%	1 4.0%	3 12.0%	3 12.0%	
	佐伯教育事務所管内	38	20 52.6%	10 26.3%	16 42.1%	5 13.2%	17 44.7%	19 50.0%	9 23.7%	9 23.7%	1 2.6%	3 7.9%	1 2.6%	
	竹田教育事務所管内	13	5 38.5%	5 38.5%	4 30.8%	1 7.7%	4 30.8%	2 15.4%	4 30.8%	1 7.7%	1 7.7%	1 7.7%	0 0.0%	
	日田教育事務所管内	18	9 50.0%	7 38.9%	12 66.7%	6 33.3%	9 50.0%	9 50.0%	8 44.4%	6 33.3%	0 0.0%	0 5.6%	0 0.0%	
	障がいの種類	身体障がい（視覚）	5	1 20.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%
身体障がい（聴覚）		5	1 20.0%	2 40.0%	4 80.0%	0 0.0%	2 40.0%	4 80.0%	1 20.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
身体障がい（肢体不自由）		28	12 42.9%	9 32.1%	10 35.7%	8 28.6%	12 42.9%	10 35.7%	9 32.1%	9 32.1%	4 14.3%	3 10.7%	1 3.6%	
身体障がい（内部）		17	4 23.5%	5 29.4%	6 35.3%	2 11.8%	6 35.3%	3 17.6%	4 23.5%	3 17.6%	1 5.9%	3 17.6%	1 5.9%	
知的障がい		214	65 30.4%	33 15.4%	71 33.2%	35 16.4%	71 33.2%	62 29.0%	33 15.4%	51 23.8%	9 4.2%	31 14.5%	17 7.9%	
精神障がい		115	47 40.9%	37 32.2%	44 38.3%	22 19.1%	54 47.0%	33 28.7%	32 27.8%	35 30.4%	2 1.7%	9 7.8%	7 6.1%	
発達障がい		80	39 48.8%	21 26.3%	31 38.8%	12 15.0%	30 37.5%	25 31.3%	24 30.0%	31 38.8%	5 6.3%	9 11.3%	3 3.8%	
難病		8	2 25.0%	1 12.5%	2 25.0%	1 12.5%	3 37.5%	1 12.5%	1 12.5%	2 25.0%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	
その他		15	9 60.0%	2 13.3%	7 46.7%	3 20.0%	5 33.3%	3 20.0%	3 20.0%	1 6.7%	3 20.0%	1 6.7%	1 6.7%	

II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

問11 問9で1～9を選んだ方（学習活動をした方）は、どこでその活動をしましたか。
（複数回答可）

- 過去1年間の学び（学習活動）に取り組んだ活動場所では、「自宅（本、テレビやラジオ、インターネットなど）」（38.9%）の割合が最も高く、次いで「障がい福祉サービス事務所などの講座や余暇活動」（36.1%）、「学校の講座や教室」（19.9%）となっています。
- 性別では男性、女性に特に大きな差はみられませんでした。
- 年齢別にみると、「10代」では「学校の講座や教室」（55.2%）の割合が、「20代」から「40代」及び「60代以上」では「障がい福祉サービス事務所などの講座や余暇活動」の割合が、「50代」では「自宅（本、テレビやラジオ、インターネットなど）」（42.6%）の割合が最も高くなっています。
- 居住地別にみると、「別府市」及び「竹田教育事務所管内」では「学校の講座や教室」の割合が、「別府教育事務所管内（別府市除く）」及び「日田教育事務所管内」では「障がい福祉サービス事務所などの講座や余暇活動」の割合が、それ以外では「自宅（本、テレビやラジオ、インターネットなど）」の割合が最も高くなっています。
- 障がい種類別にみると、「身体障がい（視覚）」及び「知的障がい」では「障がい福祉サービス事務所などの講座や余暇活動」の割合が、それ以外では「自宅（本、テレビやラジオ、インターネットなど）」の割合が最も高くなっています。



（ ）内は実数

【学び（学習活動）に取り組んだ場所 その他】

- ◆グループホームと他の施設で行った
- ◆B型就労

II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

(上段：人 下段：%)

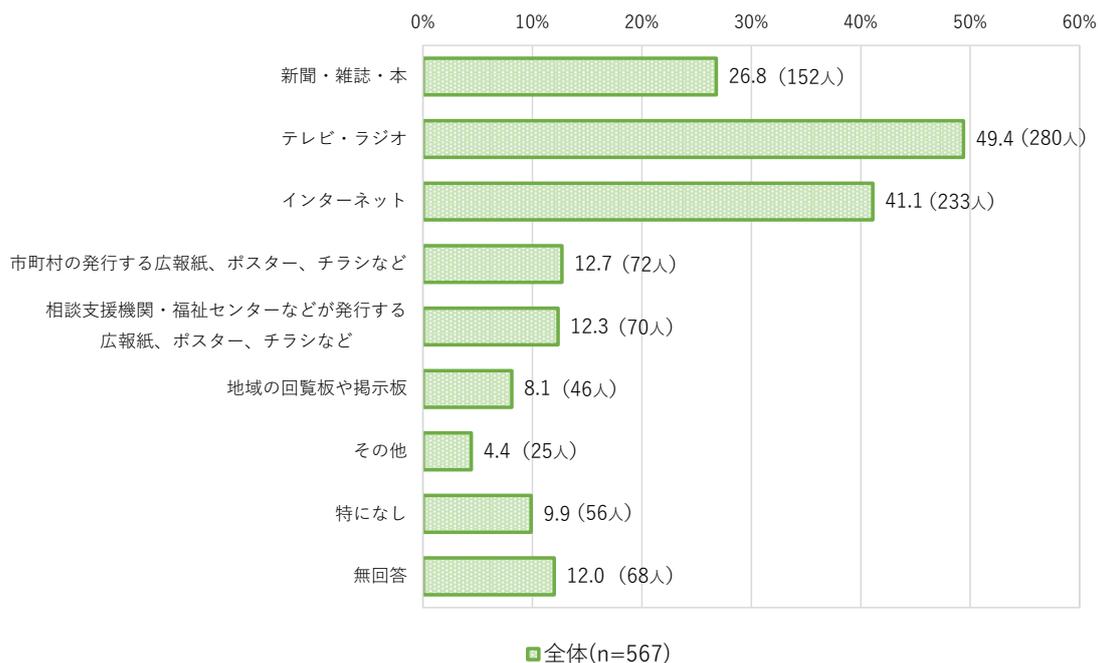
	標本数(人)	自宅(本、テレビやラジオ、インターネットなど)	自分が卒業した学校の同窓会などが主催する学びの場	同好者が自主的に行っている集まり・サークル	職場の教育・研修	障がい福祉サービス事務所などの講座や余暇活動	公民館、生涯学習・社会教育センターなど公的機関における講座や教室	図書館、博物館、美術館	カルチャースタジオ・スポーツクラブなど民間の講座や教室	学校の講座や教室	その他	無回答	
全体(単純集計)	427	166 38.9%	17 4.0%	23 5.4%	78 18.3%	154 36.1%	18 4.2%	36 8.4%	19 4.4%	85 19.9%	28 6.6%	42 9.8%	
性別	男性	255	98 38.4%	9 3.5%	11 4.3%	47 18.4%	90 35.3%	9 3.5%	15 5.9%	11 4.3%	49 19.2%	13 5.1%	23 9.0%
	女性	158	61 38.6%	7 4.4%	12 7.6%	29 18.4%	63 39.9%	8 5.1%	18 11.4%	8 5.1%	34 21.5%	13 8.2%	16 10.1%
	その他	2	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%
	該当しない	4	3 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%
年齢	10代	134	53 39.6%	2 1.5%	3 2.2%	16 11.9%	28 20.9%	4 3.0%	9 6.7%	7 5.2%	74 55.2%	5 3.7%	10 7.5%
	20代	77	29 37.7%	3 3.9%	9 11.7%	21 27.3%	33 42.9%	3 3.9%	7 9.1%	6 7.8%	6 7.8%	8 10.4%	4 5.2%
	30代	41	17 41.5%	4 9.8%	2 4.9%	10 24.4%	19 46.3%	1 2.4%	2 4.9%	1 2.4%	1 2.4%	5 12.2%	4 9.8%
	40代	58	24 41.4%	2 3.4%	3 5.2%	15 25.9%	24 41.4%	3 5.2%	6 10.3%	3 5.2%	3 1.7%	1 6.9%	4 8.6%
	50代	54	23 42.6%	0 0.0%	3 5.6%	6 11.1%	21 38.9%	4 7.4%	4 7.4%	0 0.0%	0 0.0%	3 5.6%	7 13.0%
	60代以上	51	17 33.3%	4 7.8%	3 5.9%	8 15.7%	27 52.9%	2 3.9%	4 7.8%	1 2.0%	1 0.0%	2 3.9%	9 17.6%
居住地別	大分市	59	25 42.4%	0 0.0%	3 5.1%	15 25.4%	13 22.0%	3 5.1%	6 10.2%	5 8.5%	21 35.6%	6 10.2%	2 3.4%
	別府市	33	14 42.4%	0 0.0%	2 6.1%	5 15.2%	11 33.3%	1 3.0%	3 9.1%	2 6.1%	16 48.5%	0 0.0%	3 9.1%
	中津教育事務所管内	133	56 42.1%	9 6.8%	7 5.3%	27 20.3%	47 35.3%	4 3.0%	12 9.0%	6 4.5%	20 15.0%	13 9.8%	14 10.5%
	別府教育事務所管内(別府市除く)	99	30 30.3%	4 4.0%	4 4.0%	20 20.2%	39 39.4%	5 5.1%	5 5.1%	5 5.1%	8 8.1%	3 3.0%	14 14.1%
	大分教育事務所管内(大分市除く)	25	9 36.0%	2 8.0%	2 8.0%	1 4.0%	4 16.0%	1 4.0%	1 4.0%	0 0.0%	6 24.0%	2 8.0%	3 12.0%
	佐伯教育事務所管内	38	16 42.1%	0 0.0%	1 2.6%	4 10.5%	26 68.4%	0 0.0%	1 2.6%	0 0.0%	6 15.8%	1 2.6%	1 2.6%
	竹田教育事務所管内	13	3 23.1%	0 0.0%	3 23.1%	4 30.8%	3 23.1%	0 0.0%	1 7.7%	0 0.0%	5 38.5%	1 7.7%	2 15.4%
	日田教育事務所管内	18	9 50.0%	0 0.0%	1 5.6%	1 5.6%	10 55.6%	3 16.7%	4 22.2%	0 0.0%	2 11.1%	2 11.1%	0 0.0%
障がいの種類	身体障がい(視覚)	5	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 60.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%
	身体障がい(聴覚)	5	4 80.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%	3 60.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%
	身体障がい(肢体不自由)	28	14 50.0%	2 7.1%	2 7.1%	6 21.4%	10 35.7%	2 7.1%	2 7.1%	2 7.1%	9 32.1%	0 0.0%	2 7.1%
	身体障がい(内部)	17	4 23.5%	2 11.8%	0 0.0%	3 17.6%	4 23.5%	2 11.8%	0 0.0%	2 11.8%	4 23.5%	1 5.9%	0 0.0%
	知的障がい	214	64 29.9%	5 2.3%	12 5.6%	42 19.6%	74 34.6%	7 3.3%	13 6.1%	12 5.6%	59 27.6%	13 6.1%	21 9.8%
	精神障がい	115	54 47.0%	3 2.6%	8 7.0%	16 13.9%	53 46.1%	8 7.0%	13 11.3%	5 4.3%	5 4.3%	6 5.2%	11 9.6%
	発達障がい	80	35 43.8%	2 2.5%	4 5.0%	12 15.0%	31 38.8%	5 6.3%	8 10.0%	2 2.5%	27 33.8%	7 8.8%	6 7.5%
	難病	8	2 25.0%	1 12.5%	1 12.5%	2 25.0%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%	2 25.0%	2 25.0%	0 0.0%	0 0.0%
	その他	15	9 60.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 13.3%	6 40.0%	0 0.0%	1 6.7%	0 0.0%	3 20.0%	4 26.7%	0 0.0%

II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

3. 学びにつながる情報・機会について

問12 さまざまな情報を、主にどこから入手していますか。（複数回答可）

- 学びにつながる情報の入手先では、「テレビ・ラジオ」（49.4%）の割合が最も高く、次いで「インターネット」（41.1%）、「新聞・雑誌・本」（26.8%）となっています。
- 性別にみると、「女性」では「市町村の発行する広報紙、ポスター、チラシなど」（18.7%）の割合が「男性」と比べて高くなっています。
- 年齢別にみると、「30代」までは「インターネット」の割合が最も高くなっていますが、「40代」からは「テレビ・ラジオ」の割合が最も高くなっています。
- 居住地別にみると、どの居住地も「テレビ・ラジオ」及び「インターネット」の割合が高くなっています。
- 障がい種類別にみると、どの種別も「テレビ・ラジオ」及び「インターネット」の割合が高くなっていますが、「精神障がい」では「新聞・雑誌・本」（40.5%）の割合が他と比べて高くなっています。



() 内は実数

【情報入手先 その他】

- ◆ 家族、学校、友人 ◆ 福祉サービス、事務所など ◆ 自ら問い合わせをする
- ◆ You Tube の動画サービス、スマホ

II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

(上段：人 下段：%)

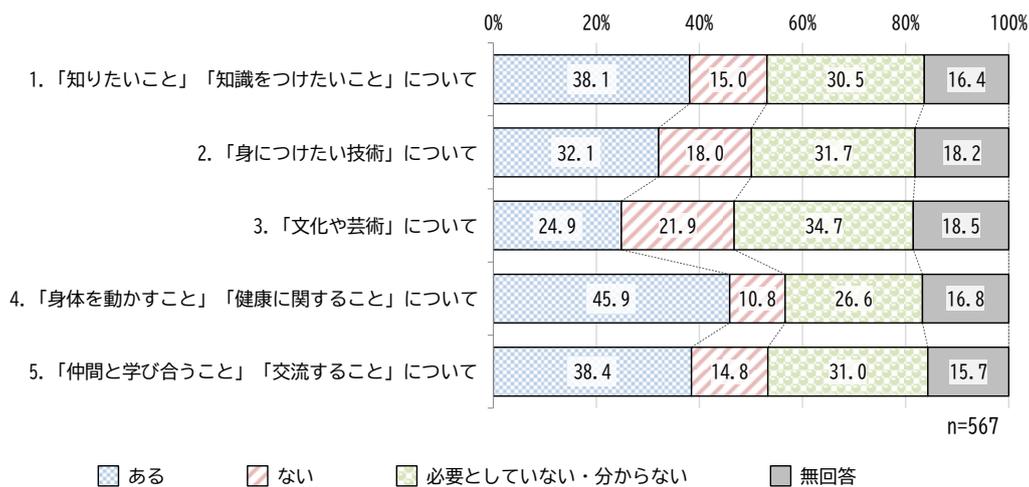
		標本数(人)	新聞・雑誌・本	テレビ・ラジオ	インターネット	市町村の発行する広報紙、ポスター、チラシなど	相談支援機関・福祉センターなどが発行する広報紙、ポスター、チラシなど	地域の回覧板や掲示板	その他	特になし	無回答
全体(単純集計)		567	152 26.8%	280 49.4%	233 41.1%	72 12.7%	70 12.3%	46 8.1%	25 4.4%	56 9.9%	68 12.0%
性別	男性	340	86 25.3%	173 50.9%	140 41.2%	30 8.8%	40 11.8%	21 6.2%	12 3.5%	35 10.3%	35 10.3%
	女性	203	59 29.1%	98 48.3%	85 41.9%	38 18.7%	27 13.3%	23 11.3%	10 4.9%	20 9.9%	26 12.8%
	その他	2	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
	該当しない	6	3 50.0%	3 50.0%	5 83.3%	2 33.3%	0 0.0%	1 16.7%	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%
	10代	149	26 17.4%	68 45.6%	89 59.7%	9 6.0%	11 7.4%	8 5.4%	7 4.7%	20 13.4%	12 8.1%
20代	94	21 22.3%	38 40.4%	60 63.8%	10 10.6%	14 14.9%	4 4.3%	4 4.3%	8 8.5%	8 8.5%	
		21 36.2%	23 39.7%	31 53.4%	13 22.4%	10 17.2%	6 10.3%	5 8.6%	5 8.6%	5 8.6%	
40代	83	32 38.6%	48 57.8%	27 32.5%	13 15.7%	17 20.5%	9 10.8%	4 4.8%	9 10.8%	8 9.6%	
		25 30.9%	46 56.8%	14 17.3%	10 12.3%	4 4.9%	3 3.7%	1 1.2%	8 9.9%	15 18.5%	
50代	81	22 26.5%	51 61.4%	11 13.3%	14 16.9%	11 13.3%	14 16.9%	1 1.2%	5 6.0%	14 16.9%	
		19 27.9%	27 39.7%	48 70.6%	8 11.8%	9 13.2%	8 11.8%	7 10.3%	5 7.4%	5 7.4%	
別府市	36	10 27.8%	13 36.1%	23 63.9%	7 19.4%	6 16.7%	3 8.3%	2 5.6%	4 11.1%	3 8.3%	
		55 27.1%	103 50.7%	74 36.5%	23 11.3%	22 10.8%	12 5.9%	5 2.5%	26 12.8%	31 15.3%	
中津教育事務所管内	203	29 21.3%	74 54.4%	40 29.4%	20 14.7%	16 11.8%	11 8.1%	5 3.7%	14 10.3%	14 10.3%	
		10 33.3%	14 46.7%	11 36.7%	1 3.3%	1 3.3%	1 3.3%	1 3.3%	3 10.0%	5 16.7%	
大分教育事務所管内(大分市除く)	30	14 35.0%	27 67.5%	14 35.0%	7 17.5%	7 17.5%	5 12.5%	2 5.0%	2 5.0%	3 7.5%	
		4 22.2%	5 27.8%	12 66.7%	1 5.6%	2 11.1%	3 16.7%	0 0.0%	1 5.6%	2 11.1%	
佐伯教育事務所管内	40	8 38.1%	11 52.4%	8 38.1%	2 9.5%	4 19.0%	2 9.5%	2 9.5%	1 4.8%	1 4.8%	
		0 0.0%	5 55.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 11.1%	0 0.0%	1 11.1%	2 22.2%	0 0.0%	
身体障がい(聴覚)	6	1 16.7%	4 66.7%	3 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	1 16.7%	
		12 30.0%	15 37.5%	16 40.0%	7 17.5%	6 15.0%	1 2.5%	5 12.5%	6 15.0%	4 10.0%	
身体障がい(肢体不自由)	40	4 19.0%	7 33.3%	7 33.3%	3 14.3%	4 19.0%	2 9.5%	0 0.0%	3 14.3%	3 14.3%	
		48 17.5%	130 47.3%	103 37.5%	18 6.5%	25 9.1%	10 3.6%	14 5.1%	38 13.8%	35 12.7%	
知的障がい	275	62 40.5%	84 54.9%	65 42.5%	34 22.2%	25 16.3%	21 13.7%	5 3.3%	10 6.5%	9 5.9%	
		29 30.5%	42 44.2%	56 58.9%	14 14.7%	11 11.6%	7 7.4%	7 7.4%	14 14.7%	6 6.3%	
発達障がい	95	1 11.1%	3 33.3%	5 55.6%	2 22.2%	2 22.2%	1 11.1%	0 0.0%	2 22.2%	0 0.0%	
		5 27.8%	8 44.4%	8 44.4%	2 11.1%	3 16.7%	1 5.6%	1 5.6%	4 22.2%	0 0.0%	
難病	9	1 11.1%	3 33.3%	5 55.6%	2 22.2%	2 22.2%	1 11.1%	0 0.0%	2 22.2%	0 0.0%	
		5 27.8%	8 44.4%	8 44.4%	2 11.1%	3 16.7%	1 5.6%	1 5.6%	4 22.2%	0 0.0%	
その他	18	5 27.8%	8 44.4%	8 44.4%	2 11.1%	3 16.7%	1 5.6%	1 5.6%	4 22.2%	0 0.0%	

II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

問13 次のようなことを学びたいと思った時、その情報は身近にあると思いますか。

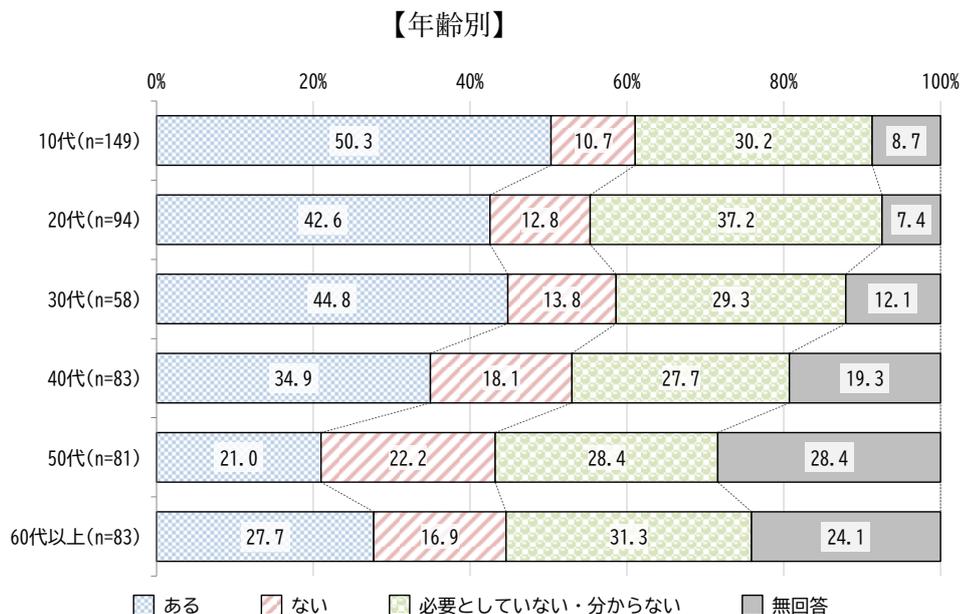
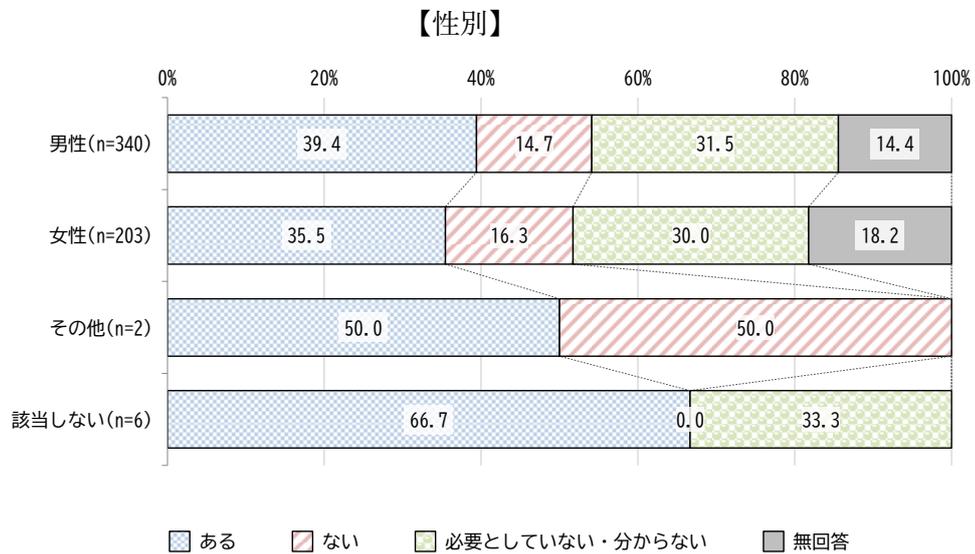
(1) 学習についての情報

●学習についての情報が身近にあるかについて、「ある」の割合が最も高いのは『「身体を動かすこと」「健康に関すること」について』（45.9%）、「ない」及び「必要としていない・分からない」の割合が最も高いのは『「文化や芸術に」について』となっています。



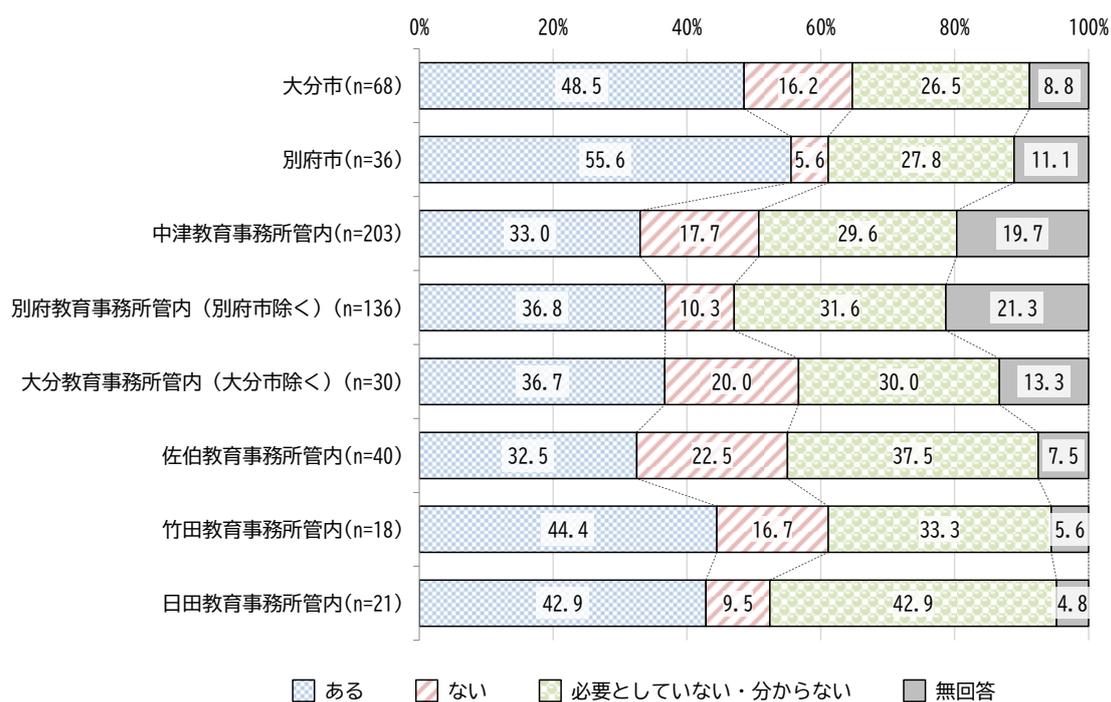
① 「知りたいこと」「知識をつけたいこと」について

- 「知りたいこと」「知識をつけたいこと」の情報が身近にあるかについて、性別では特に大きな差はみられませんでした。
- 年齢別にみると、「40代」までは「ある」の割合が最も高くなっていますが、「50代」以上では「必要としていない・分からない」の割合が最も高くなっています。
- 居住地別にみると、どの居住地も「ある」の割合が最も高くなっていますが、「佐伯教育事務所管内」では「必要としていない・分からない」（37.5%）の割合が最も高くなっています。
- 障がい種類別にみると、「身体障がい（視覚）」では「ある」（11.1%）の割合が他と比べて低く、「必要としていない・分からない」（66.7%）の割合が他と比べて高くなっています。

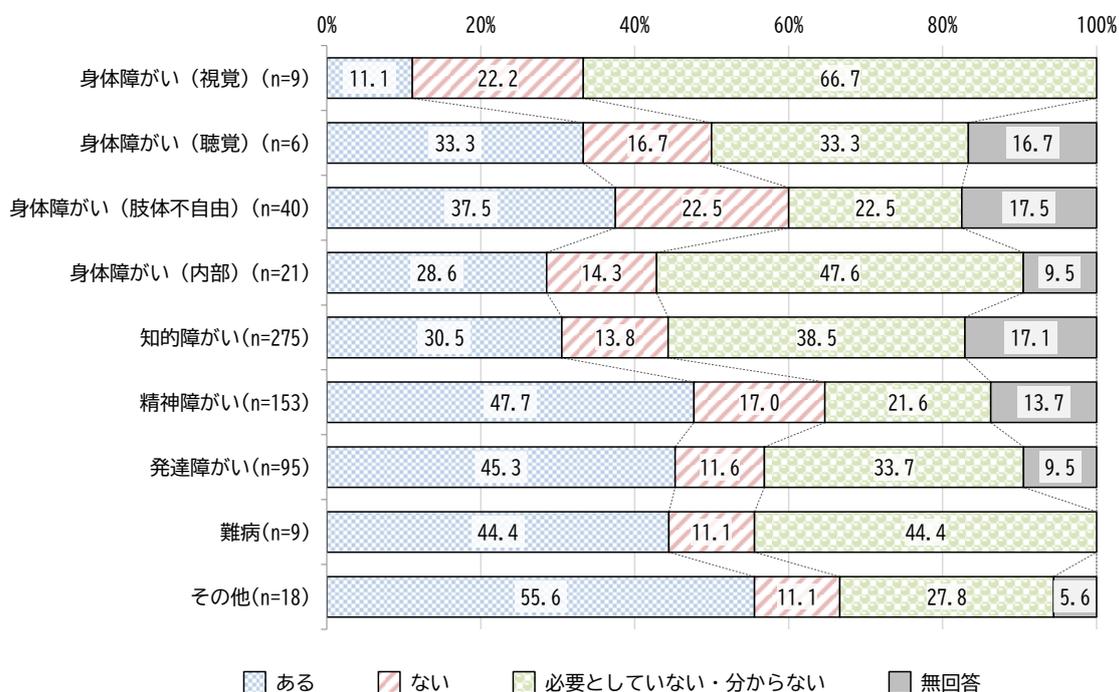


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

【居住地別】

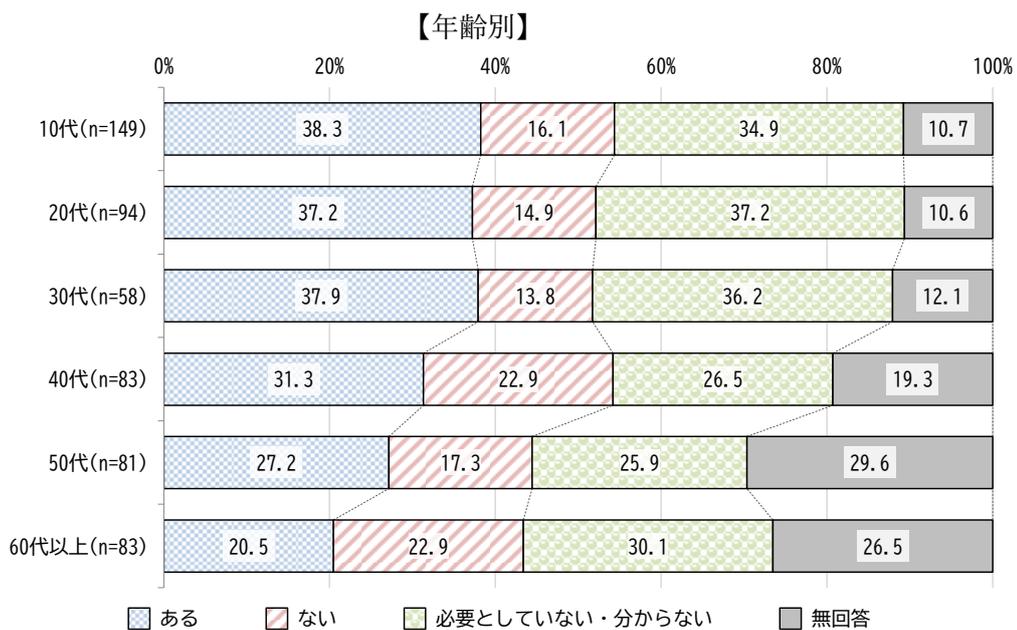
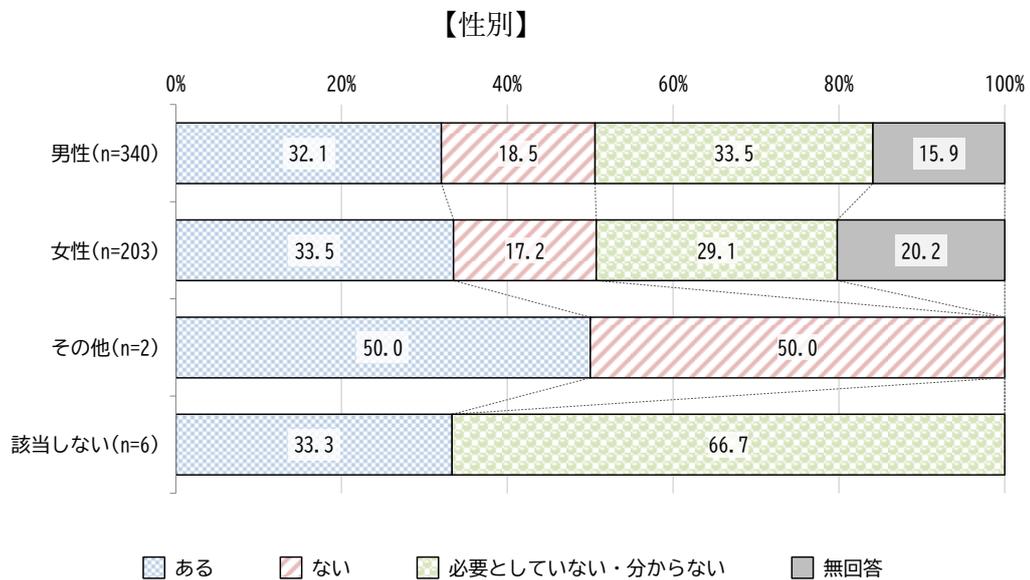


【障がい種類別】



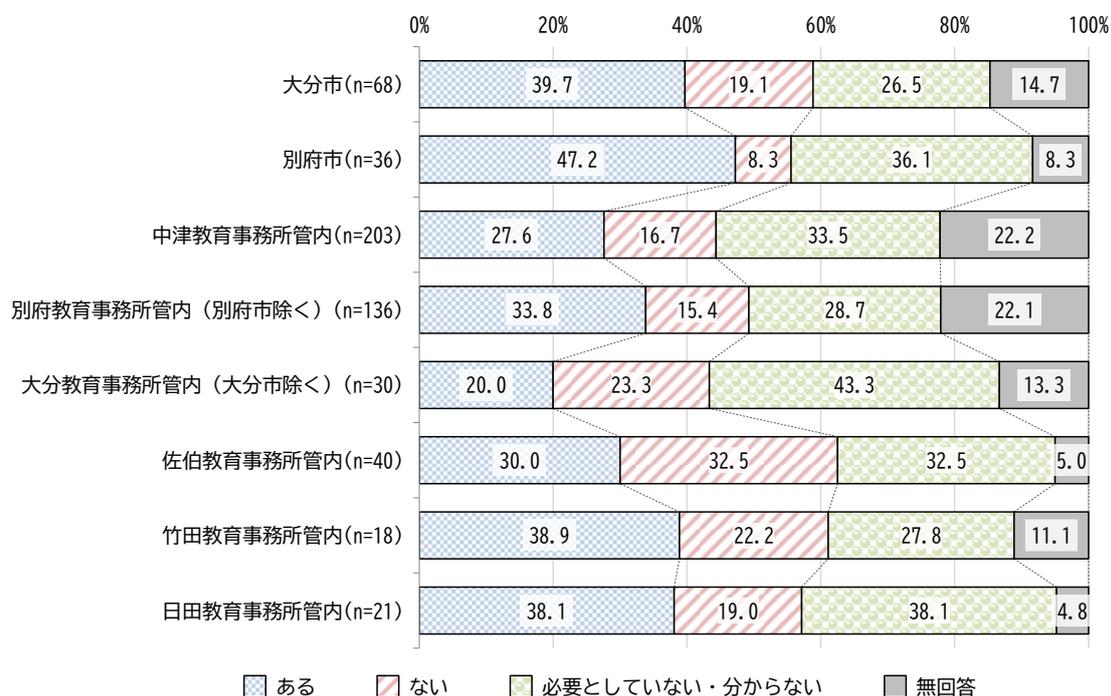
② 「身につけたい技術」について

- 「身につけたい技術」の情報が身近にあるかについて、性別では特に大きな差はみられませんでした。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるにつれ「ある」の割合が低くなっています。
- 居住地別にみると、「大分市」「別府市」「別府教育事務所管内（別府市除く）」「竹田教育事務所管内」「日田教育事務所管内」では「ある」の割合が最も高くなっていますが、それ以外では「必要としていない・分からない」の割合が最も高くなっています。
- 障がい種類別にみると、「身体障がい（視覚）」では「ある」（11.1％）の割合が他と比べて低く、「ない」（44.4％）の割合が他と比べて高くなっています。

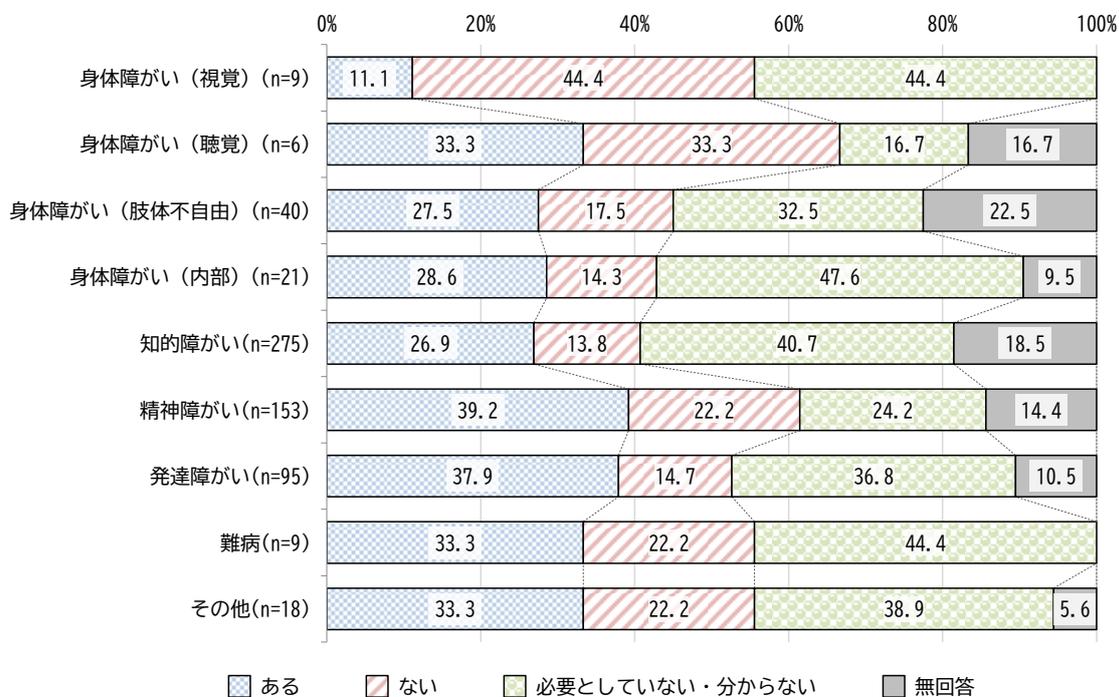


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

【居住地別】

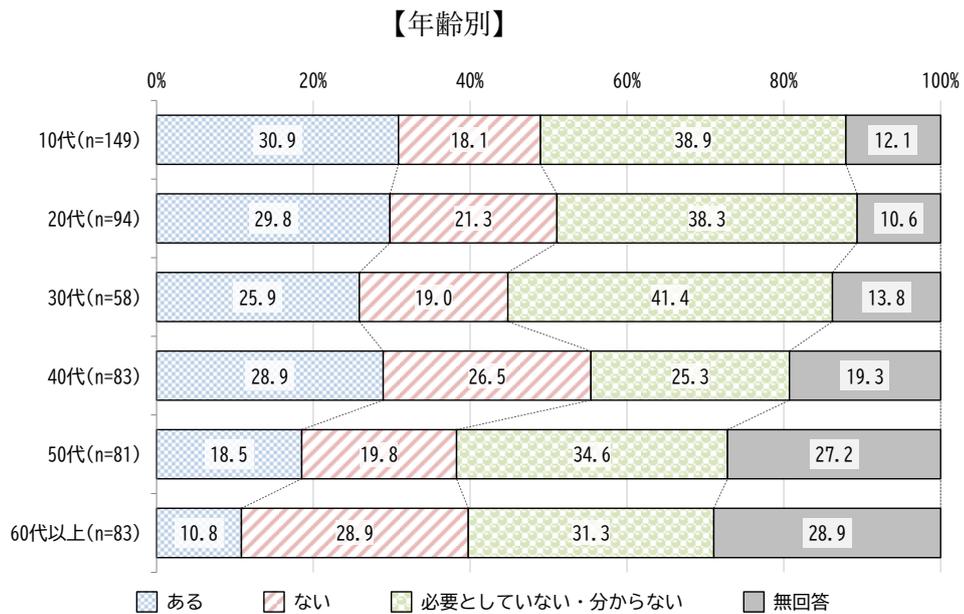
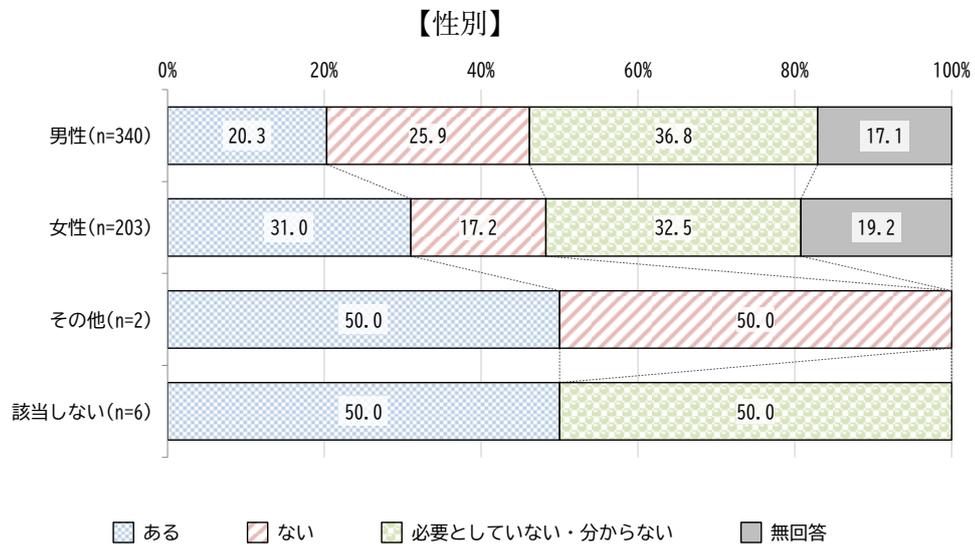


【障がい種類別】



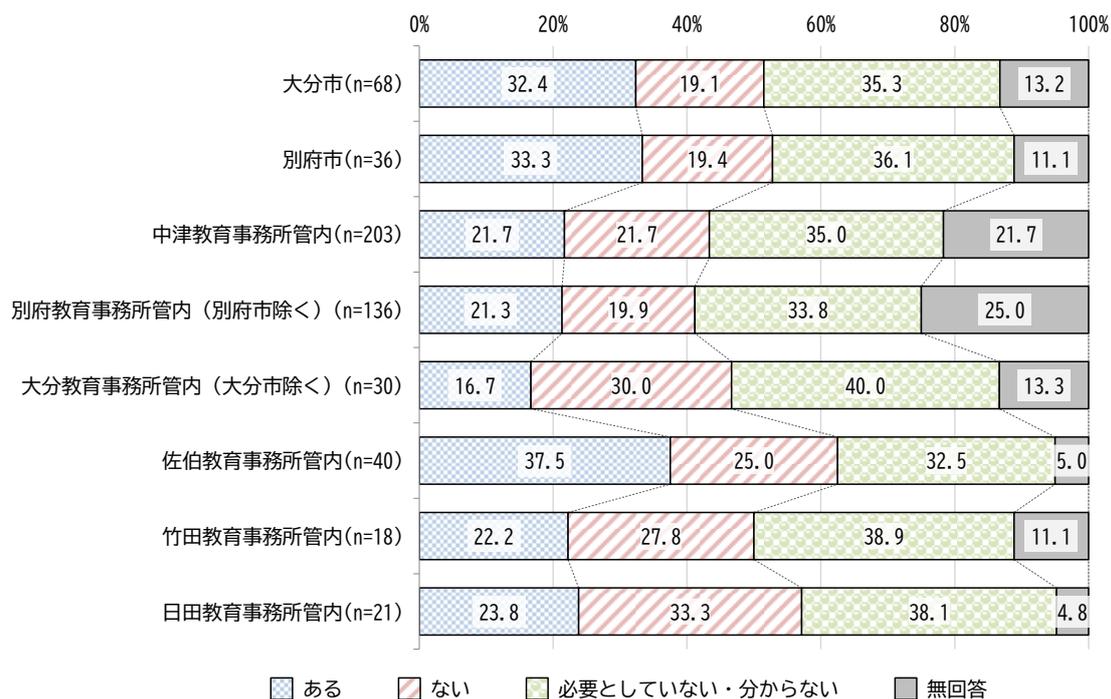
③ 「文化や芸術」について

- 「文化や芸術」の情報が身近にあるかについて、性別にみると、「女性」では「ある」（31.0％）の割合が男性より高くなっています。
- 年齢別にみると、「40代」では「ある」（28.9％）の割合が最も高くなっていますが、それ以外では「必要としていない・分からない」の割合が最も高くなっています。
- 居住地別にみると、どの居住地も「必要としていない・分からない」の割合が最も高くなっています。
- 障がい種類別にみると、どの種別でも「必要としていない・分からない」の割合が最も高くなっていますが、「身体障がい（聴覚）」では「ない」（50.0％）、「その他」では「ある」（33.3％）の割合が最も高くなっています。

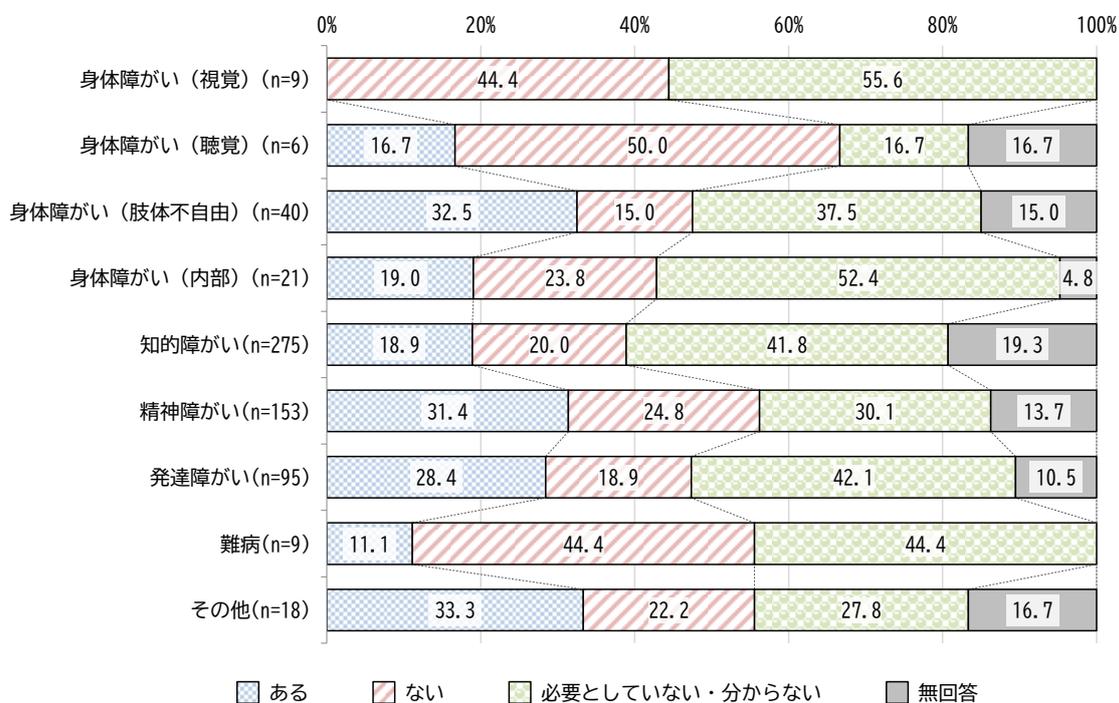


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

【居住地別】

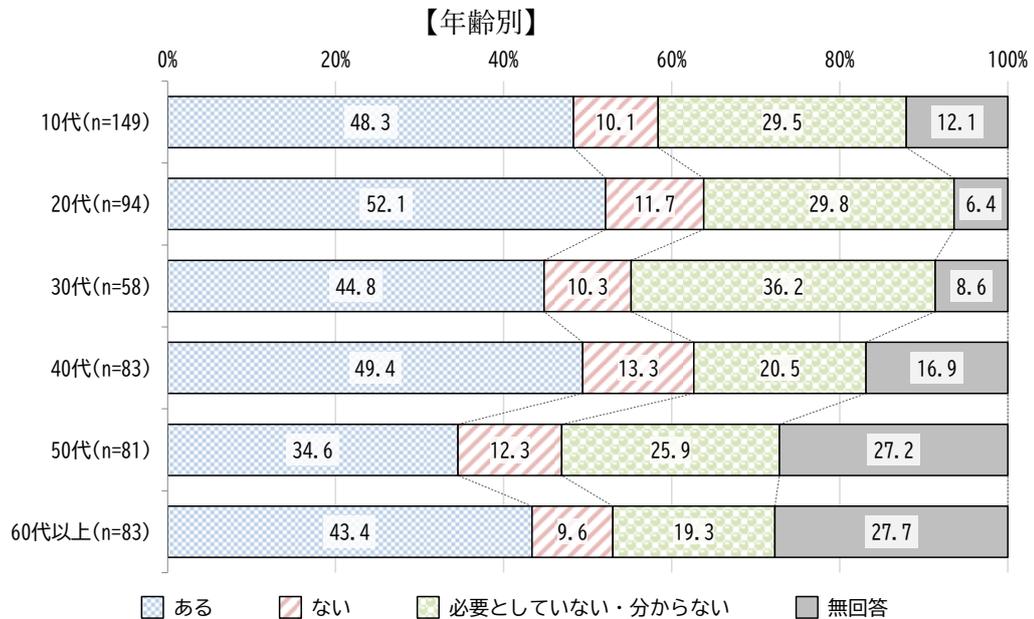
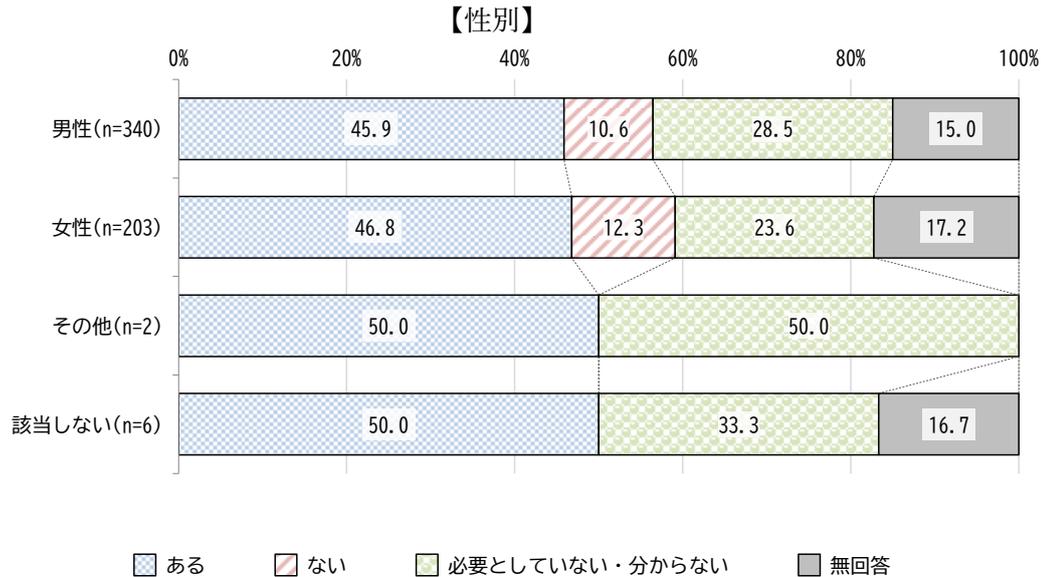


【障がい種別】



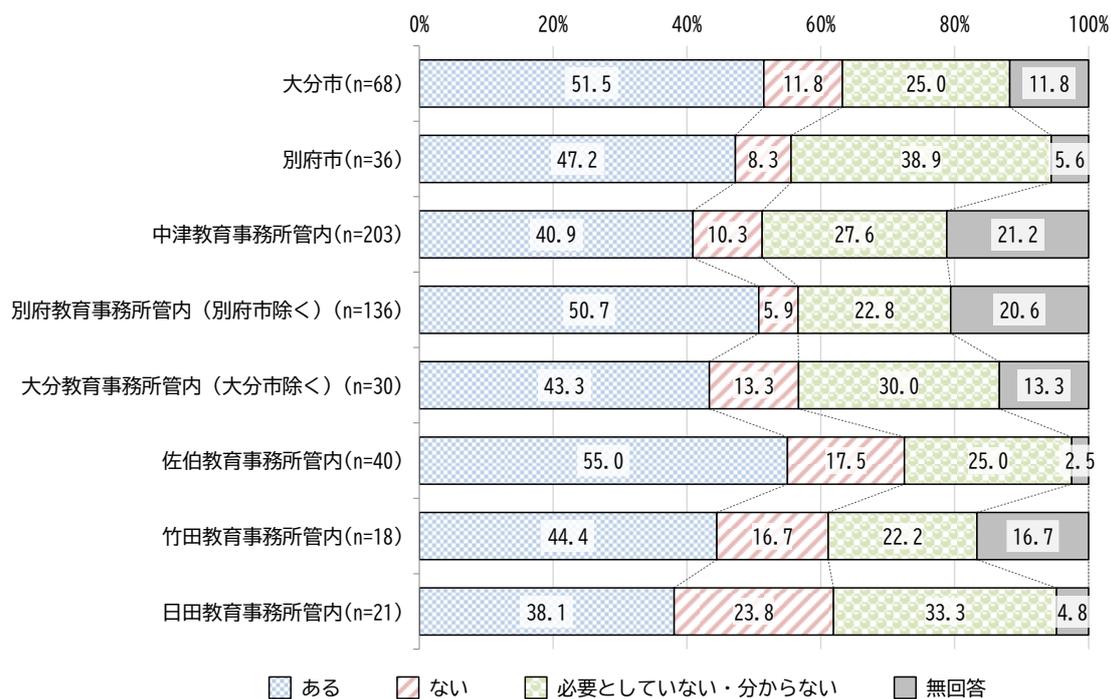
④ 「身体を動かすこと」「健康に関すること」について

- 「身体を動かすこと」「健康に関すること」の情報が身近にあるかについて、性別では特に大きな差はみられませんでした。
- 年齢別、居住地別にみると、「ある」の割合が最も高くなっています。
- 障がい種類別にみると、「身体障がい（視覚）」では「ある」（11.1％）の割合が他と比べて低く、「ない」（44.4％）の割合が他と比べて高くなっています。

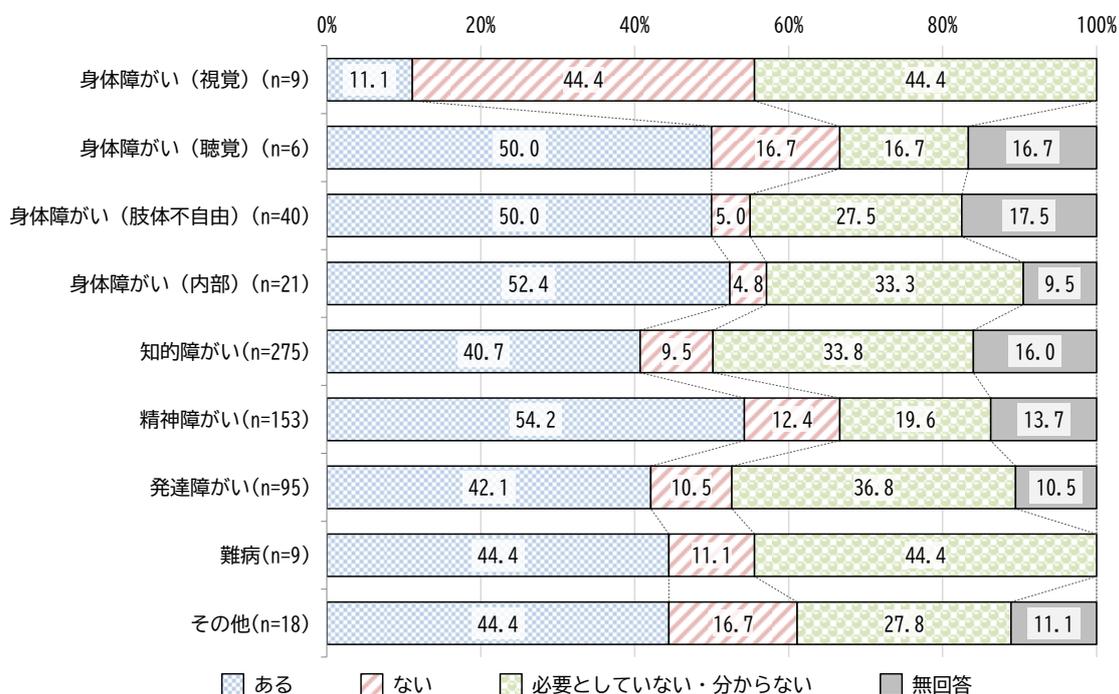


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

【居住地別】

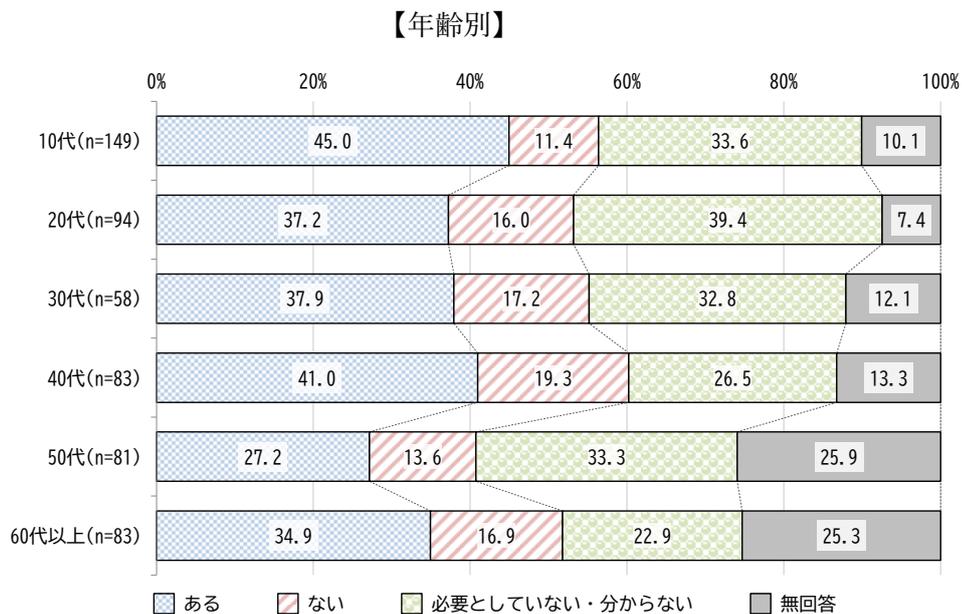
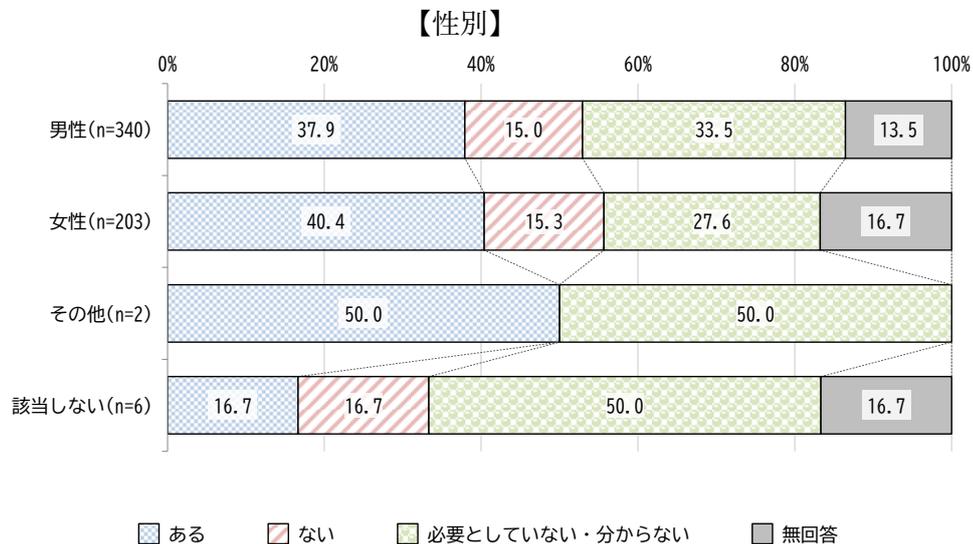


【障がい種類別】



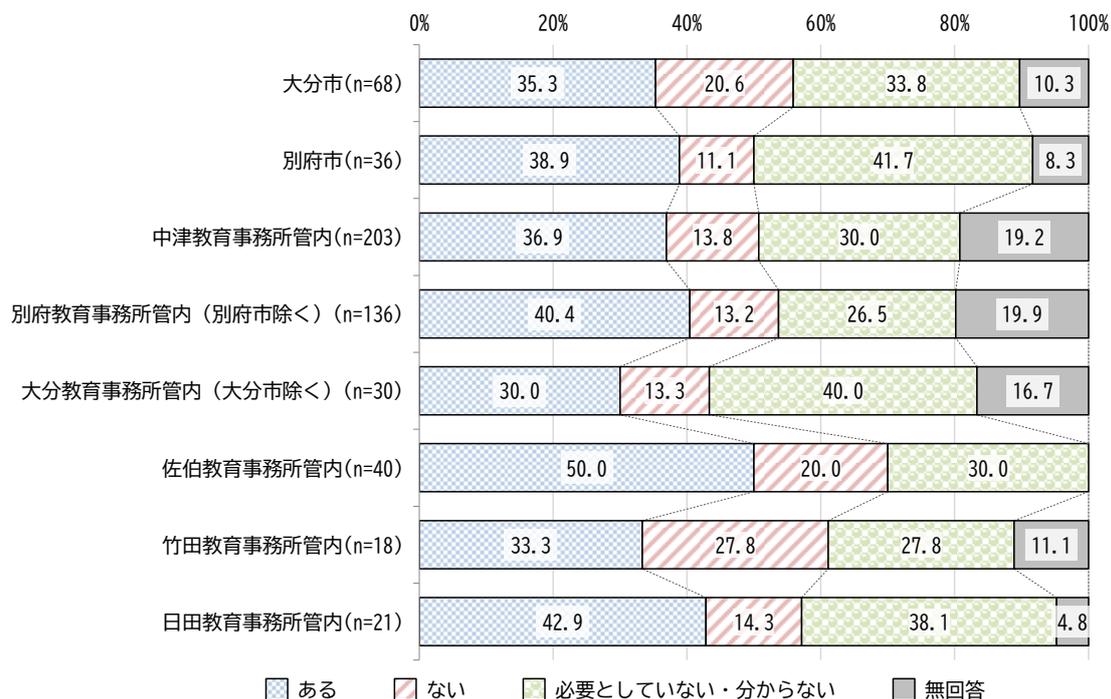
⑤ 「仲間と学び合うこと」「交流すること」について

- 「仲間と学び合うこと」「交流すること」の情報が身近にあるかについて、性別では特に大きな差はみられませんでした。
- 年齢別にみると、「20代」及び「50代」では「必要としていない・分からない」の割合が最も高くなっていますが、それ以外では「ある」の割合が最も高くなっています。
- 居住地別にみると、「別府市」及び「大分教育事務所管内（大分市除く）」では「必要としていない・分からない」の割合が最も高くなっていますが、それ以外では「ある」の割合が最も高くなっています。
- 障がい種類別にみると、「身体障がい（視覚）」では「ある」（11.1％）の割合が他と比べて低く、「ない」（44.4％）の割合が他と比べて高くなっています。

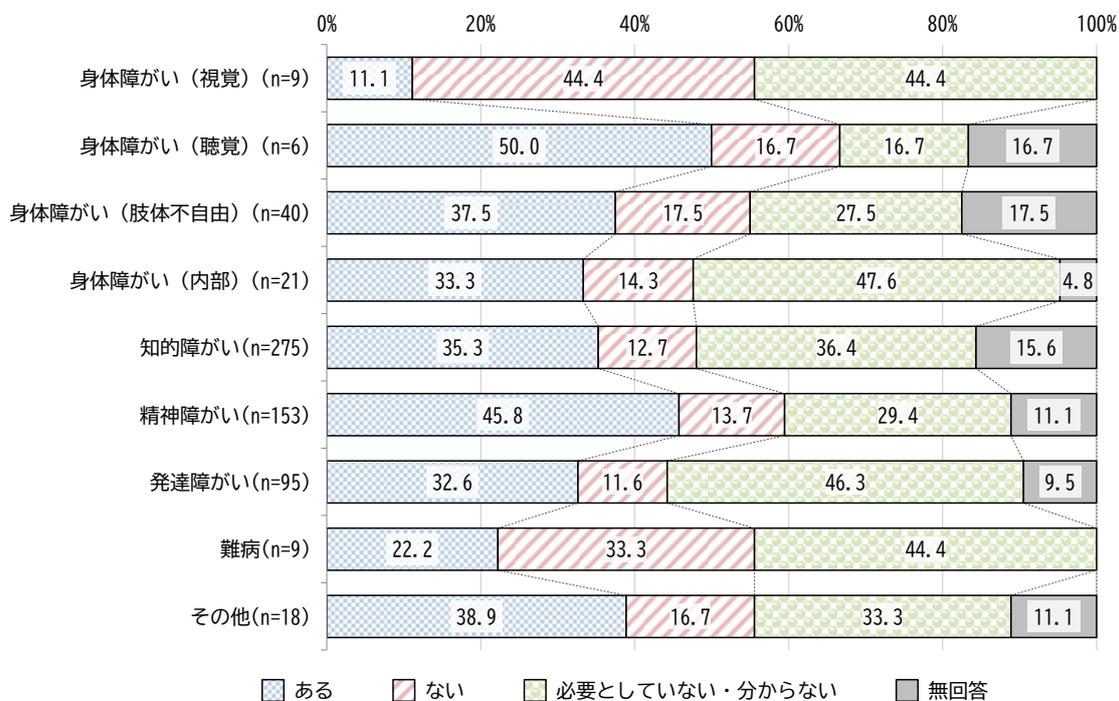


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

【居住地別】

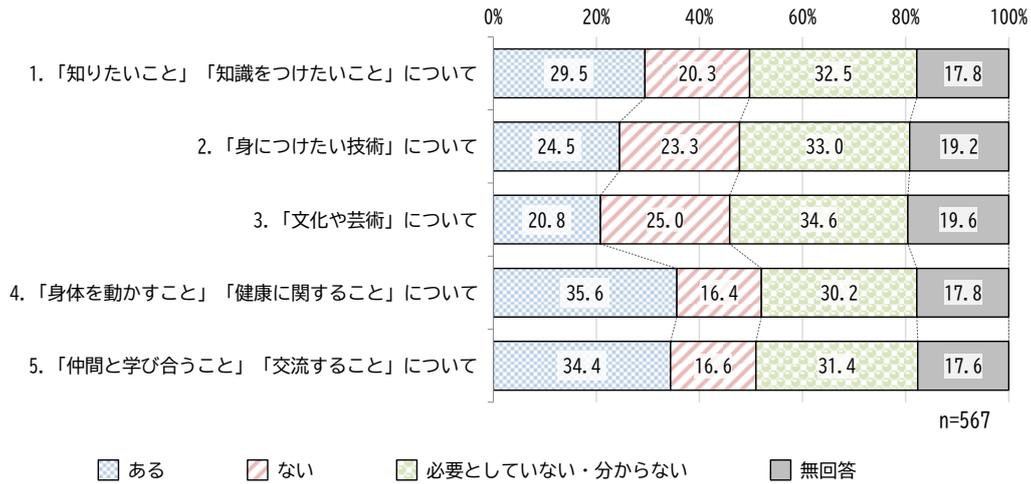


【障がい種類別】



(2) 学ぶ場や機会（プログラム・講座など）

●学ぶ場や機会が身近にあるかについて、「ある」の割合が最も高いのは『「身体を動かすこと」「健康に関すること」について』（35.6%）、「ない」及び「必要としていない・分からない」の割合が最も高いのは『「文化や芸術」について』となっています。

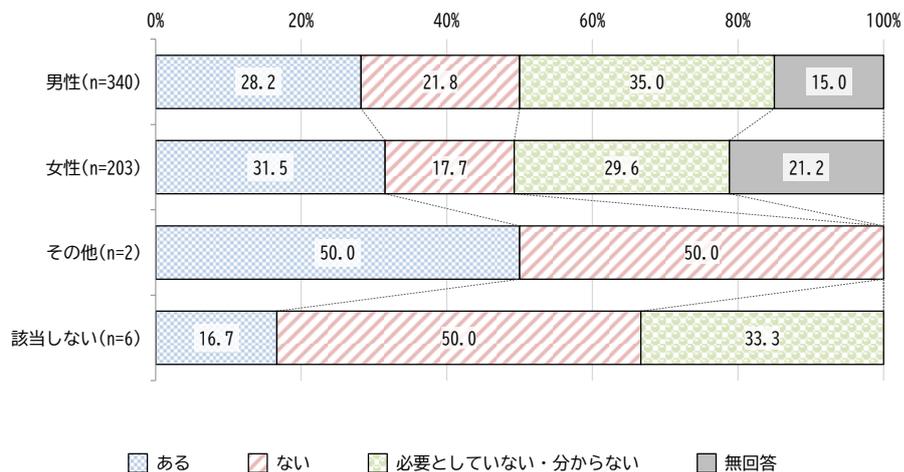


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

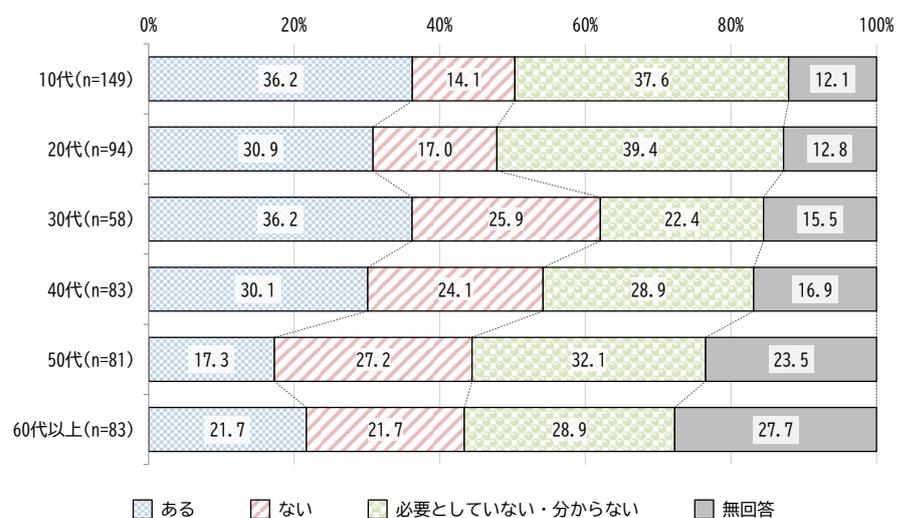
① 「知りたいこと」「知識をつけたいこと」について

- 「知りたいこと」「知識をつけたいこと」を学ぶ場や機会が身近にあるかについて、性別では特に大きな差はみられませんでした。
- 年齢別にみると、「30代」及び「40代」では「ある」の割合が最も高くなっていますが、それ以外では「必要としていない・分からない」の割合が最も高くなっています。
- 居住地別にみると、「大分市」「別府市」「別府教育事務所管内（別府市除く）」では「ある」の割合が最も高くなっていますが、それ以外では「必要としていない・分からない」の割合が最も高くなっています。
- 障がい種類別にみると、「身体障がい（視覚）」では「ある」（11.1％）の割合が他と比べて低く、「必要としていない・分からない」（55.6％）の割合が他と比べて高くなっています。

【性別】

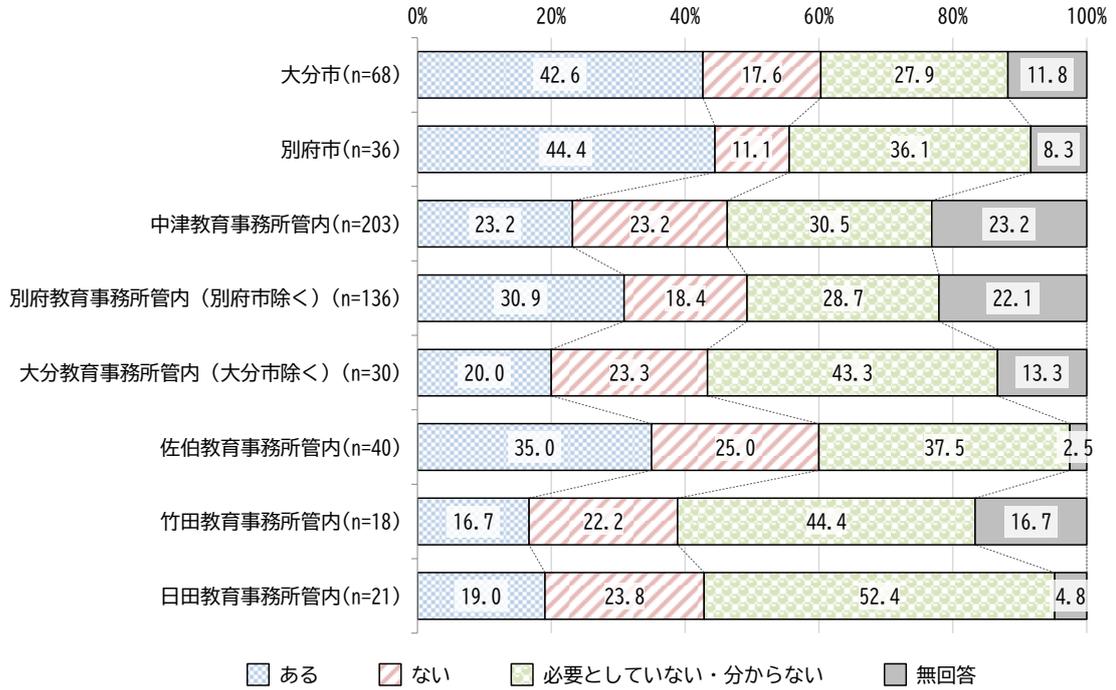


【年齢別】

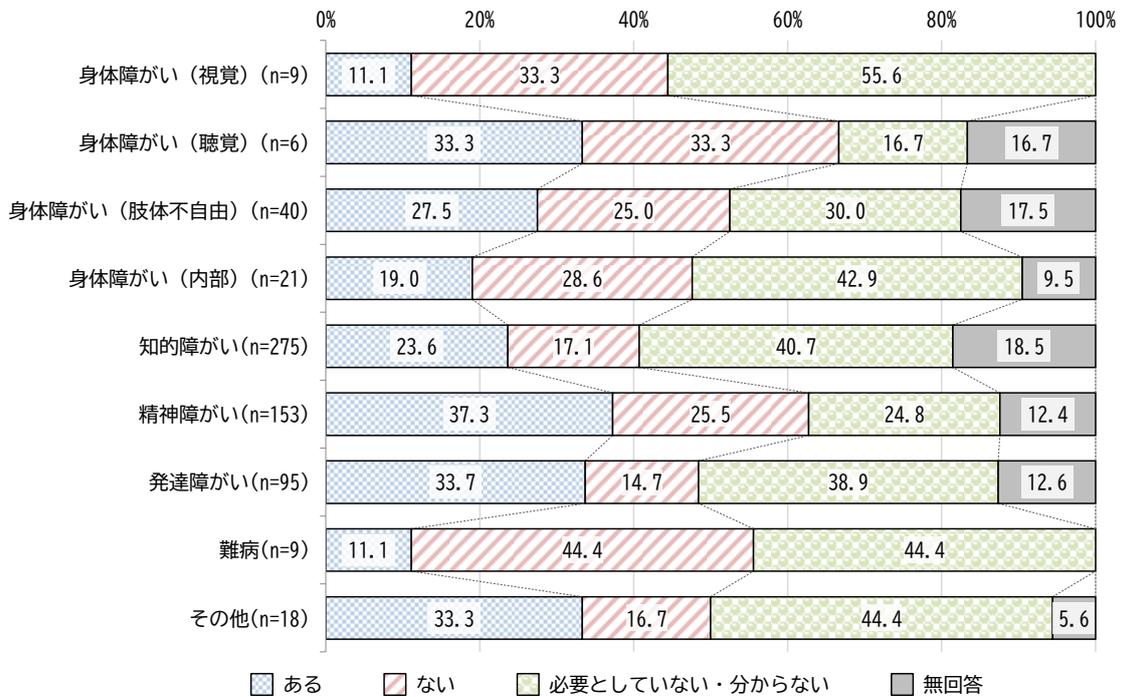


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

【居住地別】



【障がい種別】

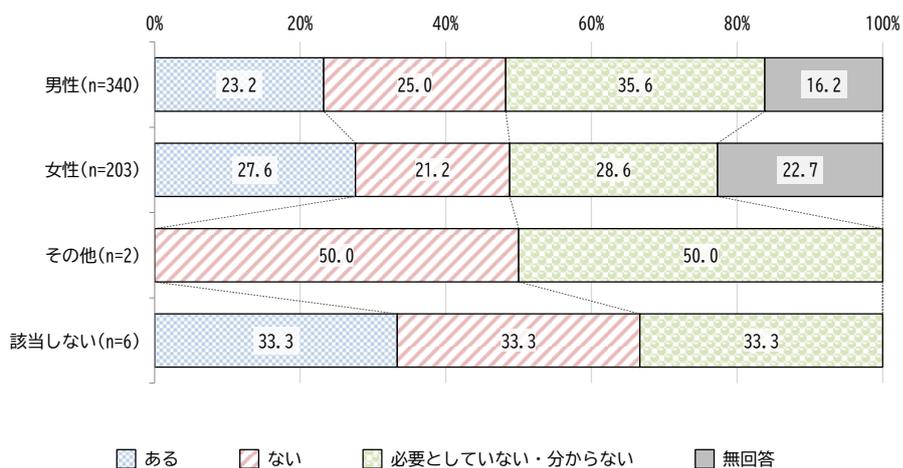


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

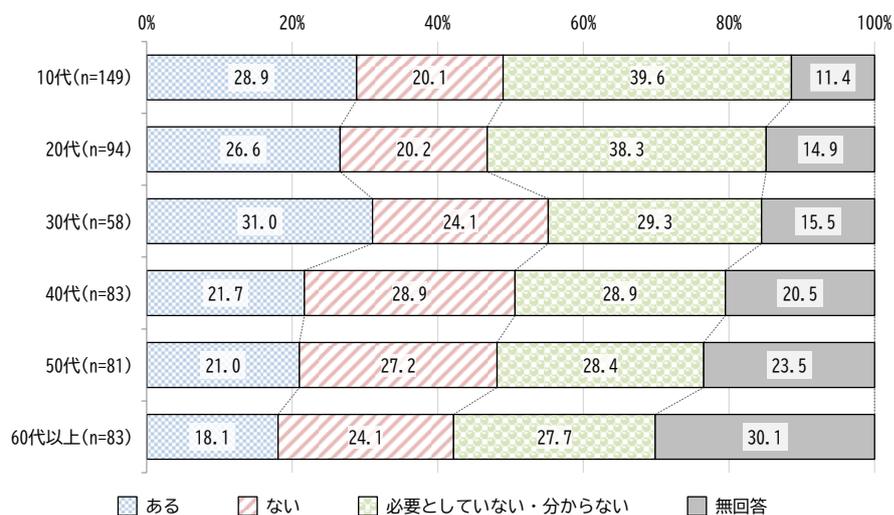
② 「身につけたい技術」について

- 「身につけたい技術」を学ぶ場や機会が身近にあるかについて、性別では特に大きな差はみられませんでした。
- 年齢別にみると、「30代」では「ある」（31.0％）の割合が最も高くなっていますが、それ以外の年代では「必要としていない・分からない」の割合が最も高くなっています。また、年齢があがるにつれ「必要としていない・分からない」の割合が低くなっています。
- 居住地別にみると、「大分市」「日田教育事務所管内」では「ある」の割合が最も高くなっていますが、それ以外では「必要としていない・分からない」の割合が最も高くなっています。
- 障がい種類別にみると、「身体障がい（視覚）」「身体障がい（聴覚）」では「ある」の割合が他と比べて低くなっています。

【性別】

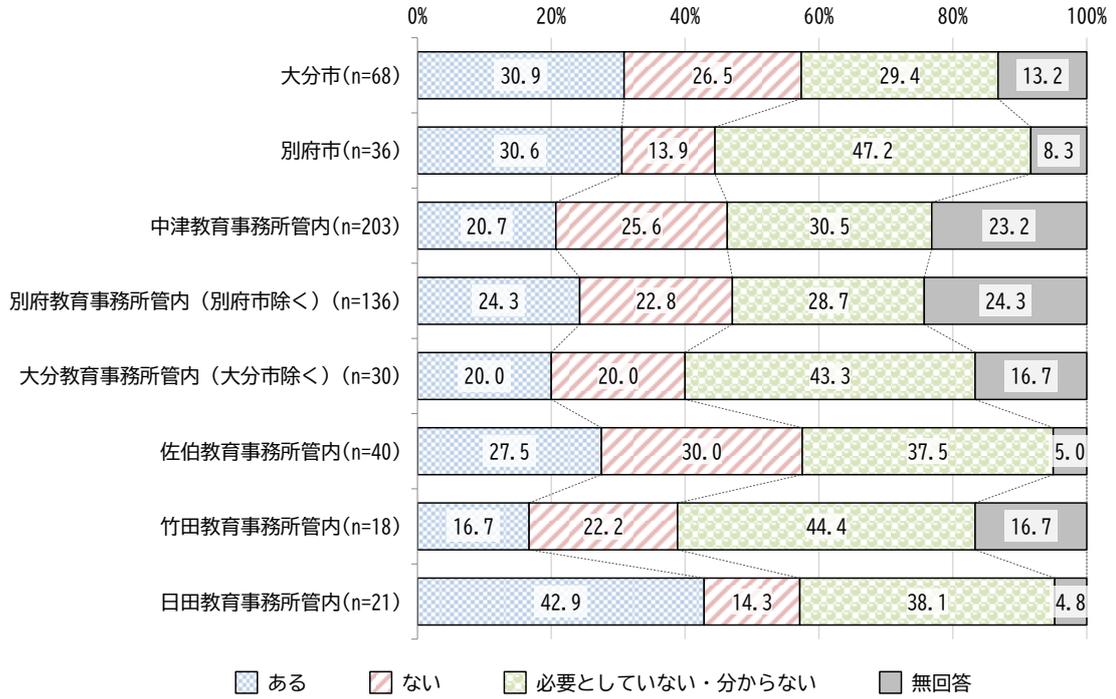


【年齢別】

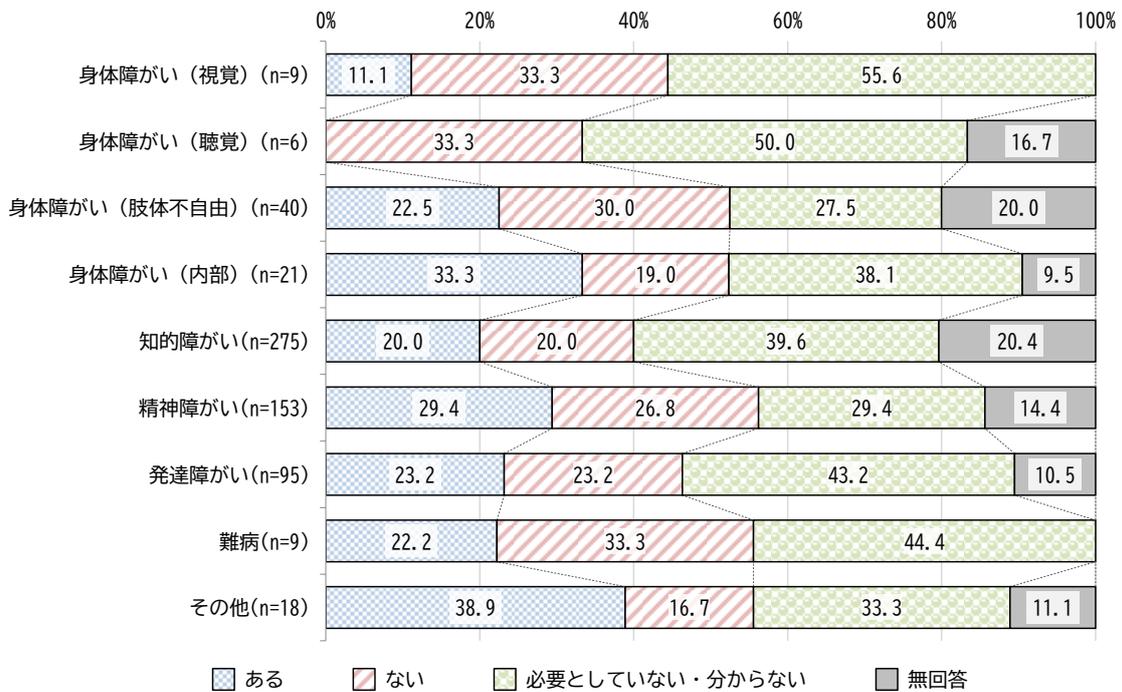


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

【居住地別】



【障がい種類別】

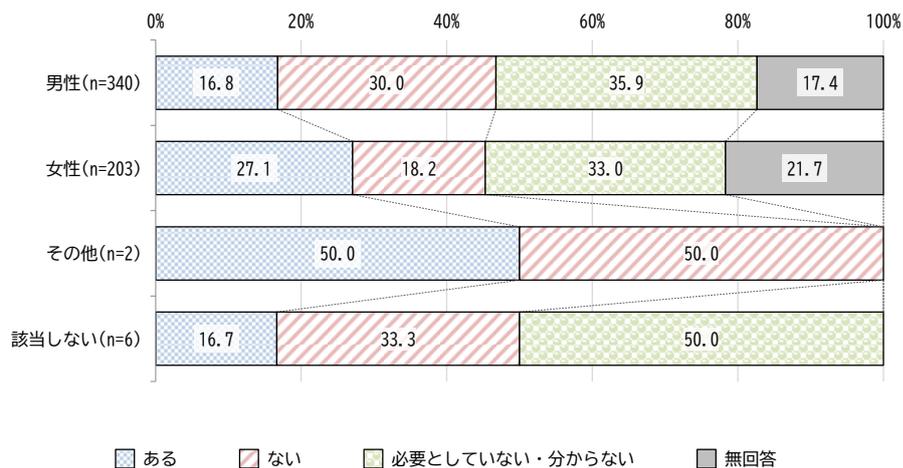


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

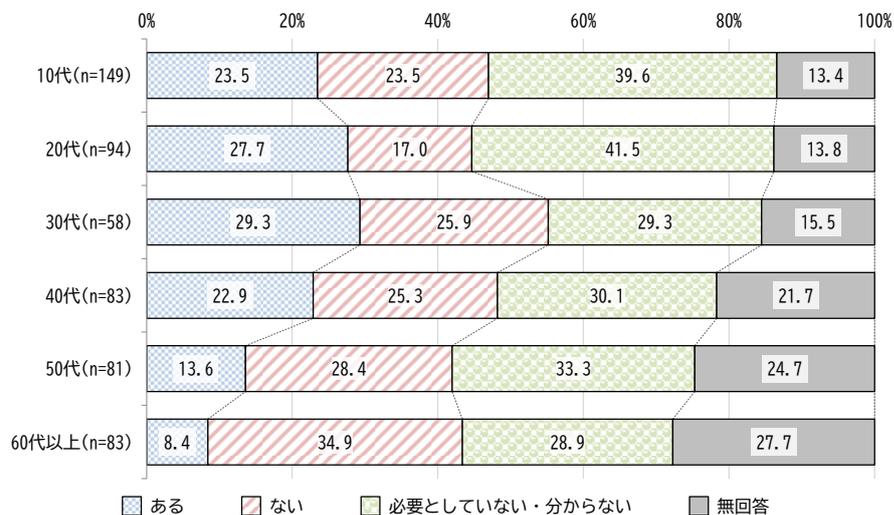
③ 「文化や芸術」について

- 「文化や芸術」を学ぶ場や機会が身近にあるかについて、性別にみると、「女性」では「ある」（27.1％）の割合が、「男性」では「ない」（30.0％）の割合がそれぞれと比べて高くなっています。
- 年齢別にみると、「50代」までは「必要としていない・分からない」の割合が最も高くなっていますが、「60代以上」では「ない」（34.9％）の割合が最も高くなっています。
- 居住地別にみると、どの居住地も「必要としていない・分からない」の割合が最も高くなっています。また、「佐伯教育事務所管内」では「いいえ」（37.5％）の割合が他と比べて高くなっています。
- 障がい種類別にみると、どの種別も「必要としていない・分からない」の割合が最も高くなっています。「身体障がい（聴覚）」及び「難病」では「ない」の割合が他と比べて高くなっています。

【性別】

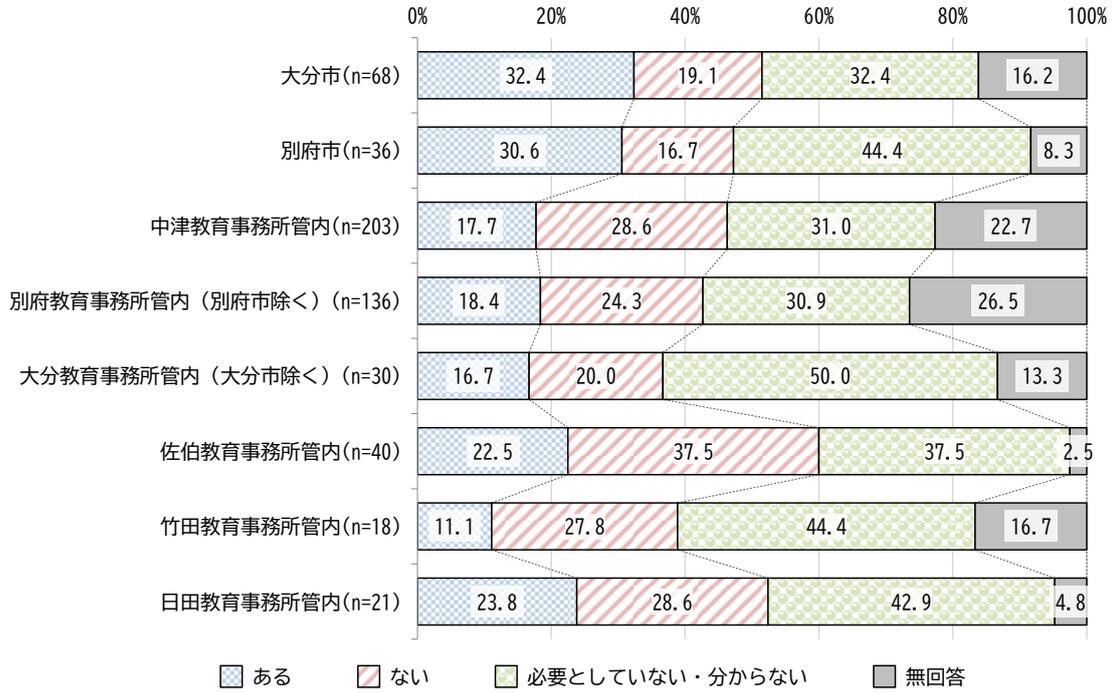


【年齢別】

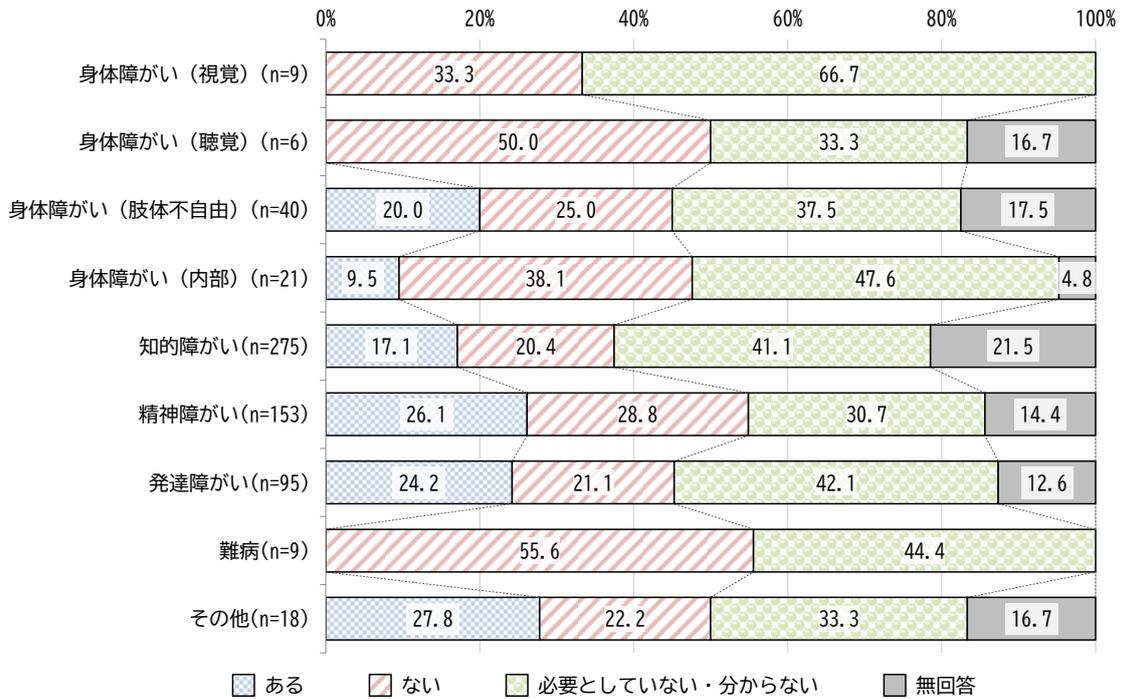


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

【居住地別】



【障がい種類別】

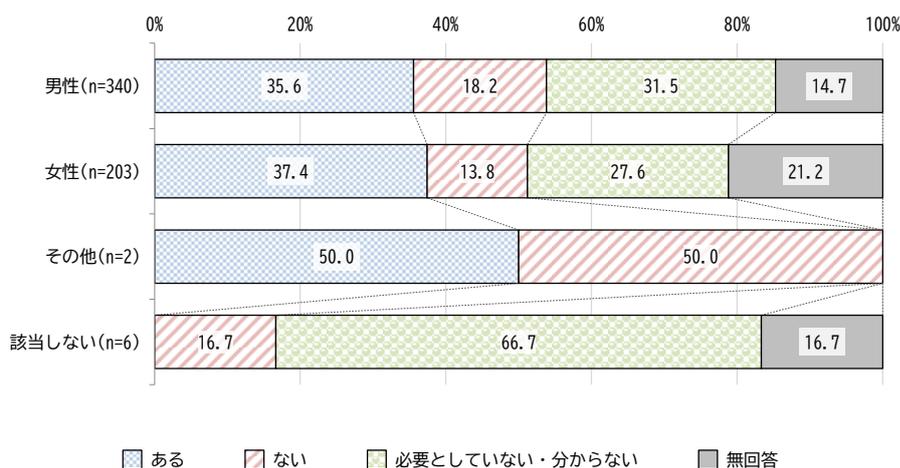


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

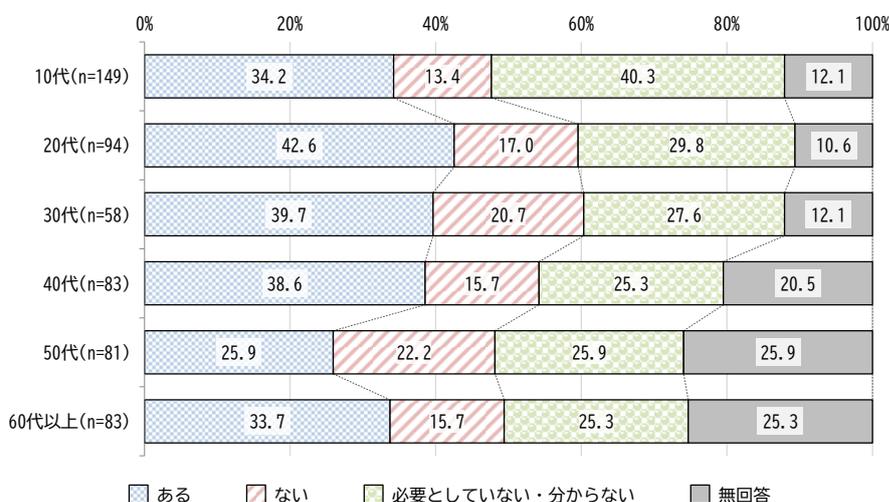
④ 「身体を動かすこと」「健康に関すること」について

- 「身体を動かすこと」「健康に関すること」を学ぶ場や機会が身近にあるかについて、性別では男性、女性では特に大きな差はみられませんでした。
- 年齢別にみると、「10代」では「必要としていない・分からない」（40.3%）の割合が最も高くなっていますが、それ以外では「ある」の割合が最も高くなっています。
- 居住地別にみると、「別府市」「大分教育事務所管内（大分市除く）」「竹田教育事務所管内」では「必要としていない・分からない」の割合が最も高くなっていますが、それ以外では「ある」の割合が最も高くなっています。
- 障がい種類別にみると、「身体障がい（聴覚）」「身体障がい（内部）」「精神障がい」「その他」では「ある」の割合が他と比べて高くなっています。また、「身体障がい（視覚）」「難病」では「必要としていない・分からない」の割合が他と比べて5割を超えて高くなっています。

【性別】

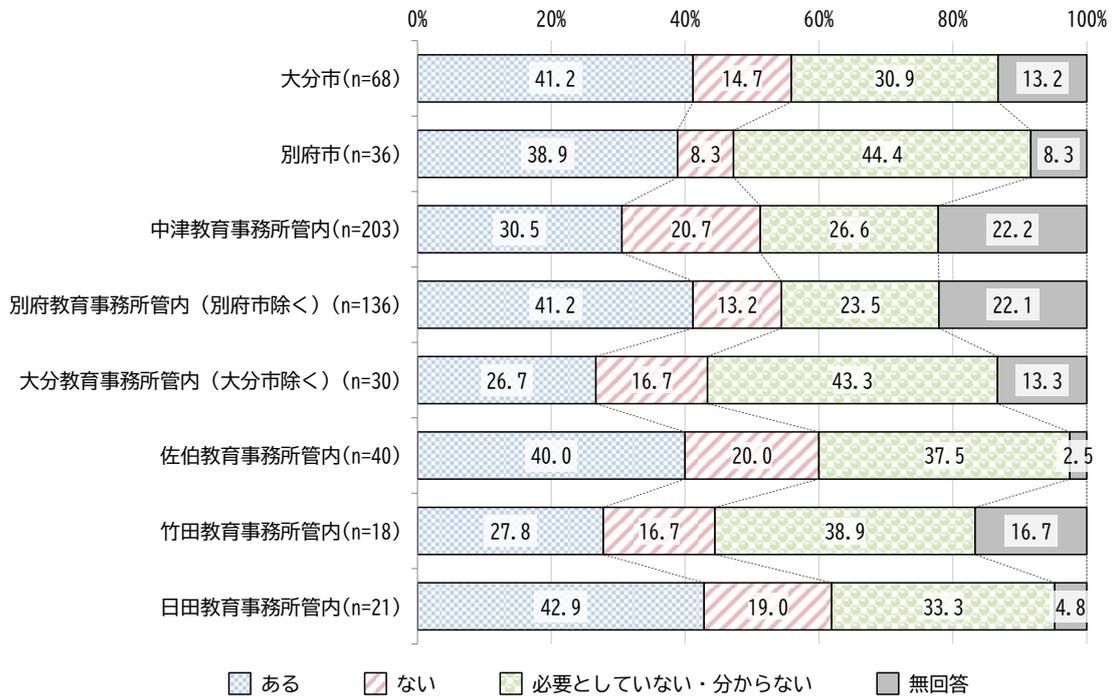


【年齢別】

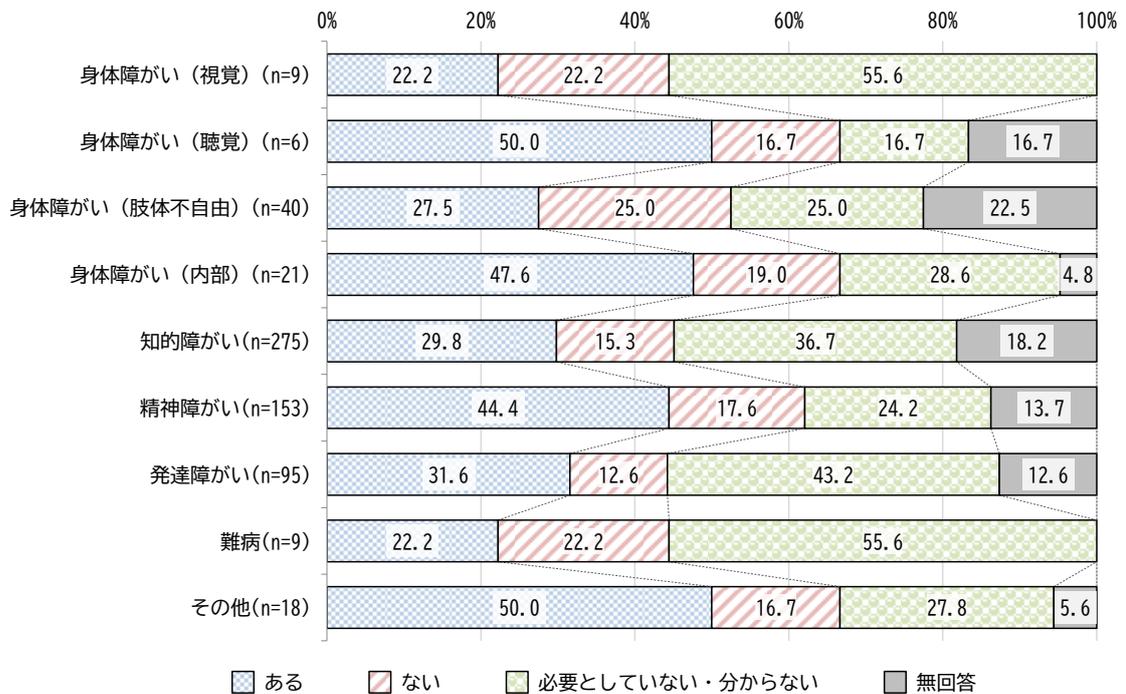


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

【居住地別】



【障がい種類別】

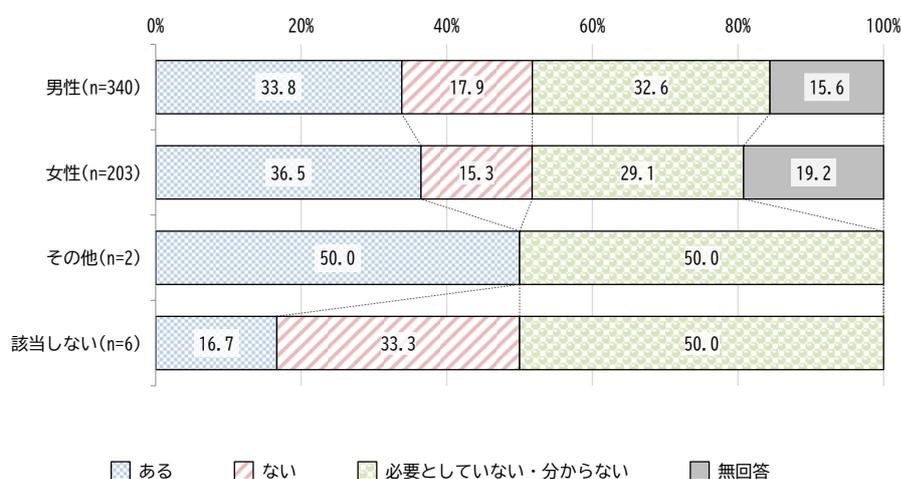


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

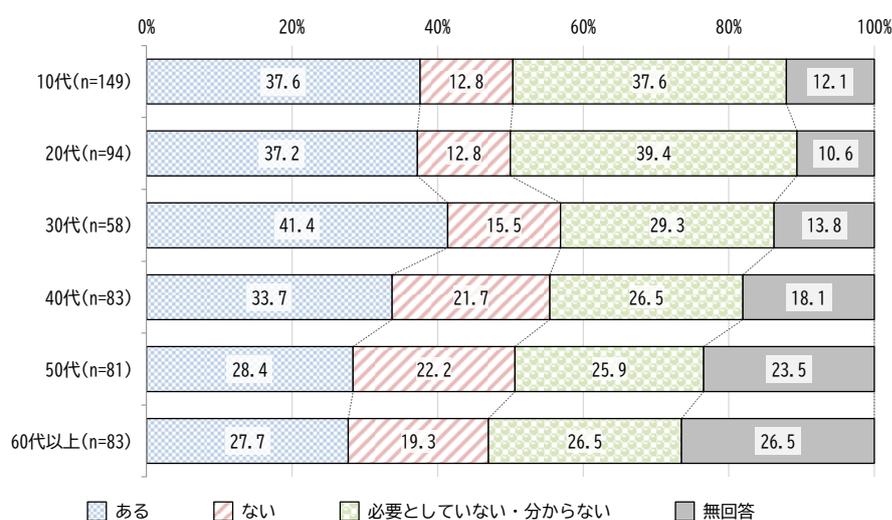
⑤ 「仲間と学び合うこと」「交流すること」について

- 「仲間と学び合うこと」「交流すること」を学ぶ場や機会が身近にあるかについて、性別では男性、女性では特に大きな差はみられませんでした。
- 年齢別にみると、年齢があがるにつれ「ある」の割合が低くなっています。
- 居住地別にみると、「中津教育事務所管内」「別府教育事務所管内（別府市除く）」「日田教育事務所管内」では「ある」の割合が最も高くなっていますが、それ以外では「必要としていない・分からない」の割合が最も高くなっています。
- 障がい種類別にみると、「身体障がい（視覚）」及び「難病」では「ある」（11.1％）の割合が他と比べて低く、「必要としていない・分からない」の割合が他と比べて高くなっています。

【性別】

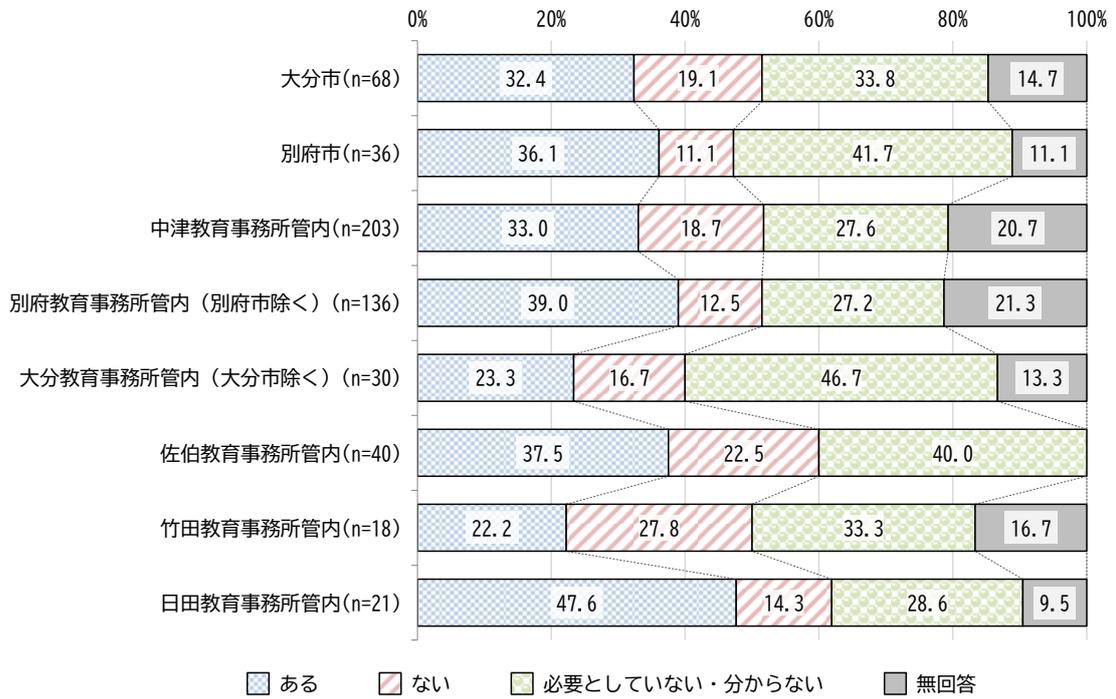


【年齢別】

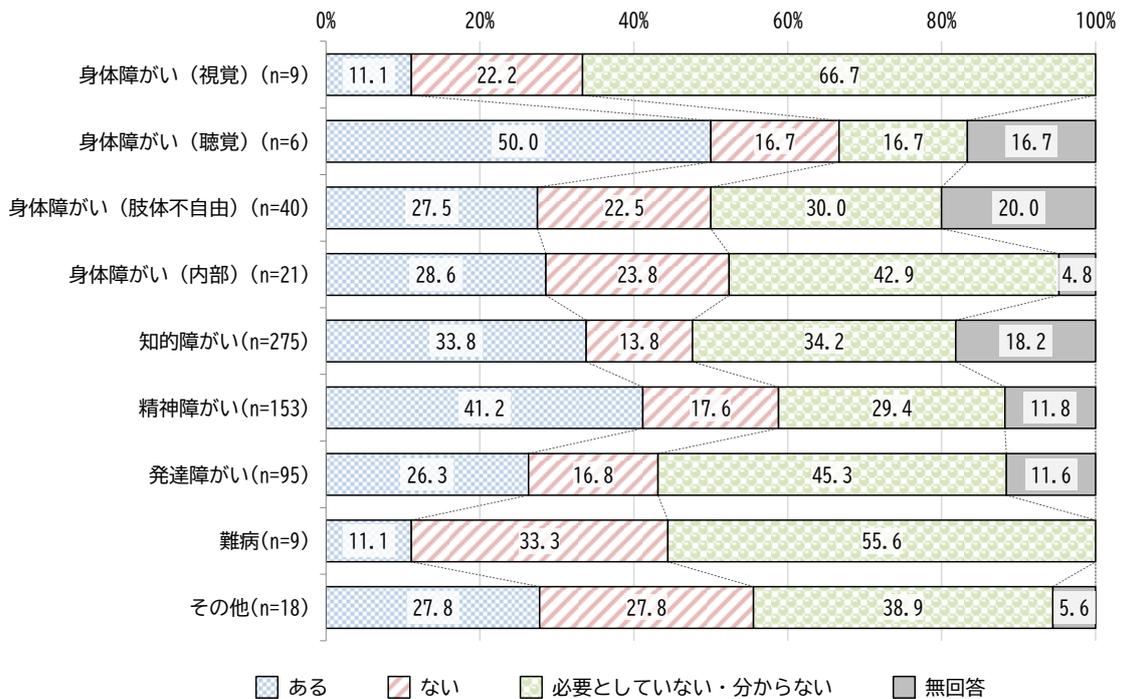


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

【居住地別】



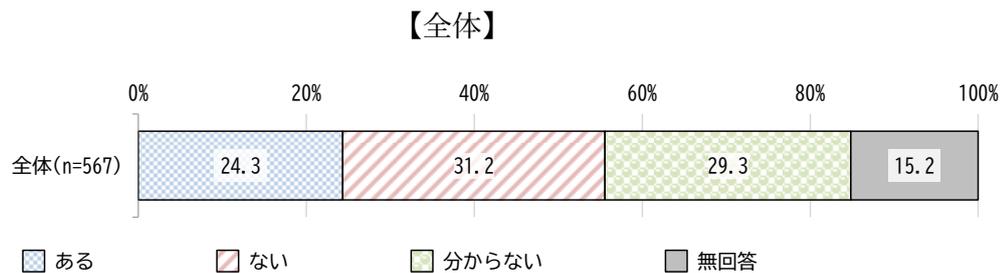
【障がい種類別】



II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

問14 住んでいる地域の中で、「学び」の場所に限らず、学校や職場、病院などの医療・福祉関係施設以外に気軽に出かけている場所がありますか。

- 学校や職場や医療・福祉関係施設以外に気軽に出かける先があるかでは、「ある」(24.3%)、「ない」(31.2%)、「分からない」(29.3%)となっています。
- 性別にみると、男性、女性では特に大きな差はみられませんでした。
- 年齢別にみると、「40代」では「ある」(30.1%)の割合が、「30代」及び「50代」以上では「ない」の割合が最も高くなっていますが、それ以外では「分からない」の割合が最も高くなっています。
- 居住地別にみると、「別府市」及び「竹田教育事務所管内」では「ある」の割合が、「中津教育事務所管内」「別府教育事務所管内（別府市除く）」では「ない」の割合が、それ以外では「分からない」の割合が最も高くなっています。
- 障がい種類別にみると、「その他」では「ある」(38.9%)の割合が、「発達障がい」及び「難病」では「分からない」の割合が、それ以外では「ない」の割合が最も高くなっています。

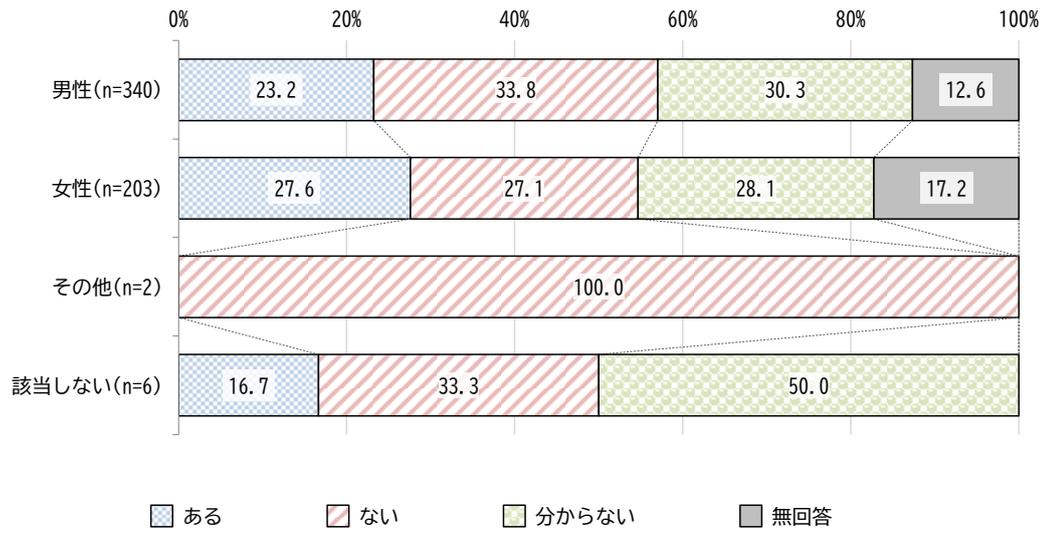


【気軽に出かける先 場所】

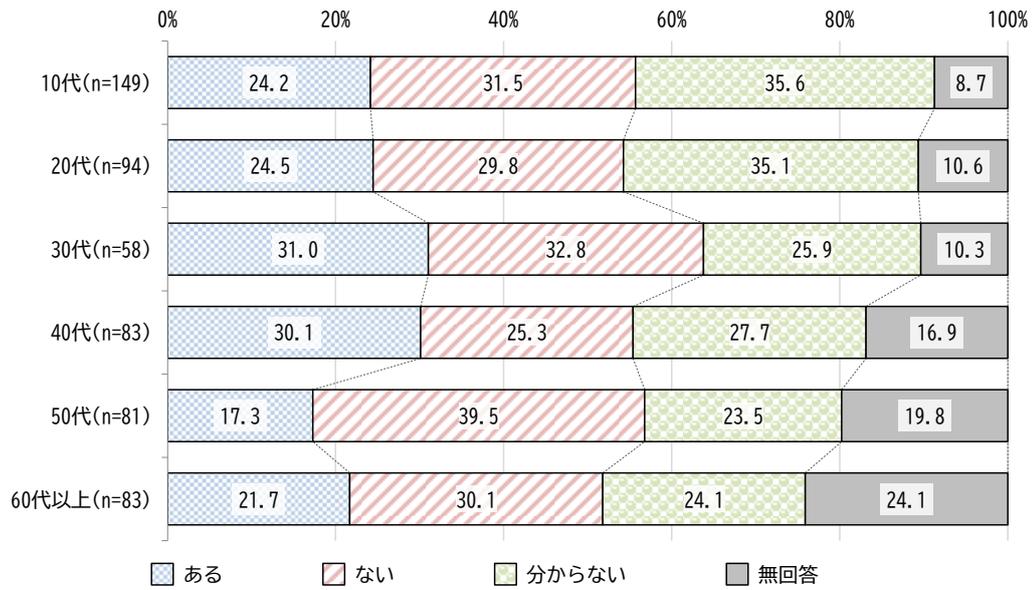
- ◆図書館、美術館（7） ◆お店、服屋、スーパー、コンビニ、飲食店（28）
- ◆公共機関、観光施設（3） ◆市民プール（2）
- ◆本屋、百均（5） ◆カラオケ、映画館、商業施設 ゲームセンター（12）

Ⅱ. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

【性別】

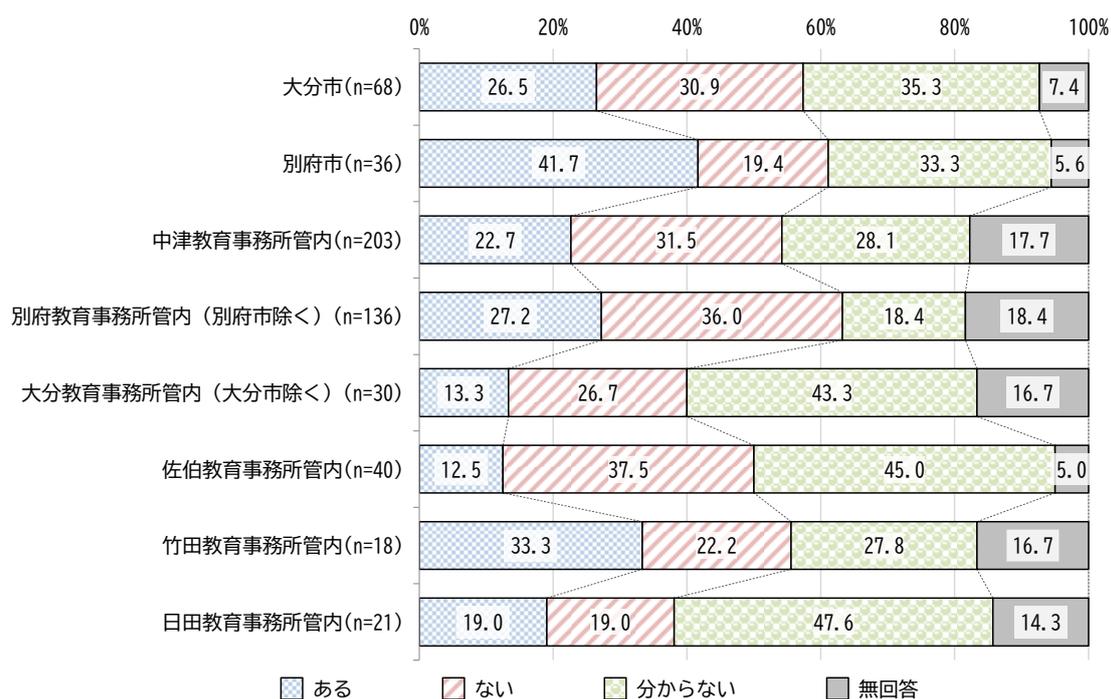


【年齢別】

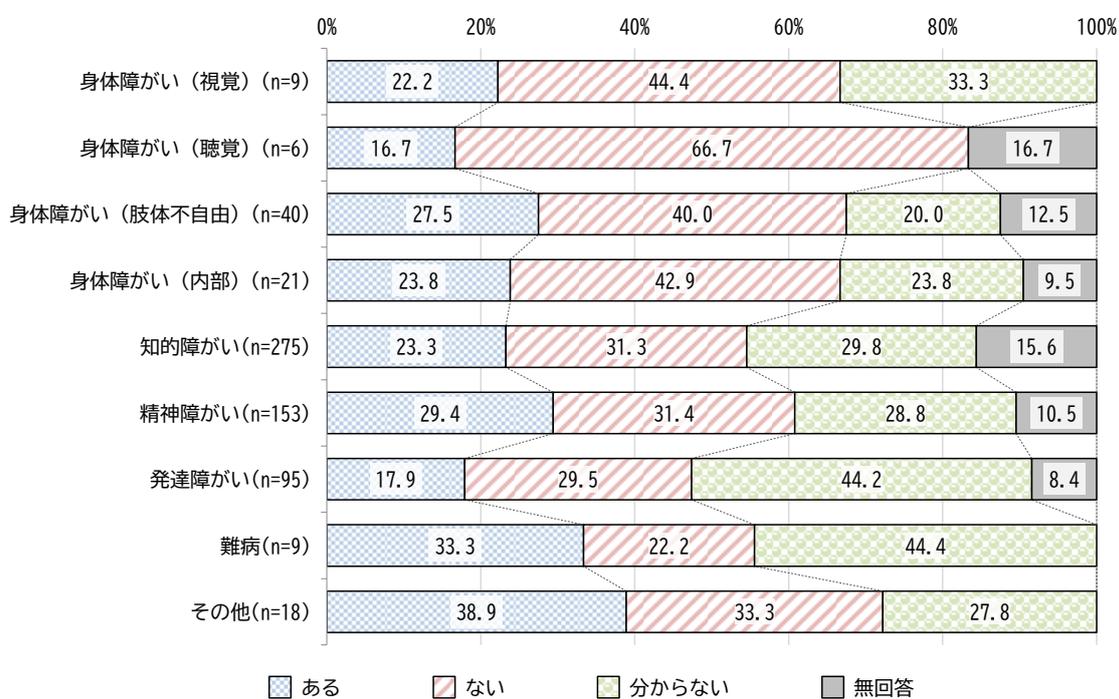


II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

【居住地別】



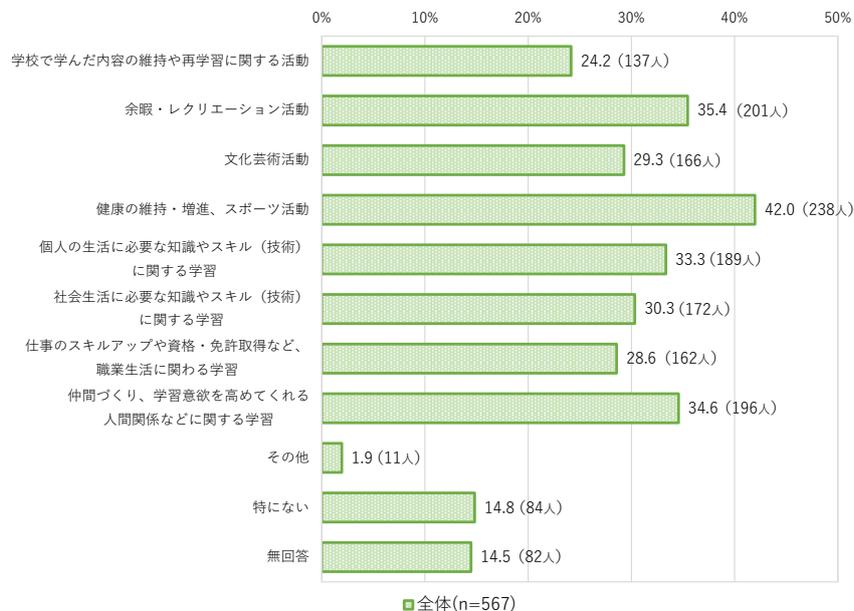
【障がい種類別】



4. 今後の学びのあり方について

問15 今後してみたいと思う学びはどれですか。（複数回答可）

- 今後してみたい学びでは、「健康の維持・増進、スポーツ活動」（42.0％）の割合が最も高く、次いで「余暇・レクリエーション活動」（35.4％）、「仲間づくり、学習意欲を高めてくれる人間関係などに関する学習」（34.6％）となっています。
- 性別にみると、「女性」では「文化芸術活動」（36.0％）及び「個人の生活に必要な知識やスキル（技術）に関する学習」（40.4％）の割合が男性と比べて高くなっています。
- 年齢別にみると、「50代」までは「健康の維持・増進、スポーツ活動」の割合が最も高くなっていますが、「60代以上」では「余暇・レクリエーション活動」（34.9％）の割合が最も高くなっています。
- 居住地別にみると、「竹田教育事務所管内」では「文化芸術活動」（11.1％）の割合が、「大分教育事務所管内（大分市除く）」では「仲間づくり、学習意欲を高めてくれる人間関係などに関する学習」（16.7％）の割合が他の居住地と比べて低くなっています。
- 障がい種類別にみると、「身体障がい（視覚）」は「特にない」（66.7％）の割合が、「身体障がい（聴覚）」及び「難病」では「余暇・レクリエーション活動」の割合が、「その他」では「仕事のスキルアップや資格・免許取得など、職業生活に関わる学習」の割合が最も高くなっていますが、それ以外は「健康の維持・増進、スポーツ活動」の割合が最も高くなっています。



() 内は実数

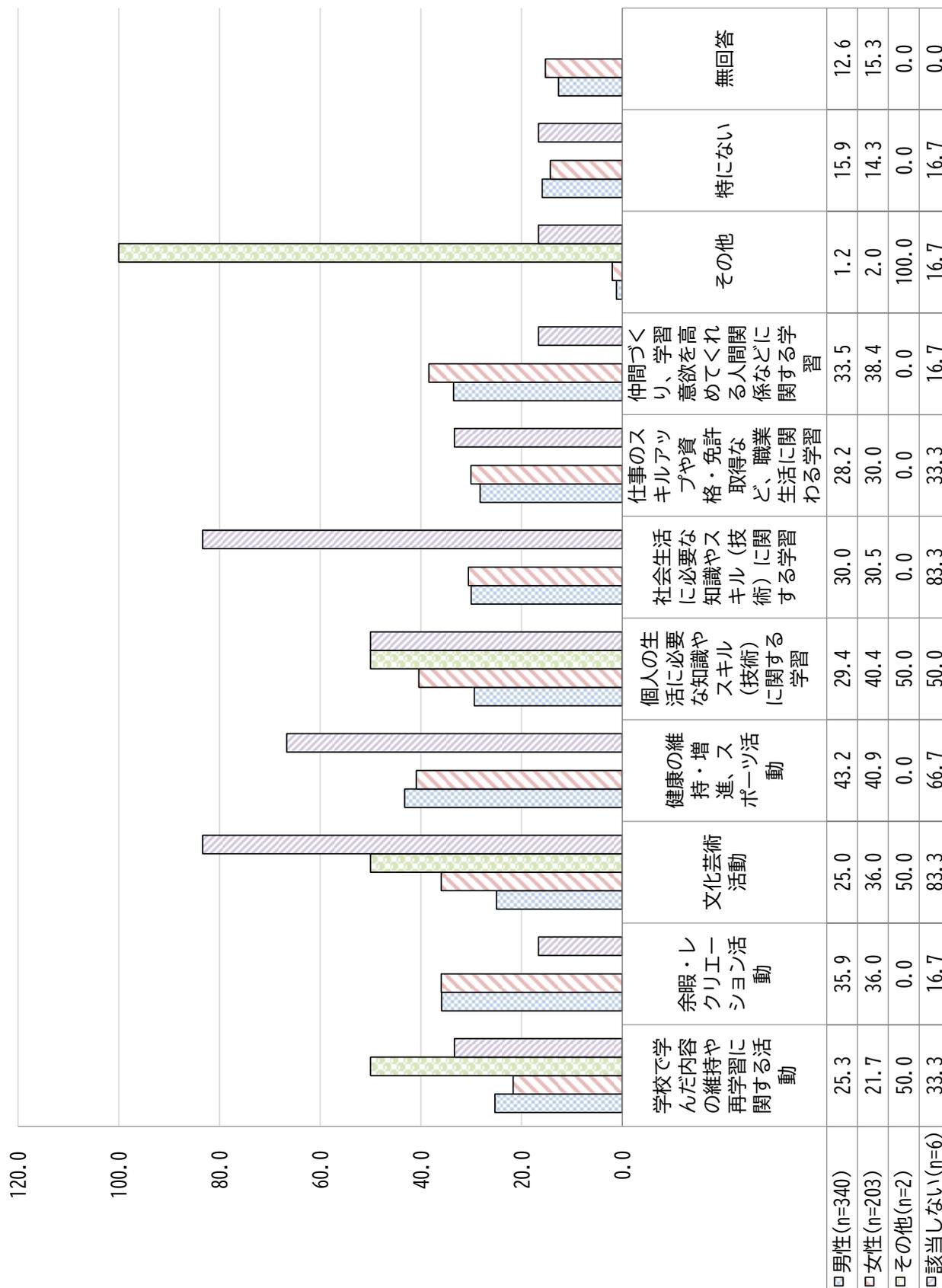
【今後してみたい学び その他】

- ◆ 障害者を変な目で見ないところなら、何でも
- ◆ 美術展に作品を出すこと
- ◆ 手話を学びたい

II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

問15 今後してみたいと思う学びはどれですか。（複数回答可）

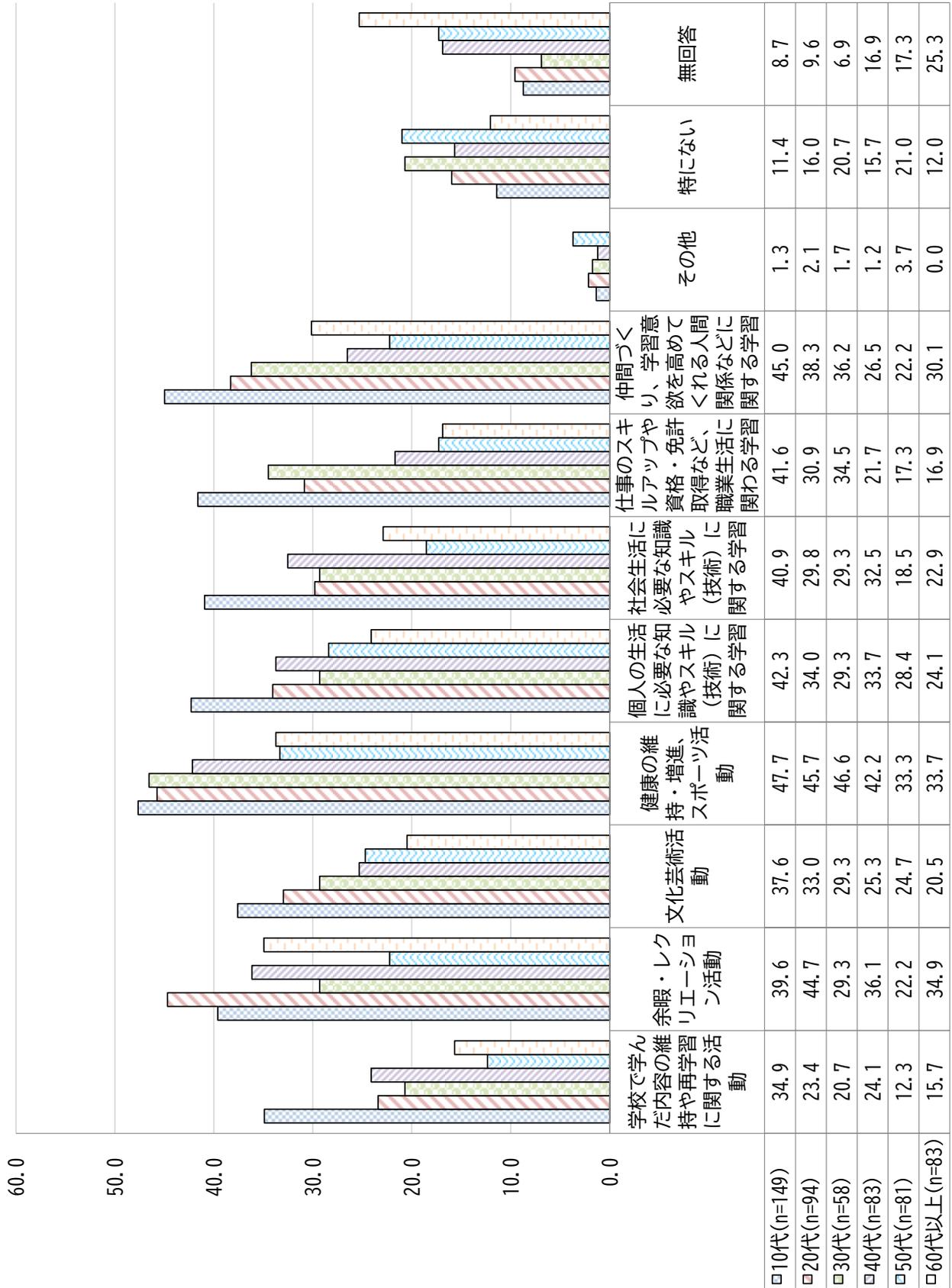
【性別】



II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

問15 今後してみたいと思う学びはどれですか。（複数回答可）

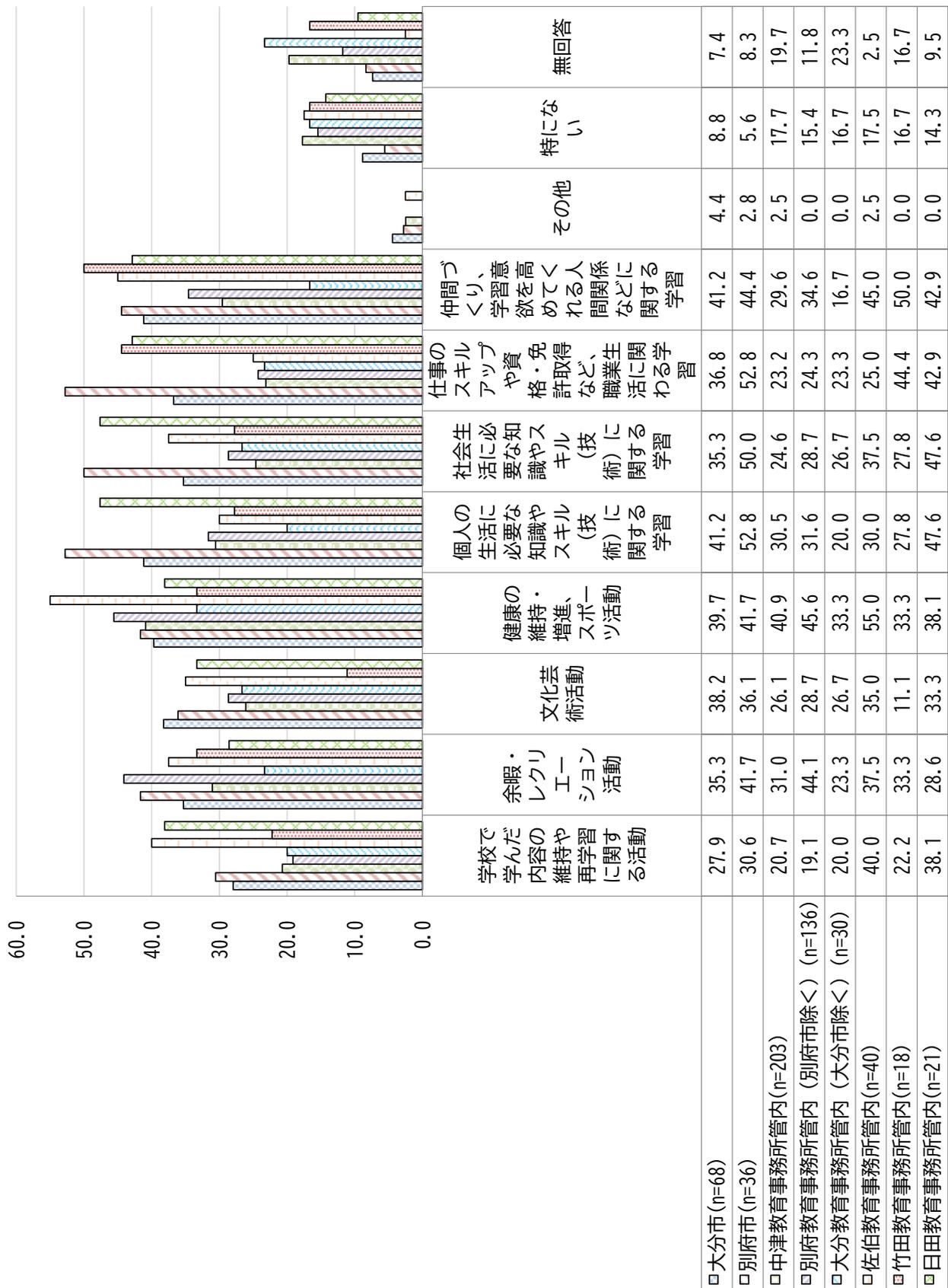
【年齢別】



II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

問15 今後してみたいと思う学びはどれですか。（複数回答可）

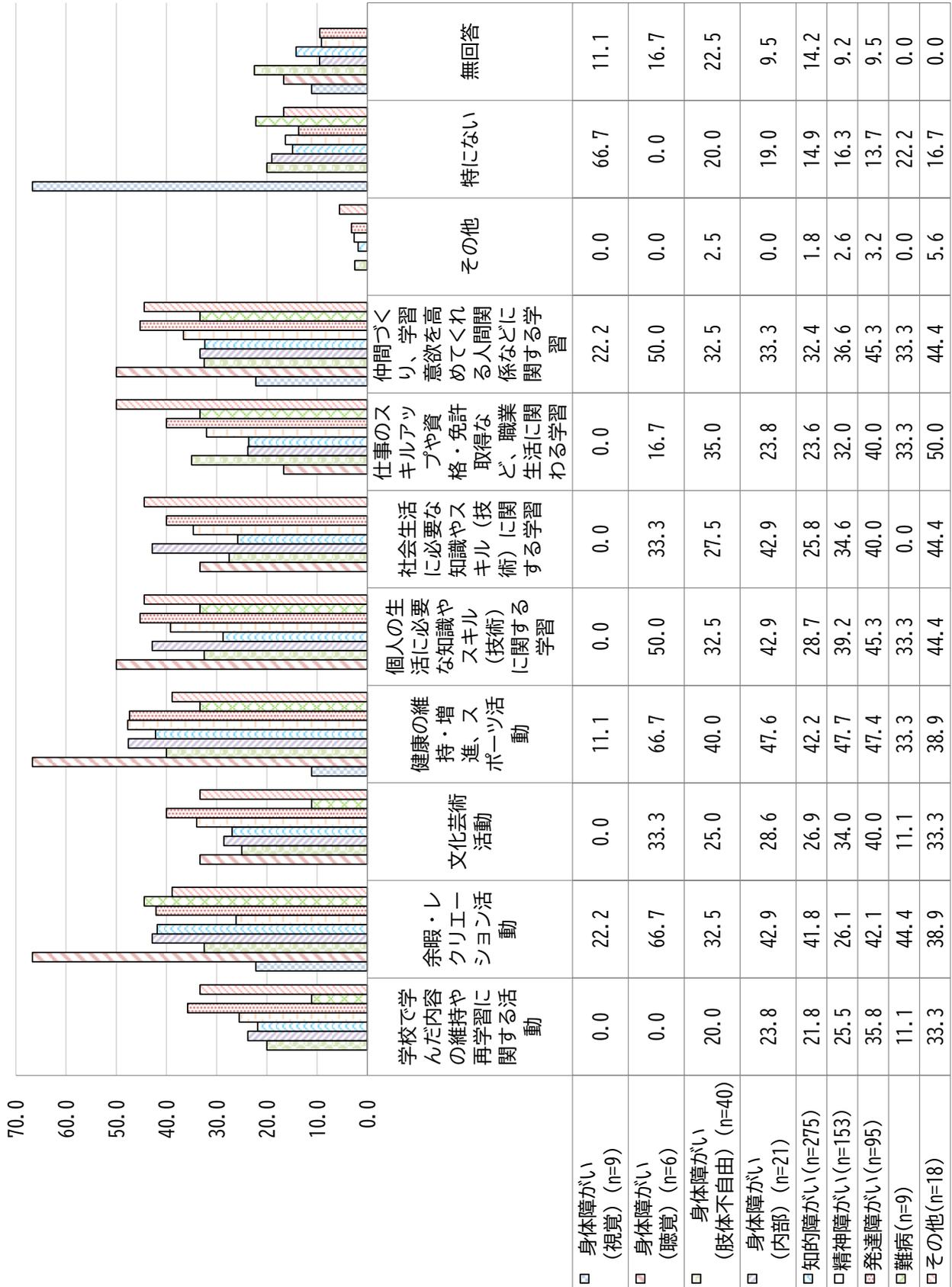
【居住地別】



II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

問15 今後してみたいと思う学びはどれですか。（複数回答可）

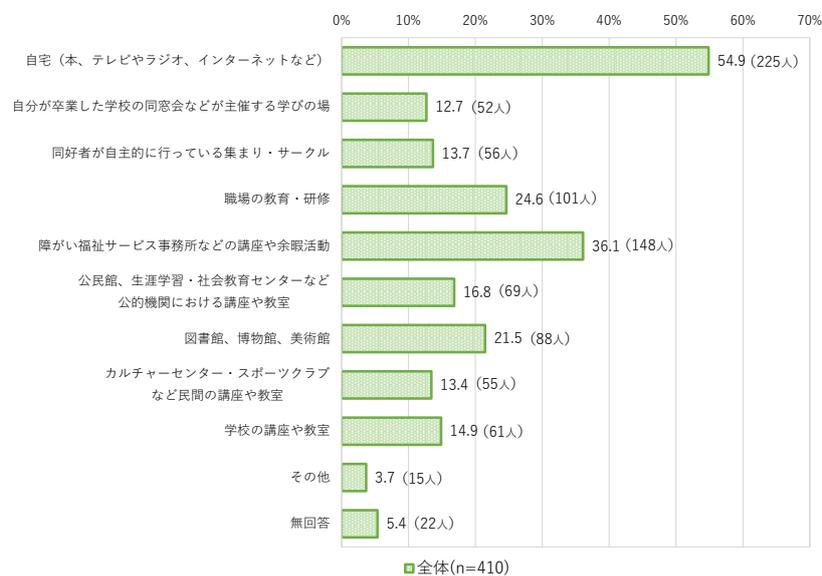
【障がい種類別】



II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

問16 問15で1～9を選んだ方（学びをしたい方）は、どこで学んでみたいですか。
（複数回答可）

- 学びをしたい方が学びたい場所では、「自宅（本、テレビやラジオ、インターネットなど）」（54.9%）の割合が最も高く、次いで「障がい福祉サービス事務所などの講座や余暇活動」（36.1%）、「職場の教育・研修」（24.6%）となっています。
- 性別では男性、女性では特に大きな差はみられませんでした。
- 年齢別にみると、「50代」までは「自宅（本、テレビやラジオ、インターネットなど）」の割合が最も高く、「60代以上」では「障がい福祉サービス事務所などの講座や余暇活動」（47.2%）の割合が最も高くなっています。
- 居住地別にみると、どの居住地も「自宅（本、テレビやラジオ、インターネットなど）」の割合が最も高くなっています。
- 障がい種類別にみると、「身体障がい（視覚）」では「自分が卒業した学校の同窓会などが主催する学びの場」「同好者が自主的に行っている集まり・サークル」「障がい福祉サービス事務所などの講座や余暇活動」「公民館、生涯学習・社会教育センターなど公的機関における講座や教室」（ともに50.0%）の割合が最も高くなっていますが、それ以外は「自宅（本、テレビやラジオ、インターネットなど）」の割合が最も高くなっています。



（ ）内は実数

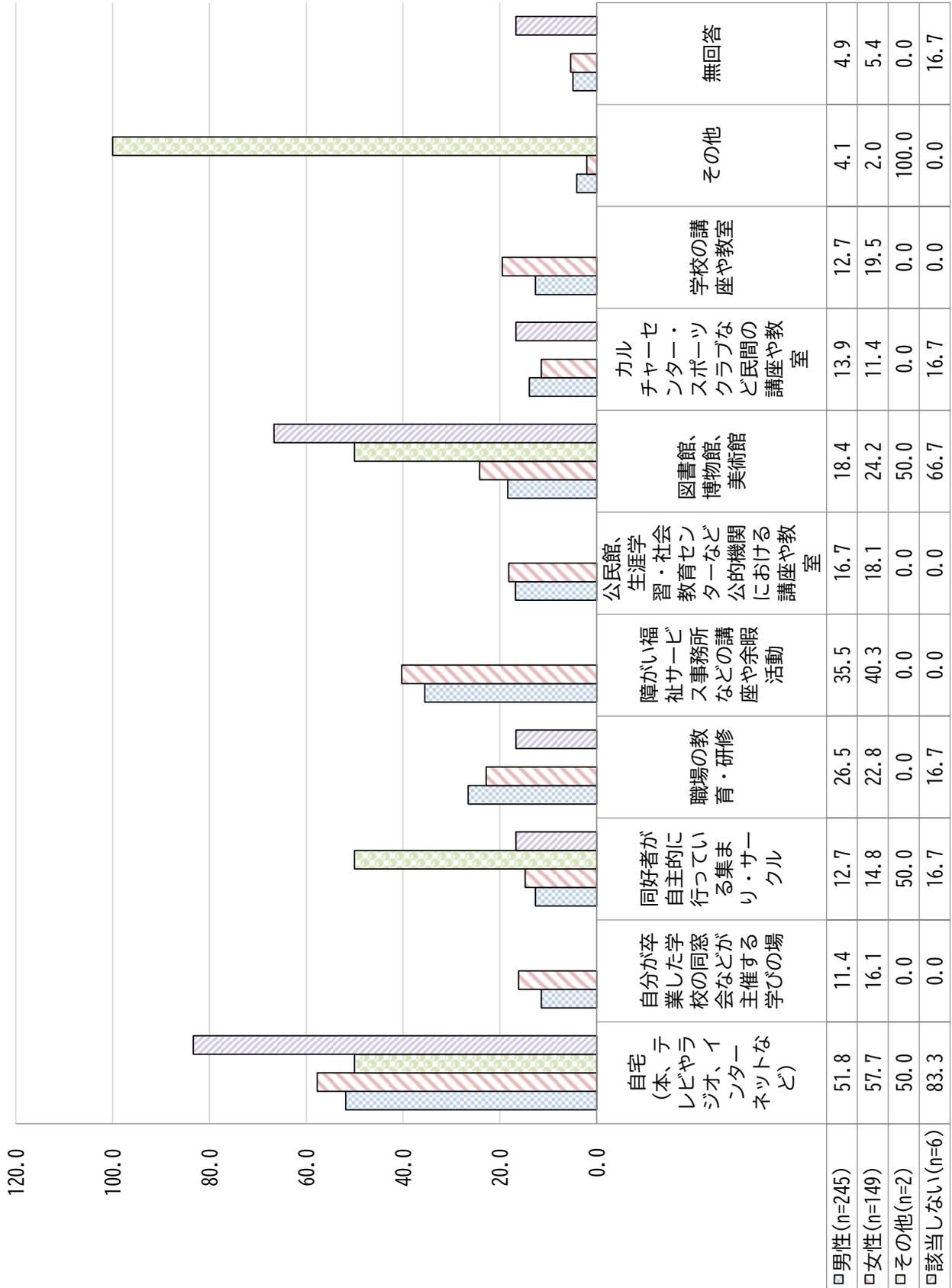
【学びたい場所 その他】

- ◆障がい者を対象とする教室（ボランティアさんなどによるスタッフさんがいる）
- ◆インターネットで調べたら出てくるならそちらがよい
- ◆外でいろんな人会って、関わって学びたい ◆入所した施設、職業訓練校
- ◆障がい者の為の社会教育、スポーツセンター

II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

問16 問15で1～9を選んだ方（学びをしたい方）は、どこで学んでみたいですか。（複数回答可）

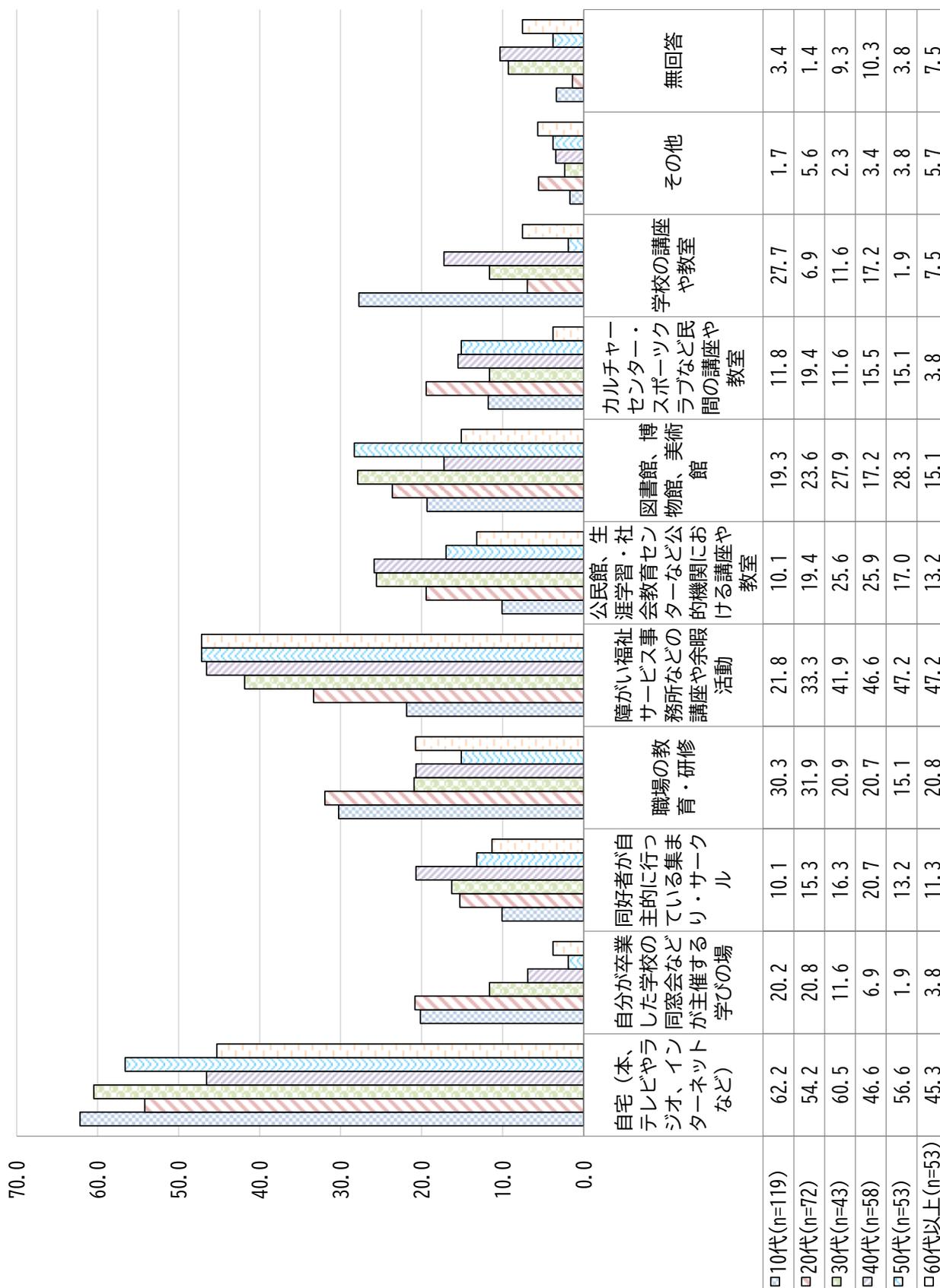
【性別】



II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

問16 問15で1～9を選んだ方（学びをしたい方）は、どこで学んでみたいですか。（複数回答可）

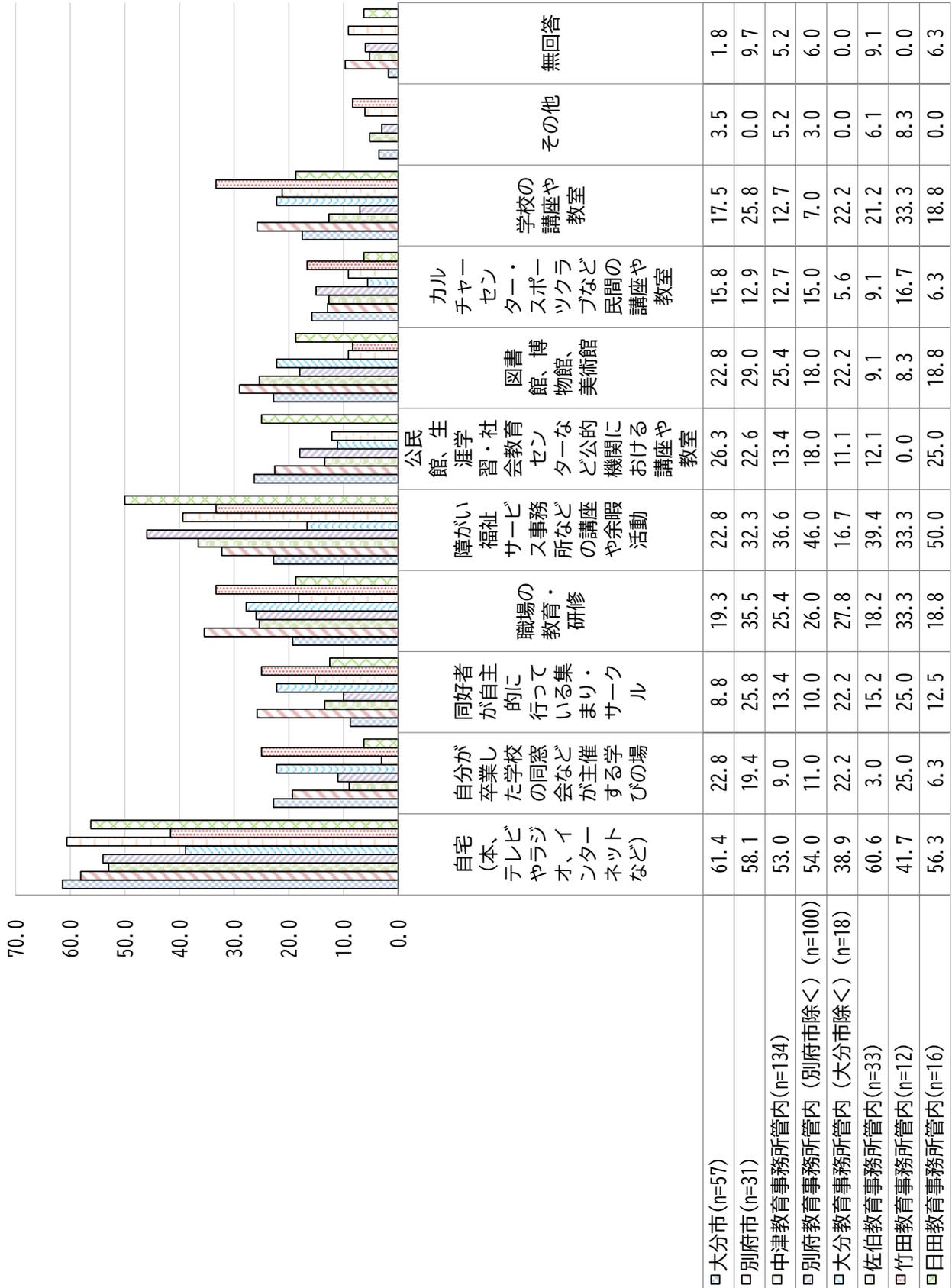
【年齢別】



II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

問16 問15で1～9を選んだ方（学びをしたい方）は、どこで学んでみたいですか。（複数回答可）

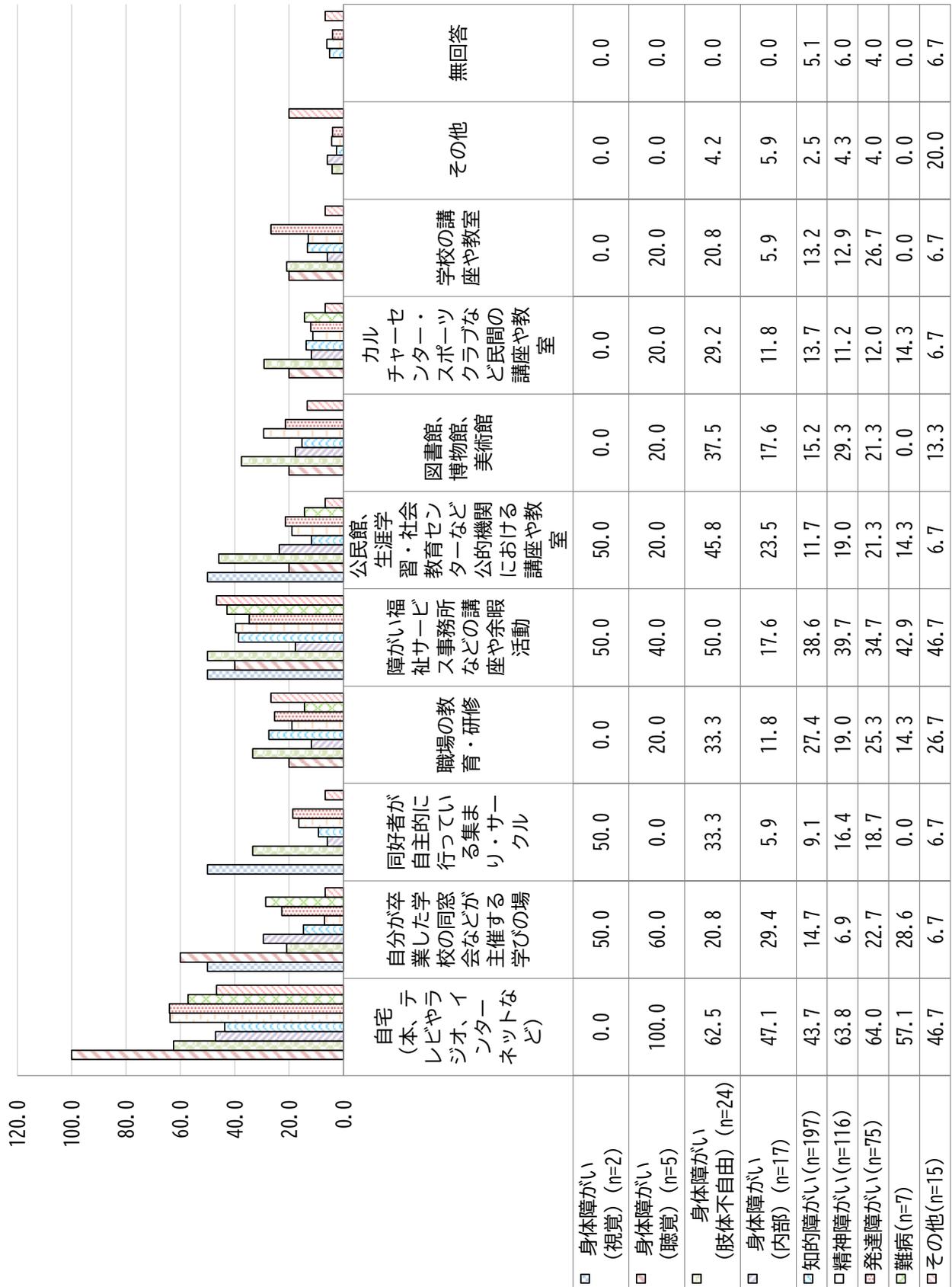
【居住地別】



II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

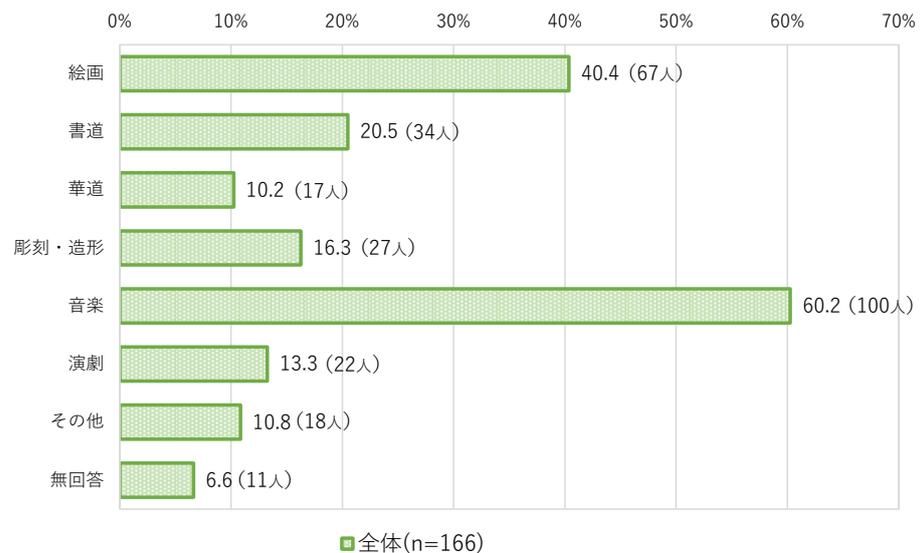
問16 問15で1～9を選んだ方（学びをしたい方）は、どこで学んでみたいですか。（複数回答可）

【障がい種類別】



問17 問15で3（文化芸術活動）を選んだ方は、どのような活動に取り組んでみたいですか。
（複数回答可）

- 今後してみたい学びで「文化芸術活動」を選んだ方が取り組みたい活動では、「音楽」（60.2％）の割合が最も高く、次いで「絵画」（40.4％）、「書道」（20.5％）となっています。
- 性別にみると、「男性」では「彫刻・造形」（21.2％）の割合が、「女性」では「華道」（17.8％）「音楽」（65.8％）の割合がそれぞれと比べて高くなっています。
- 年齢別にみると、どの年代も「音楽」の割合が最も高くなっています。
- 居住地別にみると、どの居住地も「音楽」の割合が最も高くなっていますが、「日田教育事務所管内」では「絵画」（100.0％）の割合が最も高くなっています。
- 障がい種類別にみると、「身体障がい（聴覚）」「身体障がい（肢体不自由）」「その他」では「絵画」の割合が、それ以外では「音楽」の割合が最も高くなっています。



() 内は実数

【学びたい文化芸術活動 その他】

- ◆俳句 ◆写真 ◆茶道 ◆硬筆 ◆プログラミング ◆ダンス ◆手芸
- ◆窯業 ◆手話 ◆声優 ◆陶芸 ◆創作折紙 ◆絵を描く事全般 ◆コピーライティング

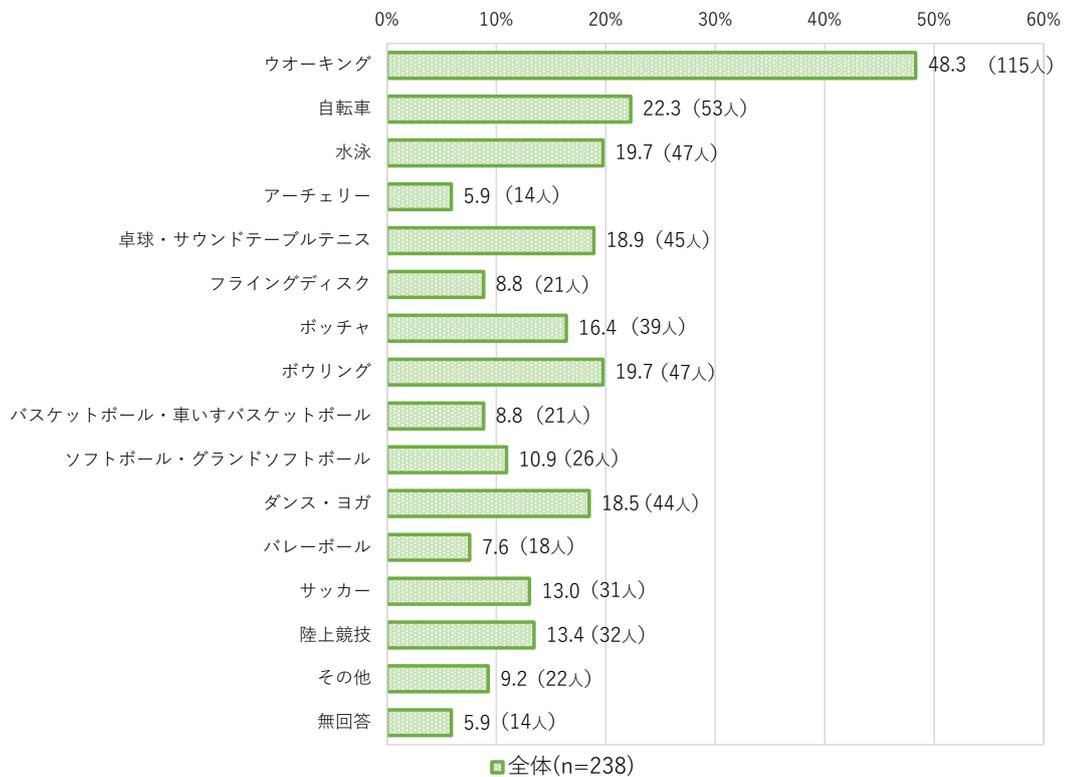
II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

(上段：人 下段：%)

		標本数 (人)	絵画	書道	華道	彫刻・造形	音楽	演劇	その他	無回答
全体 (単純集計)		166	67 40.4%	34 20.5%	17 10.2%	27 16.3%	100 60.2%	22 13.3%	18 10.8%	11 6.6%
性別	男性	85	34 40.0%	15 17.6%	4 4.7%	18 21.2%	47 55.3%	10 11.8%	13 15.3%	6 7.1%
	女性	73	27 37.0%	17 23.3%	13 17.8%	7 9.6%	48 65.8%	12 16.4%	5 6.8%	4 5.5%
	その他	1	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	該当しない	5	4 80.0%	2 40.0%	0 0.0%	2 40.0%	3 60.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	10代	56	22 39.3%	10 17.9%	6 10.7%	12 21.4%	36 64.3%	7 12.5%	4 7.1%	2 3.6%
20代	31	11 35.5%	7 22.6%	0 0.0%	5 16.1%	17 54.8%	4 12.9%	7 22.6%	1 3.2%	
30代	17	9 52.9%	4 23.5%	3 17.6%	5 29.4%	10 58.8%	4 23.5%	2 11.8%	1 5.9%	
40代	21	8 38.1%	6 28.6%	4 19.0%	3 14.3%	14 66.7%	2 9.5%	2 9.5%	2 9.5%	
50代	20	8 40.0%	4 20.0%	2 10.0%	1 5.0%	10 50.0%	3 15.0%	1 5.0%	3 15.0%	
60代以上	17	7 41.2%	3 17.6%	2 11.8%	0 0.0%	12 70.6%	2 11.8%	1 5.9%	1 5.9%	
居住地別	大分市	26	10 38.5%	5 19.2%	4 15.4%	4 15.4%	14 53.8%	3 11.5%	3 11.5%	1 3.8%
	別府市	13	7 53.8%	5 38.5%	2 15.4%	2 15.4%	8 61.5%	3 23.1%	4 30.8%	1 7.7%
	中津教育事務所管内	53	19 35.8%	8 15.1%	5 9.4%	10 18.9%	34 64.2%	8 15.1%	3 5.7%	4 7.5%
	別府教育事務所管内 (別府市除く)	39	15 38.5%	11 28.2%	2 5.1%	6 15.4%	21 53.8%	6 15.4%	5 12.8%	4 10.3%
	大分教育事務所管内 (大分市除く)	8	3 37.5%	2 25.0%	2 25.0%	3 37.5%	3 37.5%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%
	佐伯教育事務所管内	14	3 21.4%	2 14.3%	2 14.3%	1 7.1%	12 85.7%	1 7.1%	1 7.1%	0 0.0%
	竹田教育事務所管内	2	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	日田教育事務所管内	7	7 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	4 57.1%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%
障がいの種類	身体障がい (視覚)	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	身体障がい (聴覚)	2	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%
	身体障がい (肢体不自由)	10	8 80.0%	6 60.0%	3 30.0%	3 30.0%	6 60.0%	3 30.0%	2 20.0%	2 20.0%
	身体障がい (内部)	6	3 50.0%	3 50.0%	1 16.7%	2 33.3%	4 66.7%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%
	知的障がい	74	27 36.5%	13 17.6%	5 6.8%	11 14.9%	44 59.5%	7 9.5%	6 8.1%	5 6.8%
	精神障がい	52	20 38.5%	11 21.2%	5 9.6%	7 13.5%	33 63.5%	5 9.6%	5 9.6%	2 3.8%
	発達障がい	38	17 44.7%	5 13.2%	5 13.2%	8 21.1%	27 71.1%	7 18.4%	4 10.5%	2 5.3%
	難病	1	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	その他	6	3 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	1 16.7%	1 16.7%	1 0.0%	1 16.7%

問18 問15で4（スポーツ活動）を選んだ方は、どのような活動に取り組んでみたいですか。
（複数回答可）

- 今後してみたい学びで「スポーツ活動」を選んだ方が取り組みたい活動では、「ウォーキング」（48.3%）の割合が最も高く、次いで「自転車」（22.3%）、「水泳」「ボウリング」（ともに19.7%）となっています。
- 性別にみると、「女性」では「ダンス・ヨガ」（36.1%）の割合が男性と比べて高くなっています。
- 年齢別にみると、どの年代も「ウォーキング」の割合が最も高くなっています。
- 居住地別にみると、「大分市」では「水泳」（48.1%）の割合が、「大分教育事務所管内（大分市除く）」では「ダンス・ヨガ」（40.0%）の割合が最も高くなっていますが、それ以外では「ウォーキング」の割合が最も高くなっています。



() 内は実数

【学びたい陸上競技 種目】

- ◆マラソン ◆短距離走、長距離走

【学びたいスポーツ活動 その他】

- ◆野球 ◆ボクシング、キックボクシング ◆武道 ◆体操 ◆ランニング ◆弓道
- ◆バトミントン、ドッジボール ◆縄跳び ◆車いすラグビー ◆ストレッチ

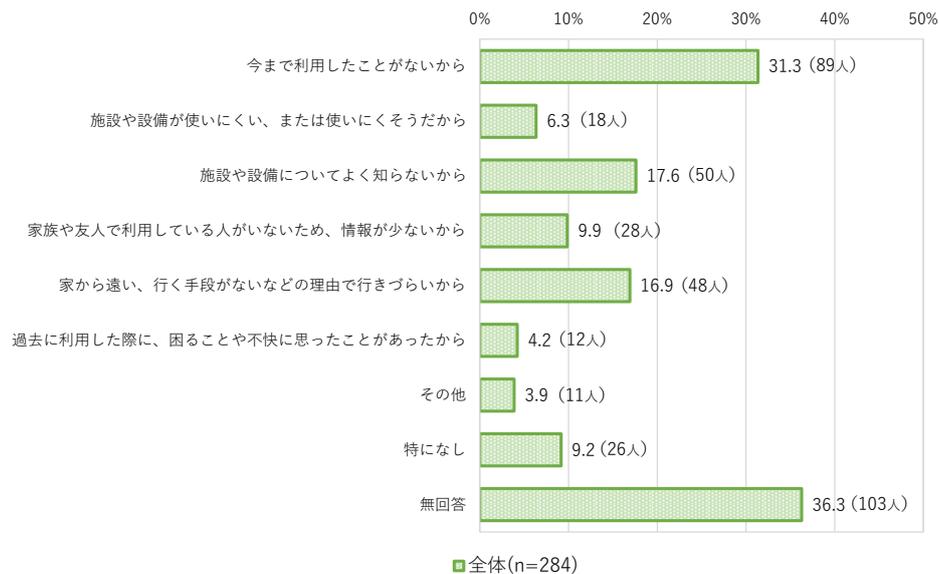
II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

(上段：人 下段：%)

	標本数(人)	ウォーキング	自転車	水泳	アーチェリー	卓球・サウンドテーブルテニス	フライングディスク	ボッチャ	ボウリング	バスケットボール・車いすバス	ソフトボール・グラウンドソフト	ダンス・ヨガ	バレーボール	サッカー	陸上競技	その他	無回答	
全体(単純集計)	238	115 48.3%	53 22.3%	47 19.7%	14 5.9%	45 18.9%	21 8.8%	39 16.4%	47 19.7%	21 8.8%	26 10.9%	44 18.5%	18 7.6%	31 13.0%	32 13.4%	22 9.2%	14 5.9%	
性別	男性	147	66 44.9%	32 21.8%	27 18.4%	6 4.1%	27 18.4%	13 8.8%	22 15.0%	29 19.7%	17 11.6%	19 12.9%	12 8.2%	7 4.8%	23 15.6%	25 17.0%	15 10.2%	9 6.1%
	女性	83	45 54.2%	18 21.7%	19 22.9%	7 8.4%	18 21.7%	7 8.4%	16 19.3%	16 19.3%	4 4.8%	7 8.4%	30 36.1%	10 12.0%	7 8.4%	7 8.4%	7 8.4%	3 3.6%
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	該当しない	4	3 75.0%	3 75.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	1 25.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
年齢	10代	71	31 43.7%	17 23.9%	21 29.6%	7 9.9%	9 12.7%	7 9.9%	20 28.2%	19 26.8%	9 12.7%	7 9.9%	16 22.5%	4 5.6%	16 22.5%	17 23.9%	8 11.3%	1 1.4%
	20代	43	13 30.2%	10 23.3%	9 20.9%	2 4.7%	12 27.9%	5 11.6%	7 16.3%	9 20.9%	3 7.0%	4 9.3%	9 20.9%	7 16.3%	6 14.0%	6 14.0%	5 11.6%	4 9.3%
	30代	27	17 63.0%	8 29.6%	6 22.2%	2 7.4%	4 14.8%	1 3.7%	0 0.0%	3 11.1%	0 0.0%	2 7.4%	5 18.5%	1 3.7%	2 7.4%	0 0.0%	3 11.1%	0 0.0%
	40代	35	18 51.4%	9 25.7%	6 17.1%	1 2.9%	8 22.9%	6 17.1%	6 17.1%	6 17.1%	5 14.3%	5 14.3%	9 25.7%	5 14.3%	5 14.3%	5 14.3%	3 8.6%	4 11.4%
	50代	27	20 74.1%	7 25.9%	4 14.8%	2 7.4%	6 22.2%	1 3.7%	5 18.5%	4 14.8%	2 7.4%	2 7.4%	4 14.8%	0 0.0%	2 7.4%	1 3.7%	0 0.0%	0 0.0%
	60代以上	28	14 50.0%	1 3.6%	1 3.6%	0 0.0%	5 17.9%	0 0.0%	1 3.6%	1 17.9%	5 17.9%	1 3.6%	1 3.6%	1 3.6%	0 0.0%	3 10.7%	2 7.1%	3 10.7%
居住地別	大分市	27	11 40.7%	6 22.2%	13 48.1%	5 18.5%	7 25.9%	4 14.8%	7 25.9%	6 22.2%	5 18.5%	2 7.4%	8 29.6%	4 14.8%	4 14.8%	2 7.4%	4 14.8%	0 0.0%
	別府市	15	9 60.0%	1 6.7%	6 40.0%	1 6.7%	2 13.3%	0 0.0%	4 26.7%	1 6.7%	2 13.3%	1 6.7%	0 0.0%	1 6.7%	1 6.7%	3 20.0%	1 6.7%	1 6.7%
	中津教育事務所管内	83	41 49.4%	25 30.1%	10 12.0%	3 3.6%	15 18.1%	8 9.6%	11 13.3%	17 20.5%	3 3.6%	7 8.4%	19 22.9%	6 7.2%	7 8.4%	10 12.0%	9 10.8%	5 6.0%
	別府教育事務所管内(別府市除く)	62	30 48.4%	8 12.9%	7 11.3%	1 1.6%	14 22.6%	4 6.5%	6 9.7%	16 25.8%	6 9.7%	12 19.4%	11 17.7%	3 4.8%	9 14.5%	9 14.5%	6 9.7%	4 6.5%
	大分教育事務所管内(大分市除く)	10	3 30.0%	3 30.0%	3 30.0%	3 30.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 10.0%	1 10.0%	0 0.0%	4 40.0%	0 0.0%	3 30.0%	0 0.0%	1 10.0%	0 0.0%
	佐伯教育事務所管内	22	11 50.0%	8 36.4%	2 9.1%	1 4.5%	0 0.0%	3 13.6%	6 27.3%	2 9.1%	0 0.0%	1 4.5%	1 4.5%	2 9.1%	3 13.6%	5 22.7%	0 0.0%	2 9.1%
	竹田教育事務所管内	6	4 66.7%	1 16.7%	3 50.0%	0 0.0%	3 50.0%	0 0.0%	2 33.3%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	日田教育事務所管内	8	5 62.5%	1 12.5%	3 37.5%	0 0.0%	3 37.5%	2 25.0%	3 37.5%	2 25.0%	2 37.5%	2 25.0%	0 0.0%	2 25.0%	3 37.5%	3 37.5%	1 12.5%	0 0.0%
障がいの種類	身体障がい(視覚)	1	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	身体障がい(聴覚)	4	1 25.0%	2 50.0%	1 25.0%	1 25.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	2 50.0%	0 0.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	2 25.0%	0 0.0%
	身体障がい(肢体不自由)	16	7 43.8%	3 18.8%	5 31.3%	1 6.3%	5 31.3%	2 12.5%	5 31.3%	3 18.8%	3 18.8%	5 31.3%	2 12.5%	1 6.3%	3 18.8%	2 12.5%	1 6.3%	0 0.0%
	身体障がい(内部)	10	1 10.0%	3 30.0%	3 30.0%	1 10.0%	1 10.0%	3 30.0%	1 10.0%	2 20.0%	1 10.0%	2 20.0%	1 10.0%	3 30.0%	1 10.0%	1 10.0%	2 20.0%	0 0.0%
	知的障がい	116	54 46.6%	26 22.4%	21 18.1%	7 6.0%	21 18.1%	12 10.3%	23 19.8%	25 21.6%	12 10.3%	14 12.1%	22 19.0%	7 6.0%	18 15.5%	17 14.7%	8 6.9%	9 7.8%
	精神障がい	73	42 57.5%	15 20.5%	15 20.5%	3 4.1%	17 23.3%	3 4.1%	7 9.6%	10 13.7%	5 6.8%	7 9.6%	11 15.1%	6 8.2%	5 6.8%	6 8.2%	7 9.6%	2 2.7%
	発達障がい	45	26 57.8%	9 20.0%	16 35.6%	2 4.4%	7 15.6%	8 17.8%	13 28.9%	10 22.2%	6 13.3%	1 2.2%	13 28.9%	4 8.9%	8 17.8%	7 15.6%	5 11.1%	2 4.4%
	難病	3	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	その他	7	5 71.4%	1 14.3%	2 28.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%

問19 問16で6（公民館など）、7（図書館など）を選択しなかった理由（複数回答可）

- 学びをしたい方が学びたい場所で「公民館」や「図書館」を選択しなかった理由では、「今まで利用したことがないから」（31.3%）の割合が最も高く、次いで「施設や設備についてよく知らないから」（17.6%）、「家から遠い、行く手段がないなどの理由で行きづらいから」（16.9%）となっています。
- 性別では男性、女性では特に大きな差はみられませんでした。
- 年齢別でみると、どの年代も「今まで利用したことがないから」の割合が最も高くなっています。
- 居住地別にみると、どの居住地も「今まで利用したことがないから」の割合が最も高くなっていますが、「別府市」では「家から遠い、行く手段がないなどの理由で行きづらいから」（42.1%）の割合が最も高くなっています。
- 障がい種類別にみると、「身体障がい（肢体不自由）」では「家から遠い、行く手段がないなどの理由で行きづらいから」（27.3%）の割合が最も高くなっていますが、それ以外は「今まで利用したことがないから」の割合が最も高くなっています。



() 内は実数

【過去に利用した際に困ったことや不快に思ったこと】

- ◆もう少し道具が欲しい
- ◆ルール、マナーを知らず、使いづらかった
- ◆保護者同伴でないと参加できない
- ◆行きたいけど体力がない
- ◆自分のやり方でやりたいから
- ◆変な歩き方やねと差別されたから
- ◆小さい子どもがぶつかってきたことがあるから

【公民館、図書館を選択しなかった理由 その他】

- ◆一人では不安
- ◆人の多い場所が苦手
- ◆用事がない
- ◆障害があり、必要性がない
- ◆大分県身体障害者福祉センターの様な施設が近くに無い
- ◆人見知りだから
- ◆他人と会いたくない
- ◆知っている人がいるといや。話しかけられたくない

II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

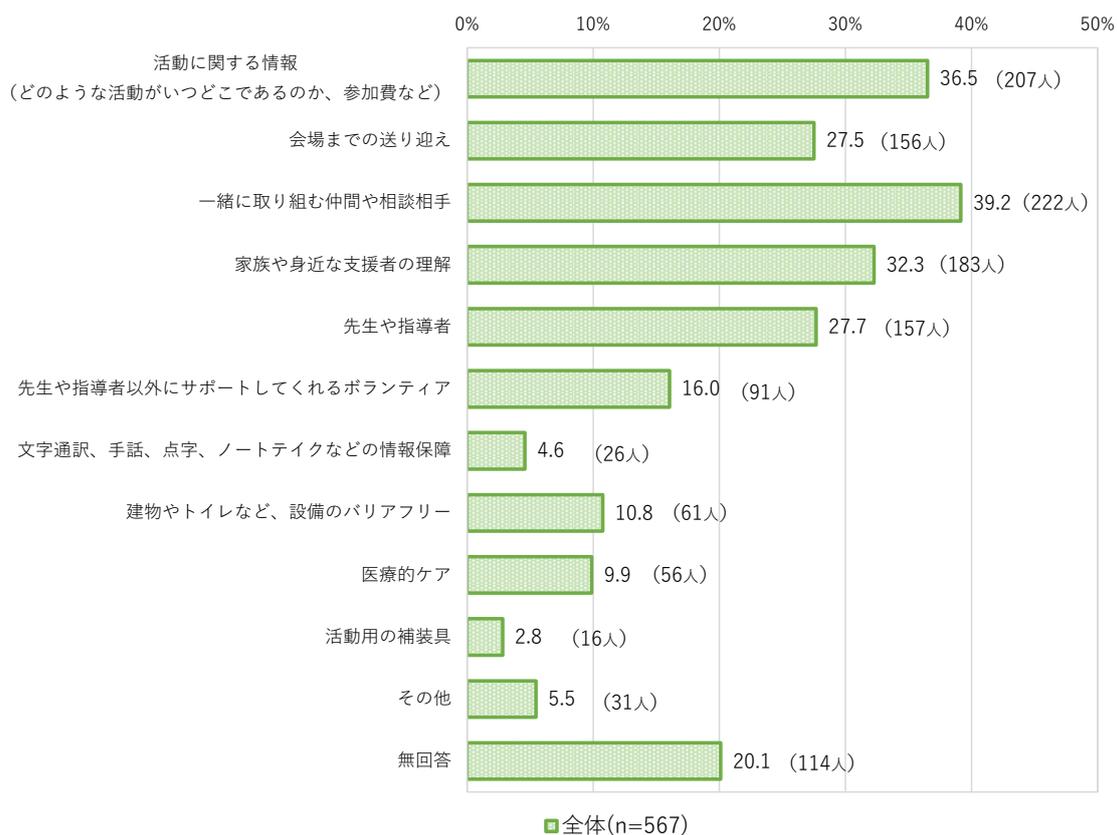
(上段：人 下段：%)

		標本数（人）	今まで利用したことがないから	施設や設備が使いにくい、または使いにくそうだから	施設や設備についてよく知らないから	家族や友人で利用している人がいないため、情報が少ないから	家から遠い、行く手段がないなどの理由で行きづらいから	不過去に利用した際に、困ることや不快に思ったことがあったから	その他	特になし	無回答
全体（単純集計）		284	89 31.3%	18 6.3%	50 17.6%	28 9.9%	48 16.9%	12 4.2%	11 3.9%	26 9.2%	103 36.3%
性別	男性	176	56 31.8%	13 7.4%	32 18.2%	19 10.8%	33 18.8%	9 5.1%	7 4.0%	18 10.2%	54 30.7%
	女性	100	32 32.0%	5 5.0%	17 17.0%	9 9.0%	15 15.0%	3 3.0%	4 4.0%	6 6.0%	44 44.0%
	その他	1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%
	該当しない	2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 50.0%	1 50.0%
年齢	10代	89	31 34.8%	4 4.5%	15 16.9%	11 12.4%	19 21.3%	2 2.2%	2 2.2%	6 6.7%	33 37.1%
	20代	49	14 28.6%	4 8.2%	10 20.4%	5 10.2%	9 18.4%	2 4.1%	2 4.1%	5 10.2%	14 28.6%
	30代	25	9 36.0%	1 4.0%	4 16.0%	3 12.0%	3 12.0%	1 4.0%	3 12.0%	3 12.0%	7 28.0%
	40代	41	14 34.1%	3 7.3%	7 17.1%	4 9.8%	8 19.5%	1 2.4%	1 2.4%	1 2.4%	18 43.9%
	50代	32	12 37.5%	0 0.0%	5 15.6%	1 3.1%	5 15.6%	1 3.1%	2 6.3%	4 12.5%	11 34.4%
	60代以上	40	8 20.0%	5 12.5%	8 20.0%	4 10.0%	4 10.0%	4 10.0%	1 2.5%	4 10.0%	17 42.5%
居住地別	大分市	34	14 41.2%	3 8.8%	8 23.5%	3 8.8%	6 17.6%	1 2.9%	0 0.0%	1 2.9%	10 29.4%
	別府市	19	3 15.8%	3 15.8%	4 21.1%	4 21.1%	8 42.1%	2 10.5%	0 0.0%	1 5.3%	5 26.3%
	中津教育事務所管内	91	26 28.6%	4 4.4%	17 18.7%	7 7.7%	15 16.5%	6 6.6%	7 7.7%	10 11.0%	31 34.1%
	別府教育事務所管内（別府市除く）	74	19 25.7%	5 6.8%	8 10.8%	5 6.8%	9 12.2%	1 1.4%	3 4.1%	8 10.8%	34 45.9%
	大分教育事務所管内（大分市除く）	13	4 30.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 15.4%	0 0.0%	0 0.0%	4 30.8%	4 30.8%
	佐伯教育事務所管内	27	11 40.7%	2 7.4%	9 33.3%	8 29.6%	4 14.8%	1 3.7%	1 3.7%	2 7.4%	9 33.3%
	竹田教育事務所管内	11	5 45.5%	0 0.0%	1 9.1%	1 9.1%	3 27.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 36.4%
	日田教育事務所管内	10	6 60.0%	0 0.0%	2 20.0%	0 0.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 30.0%
障がいの種類	身体障がい（視覚）	1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
	身体障がい（聴覚）	4	1 25.0%	2 50.0%	1 25.0%	2 50.0%	1 25.0%	2 50.0%	0 0.0%	1 25.0%	1 25.0%
	身体障がい（肢体不自由）	11	2 18.2%	1 9.1%	1 9.1%	0 0.0%	3 27.3%	1 9.1%	2 18.2%	2 18.2%	2 18.2%
	身体障がい（内部）	12	5 41.7%	0 0.0%	1 8.3%	0 0.0%	2 16.7%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	5 41.7%
	知的障がい	152	42 27.6%	6 3.9%	21 13.8%	12 7.9%	20 13.2%	3 2.0%	6 3.9%	16 10.5%	60 39.5%
	精神障がい	71	23 32.4%	6 8.5%	16 22.5%	8 11.3%	16 22.5%	6 8.5%	4 5.6%	4 5.6%	23 32.4%
	発達障がい	48	19 39.6%	5 10.4%	12 25.0%	8 16.7%	15 31.3%	2 4.2%	1 2.1%	3 6.3%	12 25.0%
	難病	6	2 33.3%	1 16.7%	2 33.3%	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%
	その他	12	5 41.7%	0 0.0%	4 33.3%	1 8.3%	2 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 25.0%	3 16.7%

問20 今後、学びをする上で必要なものは何ですか。（複数回答可）

- 今後学びをする上で必要なものでは、「一緒に取り組む仲間や相談相手」（39.2%）の割合が最も高く、次いで「活動に関する情報（どのような活動がいつどこであるのか、参加費など）」（36.5%）、「家族や身近な支援者の理解」（32.3%）となっています。
- 性別にみると、「女性」では「会場までの送り迎え」（33.5%）の割合が男性と比べて高くなっています。
- 年齢別にみると、「10代」では「先生や指導者」（41.6%）、「20代」から「50代」では「活動に関する情報（どのような活動がいつどこであるのか、参加費など）」、「60代以上」では「一緒に取り組む仲間や相談相手」（30.1%）の割合が最も高くなっています。
- 居住地別にみると、「中津教育事務所管内」「別府教育事務所管内（別府市除く）」「竹田教育事務所管内」では「一緒に取り組む仲間や相談相手」の割合が、「大分教育事務所管内（大分市除く）」では「会場までの送り迎え」（33.3%）の割合が最も高くなっていますが、それ以外は「活動に関する情報（どのような活動がいつどこであるのか、参加費など）」の割合が最も高くなっています。
- 障がい種類別にみると、「身体障がい（聴覚）」及び「精神障がい」では「家族や身近な支援者の理解」の割合が、「身体障がい（視覚）」「身体障がい（内部）」「知的障がい」「発達障がい」では「一緒に取り組む仲間や相談相手」の割合が、それ以外では「活動に関する情報（どのような活動がいつどこであるのか、参加費など）」の割合が最も高くなっています。

II. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果



() 内は実数

【必要な活動用の補装具】

- ◆電動車イス ◆スケジュールカード等 ◆人工内耳補聴器 ◆楽器

【今後の学びに必要なもの その他】

- ◆健常者の理解。見た目でわからない人も多いので。特に精神は、そうだと思います。
- ◆やる気 ◆静かな環境 ◆きずなの支援員、エールの職員 ◆お金
- ◆絵をうまく描ける方法

Ⅱ. A：本人（障がい当事者）向けアンケート結果

(上段：人 下段：%)

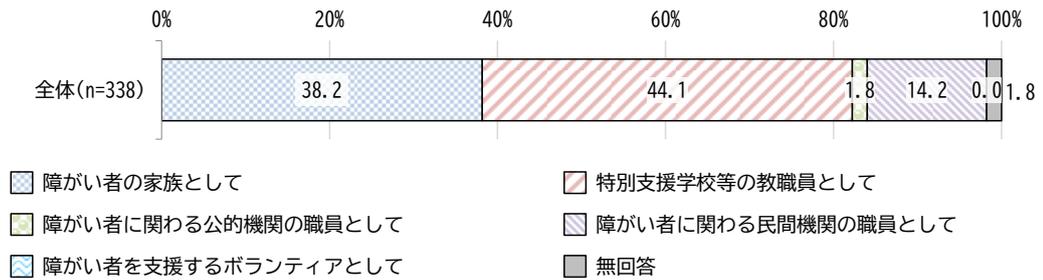
		標本数(人)	活動に関する情報(どのような活動がいつでもあるのか、参加費など)	会場までの送り迎え	一緒に取り組む仲間や相談相手	家族や身近な支援者の理解	先生や指導者	先生や指導者以外にサポートしてくれるボランティア	文字通訳、手話、点字、ノートテイクなどの情報保障	建物やトイレなど、設備のバリアフリー	医療的ケア	活動用の補装具	その他	無回答
全体(単純集計)		567	207 36.5%	156 27.5%	222 39.2%	183 32.3%	157 27.7%	91 16.0%	26 4.6%	61 10.8%	56 9.9%	16 2.8%	31 5.5%	114 20.1%
性別	男性	340	131 38.5%	81 23.8%	131 38.5%	110 32.4%	105 30.9%	59 17.4%	16 4.7%	39 11.5%	37 10.9%	11 3.2%	22 6.5%	59 17.4%
	女性	203	68 33.5%	68 33.5%	87 42.9%	67 33.0%	46 22.7%	31 15.3%	9 4.4%	21 10.3%	18 8.9%	5 2.5%	7 3.4%	46 22.7%
	その他	2	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%
	該当しない	6	2 33.3%	2 33.3%	2 33.3%	3 50.0%	3 50.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%
年齢	10代	149	61 40.9%	37 24.8%	84 56.4%	52 34.9%	62 41.6%	29 19.5%	5 3.4%	15 10.1%	9 6.0%	5 3.4%	4 2.7%	18 12.1%
	20代	94	39 41.5%	30 31.9%	41 43.6%	31 33.0%	25 26.6%	17 18.1%	6 6.4%	7 7.4%	2 2.1%	5 5.3%	5 5.3%	12 12.8%
	30代	58	27 46.6%	20 34.5%	23 39.7%	31 53.4%	19 32.8%	11 19.0%	1 1.7%	5 8.6%	11 19.0%	1 1.7%	4 6.9%	6 10.3%
	40代	83	28 33.7%	26 31.3%	28 33.7%	24 28.9%	21 25.3%	13 15.7%	4 4.8%	12 14.5%	11 13.3%	1 1.2%	5 6.0%	21 25.3%
	50代	81	24 29.6%	19 23.5%	18 22.2%	21 25.9%	11 13.6%	9 11.1%	4 4.9%	13 16.0%	8 9.9%	3 3.7%	6 7.4%	22 27.2%
	60代以上	83	22 26.5%	21 25.3%	25 30.1%	18 21.7%	16 19.3%	12 14.5%	5 6.0%	8 9.6%	13 15.7%	1 1.2%	6 7.2%	27 32.5%
居住地別	大分市	68	37 54.4%	19 27.9%	37 54.4%	29 42.6%	23 33.8%	16 23.5%	7 10.3%	9 13.2%	6 8.8%	4 5.9%	1 1.5%	5 7.4%
	別府市	36	19 52.8%	10 27.8%	16 44.4%	11 30.6%	15 41.7%	13 36.1%	2 5.6%	8 22.2%	2 5.6%	2 5.6%	1 2.8%	4 11.1%
	中津教育事務所管内	203	53 26.1%	53 26.1%	68 33.5%	59 29.1%	47 23.2%	27 13.3%	9 4.4%	24 11.8%	19 9.4%	9 4.4%	15 7.4%	53 26.1%
	別府教育事務所管内(別府市除く)	136	44 32.4%	36 26.5%	53 39.0%	41 30.1%	38 27.9%	17 12.5%	4 2.9%	14 10.3%	14 10.3%	1 0.7%	9 6.6%	28 20.6%
	大分教育事務所管内(大分市除く)	30	7 23.3%	10 33.3%	6 20.0%	6 20.0%	7 23.3%	2 6.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 6.7%	0 0.0%	2 6.7%	8 26.7%
	佐伯教育事務所管内	40	22 55.0%	9 22.5%	21 52.5%	17 42.5%	9 22.5%	7 17.5%	1 2.5%	2 5.0%	5 12.5%	0 0.0%	2 5.0%	4 10.0%
	竹田教育事務所管内	18	5 27.8%	4 22.2%	8 44.4%	6 33.3%	7 38.9%	4 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	2 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	5 27.8%
	日田教育事務所管内	21	14 66.7%	11 52.4%	11 52.4%	9 42.9%	8 38.1%	5 23.8%	2 9.5%	3 14.3%	4 19.0%	0 0.0%	1 4.8%	1 4.8%
障がいの種類	身体障がい(視覚)	9	3 33.3%	1 11.1%	2 22.2%	1 11.1%	1 11.1%	1 11.1%	0 0.0%	1 11.1%	1 11.1%	0 0.0%	4 44.4%	1 11.1%
	身体障がい(聴覚)	6	3 50.0%	2 33.3%	4 66.7%	5 83.3%	2 33.3%	3 50.0%	4 66.7%	1 16.7%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	1 16.7%
	身体障がい(肢体不自由)	40	20 50.0%	13 32.5%	13 32.5%	12 30.0%	9 22.5%	10 25.0%	6 15.0%	16 40.0%	9 22.5%	7 17.5%	1 2.5%	9 22.5%
	身体障がい(内部)	21	7 33.3%	5 23.8%	11 52.4%	4 19.0%	3 14.3%	2 9.5%	0 0.0%	4 19.0%	6 28.6%	0 0.0%	1 4.8%	2 9.5%
	知的障がい	275	87 31.6%	74 26.9%	114 41.5%	67 24.4%	76 27.6%	43 15.6%	11 4.0%	21 7.6%	19 6.9%	5 1.8%	11 4.0%	60 21.8%
	精神障がい	153	63 41.2%	44 28.8%	56 36.6%	63 41.2%	42 27.5%	30 19.6%	7 4.6%	16 10.5%	23 15.0%	2 1.3%	8 5.2%	27 17.6%
	発達障がい	95	45 47.4%	35 36.8%	49 51.6%	46 48.4%	41 43.2%	25 26.3%	6 6.3%	8 8.4%	3 3.2%	3 3.2%	5 5.3%	11 11.6%
	難病	9	4 44.4%	2 22.2%	3 33.3%	3 33.3%	2 22.2%	1 11.1%	0 0.0%	3 33.3%	1 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 11.1%
	その他	18	9 50.0%	4 22.2%	8 44.4%	6 33.3%	5 27.8%	4 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	3 16.7%	0 0.0%	3 16.7%	1 5.6%

Ⅲ. B：家族・職員・支援者等向けアンケート結果

1. 回答者の基本情報について

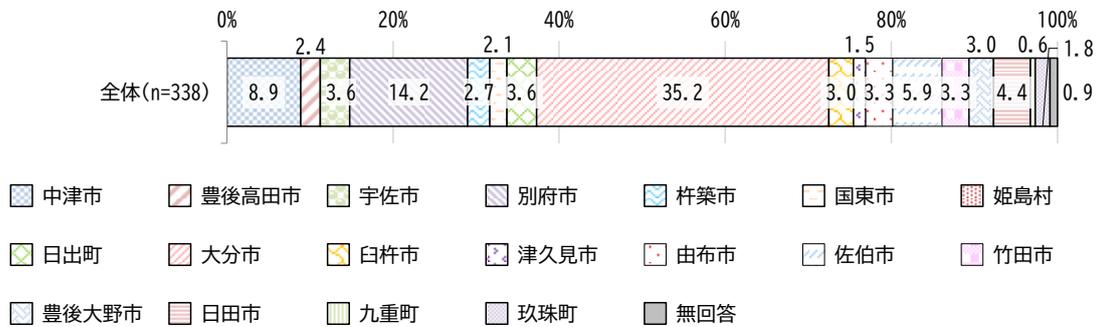
問1 回答者

●回答者では、「特別支援学校等の教職員として」(44.1%)の割合が最も高く、次いで「障がい者の家族として」(38.2%)、「障がい者に関わる民間機関の職員として」(14.2%)となっています。



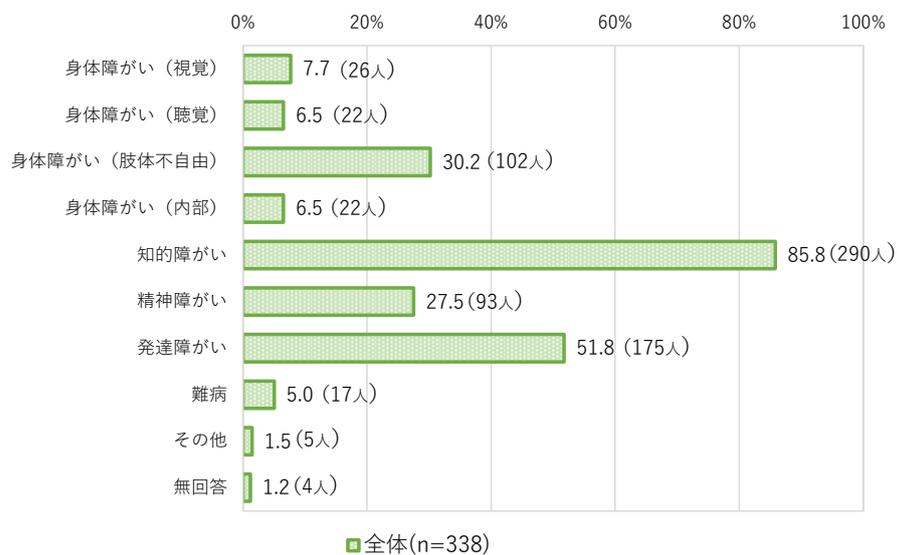
問2 住んでいる市町村

●居住地域では、「大分市」(35.2%)の割合が最も高く、次いで「別府市」(14.2%)、「中津市」(8.9%)となっています。



問3 日頃主に関わっている人の障がいの種類について（複数回答可）

●日頃主に関わっている方の障がいの種類では、「知的障がい」（85.8％）の割合が最も高く、次いで「発達障がい」（51.8％）、「身体障がい（肢体不自由）」（30.2％）となっています。



（ ）内は実数

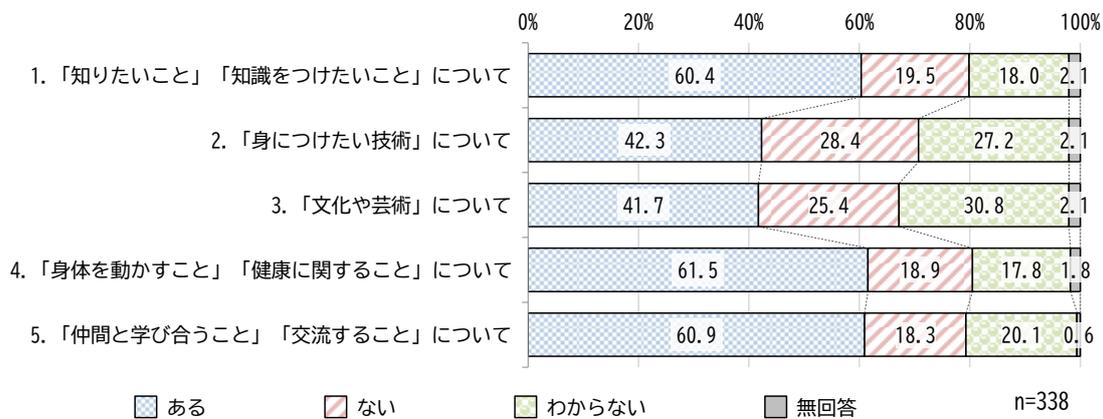
III. B：家族・職員・支援者等向けアンケート結果

2. 学びにつながる情報・機会について

問4 障がいのある人が次のようなことを学びたいと思った時、その情報は身近にあると思いますか。

(1) 学習についての情報

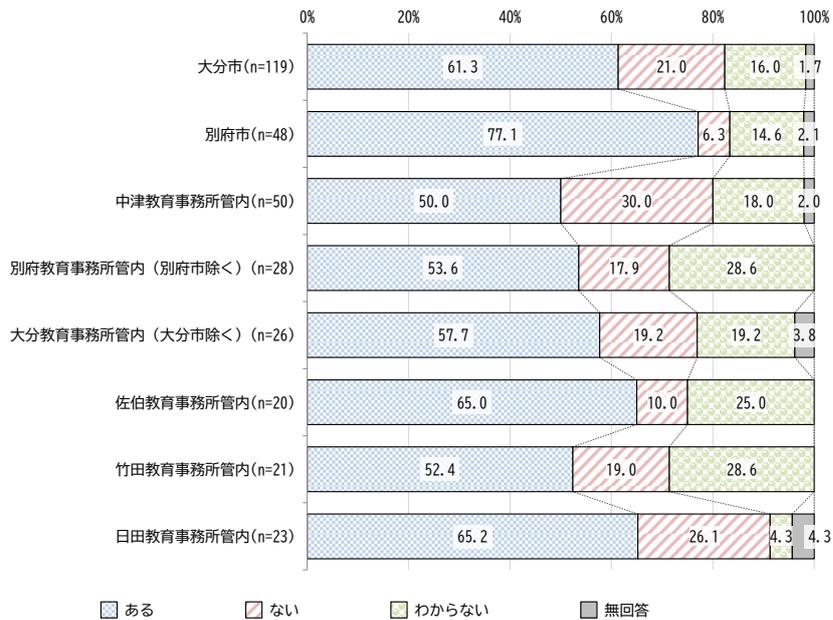
●学習についての情報が身近にあるかについて、「ある」の割合が最も高いのは『「身体を動かすこと」「健康に関すること」について』(61.5%)、「ない」の割合が最も高いのは『「身につけたい技術」について』(28.4%)、「わからない」の割合が最も高いのは『「文化や芸術」について』(30.8%)となっています。



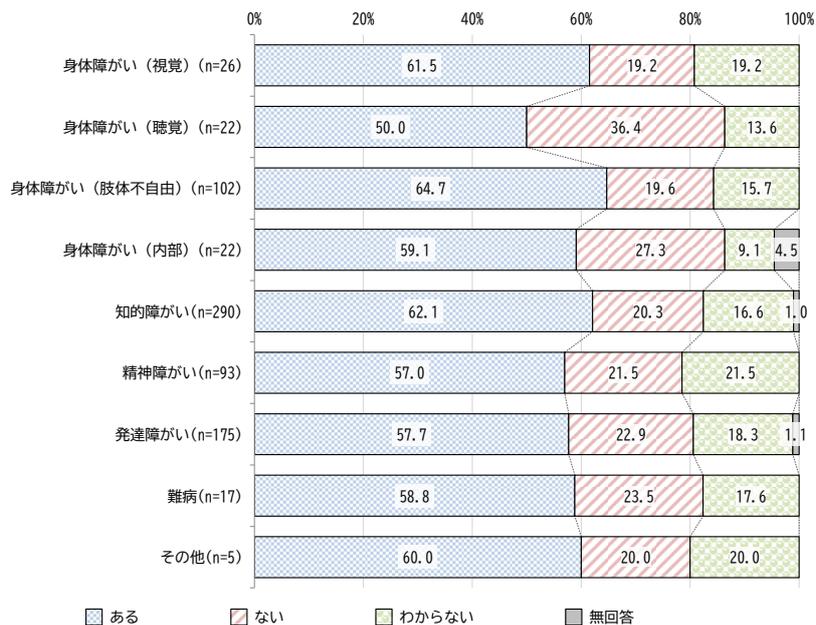
① 「知りたいこと」「知識をつけたいこと」について

- 情報が身近にあるかを居住地別にみると、どの居住地でも「ある」の割合が5割以上となっており、特に「別府市」では（77.1%）と他と比べてかなり高くなっています。
- 障がい種類別にみると、どの障がい種類でも「ある」が5割以上となっていますが、「身体障がい（聴覚）」では「ない」の割合が3割以上と、他と比べ高くなっています。

【居住地別】



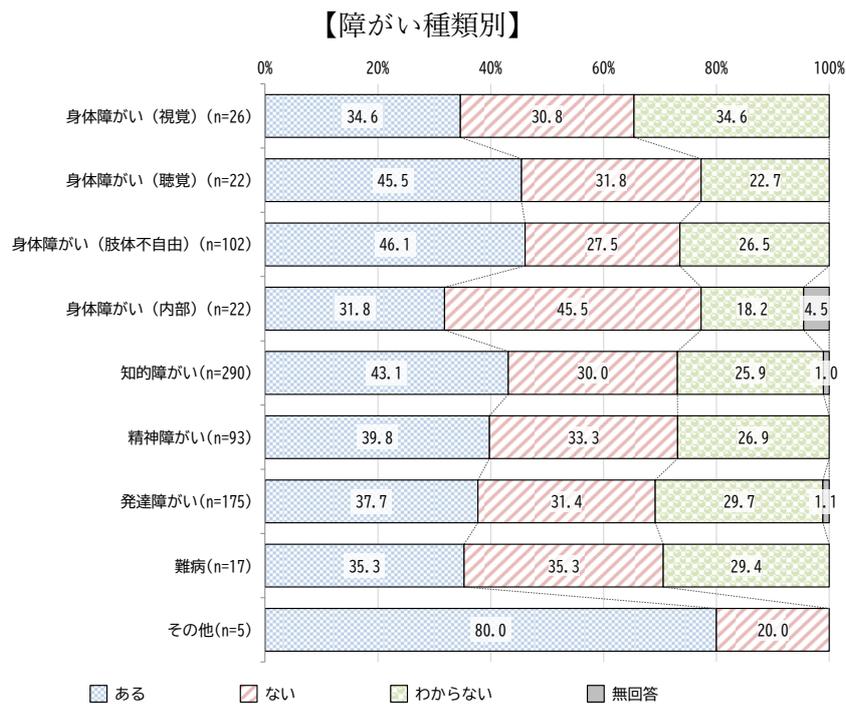
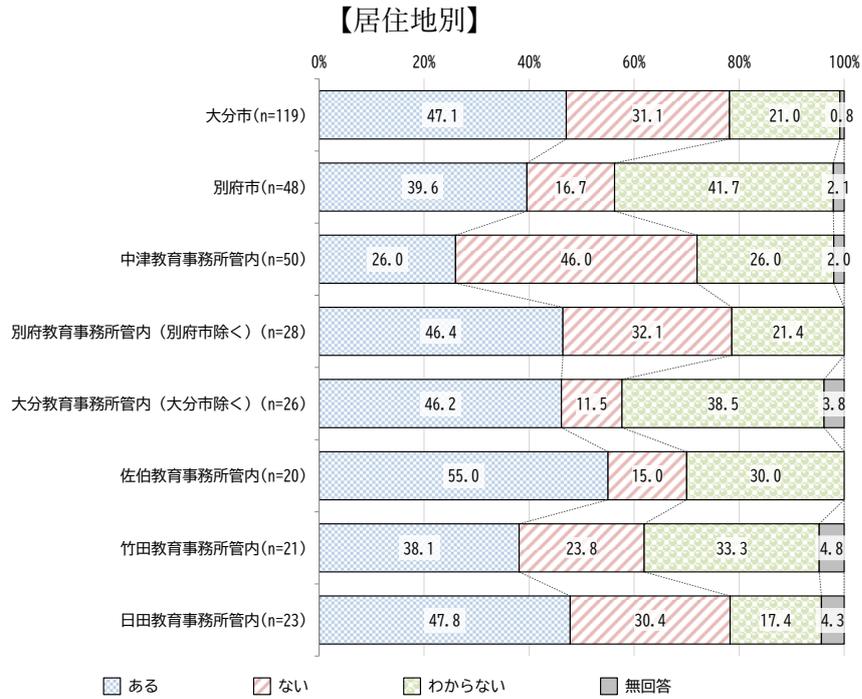
【障がい種類別】



Ⅲ. B：家族・職員・支援者等向けアンケート結果

② 「身につけたい技術」について

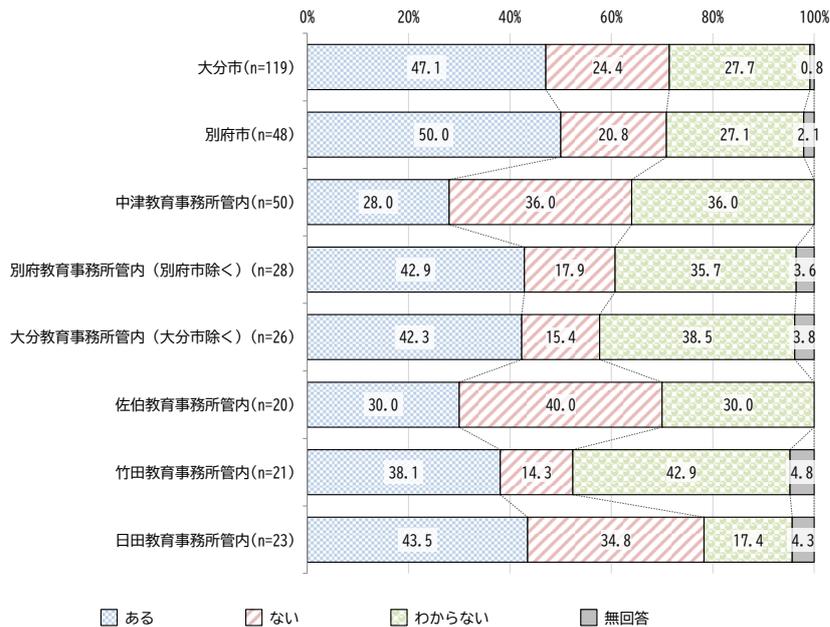
- 情報が身近にあるかを居住地別にみると、「別府教育事務所管内」では「わからない」が最も高くなっており、「中津教育事務所管内」では「ない」が最も高くなっていきます。
- 障がい種別別にみると、「身体障がい（内部）」では「ない」が4割を超え、もっとも高くなっています。



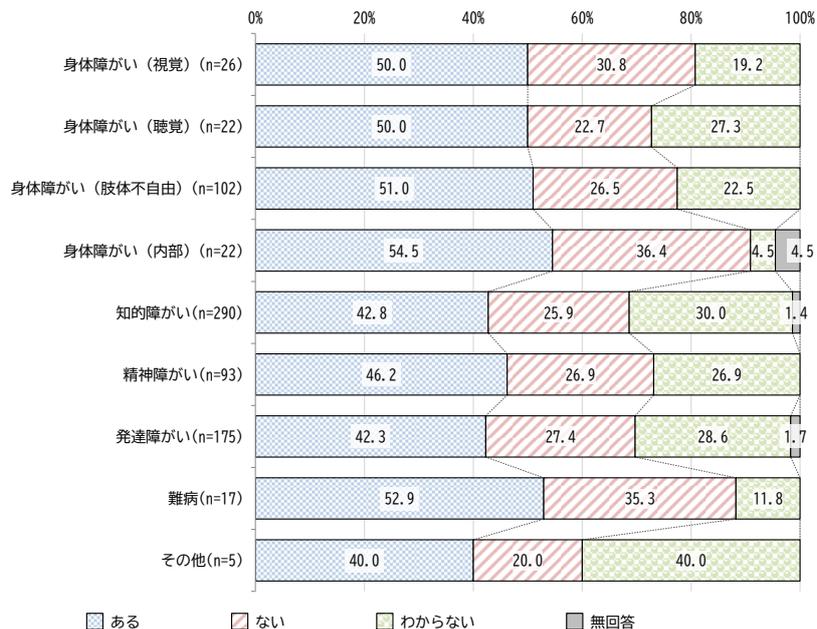
③ 「文化や芸術」について

- 情報が身近にあるかを居住地別にみると、「中津教育事務所管内」では「ない」「わからない」（ともに36.0%）が最も高くなっており、「佐伯教育事務所管内」では「ない」（40.0%）が、「竹田教育事務所管内」では「わからない」（42.9%）が最も高くなっています。
- 障がい種類別にみると、「身体障がい（視覚）」「身体障がい（内部）」「難病」では「ない」が3割を超え、他と比べ高くなっています。

【居住地別】



【障がい種類別】

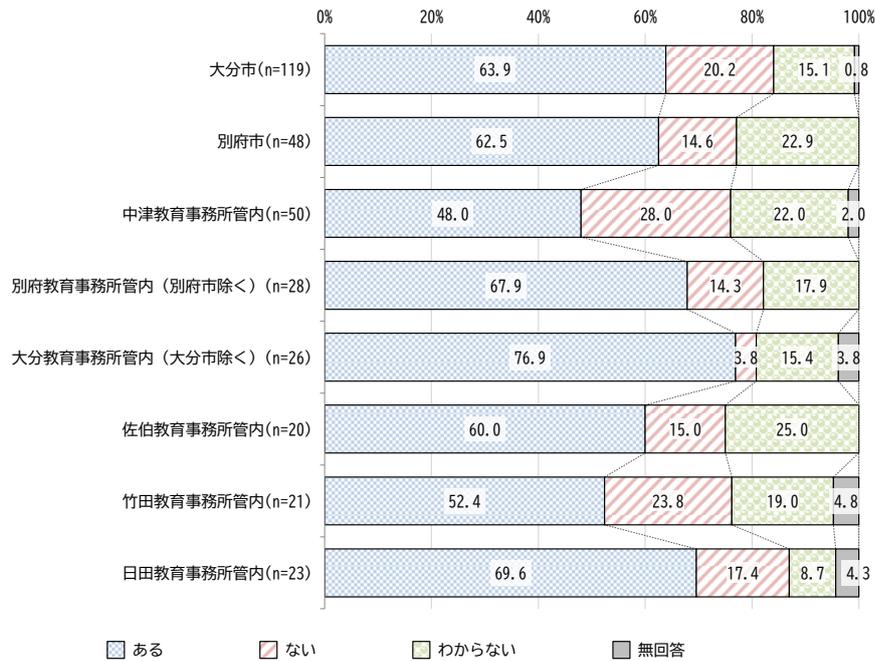


III. B：家族・職員・支援者等向けアンケート結果

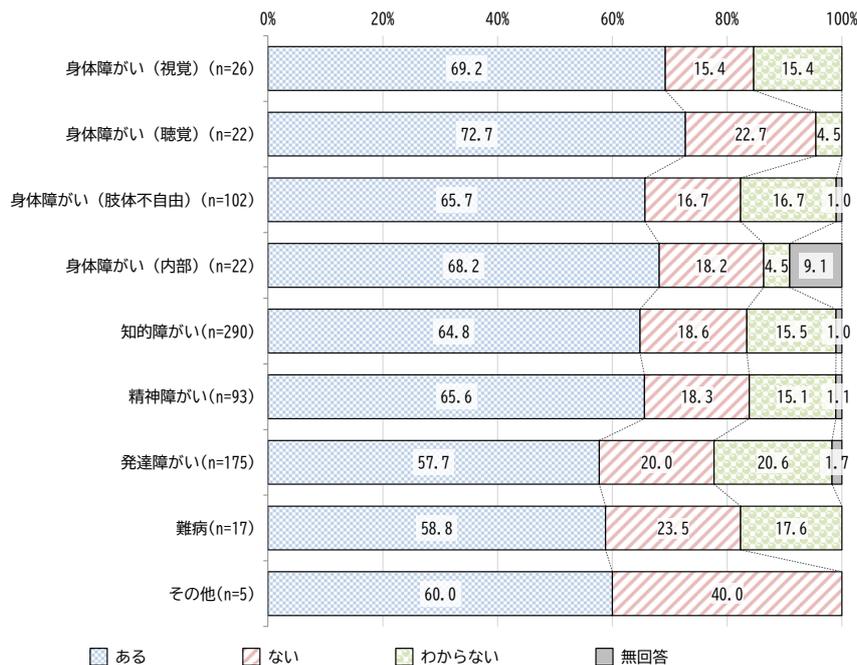
④ 「身体を動かすこと」「健康に関すること」について

- 情報が身近にあるかを居住地別にみると、どの居住地でも「ある」の割合が4割以上となっており、特に「大分教育事務所管内（大分市除く）」では（76.9%）と他と比べて高くなっています。
- 障がい種類別にみると、どの障がい種類でも「ある」の割合が5割以上となっており、特に「身体障がい（聴覚）」では（72.7%）と他と比べて高くなっています。

【居住地別】



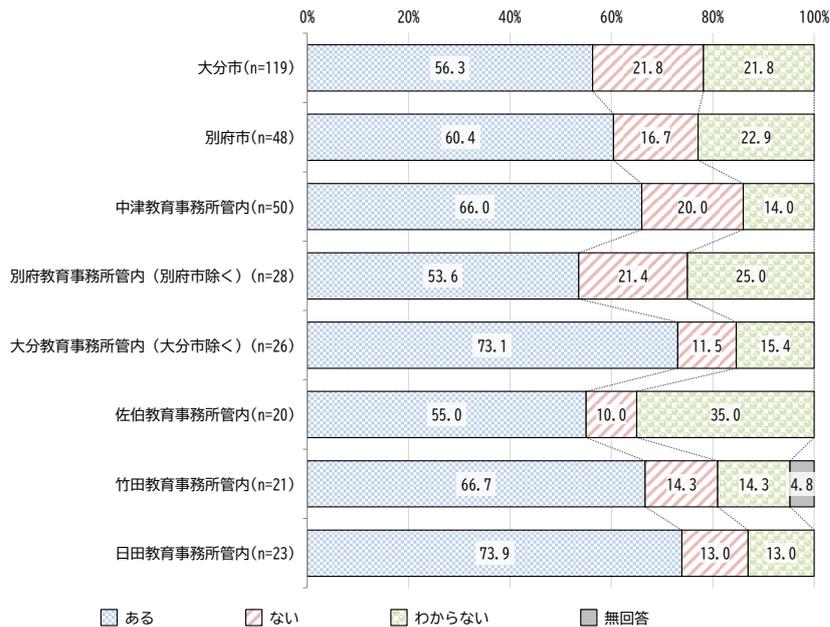
【障がい種類別】



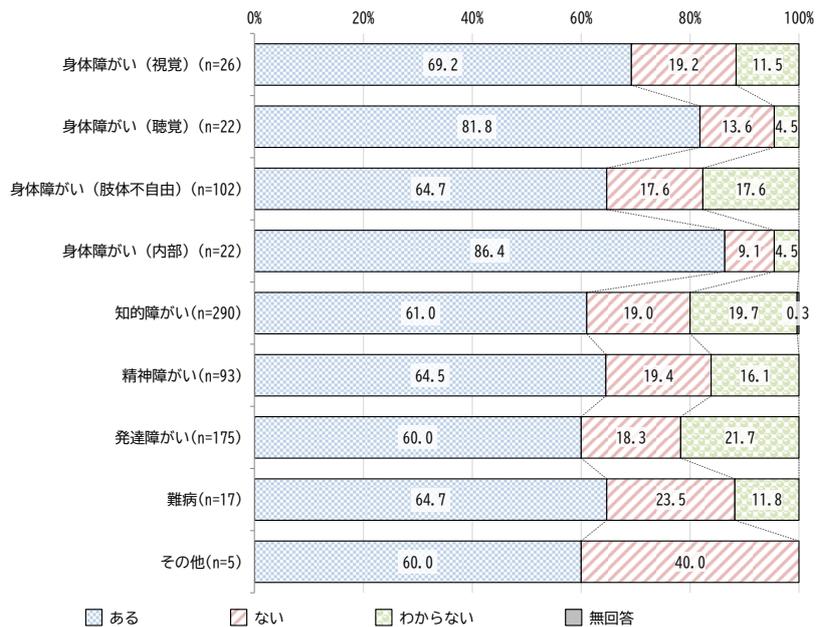
⑤ 「仲間と学び合うこと」「交流すること」について

- 情報が身近にあるかを居住地別にみると、どの居住地でも「ある」の割合が5割以上となっており、特に「大分教育事務所管内（大分市除く）」「日田教育事務所」では7割を超え、他と比べて高くなっています。
- 障がい種類別にみると、どの障がい種類でも「ある」の割合が6割以上となっており、特に「身体障がい（聴覚）」「身体障がい（内部）」では8割を超え、他と比べて高くなっています。

【居住地別】



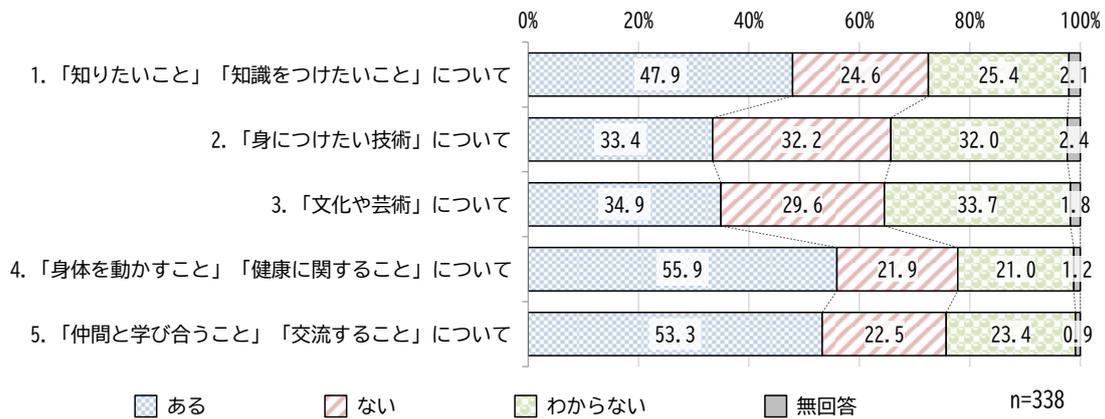
【障がい種類別】



III. B：家族・職員・支援者等向けアンケート結果

(2) 学ぶ場や機会（プログラム・講座など）

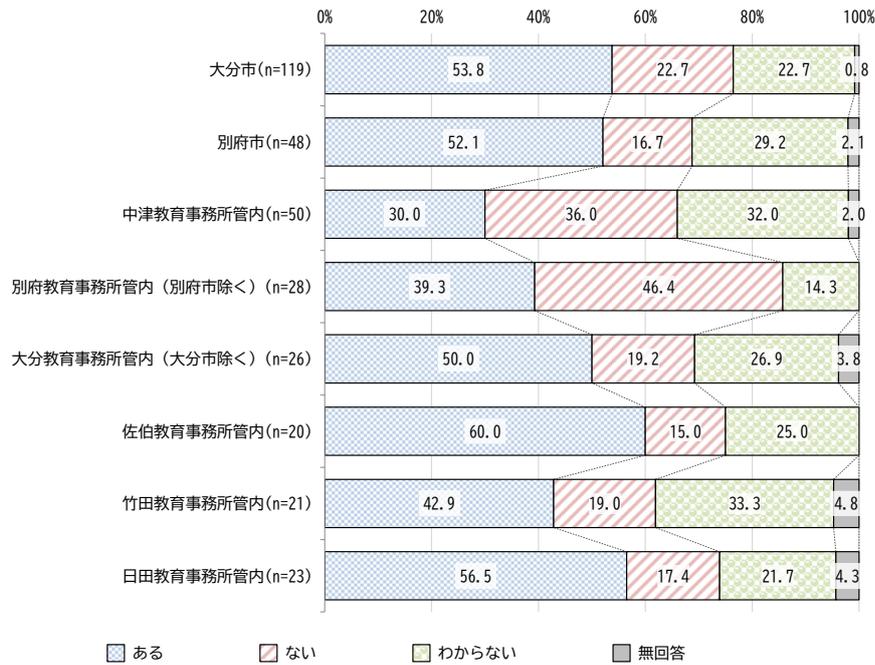
●学ぶ場や機会が身近にあるかについて、「ある」の割合が最も高いのは『「身体を動かすこと」「健康に関すること」について』（55.9%）、「ない」の割合が最も高いのは『「身につけたい技術」について』（32.2%）、「わからない」の割合が最も高いのは『「文化や芸術」について』（33.7%）となっています。



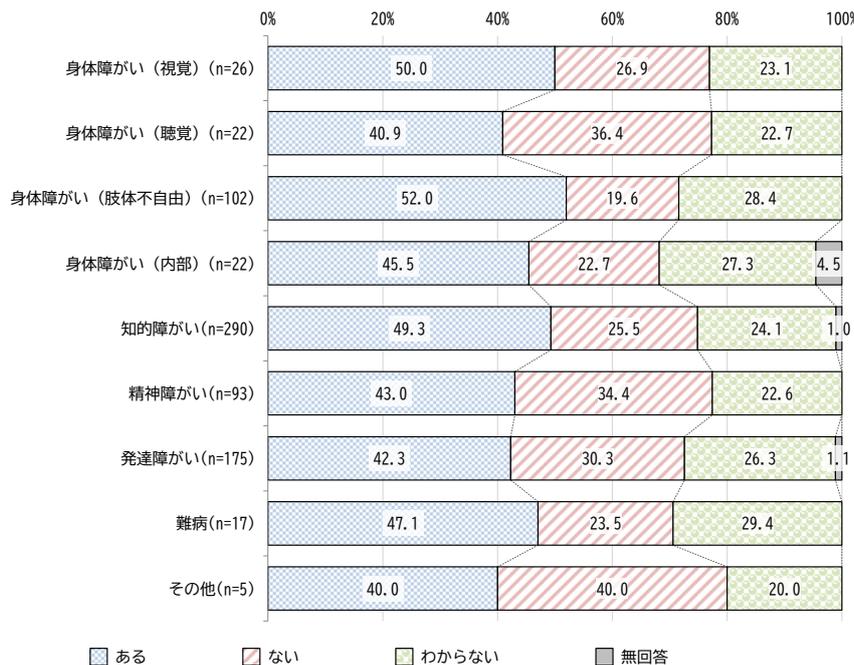
① 「知りたいこと」「知識をつけたいこと」について

- 学ぶ場や機会が身近にあるか居住地別にみると、「中津教育事務所管内」「別府教育事務所管内（別府市除く）」では「ない」の割合が最も高くなっています。
- 障がい種類別にみると、どの障がい種類でも「ある」の割合が4割以上となっており、特に「身体障がい（視覚）」「身体障がい（肢体不自由）」では5割を超え、他と比べて高くなっています。

【居住地別】



【障がい種類別】

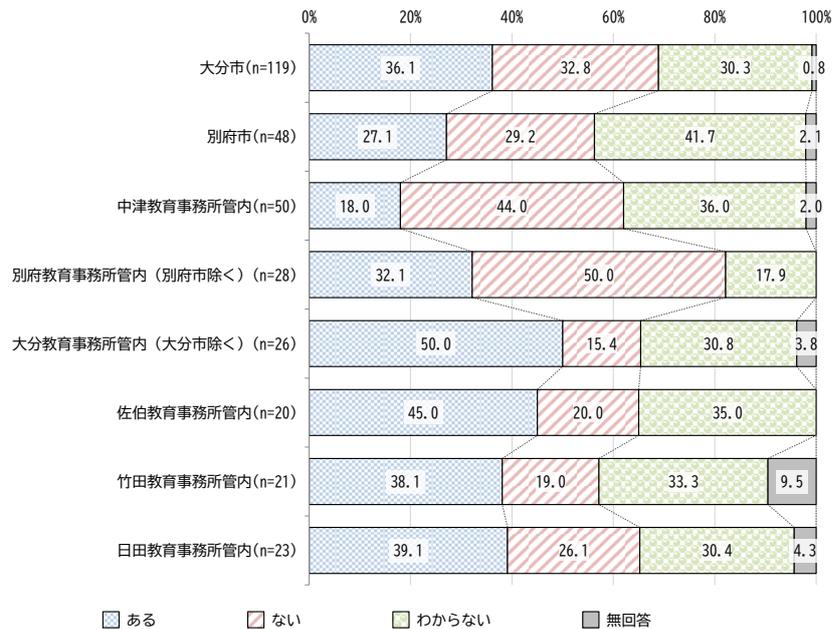


III. B：家族・職員・支援者等向けアンケート結果

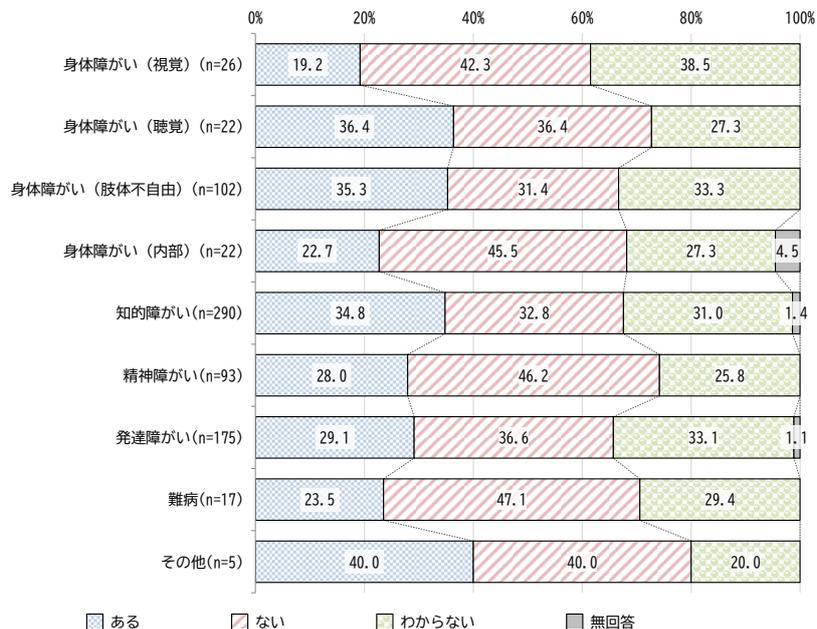
② 「身につけたい技術」について

- 学ぶ場や機会が身近にあるか居住地別にみると、「別府市」では「わからない」が最も高くなっており、「中津教育事務所管内」「別府教育事務所管内（別府市除く）」では「ない」の割合が最も高くなっていきます。
- 障がい種別別にみると、どの障がい種類でも「ない」の割合が3割以上となっており、特に「身体障がい（視覚）」「身体障がい（内部）」「精神障がい」「難病」では4割を超え、他と比べて高くなっていきます。

【居住地別】



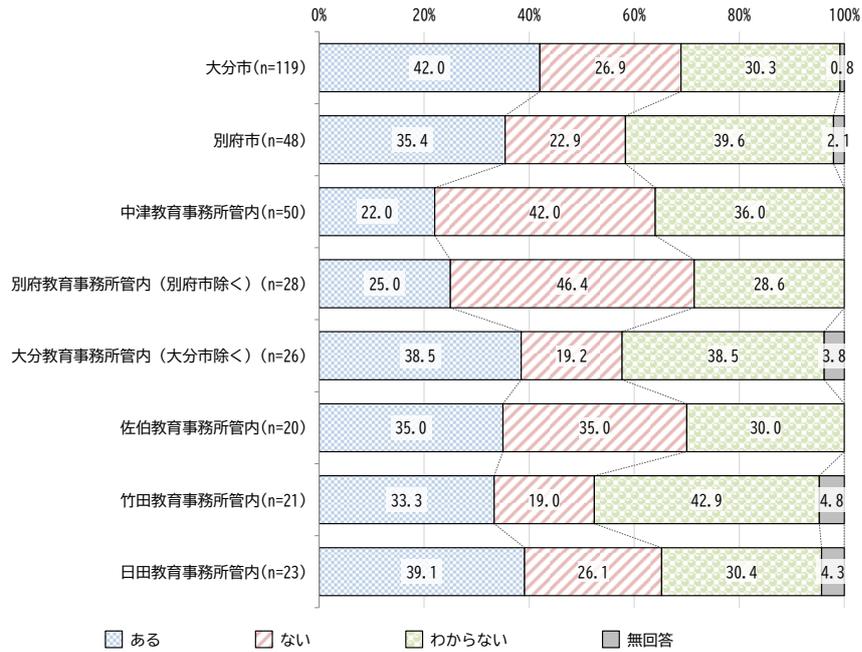
【障がい種別】



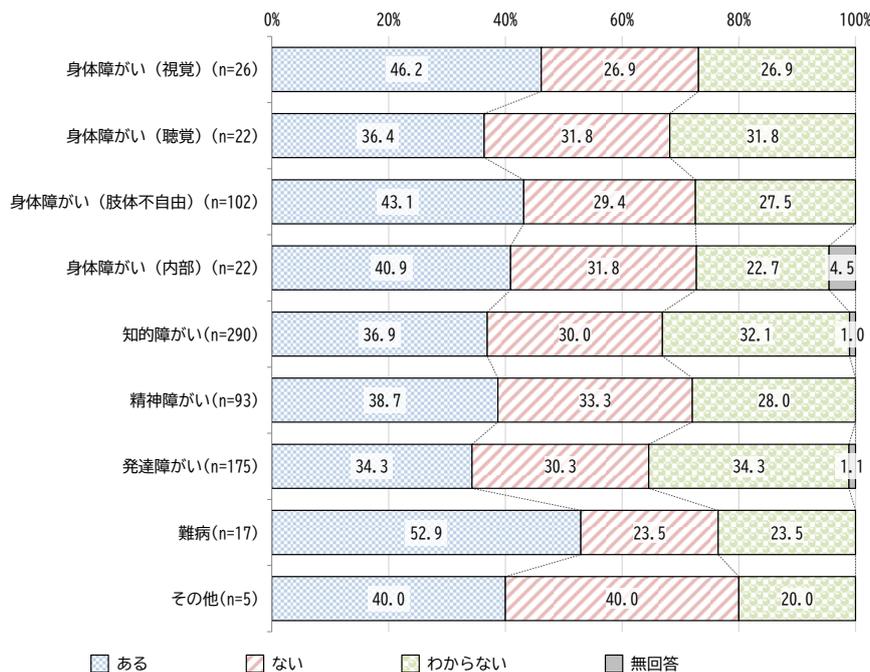
③ 「文化や芸術」について

- 学ぶ場や機会が身近にあるか居住地別にみると、「中津教育事務所管内」「別府教育事務所管内（別府市除く）」では「ない」の割合が最も高くなっており、4割を超えています。
- 障がい種類別にみると、「難病」では「ある」の割合が5割を超え、他と比べて高くなっています。

【居住地別】



【障がい種類別】

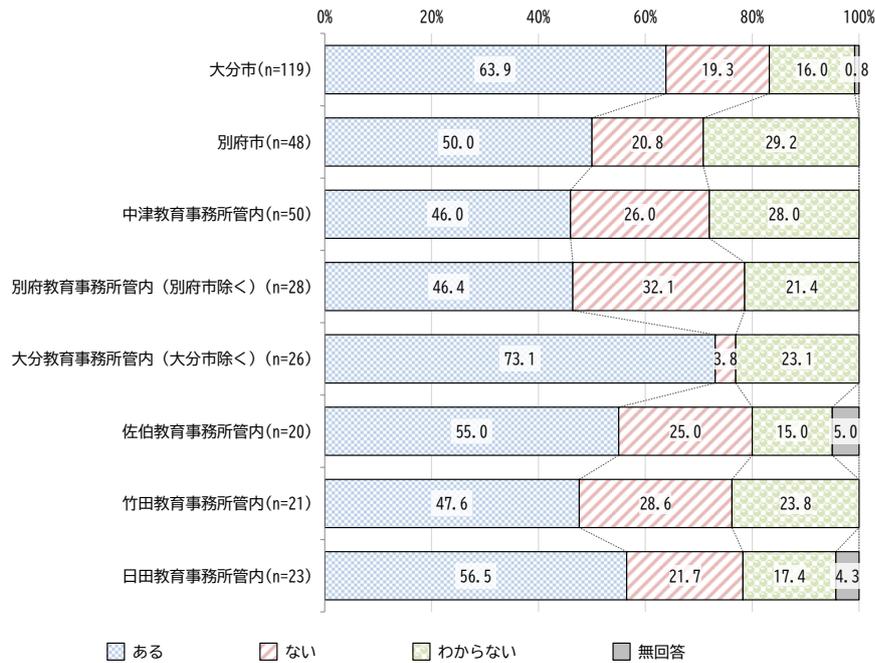


III. B：家族・職員・支援者等向けアンケート結果

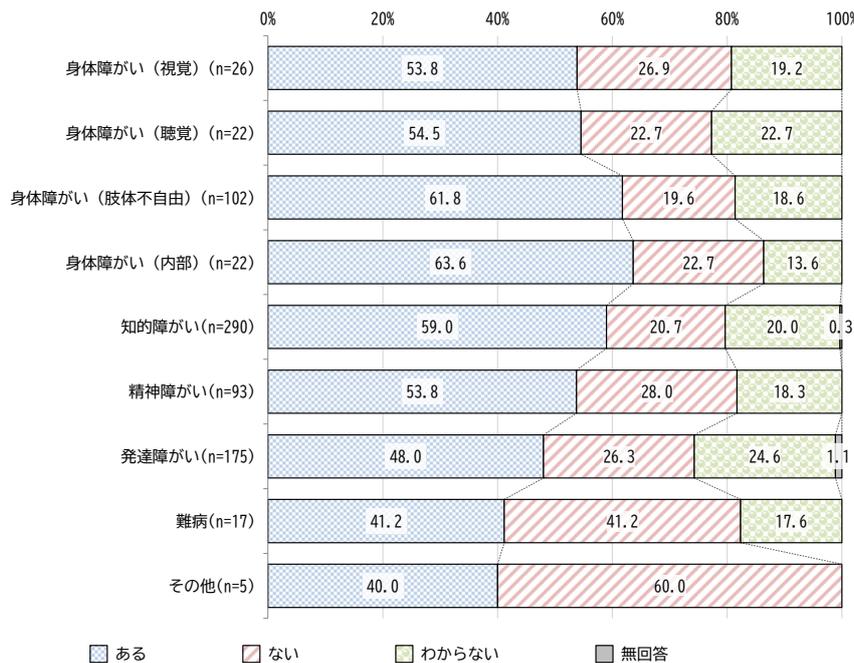
④ 「身体を動かすこと」「健康に関すること」について

- 学ぶ場や機会が身近にあるか居住地別にみると、どの居住地でも「ある」の割合が4割以上となっており、特に「大分教育事務所管内（大分市除く）」では（73.1%）と他と比べてかなり高くなっています。
- 障がい種類別にみると、「身体障がい（肢体不自由）」「身体障がい（内部）」では「ある」が6割を超え、他と比べ高くなっています。

【居住地別】



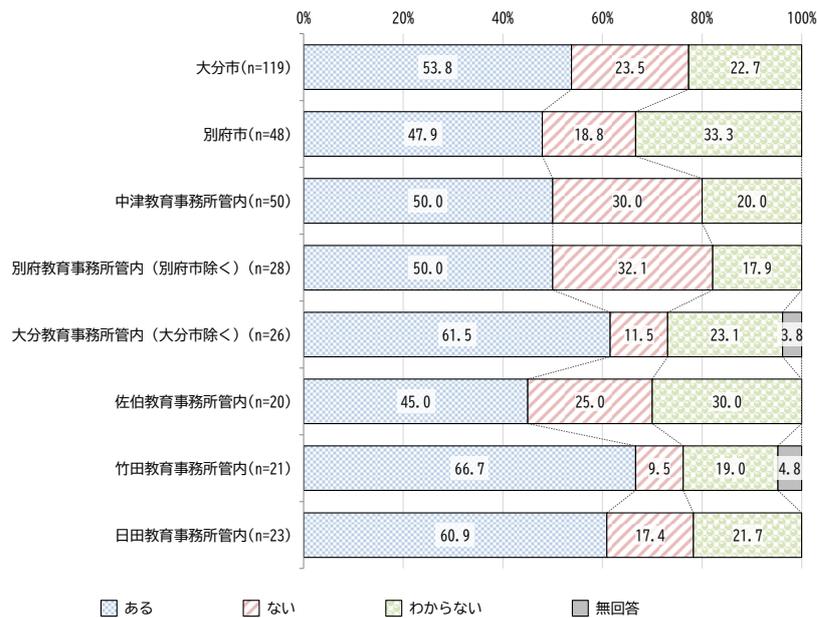
【障がい種類別】



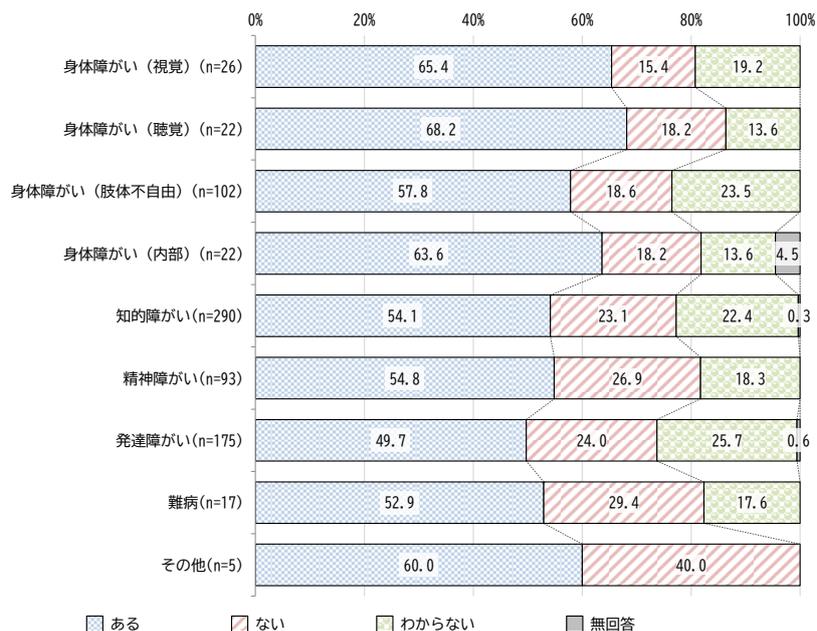
⑤ 「仲間と学び合うこと」「交流すること」について

- 学ぶ場や機会が身近にあるか居住地別にみると、どの居住地でも「ある」の割合が4割以上となっており、特に「大分教育事務所管内（大分市除く）」「竹田教育事務所管内」「日田教育事務所管内」では6割を超え、他と比べてかなり高くなっています。
- 障がい種類別にみると、どの障がい種類でも「ある」の割合が4割以上となっており、特に「身体障がい（視覚）」「身体障がい（聴覚）」「身体障がい（内部）」では「ある」が6割を超え、他と比べ高くなっています。

【居住地別】



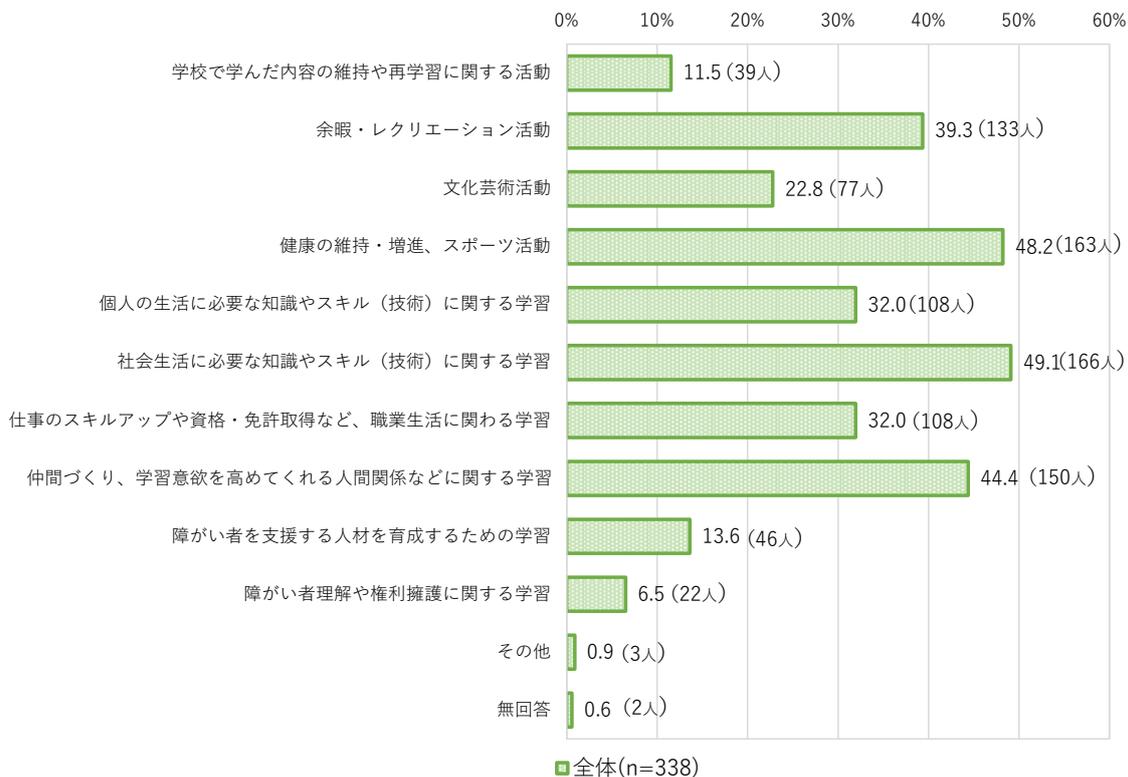
【障がい種類別】



III. B：家族・職員・支援者等向けアンケート結果

問5 障がいのある人にとって、次の1～11のうち、どのような生涯学習活動があると良いと思いますか。（優先度の高いもの3つ）（複数回答可）

- 障がいのある方にとって良いと思う生涯学習活動では、「社会生活に必要な知識やスキル（技術）に関する学習」（49.1％）の割合が最も高く、次いで「健康の維持・増進、スポーツ活動」（48.2％）、「仲間づくり、学習意欲を高めてくれる人間関係などに関する学習」（44.4％）となっています。
- 居住地別にみると、「竹田教育事務所管内」では「社会生活に必要な知識やスキル（技術）に関する学習」（76.2％）の割合が他と比べかなり高くなっています。
- 障がい種類別にみると、「身体障がい（視覚）」「身体障がい（聴覚）」では「仲間づくり、学習意欲を高めてくれる人間関係などに関する学習」の割合が最も高く、それ以外では「社会生活に必要な知識やスキル（技術）に関する学習」の割合が最も高くなっています。



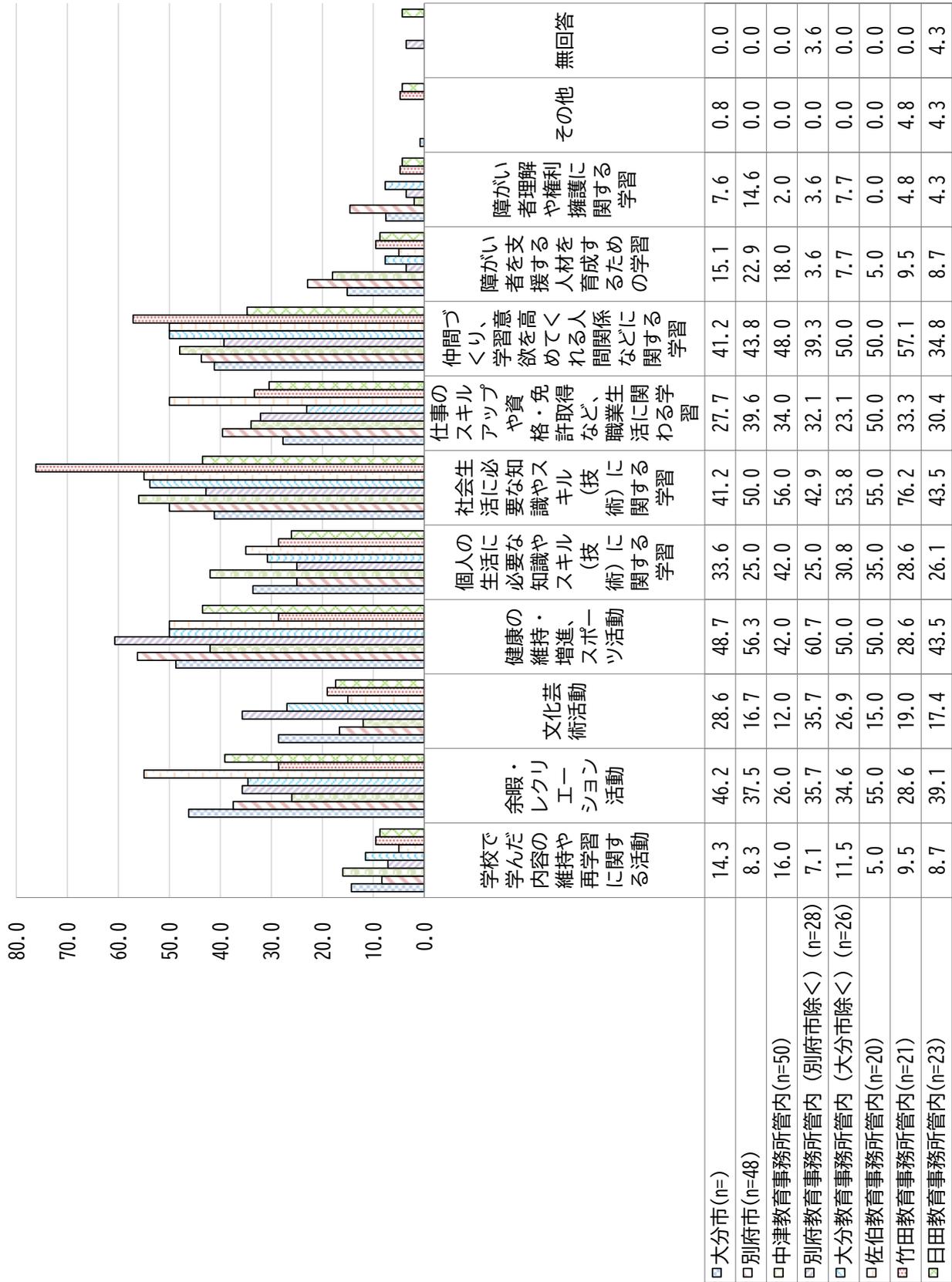
() 内は実数

【障がいのある方に対しあると良い生涯学習活動 その他】

- ◆学習にも付けない人が安心して活動できる場所がないのに、1～10の学習なんて考えられない。

問5 どのような生涯学習活動があると良いと思いますか。(複数回答可)

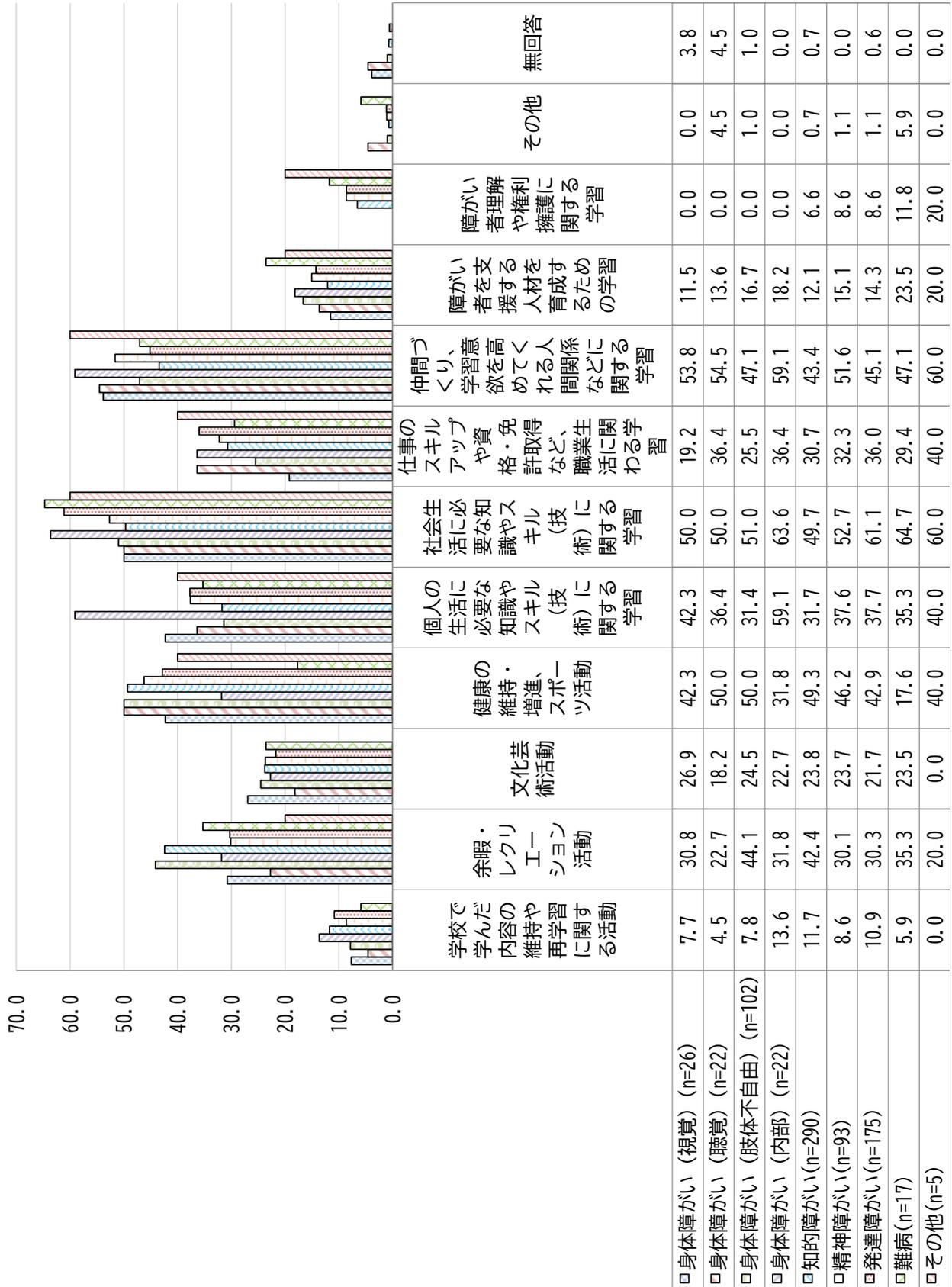
【居住地別】



III. B：家族・職員・支援者等向けアンケート結果

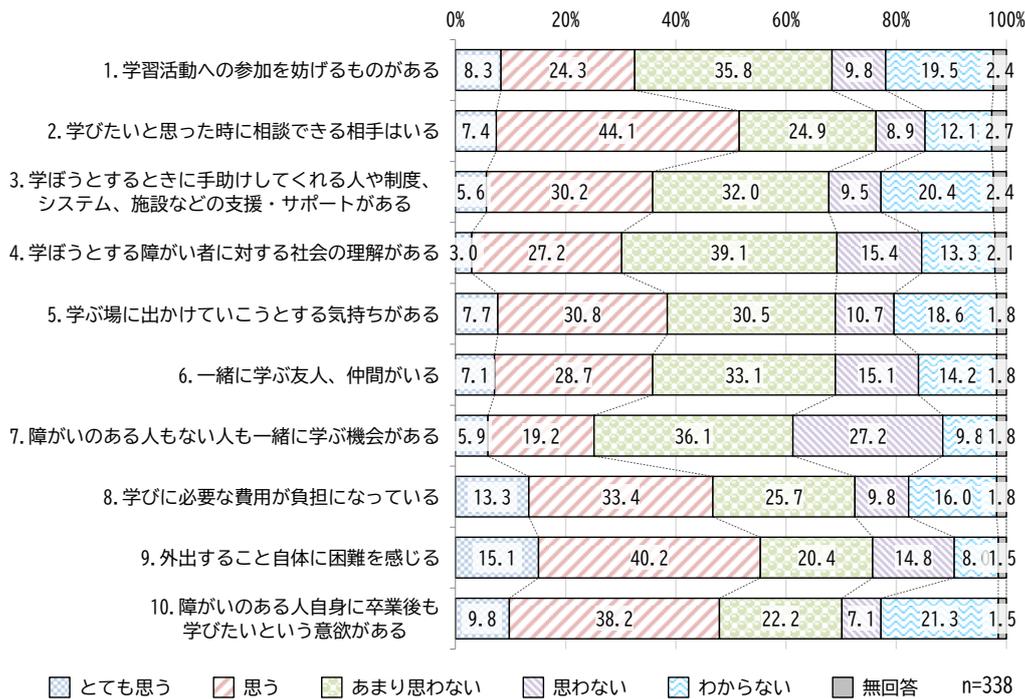
問5 どのような生涯学習活動があると良いと思いますか。(複数回答可)

【障がい種類別】



問6 障がいのある人が生涯学習活動を続けていく上で、次の1～10それぞれの項目についてどのように思いますか。

●障がいのある方が生涯学習活動を続けていく上での思いでは、『思う：「とても思う」「思う」をあわせた割合』が最も高いのは「外出すること自体に困難を感じる」(55.3%)、『思わない：「あまり思わない」「思わない」をあわせた割合』が最も高いのは「障がいのある人もない人も一緒に学ぶ機会がある」(63.3%)となっています。



【学習活動への参加を妨げるもの】

- ◆機会や場の提供、交流の場がない ◆本人の意欲 ◆コロナ
- ◆金銭面、交通手段、移動手段の確保（肢体不自由）
- ◆障害内容により施設までの距離、活動、資金
- ◆個別の障がい程度に応じた学習ではない
- ◆人の特性にそれぞれ見合ったサポート体制がない
- ◆支援者不足、障がいを理解して指導できる人がいない
- ◆支援する側に大きな温度差があるため
- ◆学びたいと思ったときの手段がわからないのではないか
- ◆学びたいという意思を発信するのが難しい
- ◆福祉が充実しているので学習や生活力をつける必要はないと言われる
- ◆生涯学習よりも目先の楽しさや楽なことに走ってしまう

Ⅲ. B：家族・職員・支援者等向けアンケート結果

- ◆情報を得るハードルが高い、相談できる人はいいが、出来ない人は一定数いる
- ◆盲ろうがある人の場合、肢体等も周りが過保護になったり、両親が先に全部やってあげてしまう（経験不足）
- ◆本人、家族のコミュニケーション力不足 ◆ハード、ソフト両面での環境
- ◆社会一般の目、周囲の理解、認知されていない部分は大きい
- ◆地域によっては機会がない ◆積極的な働きかけが少ない社会
- ◆県の許可、補助、昔ながらの教育委員会の怠慢

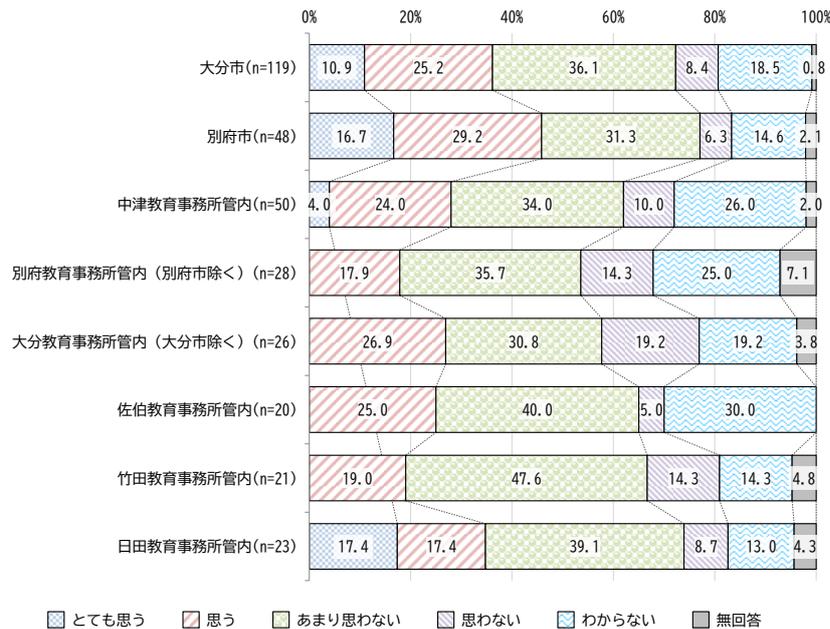
【学ぶ際の必要なサポート等】

- ◆相談支援、福祉事業所 ◆スクールサポートの方、スクールソーシャルワーカーの方
- ◆相談員さんとの連携 ◆就労の情報や県・国の機関との連携が欲しい
- ◆福祉サービス、事業所、支援員 ◆支援員や相談員からの社会資源等の紹介
- ◆卒業後支援 ◆身の周りの介助者 ◆家族 ◆障害者職業センターによる職業準備支援
- ◆一応あると市ではなっているが、現状で利用できない
- ◆学校、デイサービス、デイケア、コミュニティスクール など

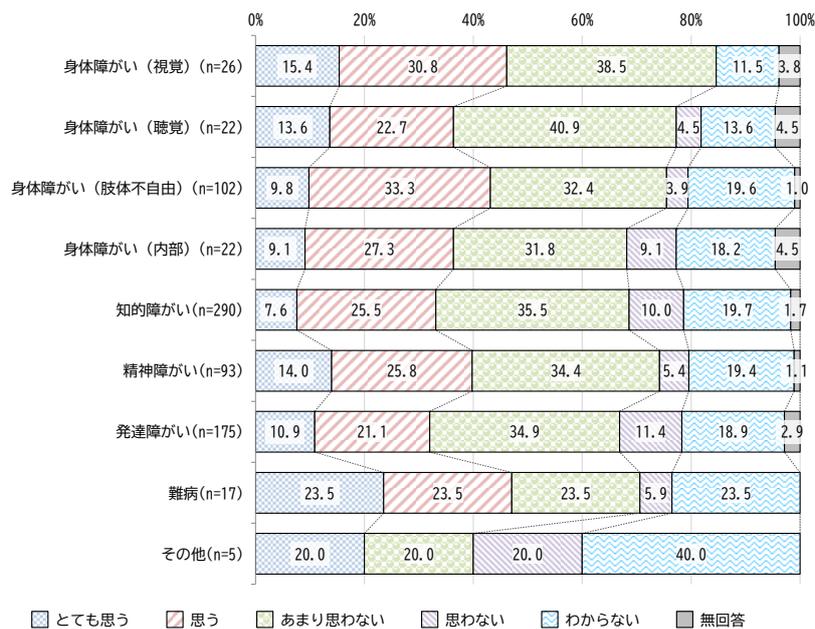
① 学習活動への参加を妨げるものがある

- 居住地別にみると、どの居住地でも「あまり思わない」の割合が高くなっており、特に「竹田教育事務所管内」「日田教育事務所管内」では4割を超え、他と比べて高くなっています。
- 障がい種類別にみると、どの障がい種類でもどの居住地でも「あまり思わない」の割合が高くなっており、特に「身体障がい（聴覚）」では4割を超え、他と比べ高くなっています。

【居住地別】



【障がい種類別】

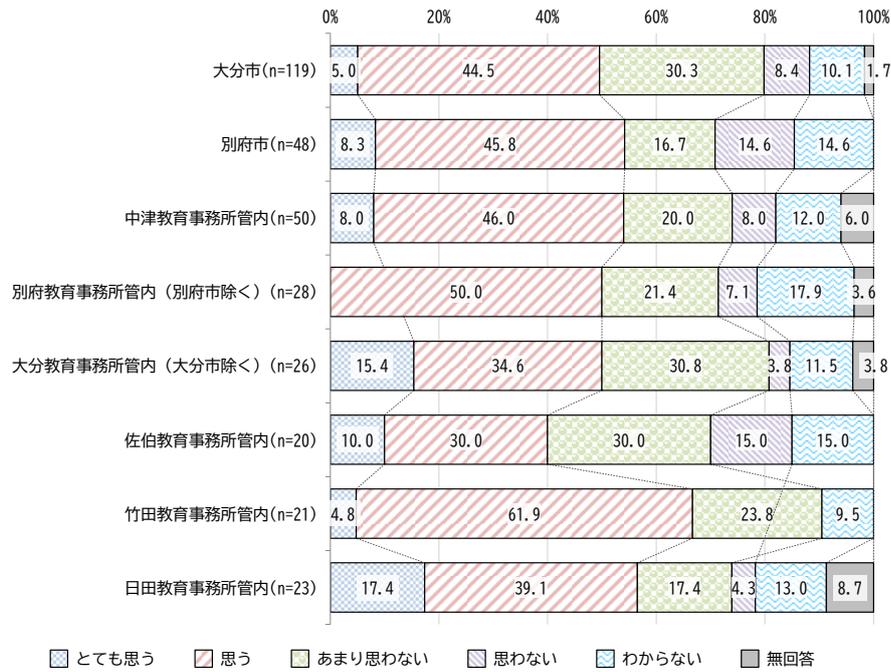


III. B：家族・職員・支援者等向けアンケート結果

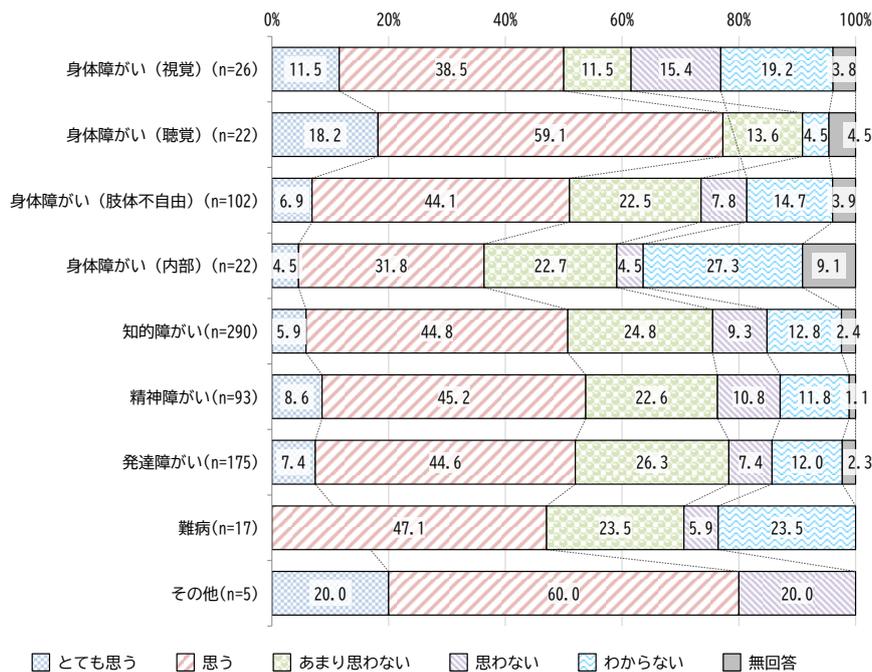
② 学びたいと思った時に相談できる相手はいる

- 居住地別にみると、どの居住地でも「思う」の割合が高くなっており、特に「竹田教育事務所管内」では6割を超え、他と比べて高くなっています。
- 障がい種類別にみると、どの障がい種類でも「思う」の割合が高くなっており、特に「身体障がい（聴覚）」では約6割と、他と比べ高くなっています。

【居住地別】



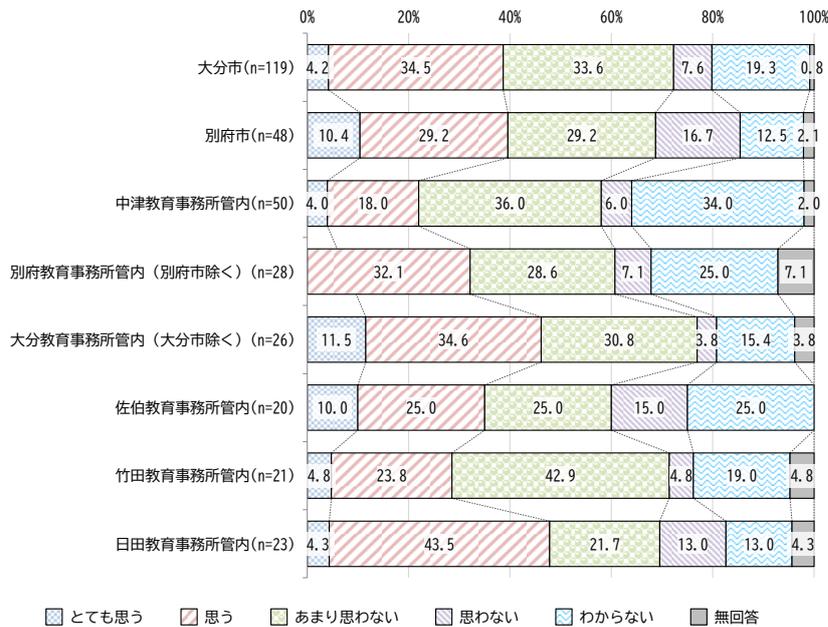
【障がい種類別】



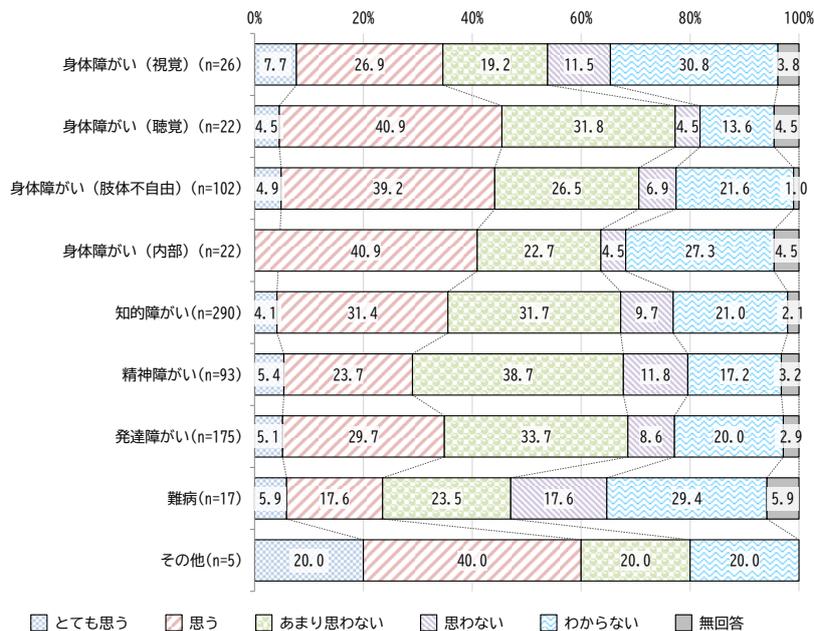
③ 学ぼうとするときには手助けしてくれる人や制度、システム、施設などの支援・サポートがある

- 居住地別にみると、「大分市」「別府教育事務所管内（別府市除く）」「大分教育事務所管内（大分市除く）」「日田教育事務所管内」では「思う」の割合が高くなっており、「竹田教育事務所管内」「中津教育事務所管内」では「あまり思わない」の割合が高くなっています。
- 障がい種類別にみると、「身体障がい（聴覚）」「身体障がい（内部）」では「思う」の割合が4割以上となっており、他と比べ高くなっています。

【居住地別】



【障がい種類別】

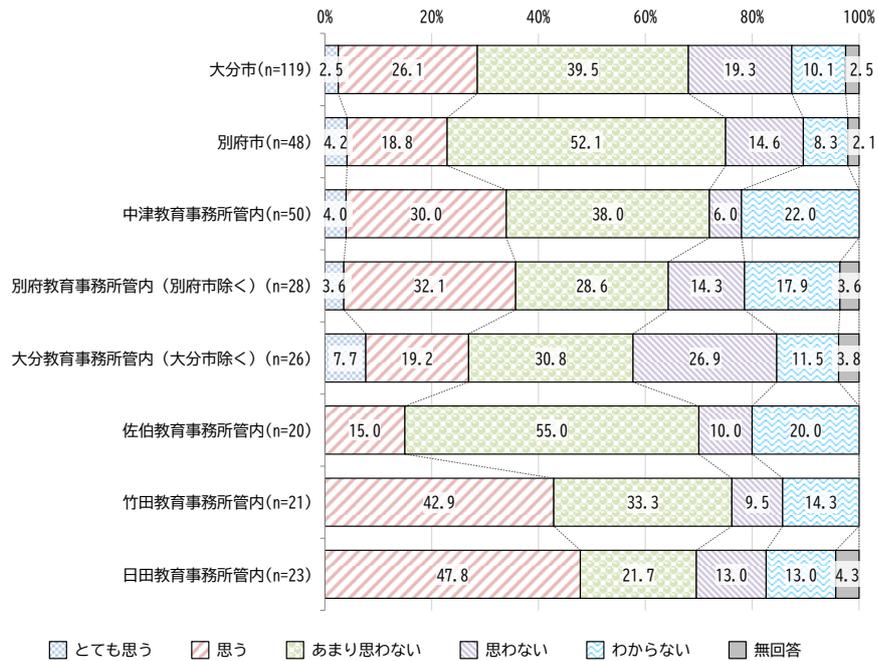


III. B：家族・職員・支援者等向けアンケート結果

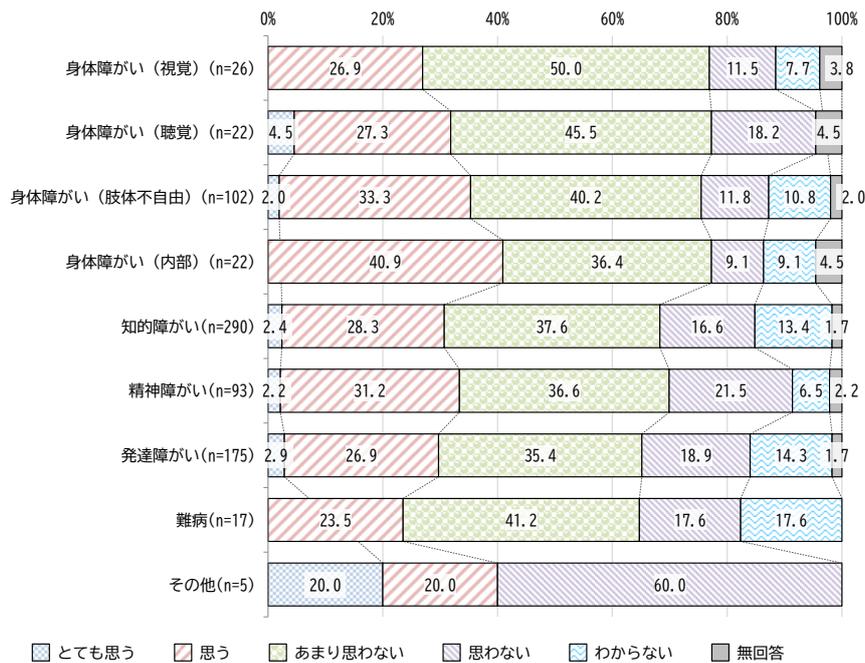
④ 学ぼうとする障がい者に対する社会の理解がある

- 居住地別にみると、「竹田教育事務所管内」「中津教育事務所管内」では「思う」の割合が4割以上と、他と比べ高くなっているのに対し、「別府市」「佐伯教育事務所管内」では「あまり思わない」の割合が5割以上と、他と比べ高くなっています。
- 障がい種類別にみると、「身体障がい（視覚）」では「思わない」の割合が5割となっており、他と比べ高くなっています。

【居住地別】



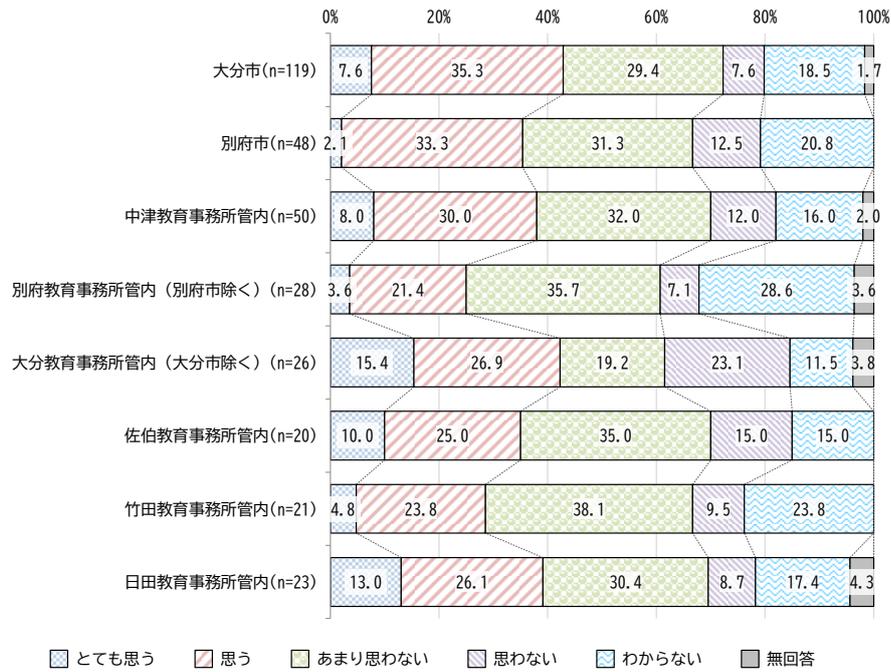
【障がい種類別】



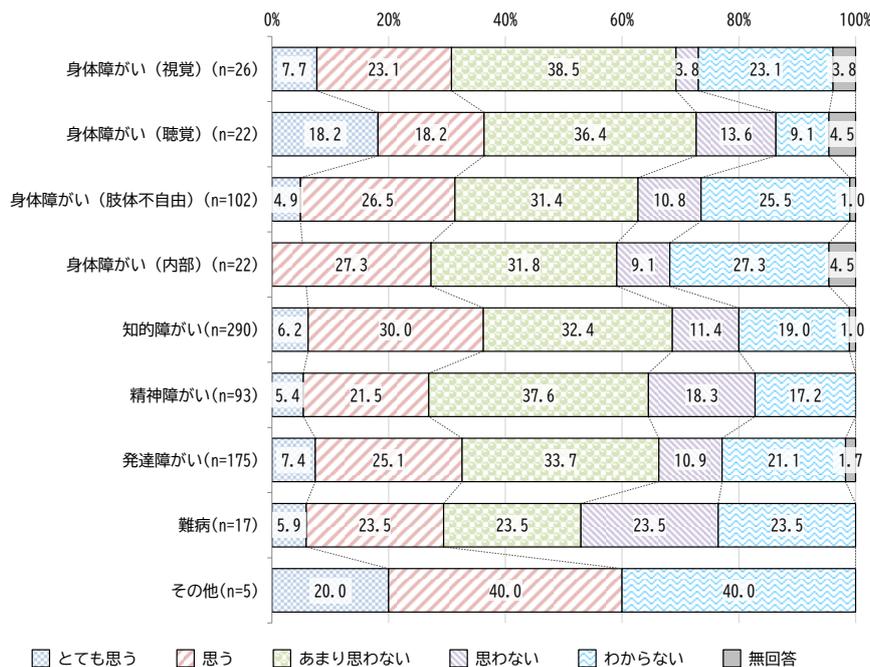
⑤ 学ぶ場に出かけていこうとする気持ちがある

- 居住地別にみると、「大分市」「別府市」「大分教育事務所管内（大分市除く）」では「思う」の割合が高くなっているのに対し、それ以外では「あまり思わない」の割合が高くなっています。
- 障がい種類別にみると、全体的に「あまり思わない」の割合が高くなっています。

【居住地別】



【障がい種類別】

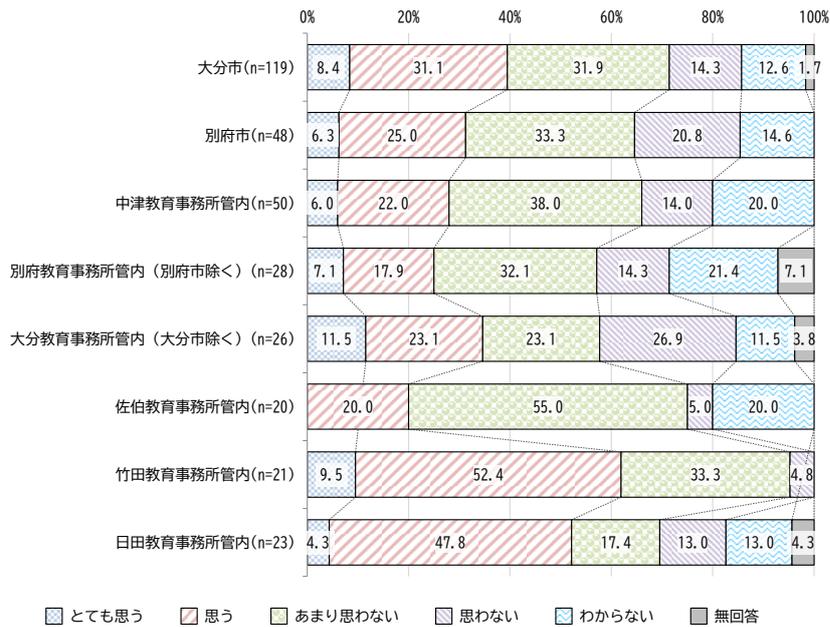


III. B：家族・職員・支援者等向けアンケート結果

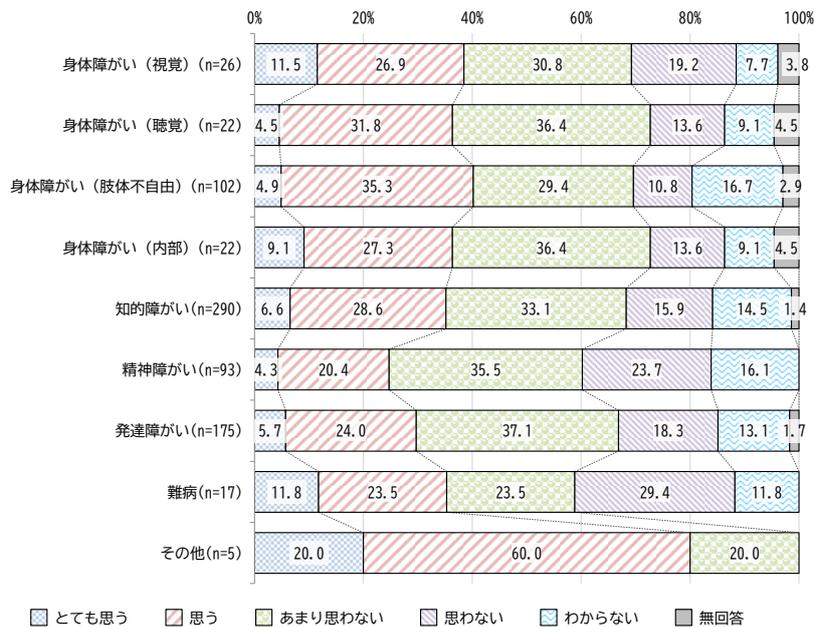
⑥ 一緒に学ぶ友人、仲間がいる

- 居住地別にみると、「竹田教育事務所管内」「日田教育事務所管内」では「思う」の割合が約5割と、他と比べ高くなっているのに対し、「佐伯教育事務所管内」では「あまり思わない」の割合が5割以上と、他と比べ高くなっています。
- 障がい種類別にみると、「身体障がい（肢体不自由）」では「思う」の割合が、「難病」では「思わない」が高くなっていますが、それ以外は「あまり思わない」の割合が高くなっています。

【居住地別】



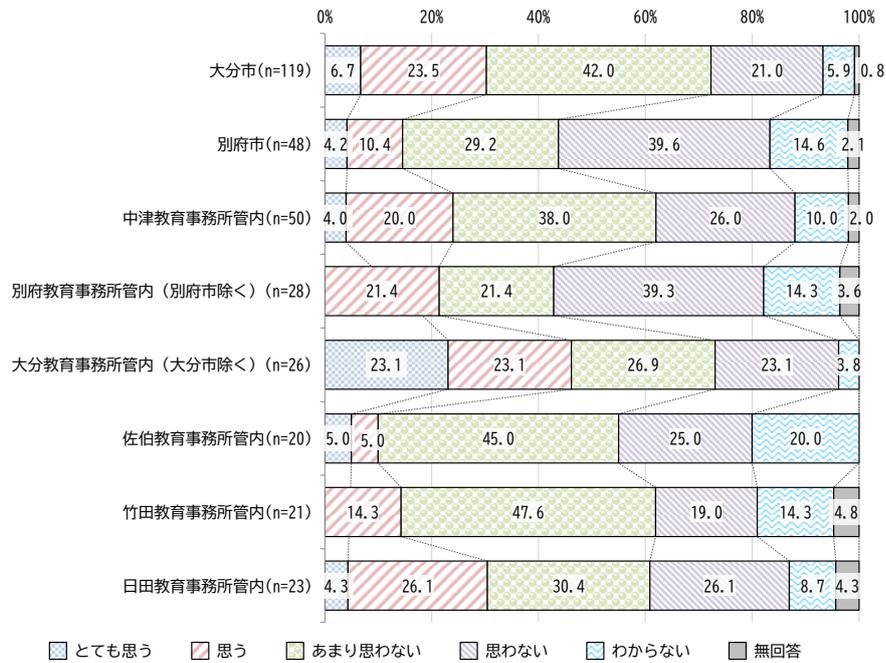
【障がい種類別】



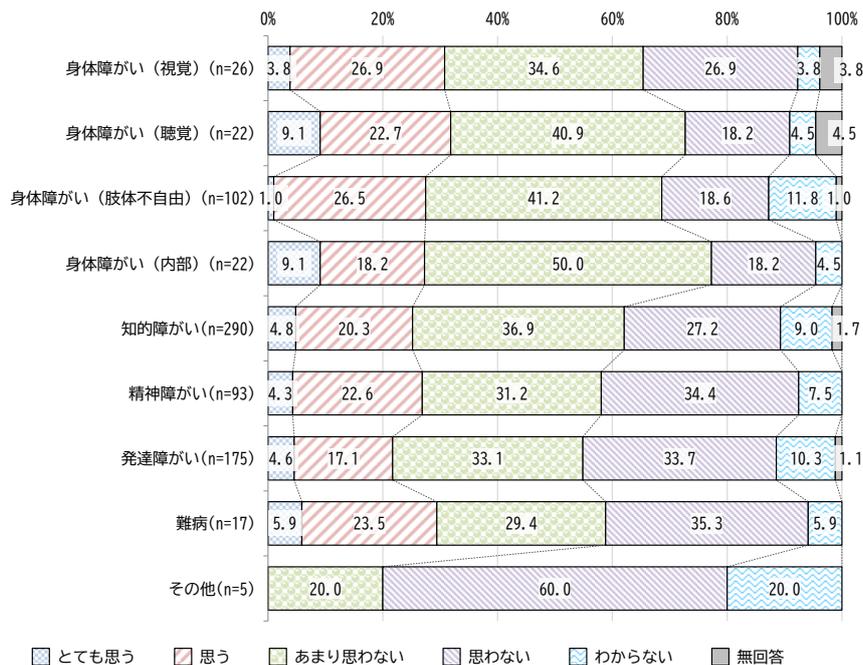
⑦ 障がいのある人もない人も一緒に学ぶ機会がある

- 居住地別にみると、「大分市」「佐伯教育事務所管内」「竹田教育事務所管内」では「あまり思わない」の割合が4割以上と、他と比べ高くなっています。
- 障がい種類別にみると、全体的に「あまり思わない」「思わない」の割合が高くなっており「身体障がい（内部）」では「あまり思わない」の割合が5割と、他と比べ高くなっています。

【居住地別】



【障がい種類別】

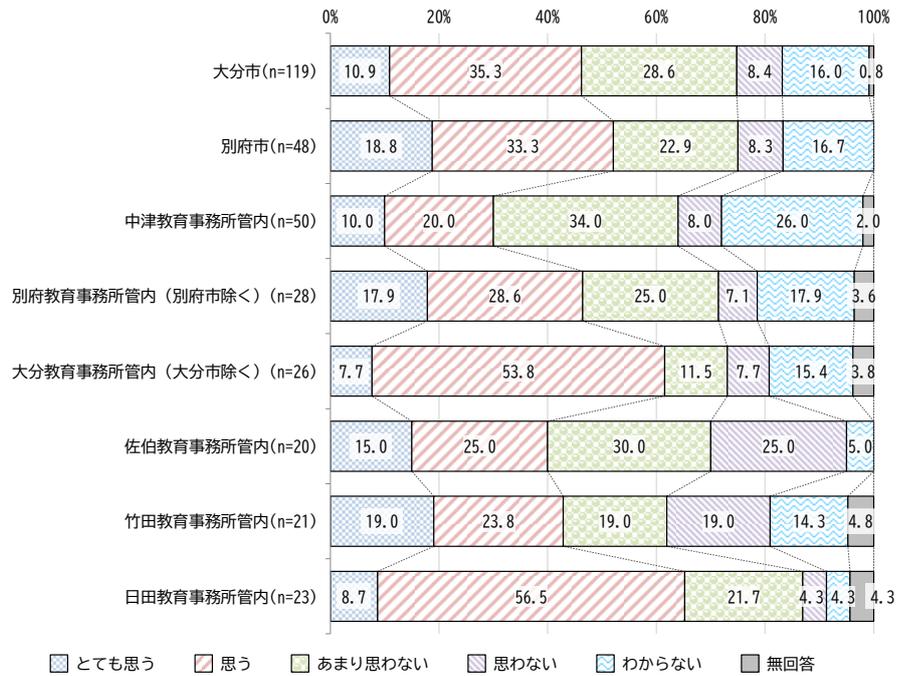


III. B：家族・職員・支援者等向けアンケート結果

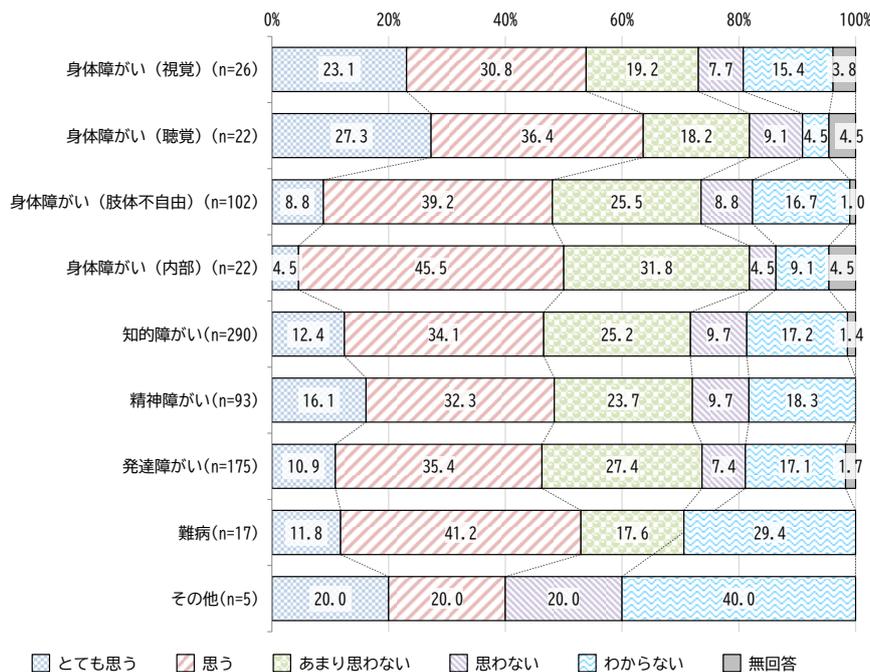
⑧ 学びに必要な費用が負担になっている

- 居住地別にみると、「大分教育事務所管内（大分市除く）」「日田教育事務所管内」では「思う」の割合が5割以上と、他と比べ高くなっています。
- 障がい種類別にみると「身体障がい（内部）」「難病」では「思う」の割合が4割以上と、他と比べ高くなっています。

【居住地別】



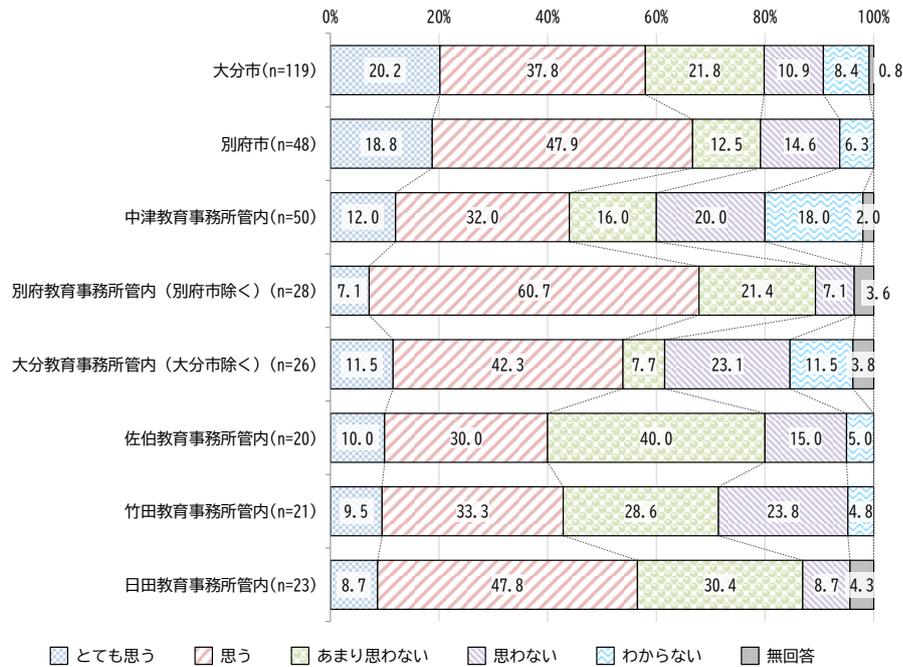
【障がい種類別】



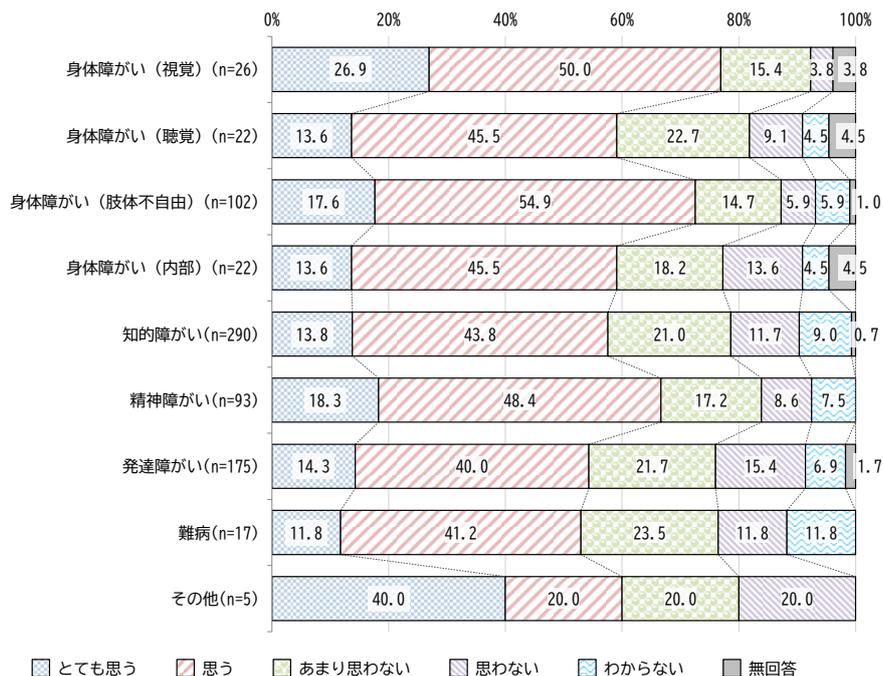
⑨ 外出すること自体に困難を感じる

- 居住地別にみると、「別府教育事務所管内（別府市除く）」では「思う」の割合が6割以上と、他と比べ高くなっています。
- 障がい種類別にみると「身体障がい（視覚）」「身体障がい（肢体不自由）」では「思う」の割合が5割以上と、他と比べ高くなっています。

【居住地別】



【障がい種類別】

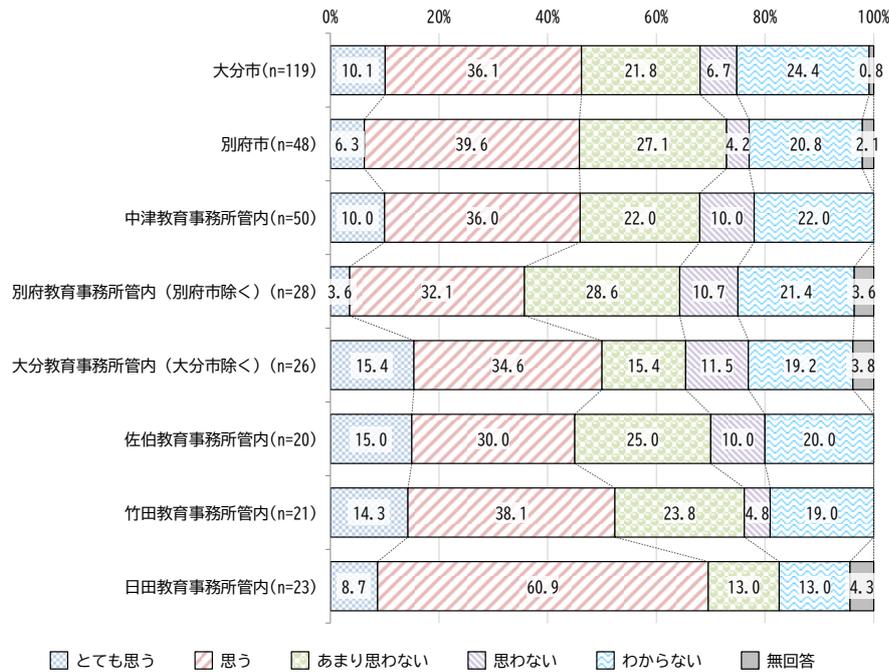


III. B：家族・職員・支援者等向けアンケート結果

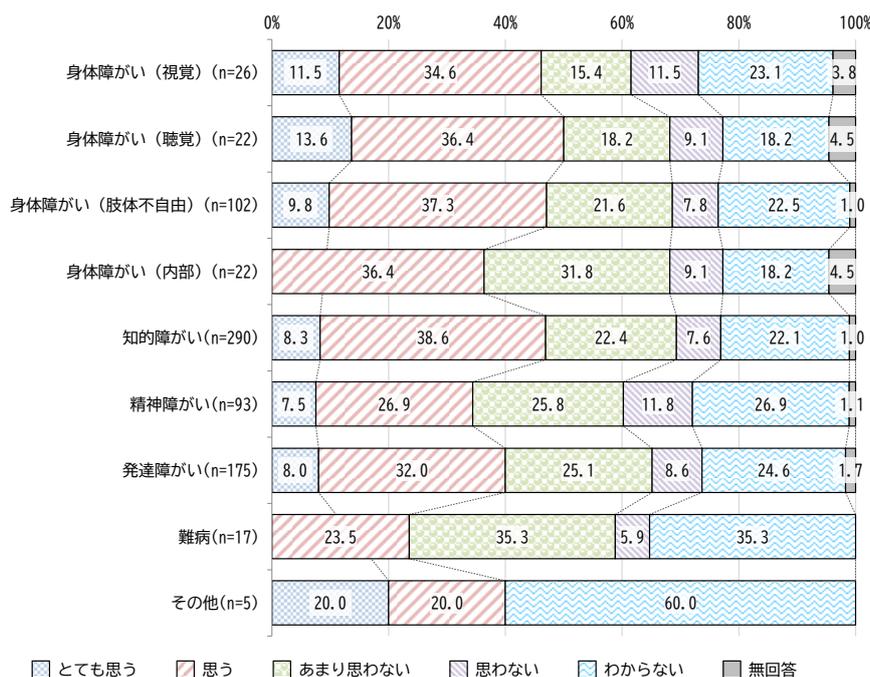
⑩ 障がいのある人自身に卒業後も学びたいという意欲がある

- 居住地別にみると、「日田教育事務所管内」では「思う」の割合が6割以上と、他と比べ高くなっています。
- 障がい種類別にみると「難病」では「あまり思わない」「わからない」の割合が高くなっており、それ以外は「思う」の割合が高くなっています。

【居住地別】



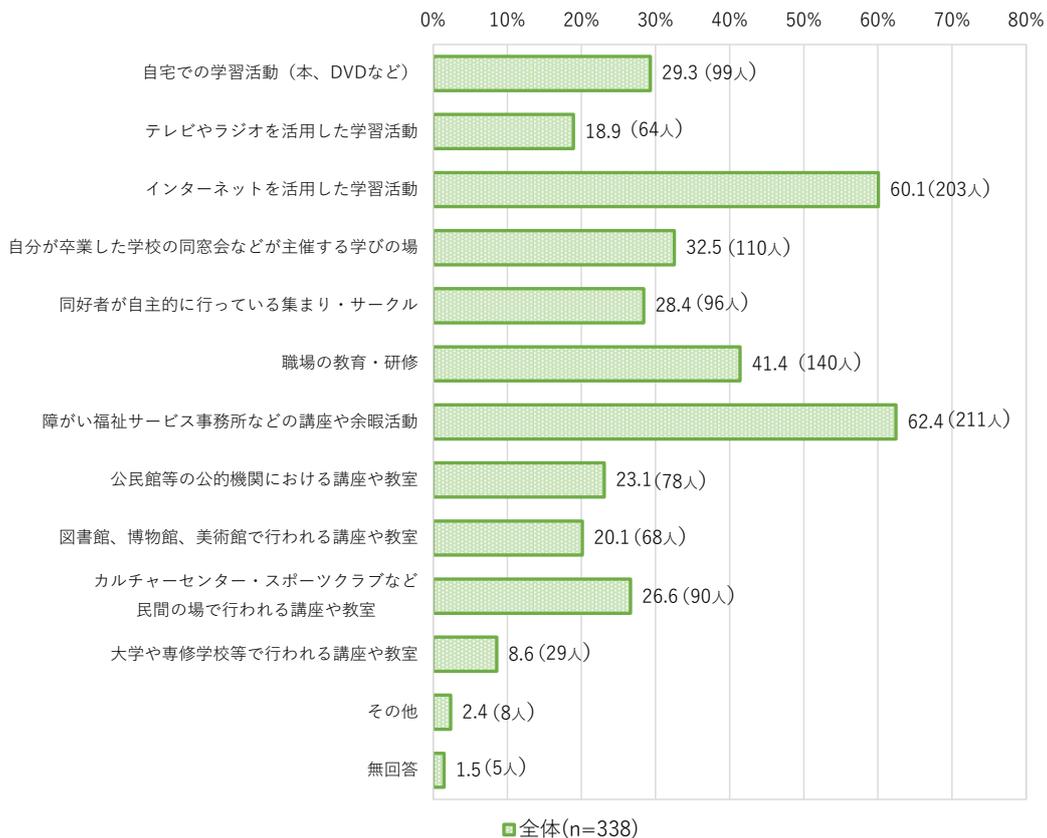
【障がい種類別】



3. 今後の学びのあり方について

問7 障がいのある人の生涯学習活動が行われる場として、今後どのような場で行われる機会が増えていくと良いと思いますか。（複数回答可）

- 障がいのある方の生涯学習活動の実施が増えると良い場としては、「障がい福祉サービス事務所などの講座や余暇活動」（62.4%）の割合が最も高く、次いで「インターネットを活用した学習活動」（60.1%）、「職場の教育・研修」（41.4%）となっています。
- 居住地別でみると、「大分市」「別府教育事務所管内（別府市除く）」「佐伯教育事務所管内」「日田教育事務所管内」では「障がい福祉サービス事務所などの講座や余暇活動」の割合が高くなっており、それ以外は「インターネットを活用した学習活動」の割合が高くなっています。
- 障がい種類別にみると、どの障がい種類も「障がい福祉サービス事務所などの講座や余暇活動」の割合が高くなっています。



() 内は実数

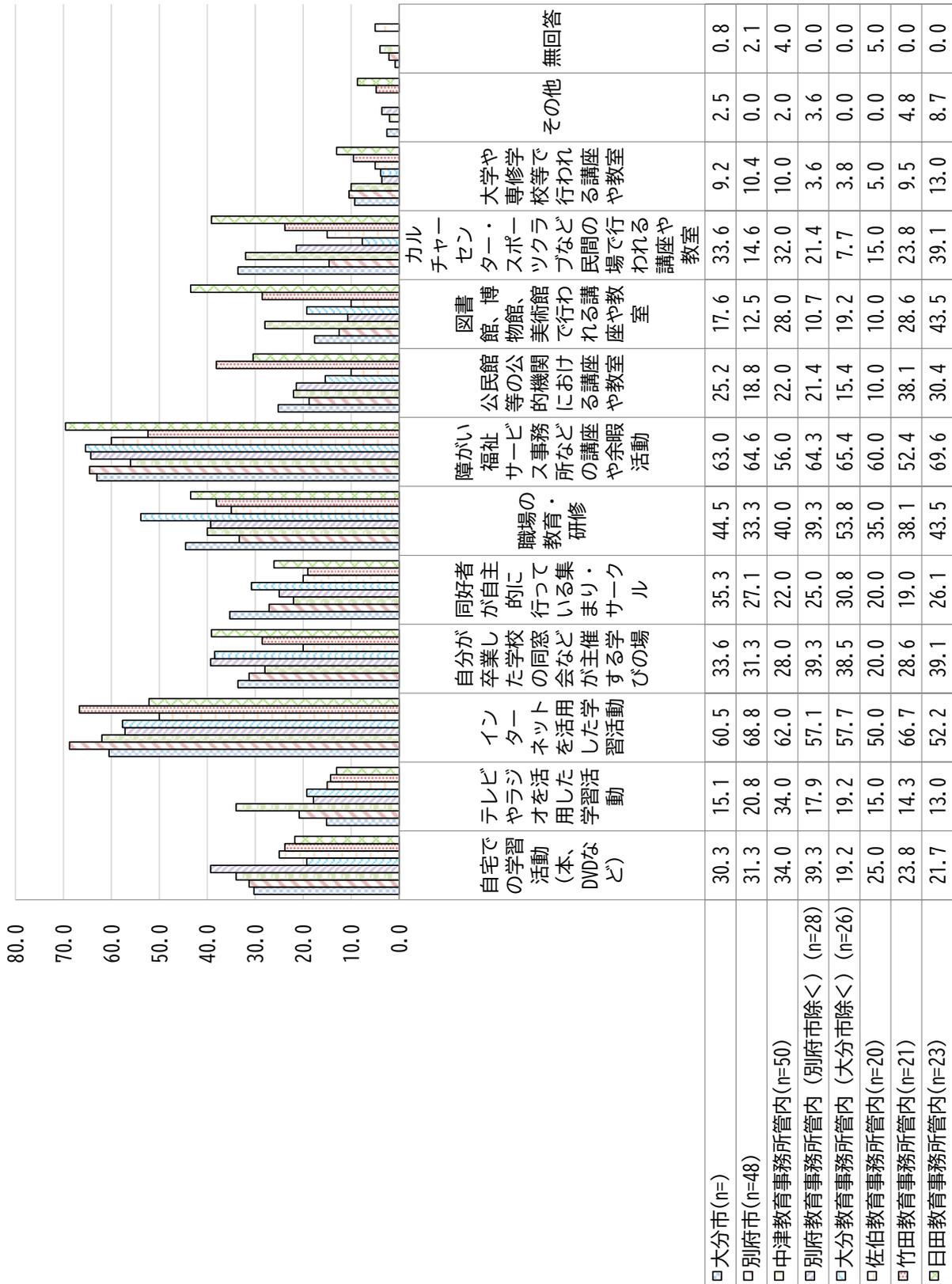
【生涯学習活動場所 その他】

- ◆地域のお祭り、子どもも年よりも障害者もみんなを受け入れるものであってほしい。そこで障害者たちの存在を地域の人に知ってもらえるとよいと思います
- ◆障がい者に特化した集まり、集まりやすいもの ◆総合型地域スポーツクラブを活用する
- ◆マンツーマンでの体験学習 ◆無いと思う

III. B：家族・職員・支援者等向けアンケート結果

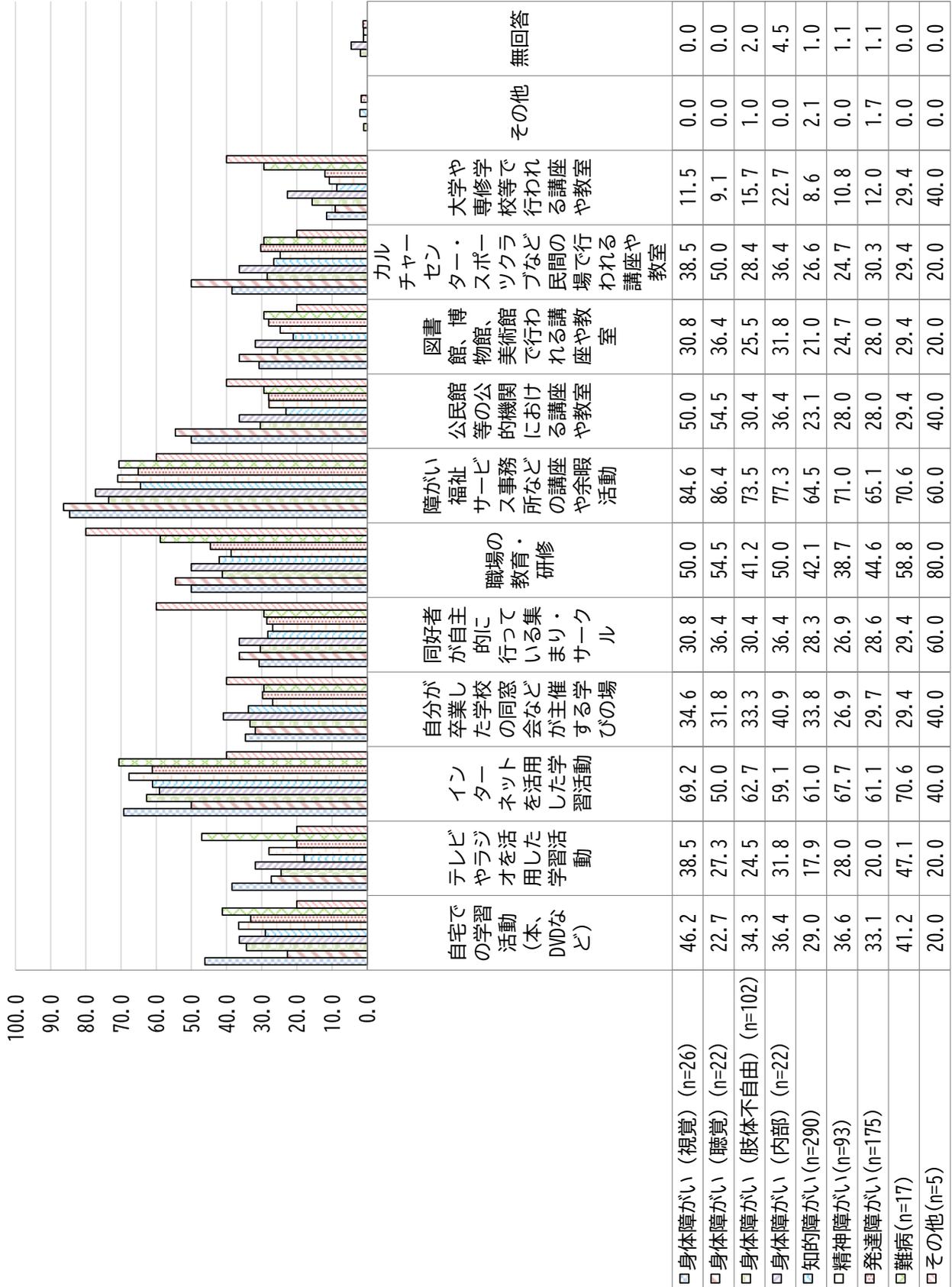
問7 今後どのような場で行われる機会が増えていくと良いと思いますか。(複数回答可)

【居住地別】



問7 今後どのような場で行われる機会が増えていくと良いと思いますか。(複数回答可)

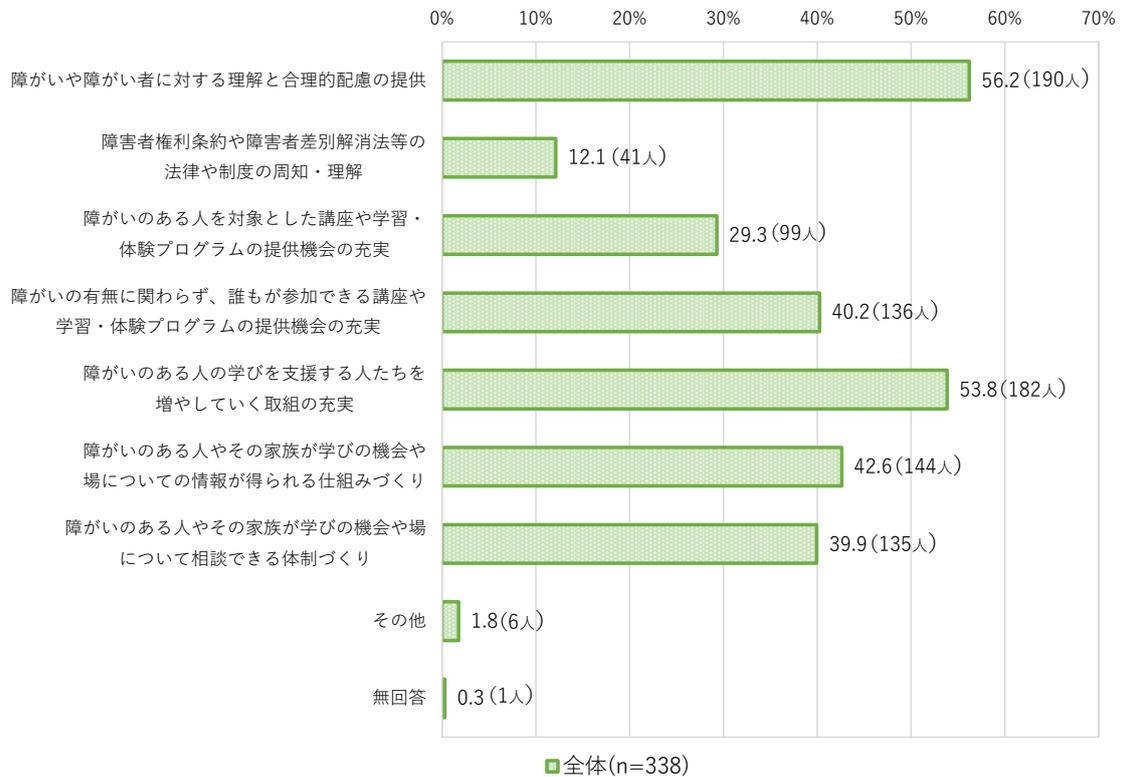
【障がい種類別】



III. B：家族・職員・支援者等向けアンケート結果

問8 本県において、障がいのある人の生涯学習を充実させていくにあたって、優先的に取り組むべきだと思うことは何ですか。（複数回答可）

- 大分県で障がいのある方の生涯学習を充実させるために優先的に取り組むべきことでは、「障がいや障がい者に対する理解と合理的配慮の提供」（56.2%）の割合が最も高く、次いで「障がいのある人の学びを支援する人たちを増やしていく取組の充実」（53.8%）、「障がいのある人やその家族が学びの機会や場についての情報が得られる仕組みづくり」（42.6%）となっています。
- 居住地別でみると、「佐伯教育事務所管内」では「障がいのある人やその家族が学びの機会や場について相談できる体制づくり」の割合が6割以上と、他と比べ高くなっています。
- 障がい種類別でみると、「身体障がい（視覚）」では「障がいのある人やその家族が学びの機会や場についての情報が得られる仕組みづくり」の割合が6割を超え、他と比べ高くなっています。



() 内は実数

【生涯学習を充実させるための必要な取組 その他】

- ◆ワンストップで相談（聞ける）できる場所
- ◆小さい時から地域の子ども同士が障害の有無に関わらず、関わる場が欲しい（休日）
- ◆障がいのある人を見守る医療的ケアの人を見守ってもらえる場の充実
- ◆障がいのない人が障がいのある人のことを理解できる機会ができる取組を増やす
- ◆幼少期から障がい者とともに育つ環境づくり
- ◆支援学校のあり方を見直してほしい、資格などももう少し早い段階から取れるようにそれぞれに配慮してほしい、支援学校だからとか部活動にしても全部の支援学校が平等であるべき教育を見直してほしい

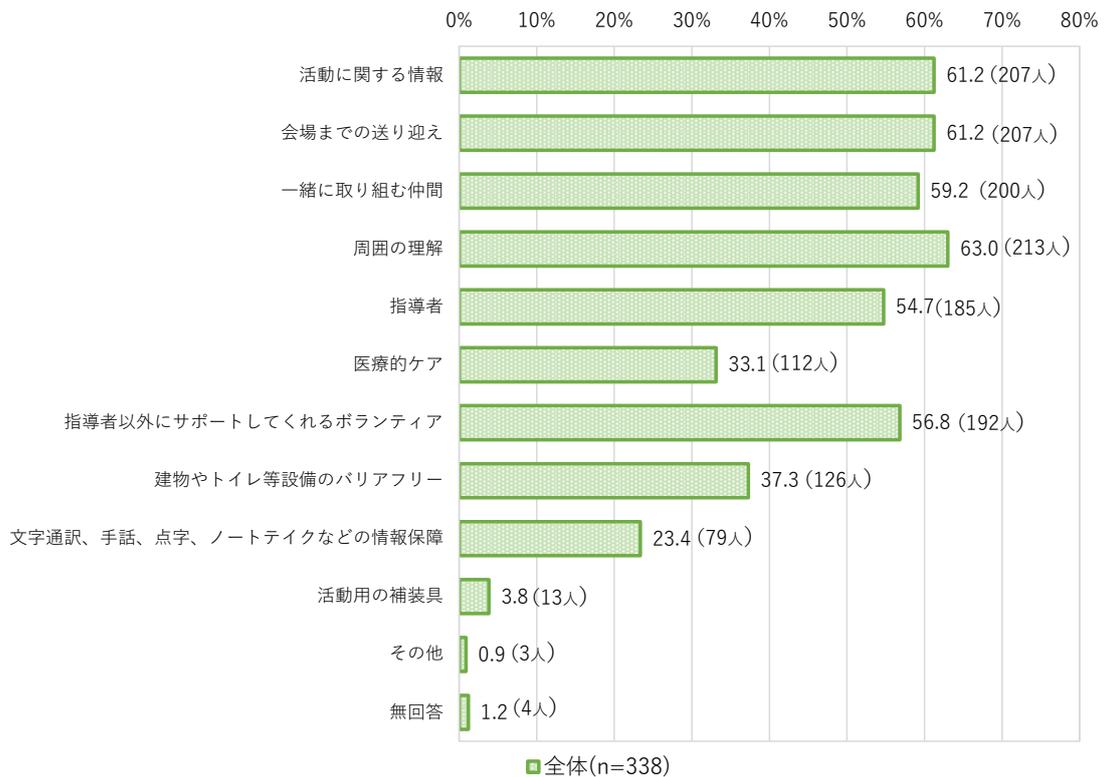
（上段：人 下段：％）

	標本数（人）	障がいや障がい者に対する理解と合理的配慮の提供	障害者権利条約や障害者差別解消法の周知・理解	充実した体験プログラムへの提供機会	障がいの有無に関わらず、誰もが参加できる講座や学習・体験プログラムの提供	障がいを増やしていく取組の充実	障がいの有無に関わらず、誰もが参加できる講座や学習・体験プログラムの提供	障がいの有無に関わらず、誰もが参加できる講座や学習・体験プログラムの提供	障がいの有無に関わらず、誰もが参加できる講座や学習・体験プログラムの提供	障がいの有無に関わらず、誰もが参加できる講座や学習・体験プログラムの提供	その他	無回答
全体（単純集計）	338	190 56.2%	41 12.1%	99 29.3%	136 40.2%	182 53.8%	144 42.6%	135 39.9%	6 1.8%	1 0.3%		
居住地別	大分市	119	68 57.1%	12 10.1%	40 33.6%	50 42.0%	69 58.0%	52 43.7%	43 36.1%	1 0.8%	0 0.0%	
	別府市	48	26 54.2%	5 10.4%	10 20.8%	15 31.3%	26 54.2%	25 52.1%	20 41.7%	1 2.1%	1 2.1%	
	中津教育事務所管内	50	27 54.0%	11 22.0%	15 30.0%	19 38.0%	28 56.0%	20 40.0%	19 38.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	別府教育事務所管内（別府市除く）	28	14 50.0%	4 14.3%	8 28.6%	12 42.9%	14 50.0%	10 35.7%	13 46.4%	0 0.0%	0 0.0%	
	大分教育事務所管内（大分市除く）	26	17 65.4%	4 15.4%	8 30.8%	12 46.2%	9 34.6%	10 38.5%	10 38.5%	1 3.8%	0 0.0%	
	佐伯教育事務所管内	20	12 60.0%	1 5.0%	5 25.0%	6 30.0%	8 40.0%	9 45.0%	13 65.0%	1 5.0%	0 0.0%	
	竹田教育事務所管内	21	12 57.1%	1 4.8%	6 28.6%	10 47.6%	10 47.6%	7 33.3%	7 33.3%	1 4.8%	0 0.0%	
	日田教育事務所管内	23	12 52.2%	2 8.7%	6 26.1%	12 52.2%	15 65.2%	9 39.1%	9 39.1%	1 4.3%	0 0.0%	
	障がいの種類	身体障がい（視覚）	26	9 34.6%	1 3.8%	8 30.8%	15 57.7%	12 46.2%	16 61.5%	12 46.2%	0 0.0%	0 0.0%
身体障がい（聴覚）		22	10 45.5%	1 4.5%	5 22.7%	12 54.5%	12 54.5%	11 50.0%	9 40.9%	0 0.0%	0 0.0%	
身体障がい（肢体不自由）		102	55 53.9%	10 9.8%	28 27.5%	47 46.1%	51 50.0%	55 53.9%	44 43.1%	3 2.9%	0 0.0%	
身体障がい（内部）		22	11 50.0%	2 9.1%	9 40.9%	9 40.9%	10 45.5%	11 50.0%	12 54.5%	0 0.0%	0 0.0%	
知的障がい		290	166 57.2%	35 12.1%	83 28.6%	117 40.3%	157 54.1%	128 44.1%	114 39.3%	5 1.7%	1 0.3%	
精神障がい		93	47 50.5%	12 12.9%	33 35.5%	37 39.8%	46 49.5%	43 46.2%	45 48.4%	0 0.0%	0 0.0%	
発達障がい		175	94 53.7%	21 12.0%	60 34.3%	71 40.6%	97 55.4%	75 42.9%	75 42.9%	2 1.1%	0 0.0%	
難病		17	7 41.2%	4 23.5%	4 23.5%	8 47.1%	9 52.9%	9 52.9%	7 41.2%	0 0.0%	0 0.0%	
その他		5	3 60.0%	2 40.0%	0 0.0%	3 60.0%	3 60.0%	1 20.0%	3 60.0%	1 20.0%	0 0.0%	

III. B：家族・職員・支援者等向けアンケート結果

問9 障がいのある人が学ぶ上で必要になる支援策は何ですか。(複数回答可)

- 障がいのある方が学ぶ上で必要な支援策では、「周囲の理解」(63.0%)の割合が最も高く、次いで「活動に関する情報」「会場までの送り迎え」(ともに61.2%)、「一緒に取り組む仲間」(59.2%)となっています。
- 居住地別でみると、「大分市」「別府教育事務所管内(別府市除く)」「佐伯教育事務所管内」で「周囲の理解」、「中津教育事務所管内」で「会場までの送り迎え」「活動に関する情報」、「別府教育事務所管内(別府市除く)」「竹田教育事務所管内」で「一緒に取り組む仲間」の割合が7割を超え、他と比べ高くなっています。
- 居住地別でみると、「難病」では「指導者以外にサポートしてくれるボランティア」が約9割と、他と比べ高くなっています。



() 内は実数

【学ぶための必要な支援策 その他】

- ◆一般就労 ◆ネット環境、ICT 機器 ◆費用の負担の軽減
- ◆活動する時に、使用する(共有する)道具類 ◆選択肢すべて

III. B：家族・職員・支援者等向けアンケート結果

(上段：人 下段：%)

		標本数(人)	活動に関する情報	会場までの送り迎え	一緒に取り組む仲間	周囲の理解	指導者	医療的ケア	指導者以外にサポートしてくれるボランティア	建物やトイレ等設備のバリアフリー	文字通訳、手話、点字、ノートの情報保障	活動用の補装具	その他	無回答
全体(単純集計)		338	207 61.2%	207 61.2%	200 59.2%	213 63.0%	185 54.7%	112 33.1%	192 56.8%	126 37.3%	79 23.4%	13 3.8%	3 0.9%	4 1.2%
居住地別	大分市	119	76 63.9%	71 59.7%	76 63.9%	85 71.4%	73 61.3%	47 39.5%	77 64.7%	45 37.8%	30 25.2%	4 3.4%	1 0.8%	1 0.8%
	別府市	48	26 54.2%	28 58.3%	21 43.8%	23 47.9%	21 43.8%	18 37.5%	28 58.3%	24 50.0%	9 18.8%	2 4.2%	0 0.0%	2 4.2%
	中津教育事務所管内	50	35 70.0%	36 72.0%	28 56.0%	30 60.0%	32 64.0%	13 26.0%	26 52.0%	24 48.0%	17 34.0%	3 6.0%	0 0.0%	0 0.0%
	別府教育事務所管内(別府市除く)	28	17 60.7%	18 64.3%	20 71.4%	20 71.4%	13 46.4%	3 10.7%	17 60.7%	8 28.6%	5 17.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	大分教育事務所管内(大分市除く)	26	17 65.4%	15 57.7%	15 57.7%	12 46.2%	14 53.8%	8 30.8%	12 46.2%	7 26.9%	7 26.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	佐伯教育事務所管内	20	9 45.0%	12 60.0%	12 60.0%	17 85.0%	8 40.0%	2 10.0%	10 50.0%	3 15.0%	3 15.0%	1 5.0%	0 0.0%	0 0.0%
	竹田教育事務所管内	21	10 47.6%	11 52.4%	15 71.4%	14 66.7%	11 52.4%	6 28.6%	13 61.9%	5 23.8%	4 19.0%	1 4.8%	0 0.0%	0 0.0%
	日田教育事務所管内	23	14 60.9%	15 65.2%	10 43.5%	11 47.8%	11 47.8%	14 60.9%	7 30.4%	9 39.1%	4 17.4%	2 8.7%	2 8.7%	1 4.3%
	障がいの種類	身体障がい(視覚)	26	20 76.9%	19 73.1%	15 57.7%	15 57.7%	14 53.8%	11 42.3%	13 50.0%	15 57.7%	7 26.9%	2 7.7%	2 7.7%
身体障がい(聴覚)		22	16 72.7%	18 81.8%	13 59.1%	13 59.1%	14 63.6%	8 36.4%	14 63.6%	12 54.5%	9 40.9%	1 4.5%	1 4.5%	0 0.0%
身体障がい(肢体不自由)		102	67 65.7%	69 67.6%	57 55.9%	60 58.8%	49 48.0%	52 51.0%	59 57.8%	56 54.9%	30 29.4%	6 5.9%	2 2.0%	2 2.0%
身体障がい(内部)		22	14 63.6%	16 72.7%	13 59.1%	11 50.0%	13 59.1%	11 50.0%	14 63.6%	12 54.5%	8 36.4%	3 13.6%	0 0.0%	1 4.5%
知的障がい		290	179 61.7%	182 62.8%	173 59.7%	191 65.9%	162 55.9%	100 34.5%	169 58.3%	108 37.2%	70 24.1%	11 3.8%	3 1.0%	3 1.0%
精神障がい		93	61 65.6%	65 69.9%	52 55.9%	60 64.5%	52 55.9%	31 33.3%	62 66.7%	35 37.6%	25 26.9%	4 4.3%	0 0.0%	0 0.0%
発達障がい		175	115 65.7%	104 59.4%	104 59.4%	115 65.7%	101 57.7%	58 33.1%	114 65.1%	63 36.0%	49 28.0%	6 3.4%	2 1.1%	2 1.1%
難病		17	13 76.5%	9 52.9%	10 58.8%	12 70.6%	12 70.6%	10 58.8%	15 88.2%	10 58.8%	7 41.2%	3 17.6%	0 0.0%	0 0.0%
その他		5	3 60.0%	2 40.0%	4 80.0%	4 80.0%	3 60.0%	0 0.0%	3 60.0%	3 60.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

III. B：家族・職員・支援者等向けアンケート結果

問10 障がいのある方の生涯学習について、その他ご意見があればお書きください。

(自由記述)

障がいのある方の生涯学習についてのご意見
障がいを受け入れられない障がいの方もいらっしゃいます。そのような方の身辺だけでなく、心のケアなども必要になるかと思えます。”障がい”をその人の個性と捉えるべきなのか悩むこともあります。ですが、障がいのある方に限らず、社会生活において困っている方、悩んでいる方をサポートする機関やボランティアが少しずつ増えていけると良いと思います。健常者には持ち得ていない素晴らしい技術なども障がいの方はあると思います。もっとそこを伸ばしていけることができればなと感じます。
我が子は知的障害者です。知的といっても軽度～重度と様々ですが、何かイベントがあっても軽度の方には参加し易くても、重度には難しいことが多いです。サポートの方も、重度には接し方が分からない感じです。「障がいの有無に関わらず」より障がいの程度に合わせたものを開催してもらえると嬉しいです。障がいのない方と重度の子は、現実的に一緒に学習できません。
福祉的就学をした生徒は、事業所が余暇活動などを行い、ある程度充実している。しかし、一般就労した生徒は、土日の余暇活動の場が保証されていない。知的障がいを持つ卒業生が、就労以外の場では、社会や地域から取り残され、孤独感を抱いている。(自分の卒業した学校も数人とのコミュニティのみ) 知的障がいの子は理解力も遅いし、ペースもゆっくり。そういう人たちが集える料理教室、スポーツ教室を地域生活支援事業で行うべき。名簿を利用し、一般就労した当事者の声を聞いてほしい。そういう生涯教育の場を提供し、当事者に情報をしっかりおろし、「土日も知的障がい者が外でみんなと活動できる」場を作ってほしい。
障がいと言っても知的と身体では回答に迷う事がいくつかありました。学校生活の中でも特に高等部に入ってから余暇活動の指導にも力を入れています。しかし昨今、コロナで外出ばかりか人と接する事自体避けなければならない状況で、果たして高校3年生が卒業後、人間関係を含め充実した生活が送れるか心配です。
結構良いように書いていますが、障がいのある方は本当に様々で、見た目分からない人もいます。主催している人が本当に障がいがある方を分かってやっているのか？卒業後は寂しくならないかな？とか生涯学習を本当に充実させてくれる様な取り組みをしてくれるのですか、大分県は！！保護者や関係者、現場をちゃんと分かっていますか？頑張ってください。
もっと学習内容を個人ひとりひとりに合わせてお願いしたい。グレーゾーンの子供達にも手厚い支援をお願いしたい。せっかく就職（一般就労）しても理解のない職場がある。合理的配慮が全くありませんでした。ただ働かせるだけで、放置されていました。教育の先の就労先での子供の困りが無いよう、本当につなげていただきたいです。学校だけ素晴らしくても意味が無い！
障がいの程度にもよりますが、社会に出た時になかなか障がいの個々の特性を理解してもらうには時間がかかります。それぞれのレベルは違うのはもちろん、それを理解して頂ける環境が十分だとはいいがたい状況ではないかと思えます。障がいを持つ人への理解がもっと深められるような周りの人へのアプローチがまだまだ必要かと思えます。

障がいのある方の生涯学習についてのご意見
<p>これまでも余暇活動に関する相談を受けて来ましたが、私が知らないだけか、活動の場が少なく地域も限られていると思いました。仕事（一般就労）が長く続いている卒業生は、絵画やダンス等のサークルも続いています。余暇が充実し、心が安定していることが仕事の安定にもつながっていると思います。それができているのは親に力があり、（親が活動の場を探し、月謝を払っている）家庭が安定していることが条件となっていると思います。親の力に関わらず、誰もが生涯学習を受けられる様になると良いと強く思います。</p>
<p>アンケート全部にふり仮名を書いて欲しい</p>
<p>アンケートを取るのは必要だと思いますが、このアンケートがどのように活かされているのか気になります。アンケートを取るだけで終わらないでほしいです。</p>
<p>生涯教育について知識不足かも知れませんが、情報が少ない印象を受け、アンケートを実施していく中で、障害者に対しての学びの場が少ないことを実感しています。障がい者が自分の能力を生かして障がいがあっても社会と関りを強くもち、存在感をアピール出来る場の提供のご協力をよろしくお願いします。</p>
<p>障がいのある人が学びを深めるきっかけを提供できるようなシステムがあればと思います。</p>
<p>本人のやる気をどう引き出していくかが課題</p>
<p>障がいのある方の生涯学習について認知度がかなり低いと思われます。障がい者の方が目にふれる場所への掲示やTV、CM等での周知度、市町村の回覧板、公民館など等への掲示。実際にどのような取組が行われているのか？どこで？送迎は？詳しい情報がわからない状態では障害者の方は取り組みたくても関わる事に不安を感じ、結局は生涯学習の取り組みにつながらないと思います。是非、そのあたりを充実・改善していただきたいと思います。</p>
<p>うちの事業所は年配の方が多いので、これから何かを学ぼうという意欲のある人はあまりいなくて、学びたいという方向に指導していけたらいいと思います。若いうちから何か得意な事を見つけるとそれが生きる力になるようにも思いますので。</p>
<p>うちの子どもは、身体障がいプラス、脳の病気も生まれ持った状態なので会話のキャッチボールは出来ません。発語、言葉というものが無いので、反応を見て、どう思っているかを読み取っていつてますが、その読み取りも確証はゼロ。喜んでいるだろう・嫌なのかもしれないといった、予想みたいな物です。誰しもが分かるような、発語だったり、反応だったり表に出ませんがリハの担当の方々からは内語はしっかりあると言われてています。毎回、この子が充実した生活・人生を送れるよう、親として、悩んだり、考えたり、行動したり、この子とたくさんコミュニケーションを取って、二人三脚で歩んでいきたいと思っています。</p>
<p>5年前、学校での社会学習の際に、バスの乗車拒否にあいました。身体障害者にとって移動に関する合理的配慮、自立支援サービスの充実を願っています。この基本問題が解決しなければ、障害者の社会参加や学習への活動は実現しにくいと考えます</p>
<p>高校までは手厚いが卒業して（大学に行きたくても障がいがある子には）先に学ぶ機会がない。これから長く生きていく為に金融的な学びや生活力（料理・生活力）を学べる機会が欲しい。</p>
<p>支援者・指導者の中に、本人の意思や意欲をそぐ方が多いように感じます。本人のためを思っていることだと理解はできますが、「できるかもしれないけど、やる必要はない」という見方をされると本人の尊厳も損なうように思います。</p>

III. B：家族・職員・支援者等向けアンケート結果

障がいのある方の生涯学習についてのご意見
<p>障がいのある方を本当に理解するためには障がいを特別視しないことが大切だと思う。小さい頃から遊ぶ感覚で参加できるボランティアのようなものがあればいいのにと良く思う。小中高の交流も内申点の為とかではなく夏休みなどどんどん行うべきと思う。そういう経験をした子が大人になれば自然とサポーターになれると思う。</p>
<p>アンケート内でも感じるがその環境が整ってない、支援が少ないなどの周囲の問題にクローズアップされているが、そもそも生涯学習に対して当事者たちが必要性を感じていないように思う。端末とWiFiがあれば家にこもって人と関わらず、自分の好きなゲームや動画を楽しむことができ、自己理解が進まずに悪しき環境から二次障がいを併発し、周囲との人間関係やコミュニケーションが図れない。「学びたい」「働きたい」と思う障がいを持つ人は我々が考える以上にアクティブに色々な事に参加できているように感じます。</p>
<p>私が勤めはじめた頃に比べてとても環境的にはよくなったと思います。ただ実際に一步を踏み出そうとすると難しい問題があると思います。近くになかったり時間的に難しかったりなど、地域の方々のお力をかりながら今後も普及していけるとよいと思います。</p>
<p>やっていたい思いましたが、特支の学校に関わるまで知らない事はたくさんあったけど、福祉の情報は誰にとってもためになるので、支援を必要としている人のためにも福祉に関する情報を得やすくしたりどんな援助があるのか知るためにどうしたら良いかを考えるという発想？流れ？がふつうになっていくといいなと思いました。ずっと地元においてそれがすごく田舎で情報を得にくい人にとっても！！</p>
<p>幼少期から支援がとっても必要だと考えています。あるとないのでは、子どもの成長に大きく差があります。支援に対しての温度差も大きい為、支援する側のスキルアップが必要かと思えます。教員に対して、支援免許は必要だと思います。支援のいる子どもを見るのに知識が少ないままみられても保護者としては困ります。先生方にとっての1年と支援のいる家庭での1年では大きな違いがあります。大切な1年1年です。簡単に考えないでほしいと思います。良い先生、悪い先生、悪い先生にあたってしまったら1年、ほんと困ります。平等な学校教育になってほしいと思います。</p>
<p>障がい者に対する理解が、身体的などみて分かる場合は対応されるが、見た目は普通だが精神などの場合は理解されにくく、逆に精神的にきずつけられる時が多くみられ、子ども自身苦労してきた。また、間違った理解した人もいるので、もっと身近に障がい者がいて同じように生活している人がいることを分かってほしい。もっと保護者の学びの場を増やしてほしい。又、情報交流のできる場所など。</p>
<p>生涯学習の情報提供をしてほしい、小さな施設でも、できる事などの情報もほしいです。伝達ができていなくて、私達のような職員が知らないだけかもしれませんが、よろしくお願いします。</p>
<p>その人の人生において皆と同じタイミングでなくても、本人が希望すればいつでもリカバリーできるような（特に義務教育について）学習施設があれば良いのと思います。かけ算の九九、割合などが理解できてない人が多い（小学校の不登校などで）</p>
<p>就労を行っている当事者への学習の機会の提供の難しさを感じる。「余暇活動で疲れたので仕事を休みます」と言われる事も多く、就労の事業所としては、率先して勧めづらい。</p>
<p>おそらく学習する機会は探せばあるのだと思います。けれど、探そう！と思ってインターネットで調べたり、市役所等に問い合わせなければ、見つからないのが現状です。そのような情報が障がい者たちの目にとまりやすい広報の方法が必要だと感じます。また本人が1人で申し込めるような簡単な申し込み方法だと、より身近に感じるだろうと思います。</p>

障がいのある方の生涯学習についてのご意見
たくさんの学習をする機会が増えたらと願います。
障害のある人とそうでない人の学習の場は別にしないといけないのですか？同じ場所で学べるようにサポートできる仕組みがあれば良いと思います。
障がい者に対する制度が分かりにくい。手続などややこしすぎる
新しいものを作っていく時に、関わる側の都合などが優先されてしまうことが多いのかな？と思います。色のないパターンを繰り返していく中でよい方向？ニーズにより応えられるものができていけばよいと思います。ありがとうございました
ローカルな地区での活動はかなり少ないものです。何か提供したくてもサービスそのものが見当たりません
親が年をとってしまって、送迎などができにくくなってから、どう続けていくかは気になります。「学びたい」という気持ちが伝えられる方と、親の願いとして「学ばせたい」から学ぶ方もいらっしゃると思うので、その辺のちがいはどうなるのかなということも気になります。まとまらず すみません
やはり障がいのある方に対して、周囲の方の理解がまだまだ足りないように感じます。もっともっと障がいのある方が住みやすい市になるようにしていかなければならないと思います。ご本人のみならずご家庭への支援等も必要になるかと思えます。
職場や施設からの情報提供や声かけが必要になると思います。自分から情報を収集することが難しく外へでることに積極的でない方も多いので身近な人や職場、施設の方が一緒に参加してもらえるような機会が必要になるかと思えます。交流（障害の有無に関わらず）の機会となれば周囲の理解にもつながると思えます。社会全体としてはまだまだ…のように思うので、今以上に本当の意味でのバリアフリーにつながられればと思っています。
学習する機会を増やしそれをサポートする人たちが知識を深めることが大切。いろいろな家庭環境があり、本人の意思があっても学べないことが多い。卒業後はさらに孤立してしまうこともある。家庭ごと支援をしていかなくは学習の機会をのがしてしまうと感じる。
障がい者と一口に言っても障がい種や障がいの重さによって社会と交わる機会に大きな違いがある。生涯学習についてどの程度のことを考えているのかがこのアンケートではよくわからない活動する場について言えば足りていないのは確実だと思うがどういうソースを用意するかで参加できる障がい者の範囲が決まるのでどんな支援を考えているのか（お金とマンパワー）をこちらが知りたい。
軽度の生徒が、習いごとのようにメイクのしかたや、朝食のつくり方などを同世代の仲間と学べる機会があればと思う。学校での取り組みにはおいつかない。生涯学習として、デイサービスのような感覚で、あればと思う。
家から1人で出かけたことのない子どもが多く、家族が常に一緒に出かけるのは大変そうです。電車がICカードで乗れるとまた少し、移動のハードルが下がるかもしれません。「大分ではやっているけどそこまで行けない！」というのはもったいないですね。
あまりかしこまらずに何でもありのそれをもって、それぞれが活躍の場のある「お祭り」的な場があるとよいと思います。（障害者とその他を区別しないでできるのが理想だと思います）
生涯学習に関する年間計画表のような形で提示していただけたら、障がいのある方達に情報提供をしやすくなると思います。

III. B : 家族・職員・支援者等向けアンケート結果

障がいのある方の生涯学習についてのご意見
障がいのある方の文化芸術活動で制作した作品などがもっといろいろな人に見てもらふ機会が増えると良いなと思います。また、生涯を通して健康で豊かな生活が送れるような学びの場や機会が充実したものになってほしいと考えます。
心のバリアフリーをととも思います。障害のある側もない側も関わっている人も皆平等なのでこういうアンケート自体が不自然な気がします。 定期的にスポーツなどで体を動かす習慣をつけさせたいが障害があるとなかなかそういった場の受け入れ先がなく、結局余暇活動は自宅でゲームなど単調なものになってしまう。しかしながら、本人にやる気(興味)がなければ、せっかくの機会もムダになってしまい、もったいないなと思う。参加させるにあたっては、だいたいが保護者つきそいなので、1人で楽しんでおいでという訳にならないので、そのあたりもよさそうなプログラムがあっても戻込みしてしまう。
障がいのない人の学びや意識改革が必要だと感じます。
障がいのある方自らが発信することが困難な場合があると思います。見守る人、気づいてあげる人、代弁する人等サポート体制の充実が必要なのではと思います。
知的の特別支援学校では部活動がさかんに行われているが、卒業後の受け皿となる所が少ない、地域の総合型スポーツクラブ等も障がい者の受け入れに二の足をふむといったことも聞く、頑張っている生徒が生涯を通して活動できる場を増やして欲しい。
学校を卒業して後の学習の場があるのか、ないのかと言った情報が学校以外の生活の場ではほぼ聞いた事が無い気がするので、まずは情報をいろいろな方法で受け取れる策を作っていく事が大切ではないかと思います。
県内の特別支援学校では、殆どの学校が同窓会を立ち上げ年に数回(運動会や文化祭への参加、成人を祝う会の実施)の活動を行っています。(近年コロナ禍で実施できていないのは残念です)どの学校も立ち上げから10~15年程経過していますが、元担任の教員と現在の卒業生の生活について情報共有ができている場合も多く、生涯学習の観点から、繋がることの大切さを痛感しています。(アフターコロナの時に元の状態に戻るのかとても心配です。)
気持ちがあっても、人的、物理的に環境が整っておらず情報も乏しいと思う。また、経済的な面も気になる人も多いのではないと思う
高等部卒業後にも大学のような機関があると良いのではないと思う
まず日田市の医療ケアの人への対応が少数な為ほぼなされていない様に思えます。何才になっても安心して、日常の生活を安心しておくれる様、看護師の配置を行ってほしい。生涯学習の事を考える前にまず、日常生活を家族だけで負担させるのではなく日中に預かってもらえる場所をどうにか考えていただける様にさせていただけるとありがたい。少数の医療ケアが必要な人をおざなりにしないでほしい。
障がいがあっても安心して参加させていただけるような趣味を生かせる教室(絵や音楽など)があると余暇活動が充実できると思います。
障がいのない人、社会からの理解をバリアのないフラットな心が一番必要だと思います。
卒業後、本人の楽しみ(体を動かすこと)が維持しづらい環境となる、障害の程度に関係なく色々な人が参加できる参加しやすい活動があればいいなあとと思います。
それぞれ必要な支援は違うためそれぞれに合った支援を心がけ実施していく必要がある。様々な支援が受けられる体制作りが大切だと思う。

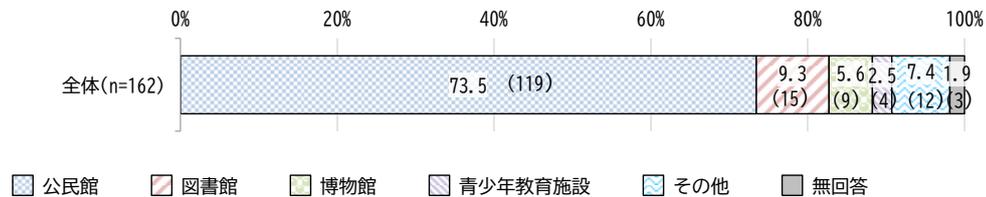
障がいのある方の生涯学習についてのご意見
<p>昨今は、色々な障がいが増え、インターネットやニュース等でも取り上げられるようになり、良くなっていると思います。ですが、社会人になった際、受け入れてくれる所が少ない、理解してくれる方が少ないと思います。それは私達障がいを持つ子の親が周りに発信していない点も有ると思います。障害の程度も有るかとは思いますが、この先健常者、障がい者等の区切りのない学校が出来ると私個人的には望んでます。そうする事により世の中が一人の人間、当たり前、の事として受け入れてくれ易くなると思ってます。理解して頂けない人も居ると思いますが、一人でも多くの理解者が増える場が出来事を願ってます。名前を記入する必要はありませんがどうかこのアンケートが目にとまります様に願いを込めて。</p>
<p>就職活動がもっと幅広くできればと思います。</p>
<p>生涯学習の場に参加するためには家族の協力が無いと参加できない(移動手段等)交通費の助成等をお願いしたい。地域によっては参加したくてもそのような場がない。 今ある団体(スペシャルオリンピック・育成会等)への助成をおこない周辺域でもいろいろな活動やイベントを開催してもらいたい。</p>
<p>学校でもインターネットやひとり1台タブレットなどの充実が見られます。卒業後も活用できる大切なスキルですが、本当に困った時や支援がほしい時に必要なものは人とのつながりだと思っています。未だに家庭へのヘルパーや子ども食堂の設置がない地域があり、子どもの生活や通学・学習に困りのある家庭もあります。</p>
<p>仲間を増やすことは大切だと思います。本人や家族が気がねなく相談できる体制がもう少し整うとよいと考えます。支援の輪が広がることは仲間が増えるということにもなります。ぜひ、機会ができるようよろしくお願いします。</p>
<p>きかれている事が難しいので(本人にたずねては、とてもとてもきびしいです)全体的にきくより1人1人ちがうのでもっと個への寄りそいが必要だと思います。</p>
<p>重度の障害や強度行動障害のある障がい児・者にとっては学校における学習対応が十分だとは思えない。生涯学習は二の次、三の次のように感じる。</p>
<p>就労系の通所施設ですが、休日に自分で行って帰るといった場がほとんどありません。時間はあるのに学習や芸術活動、趣味の拡大などの場がありませんし、あったとしても遠くて行けなかったりほとんどです。正直、休日の個別の対応までは、通所施設ではできません。何度か施設で外部に出向く事はしましたが、結局、障がい者個人で動けないと単発で終わり、継続性がないのが現状です。</p>

IV. C：社会教育施設対象アンケート結果

1. 施設について

問1 施設について

●施設では、「公民館」(73.5%)の割合が最も高く、次いで「図書館」(9.3%)、「その他」(7.4%)となっています。



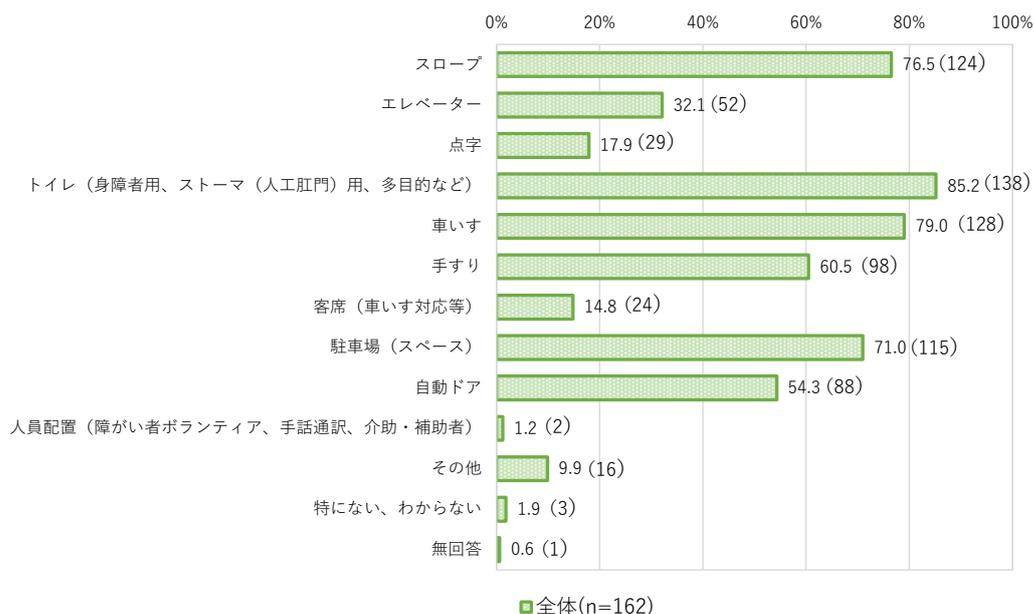
() 内は実数 (館)

問2 障がい者の利用への配慮について (複数回答可)

●障がいのある方の施設利用時の配慮では、「トイレ (身障者用、ストーマ (人工肛門) 用、多目的など)」(85.2%)の割合が最も高く、次いで「車いす」(79.0%)、「スロープ」(76.5%)となっています。

●社会教育施設種別でみると、最も高いのは以下のとおりです。

- ・公民館「トイレ (身障者用、ストーマ (人工肛門) 用、多目的など)」(83.2%)
- ・図書館「トイレ (身障者用、ストーマ (人工肛門) 用、多目的など)」「車いす」(ともに 100.0%)
- ・博物館「スロープ」「トイレ (身障者用、ストーマ (人工肛門) 用、多目的など)」(ともに 100.0%)
- ・青少年教育施設では「スロープ」「トイレ (身障者用、ストーマ (人工肛門) 用、多目的など)」「車いす」「手すり」「駐車場 (スペース)」(ともに 75.0%)
- ・その他の施設では「車いす」(91.7%)



() 内は実数 (館)

IV. C：社会教育施設対象アンケート結果

【障がいのある方の施設利用時の配慮 その他】

- ◆玄関入口の点字ブロックの設置 ◆シグナルエイド
- ◆身障害者用浴室、車いす対応宿泊室
- ◆大活字本、音読（デージー、電子図書館）LLブック
- ◆窓口に指差しコミュニケーションボードの設置
- ◆エレベーターのある施設と、2階でつながっている。
- ◆拡大読書機 大活字本 LLブック 朗読CD 特別支援学校との連携（職場体験の受入）（社会見学の受入）（生徒の作った菓をカウンターで配布）
- ◆対面朗読室、拡大読書機、音声デージー再生機等、ゆとりのある通路幅

(上段：人 下段：%)

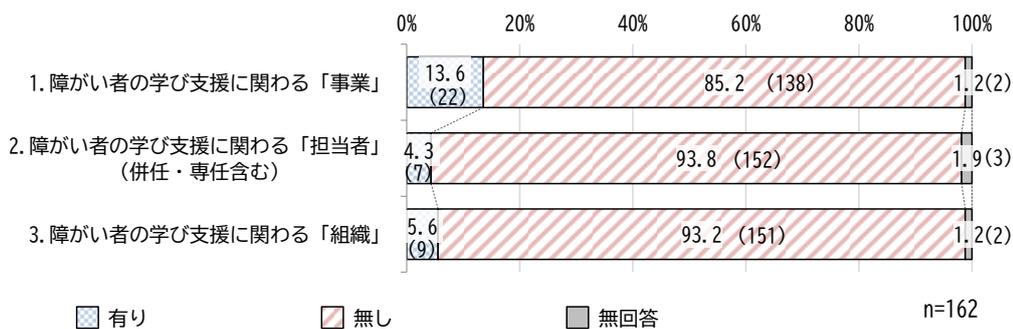
	標本数（人）	スロープ	エレベーター	点字	トイレ（身障者用、ストーマー用、多目的など）	車いす	手すり	客席（車いす対応等）	駐車場（スペース）	自動ドア	助者（ 人員配置（障がい者ボランティア、手話通訳、介助・補助者）	その他	特にない、わからない	無回答	
全体 (単純集計)	162	124 76.5%	52 32.1%	29 17.9%	138 85.2%	128 79.0%	98 60.5%	24 14.8%	115 71.0%	88 54.3%	2 1.2%	16 9.9%	3 1.9%	1 0.6%	
社会 教育 施設 種	公民館	119	90 75.6%	27 22.7%	21 17.6%	99 83.2%	89 74.8%	76 63.9%	11 9.2%	78 65.5%	58 48.7%	1 0.8%	7 5.9%	2 1.7%	0 0.0%
	図書館	15	10 66.7%	11 73.3%	4 26.7%	15 100.0%	15 100.0%	5 33.3%	8 53.3%	14 93.3%	14 93.3%	0 0.0%	4 26.7%	0 0.0%	0 0.0%
	博物館	9	9 100.0%	7 77.8%	1 11.1%	9 100.0%	8 88.9%	6 66.7%	1 11.1%	8 88.9%	8 88.9%	1 11.1%	2 22.2%	0 0.0%	0 0.0%
	青少年教育施設	4	3 75.0%	1 25.0%	1 25.0%	3 75.0%	3 75.0%	3 75.0%	1 25.0%	3 75.0%	2 50.0%	0 0.0%	2 50.0%	0 0.0%	1 25.0%
	その他	12	9 75.0%	5 41.7%	2 16.7%	9 75.0%	11 91.7%	7 58.3%	3 25.0%	10 83.3%	6 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 8.3%	0 0.0%

IV. C：社会教育施設対象アンケート結果

2. 事業や講座の現状について

問3 「障がい者の学び支援」に関わる事業や体制について

●障がいのある方の学び支援に関わる事業や体制では、「事業」「担当者」「組織」とともに「無し」の割合が「有り」の割合を大きく上回っており、特に「担当者」及び「組織」では「無し」の割合が9割を超えて高くなっています。

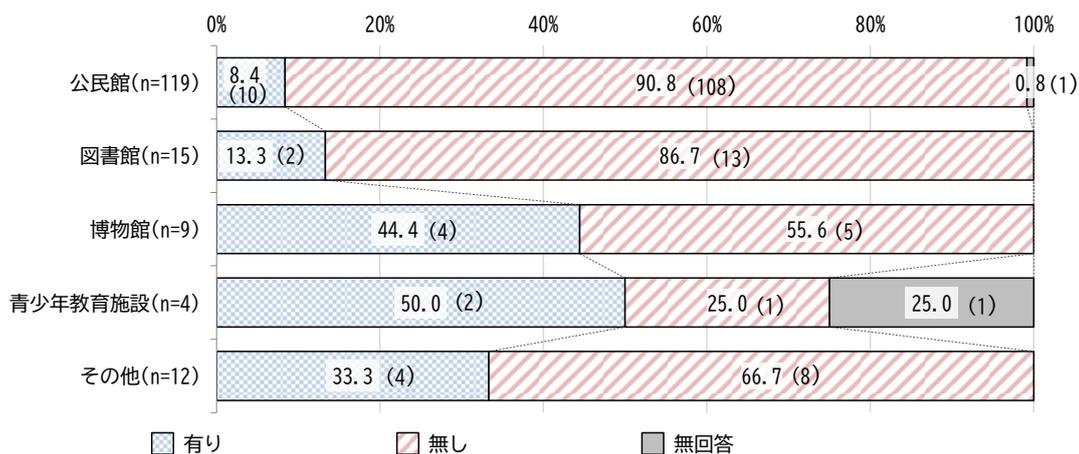


() 内は実数 (館)

① 障がい者の学び支援に関わる「事業」

●社会教育施設種別でみると、多くの施設で「無し」が最も高くなっているのに対し、青少年教育施設では、「有り」(50.0%)の割合が最も高くなっています。

【社会教育施設種別】

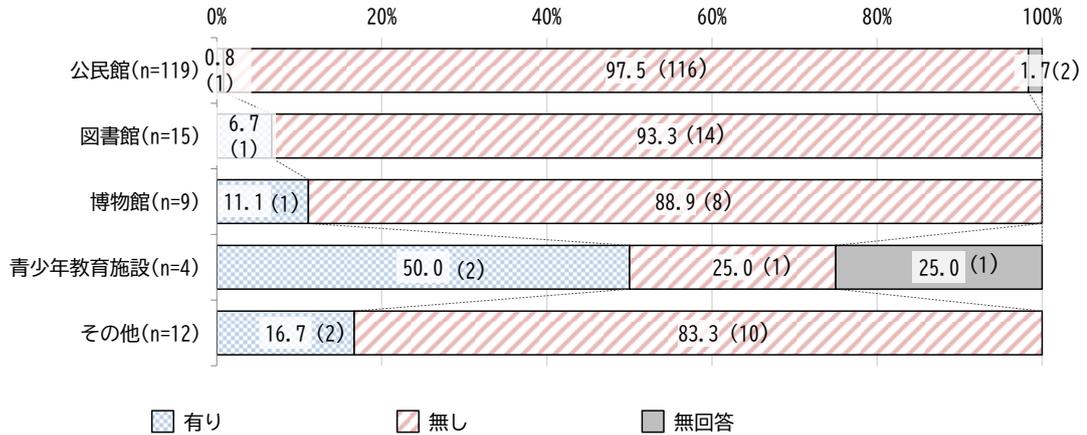


() 内は実数 (館)

② 障がい者の学び支援に関わる「担当者」(兼任・専任含む)

●社会教育施設種別でみると、多くの施設で「無し」が最も高くなっています。

【社会教育施設種別】

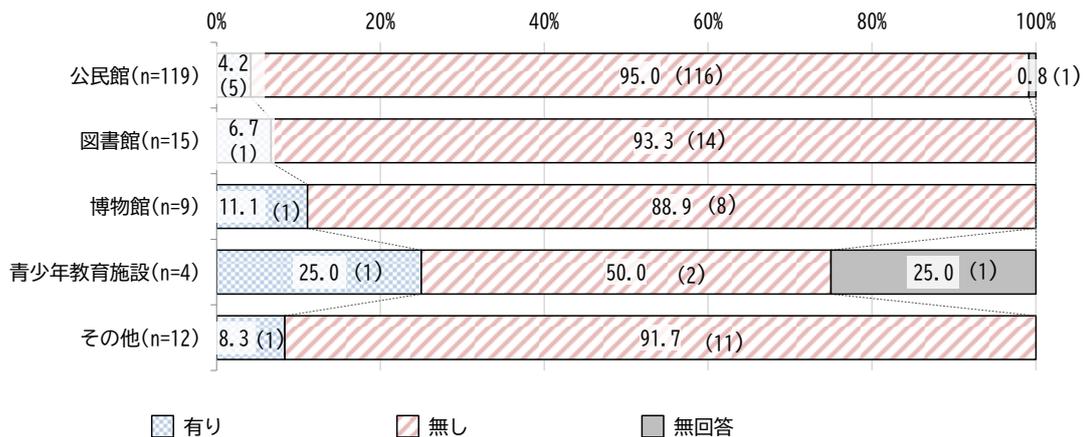


() 内は実数 (館)

③ 障がい者の学び支援に関わる「組織」

●社会教育施設種別でみると、多くの施設で「無し」が最も高くなっていますが、青少年教育施設では、他の施設に比べると「有り」(25.0%)の割合が高くなっています。

【社会教育施設種別】

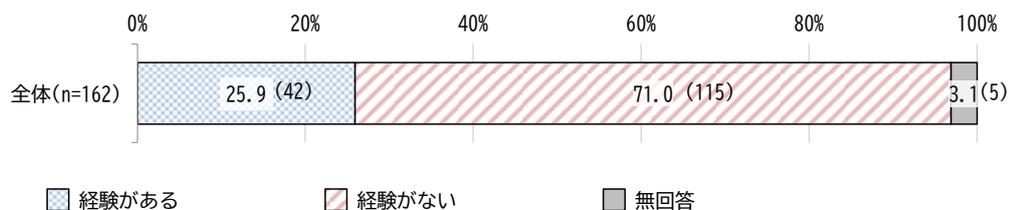


() 内は実数 (館)

IV. C：社会教育施設対象アンケート結果

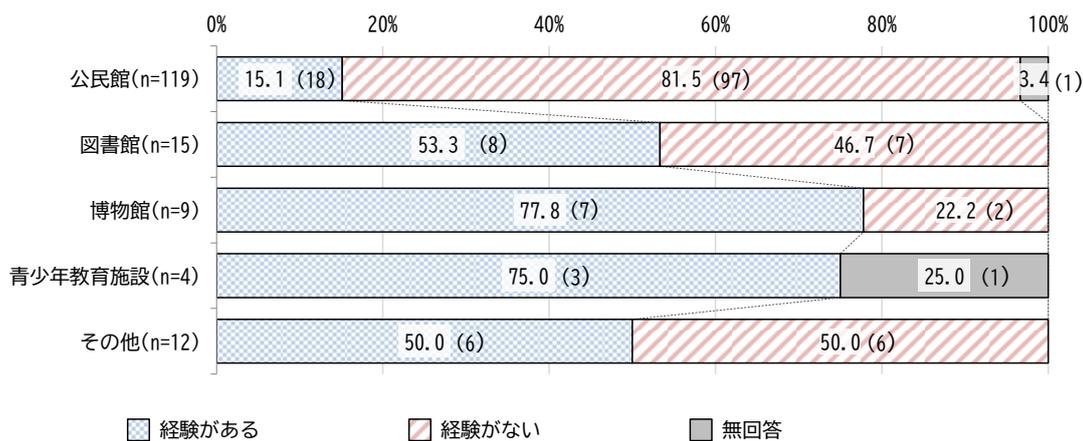
問4 「障がい者の学び支援」に関わる経験について

- 障がいのある方の学び支援に関わる経験では、「経験がある」(25.9%)、「経験がない」(71.0%)となっています。
- 社会教育施設種別でみると、図書館、博物館、青少年教育施設では、「経験がある」の割合が高くなっています。



() 内は実数 (館)

【社会教育施設種別】

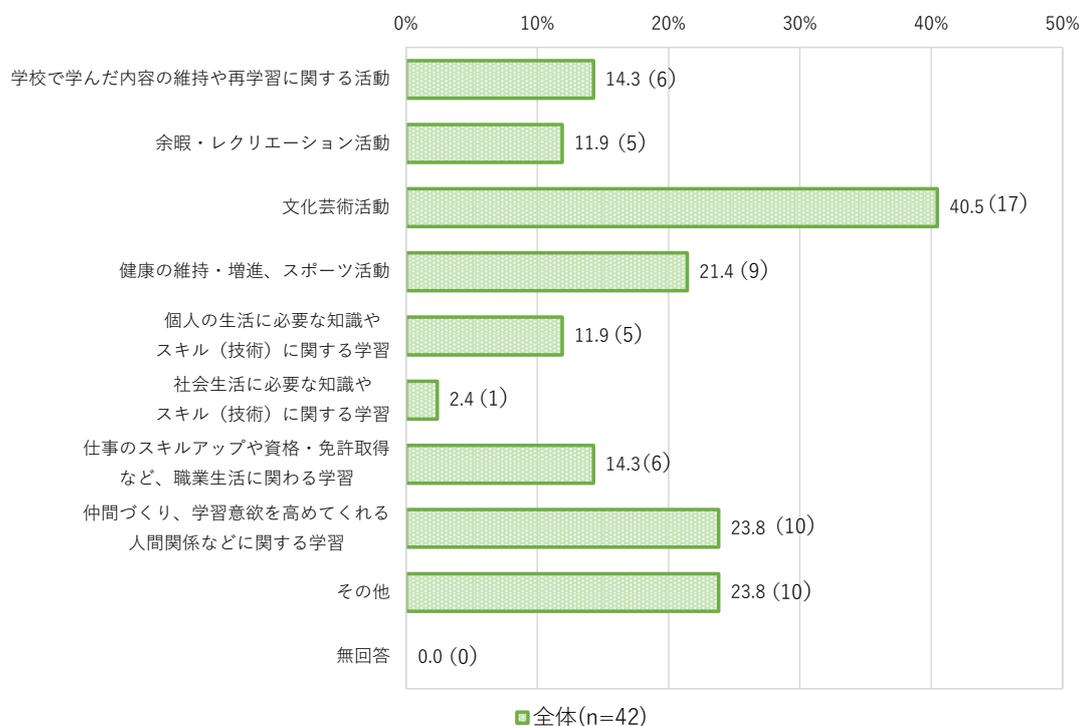


() 内は実数 (館)

問5 ※問4で「障がいのある方の学び支援に関わる経験がある」と回答された施設のみ

(1) 具体的に経験した学習支援（複数回答可）

- 「文化芸術活動」（40.5%）の割合が最も高く、次いで「仲間づくり、学習意欲を高めてくれる人間関係などに関する学習」「その他」（ともに 23.8%）、「健康の維持・増進、スポーツ活動」（21.4%）となっています。
- 社会教育施設種別でみると、最も高いのは以下のとおりです。
 - ・公民館「健康の維持・増進、スポーツ活動」（38.9%）
 - ・図書館「文化芸術活動」「その他」（ともに 50.0%）
 - ・博物館「学校で学んだ内容の維持や再学習に関する活動」「文化芸術活動」「その他」（ともに 42.9%）
 - ・青少年教育施設「余暇・レクリエーション活動」「その他」（66.7%）
 - ・その他の施設では「文化芸術活動」（66.7%）



()内は実数(館)

【具体的に経験した学習支援 その他】

- ◆役員会、総会資料作成支援 ◆支援学校図書館見学 ◆自然体験活動 ◆身体訓練
- ◆施設での読み聞かせや、集回訪問（図書館へ） ◆障がいのある方の、館内見学の受入れ
- ◆図書館資料の閲覧及び貸出し ◆支援学校のインターンシップの受入れ
- ◆文化講演会への参加、高等支援学校の職場体験活動
- ◆障がいのある方との作品の発表の場として活用、障がい者の方々の芸術作品の展示
- ◆高年者対象の陶芸教室、書道教室、木工教室、史跡教室など

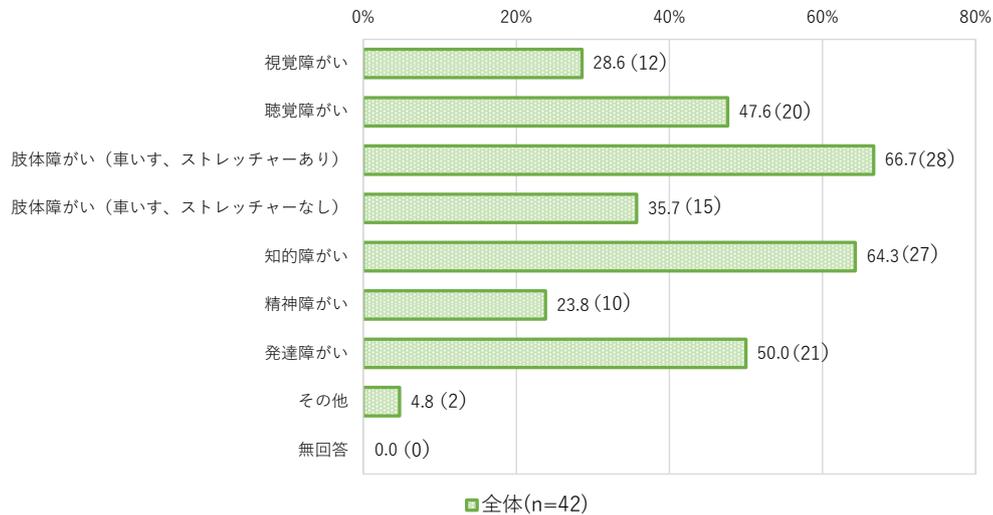
IV. C：社会教育施設対象アンケート結果

(上段：人 下段：%)

		学校で学んだ内容の維持や再学習に関する活動	余暇・レクリエーション活動	文化芸術活動	健康の維持・増進、スポーツ活動	個人の生活に必要な知識やスキル（技術）に関する学習	社会生活に必要な知識やスキル（技術）に関する学習	仕事のスキルアップや資格・免許取得など、職業生活に関する学習	仲間づくり、学習意欲を高める人間関係などに関する学習	その他	無回答	
全体 (単純集計)	42	6 14.3%	5 11.9%	17 40.5%	9 21.4%	5 11.9%	1 2.4%	6 14.3%	10 23.8%	10 23.8%	0 0.0%	
社会教育施設種	公民館	18	2 11.1%	1 5.6%	5 27.8%	7 38.9%	4 22.2%	1 5.6%	3 16.7%	4 22.2%	1 5.6%	0 0.0%
	図書館	8	1 12.5%	1 12.5%	4 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 37.5%	2 25.0%	4 50.0%	0 0.0%
	博物館	7	3 42.9%	1 14.3%	3 42.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	3 42.9%	0 0.0%
	青少年教育施設	3	0 0.0%	2 66.7%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%
	その他	6	0 0.0%	0 0.0%	4 66.7%	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%	0 0.0%	0 0.0%

(2) 利用している（利用したことがある）方の障がい種別について（複数回答可）

- 利用している（利用したことがある）方の障がい種別では、「肢体障がい（車いす、ストレッチャーあり）」（66.7%）の割合が最も高く、次いで「知的障がい」（64.3%）、「発達障がい」（50.0%）となっています。
- 社会教育施設種別でみると、最も高いのは以下のとおりです。
 - ・公民館「肢体障がい（車いす、ストレッチャーあり）」「知的障がい」（ともに44.4%）
 - ・図書館「肢体障がい（車いす、ストレッチャーあり）」「知的障がい」（ともに75.0%）
 - ・博物館「知的障がい」（100.0%）
 - ・青少年教育施設「肢体障がい（車いす、ストレッチャーあり）」「肢体障がい（車いす、ストレッチャーなし）」「発達障がい」（ともに100.0%）
 - ・その他の施設「肢体障がい（車いす、ストレッチャーあり）」（100.0%）



() 内は実数 (館)

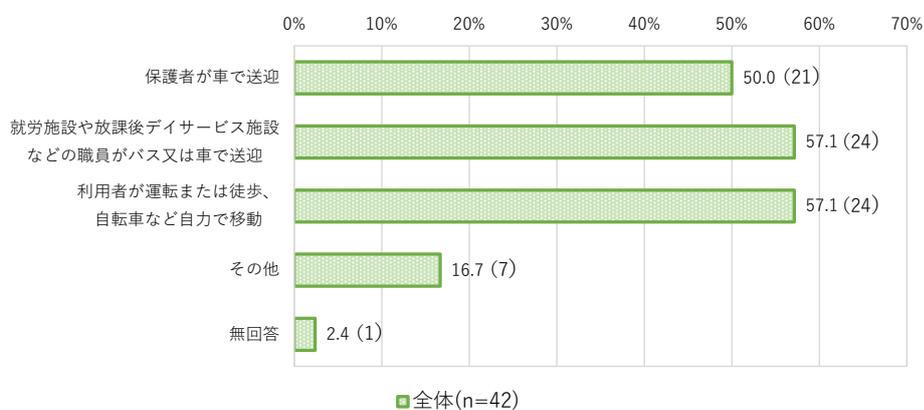
(上段：人 下段：%)

	標本数 (人)	視覚障がい	聴覚障がい	肢体障がい (車いす、ストレッチャーあり)	肢体障がい (車いす、ストレッチャーなし)	知的障がい	精神障がい	発達障がい	その他	無回答
全体 (単純集計)	42	12	20	28	15	27	10	21	2	0
		28.6%	47.6%	66.7%	35.7%	64.3%	23.8%	50.0%	4.8%	0.0%
社会教育施設種	公民館	18	4	4	8	3	8	2	5	0
			22.2%	22.2%	44.4%	16.7%	44.4%	11.1%	27.8%	0.0%
	図書館	8	2	5	6	4	6	1	5	0
			25.0%	62.5%	75.0%	50.0%	75.0%	12.5%	62.5%	0.0%
	博物館	7	2	5	5	3	7	4	5	0
			28.6%	71.4%	71.4%	42.9%	100.0%	57.1%	71.4%	0.0%
青少年教育施設	3	1	2	3	3	2	1	3	1	
		33.3%	66.7%	100.0%	100.0%	66.7%	33.3%	100.0%	33.3%	
その他	6	3	4	6	2	4	2	3	1	
		50.0%	66.7%	100.0%	33.3%	66.7%	33.3%	50.0%	16.7%	

IV. C：社会教育施設対象アンケート結果

(3) 利用している（したことがある）方の施設までの移動手段について（複数回答可）

- 「就労施設や放課後デイサービス施設などの職員がバス又は車で送迎」「利用者が運転または徒歩、自転車など自力で移動」（ともに 57.1%）の割合が最も高く、次いで「保護者が車で送迎」（50.0%）、「その他」（16.7%）となっています。
- 社会教育施設種別でみると、最も高いのは以下のとおりです。
 - ・ 公民館「利用者が運転または徒歩、自転車など自力で移動」（66.7%）
 - ・ 図書館「就労施設や放課後デイサービス施設などの職員がバス又は車で送迎」（75.0%）
 - ・ 博物館「就労施設や放課後デイサービス施設などの職員がバス又は車で送迎」（85.7%）
 - ・ 青少年教育施設「保護者が車で送迎」「就労施設や放課後デイサービス施設などの職員がバス又は車で送迎」「その他」（ともに 66.7%）
 - ・ その他の施設「就労施設や放課後デイサービス施設などの職員がバス又は車で送迎」「利用者が運転または徒歩、自転車など自力で移動」（ともに 83.3%）



() 内は実数 (館)

【移動手段 その他】

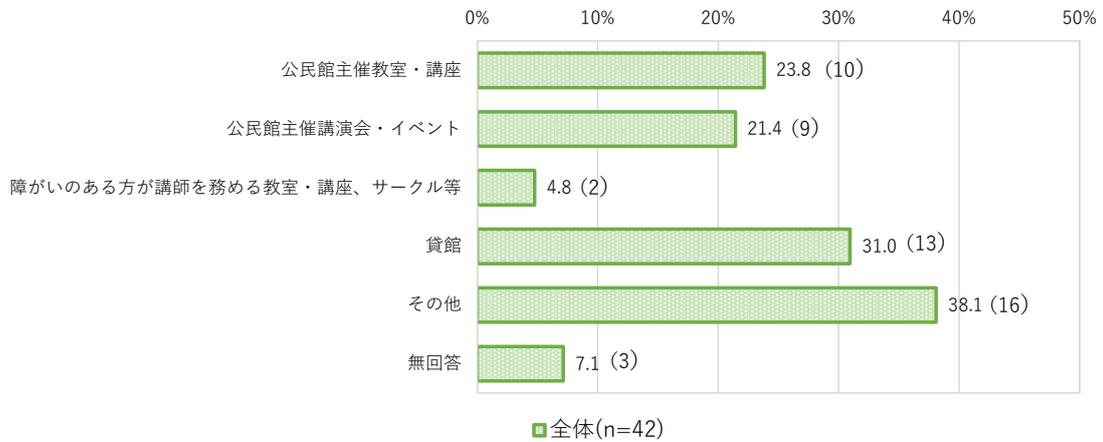
- ◆ タクシー ◆ 盲導犬といっしょに移動、保護者の送迎（子供） ◆ 学校の先生が送迎
- ◆ 福祉車両での移動 ◆ 当施設で手配したバス ◆ 支援学校借り上げバス

(上段：人 下段：%)

	標本数 (人)	保護者が車で送迎	就労施設や放課後デイサービス施設などの職員がバス又は車で送迎	利用者が運転または徒歩、自転車など自力で移動	その他	無回答						
		人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)					
全体 (単純集計)	42	21	50.0%	24	57.1%	24	57.1%	7	16.7%	1	2.4%	
社会教育施設種	公民館	18	6	33.3%	5	27.8%	12	66.7%	3	16.7%	0	0.0%
	図書館	8	4	50.0%	6	75.0%	4	50.0%	0	0.0%	1	12.5%
	博物館	7	5	71.4%	6	85.7%	3	42.9%	1	14.3%	0	0.0%
	青少年教育施設	3	2	66.7%	2	66.7%	0	0.0%	2	66.7%	0	0.0%
	その他	6	4	66.7%	5	83.3%	5	83.3%	1	16.7%	0	0.0%

(4) 利用内容について（複数回答可）

- 利用内容では、「その他」（38.1%）の割合が最も高く、次いで「貸館」（31.0%）、
「公民館主催教室・講座」（23.8%）となっています。
- 社会教育施設種別でみると、最も高いのは以下のとおりです。
 - ・公民館「貸館」（44.4%）
 - ・図書館「その他」（62.5%）
 - ・博物館「その他」（42.9%）
 - ・青少年教育施設「その他」（100.0%）
 - ・その他の施設「貸館」（50.0%）



() 内は実数 (館)

【利用内容 その他】

- ◆人権講演会 ◆体験プログラム（鑑賞と制作体験） ◆図書館の利用 ◆自治体選挙
- ◆市事業講座 ◆社会見学 ◆事前予約による企画展示での説明 ◆展覧会鑑賞など
- ◆施設へ移動図書館の運行を行い図書の出借サービスの提供 ◆主催事業
- ◆支援学校のプログラムに沿って鑑賞、体験（香水作り 匂い袋作り）
- ◆公民館施設内外での清掃実習 ◆宿泊学習、中津支援学校、アスレチック等

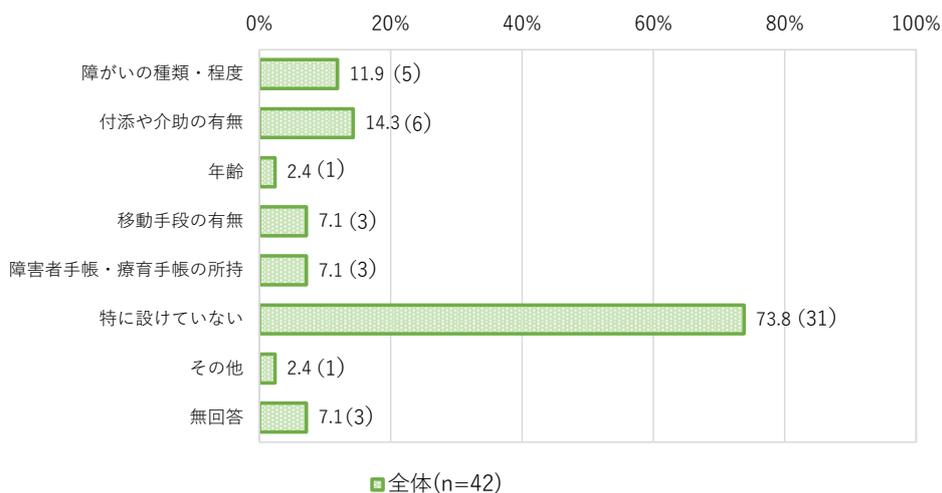
(上段：人 下段：%)

	標本数 (人)	公民館主催教室・講座	公民館主催講演会・イベント	障がいのある方が講師を務める教室・講座、サークル等	貸館	その他	無回答
全体 (単純集計)	42	10 23.8%	9 21.4%	2 4.8%	13 31.0%	16 38.1%	3 7.1%
社会教育施設種別	公民館	7 38.9%	4 22.2%	2 11.1%	8 44.4%	3 16.7%	0 0.0%
	図書館	0 0.0%	2 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 62.5%	1 12.5%
	博物館	2 28.6%	2 28.6%	0 0.0%	1 14.3%	3 42.9%	1 14.3%
	青少年教育施設	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	3 100.0%	0 0.0%
	その他	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	3 50.0%	2 33.3%	1 16.7%

IV. C：社会教育施設対象アンケート結果

(5) 事業や講座の参加条件について（複数回答可）

●事業や講座の参加条件では、「特に設けていない」（73.8%）の割合が最も高く、次いで「付添や介助の有無」（14.3%）、「障がいの種類・程度」（11.9%）となっています。
 ●社会教育施設種別でみると、どの施設も「特に設けていない」が最も高くなっています。博物館では、「付添や介助の有無」（42.9%）も他の施設と比べ高くなっています。



() 内は実数 (館)

【参加条件 その他】

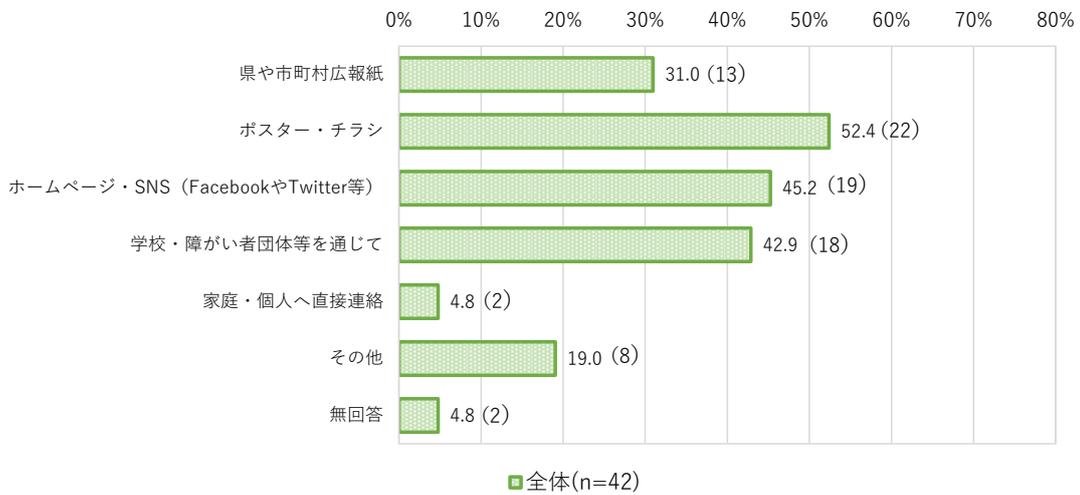
- ◆教育課程に基づく教育活動であること
- ◆活動ができるかどうか（活動可能不可能）
- ◆これまで重度の利用者がなかったため、条件は考えていなかったが、場合によっては、付き添いや介助者をお願いすると思います。職員2名体制で、職場に専門的にわかる方がいないので

(上段：人 下段：%)

	標本数 (人)	障がいの種類・程度	付添や介助の有無	年齢	移動手段の有無	障害者手帳・療育手帳の所持	特に設けていない	その他	無回答	
全体 (単純集計)	42	5 11.9%	6 14.3%	1 2.4%	3 7.1%	3 7.1%	31 73.8%	1 2.4%	3 7.1%	
社会教育施設種	公民館	18	1 5.6%	1 5.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	15 83.3%	0 0.0%	2 11.1%
	図書館	8	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
	博物館	7	2 28.6%	3 42.9%	0 0.0%	2 28.6%	2 28.6%	4 57.1%	0 0.0%	0 0.0%
	青少年教育施設	3	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%
	その他	6	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	3 50.0%	0 0.0%	1 16.7%

(6) 事業や講座の広報手段について（複数回答可）

- 事業や講座の広報手段では、「ポスター・チラシ」(52.4%)の割合が最も高く、次いで「ホームページ・SNS (FacebookやTwitter等)」(45.2%)、「学校・障がい者団体等を通じて」(42.9%)となっています。
- 社会教育施設種別でみると、最も高いのは以下のとおりです。
 - ・公民館「ポスター・チラシ」(61.1%)
 - ・図書館「ポスター・チラシ」「ホームページ・SNS (FacebookやTwitter等)」(ともに50.0%)
 - ・博物館「学校・障がい者団体等を通じて」(71.4%)
 - ・青少年教育施設「学校・障がい者団体等を通じて」(100.0%)
 - ・その他の施設「ホームページ・SNS (FacebookやTwitter等)」(100.0%)



() 内は実数 (館)

【広報手段 その他】

- ◆公民館だより ◆社協→民生委員→家庭へ ◆電話での問い合わせでの説明
- ◆社会福祉協議会にチラシ配置 ◆庁内の各区への回覧 ◆広報していない

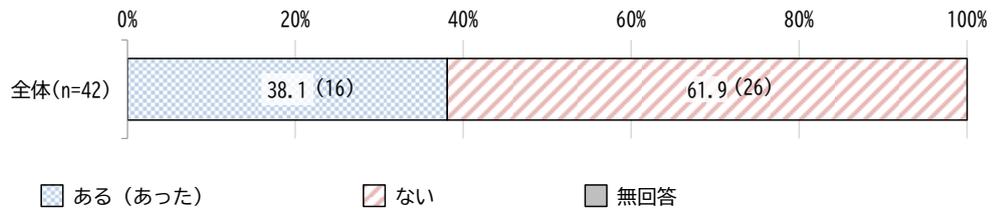
(上段：人 下段：%)

	標本数 (人)	県や市町村広報紙	ポスター・チラシ	ホームページ・SNS (FacebookやTwitter等)	学校・障がい者団体等を通じて	家庭・個人へ直接連絡	その他	無回答
全体 (単純集計)	42	13 31.0%	22 52.4%	19 45.2%	18 42.9%	2 4.8%	8 19.0%	2 4.8%
社会教育施設種別	公民館	3 16.7%	11 61.1%	4 22.2%	5 27.8%	1 5.6%	4 22.2%	0 0.0%
	図書館	3 37.5%	4 50.0%	4 50.0%	3 37.5%	0 0.0%	2 25.0%	2 25.0%
	博物館	1 14.3%	1 14.3%	3 42.9%	5 71.4%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%
	青少年教育施設	2 66.7%	2 66.7%	2 66.7%	3 100.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%
	その他	4 66.7%	4 66.7%	6 100.0%	2 33.3%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%

IV. C：社会教育施設対象アンケート結果

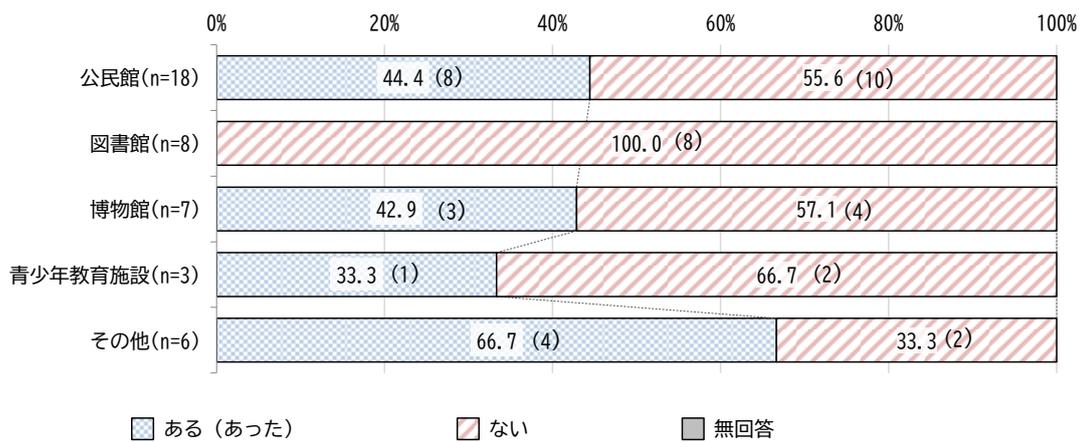
(7) ボランティアの参加について

- ボランティアの参加では、「ある（あった）」(38.1%)、「ない」(61.9%) となっています。
- 社会教育施設種別で見ると、多くの施設で「ない」の割合が高くなっているのに対し、その他の施設では、「ある（あった）」(66.7%) の割合が最も高くなっています。



() 内は実数 (館)

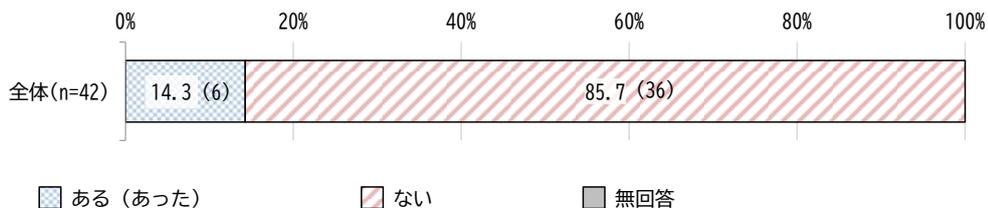
【社会教育施設種別】



() 内は実数 (館)

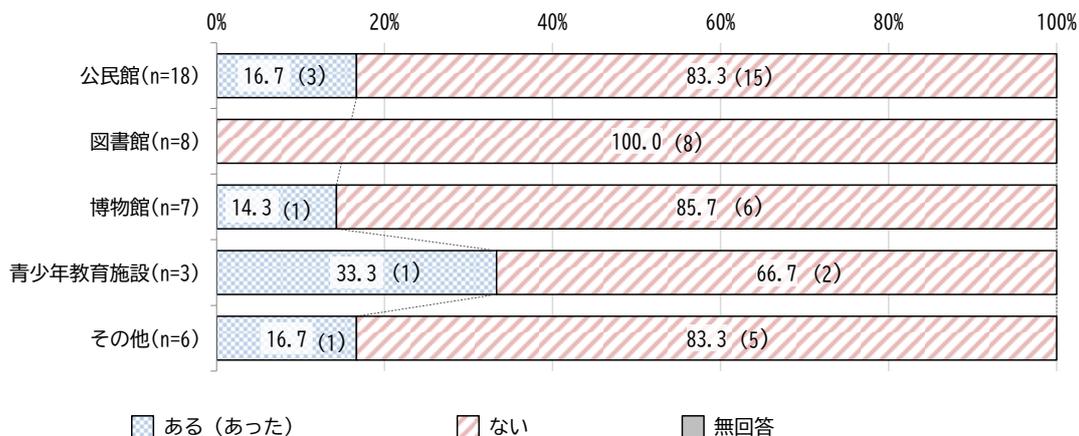
(8) ボランティア等を対象とした障がい特性の理解等を促すための事前研修等について

- ボランティア等を対象とした障がい特性の理解等を促すための事前研修等では、「ある（あった）」（14.3%）、「ない」（85.7%）となっています。
- 社会教育施設種別でみると、どの施設も「ない」が最も高くなっていますが、青少年教育施設では、他の施設に比べると「ある（あった）」（33.3%）の割合が高くなっています。



() 内は実数 (館)

【社会教育施設種別】

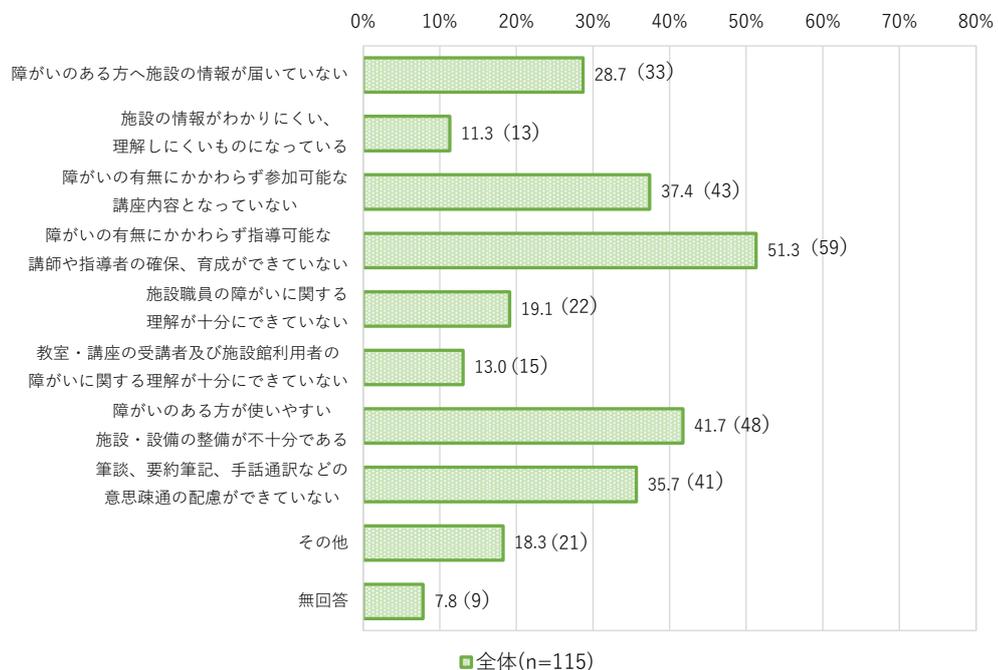


() 内は実数 (館)

IV. C：社会教育施設対象アンケート結果

問6 ※問4で「障がいのある方の学び支援に関わる経験がない」と回答された施設のみ その理由として考えられるもの（複数回答可）

- 障がいのある方の学び支援の経験がない理由では、「障がいの有無にかかわらず指導可能な講師や指導者の確保、育成ができていない」（51.3%）の割合が最も高く、次いで「障がいのある方が使いやすい施設・設備の整備が不十分である」（41.7%）、「障がいの有無にかかわらず参加可能な講座内容となっていない」（37.4%）となっています。
- 社会教育施設種別でみると、多くの施設で「障がいの有無にかかわらず指導可能な講師や指導者の確保、育成ができていない」が最も高くなっているのに対し、その他の施設では「障がいの有無にかかわらず参加可能な講座内容となっていない」「障がいのある方が使いやすい施設・設備の整備が不十分である」（ともに50.0%）が最も高くなっています。



() 内は実数 (館)

【学び支援の経験がない理由 その他】

- ◆ニーズ自体を聞かない ◆対象になる方が少ない ◆今まで機会がなかった
- ◆障害あるなしにかかわらず講座を行っているが参加がない（障がいを持つ人）
- ◆公民利用者が特定の障がい者との関係で、コミュニケーションがとれそれぞれが配慮できている
- ◆講演会で、聴覚障がい者団体より口述筆記の要望があったが関係団体が対応した（公民館は座席確保の依頼だけあった）
- ◆コロナの関係で以前はできていた交流の場ができなくなった
- ◆障がい者だけに特別に開催しているわけではなく広く市民向けに実施している
- ◆地域の障がいのある方との交流もほとんど無く、情報も乏しい
- ◆障がいのある方の学び支援の計画ができていない
- ◆障がいのある方との直接の交流ができていない
- ◆障がいのある方を対象にした事業がない
- ◆障がいのある方に積極的に施設を利用してもらうという観点が施設側に抜けている
- ◆障がいのある方への事業全般についての対応力が弱い
- ◆市が主催して行う講座や自主サークル（福祉）はあるが、公民館が主催する講座・体制は整備されていない

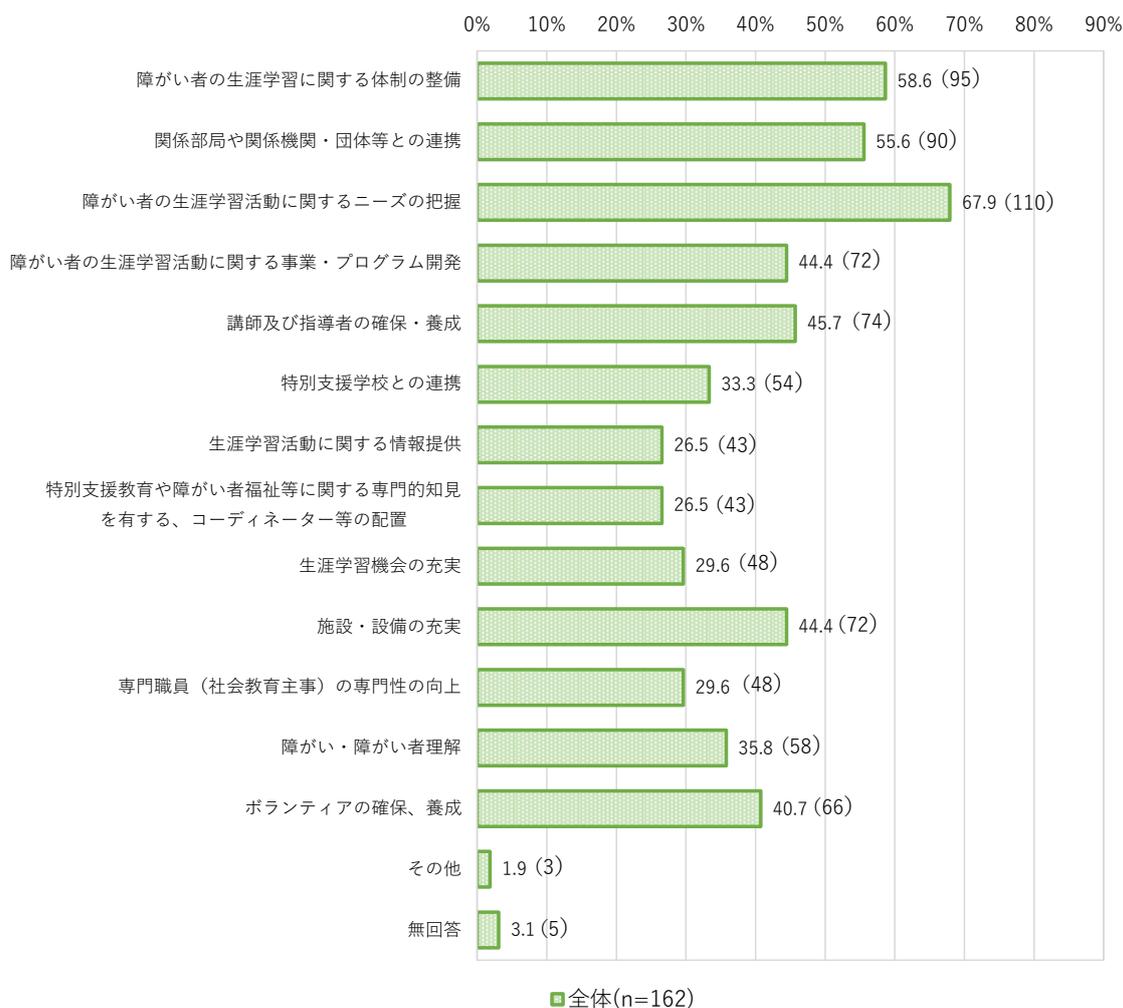
(上段：人 下段：%)

	標本数（人）	が障 届が い い て い な い	障 が い の あ る 方 へ 施 設 の 情 報	理 解 し の 情 報 が わ か り な く な っ て い る	施 設 の 情 報 が わ か り な く な っ て い る	加 可 能 な 講 座 内 容 と な ら ず 参 加 が い な い	障 が い の あ る 方 に 対 し て の 講 座 が あ ら ず	導 引 が あ ら ず 講 座 に 参 加 し な い	障 が い の あ る 方 に 対 し て の 講 座 が あ ら ず	解 が あ ら ず 講 座 に 参 加 し な い	施 設 職 員 の 障 が い に 関 する 理 解 が あ ら ず	利 用 者 の 障 が い に 関 する 理 解 が あ ら ず	教 室 ・ 講 座 の 受 講 者 及 び 施 設 館 の 障 が い に 関 する 理 解 が あ ら ず	施 設 の 整 備 が 不 十 分 で あ る	障 が い の あ る 方 に 対 し て の 講 座 が あ ら ず	い な い の 意 思 疎 通 の 配 慮 が あ ら ず	筆 談 、 要 約 筆 記 、 手 話 通 訳 な ど の 配 慮 が あ ら ず	そ の 他	無 回 答
全体 (単純集計)	115	33 28.7%	13 11.3%	43 37.4%	59 51.3%	22 19.1%	15 13.0%	48 41.7%	41 35.7%	21 18.3%	9 7.8%								
社会 教育 施設 種	公民館	97	30 30.9%	10 10.3%	37 38.1%	50 51.5%	19 19.6%	14 14.4%	41 42.3%	34 35.1%	19 19.6%	7 7.2%							
	図書館	7	1 14.3%	1 14.3%	0 0.0%	4 57.1%	0 0.0%	0 0.0%	3 42.9%	3 42.9%	1 14.3%	1 14.3%							
	博物館	2	1 50.0%	1 50.0%	1 50.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%							
	青少年教育施設	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -							
	その他	6	1 16.7%	1 16.7%	3 50.0%	2 33.3%	1 16.7%	0 0.0%	3 50.0%	2 33.3%	1 16.7%	1 16.7%							

3. 今後の展望について

問7 今後、障がい者の生涯学習を推進する上での課題（複数回答可）

- 今後、障がい者の生涯学習を推進する上での課題では、「障がい者の生涯学習活動に関するニーズの把握」（67.9%）の割合が最も高く、次いで「障がい者の生涯学習に関する体制の整備」（58.6%）、「関係部局や関係機関・団体等との連携」（55.6%）となっています。
- 社会教育施設種別でみると、最も高いのは以下のとおりです。
 - ・ 公民館「障がい者の生涯学習活動に関するニーズの把握」（75.6%）
 - ・ 図書館「関係部局や関係機関・団体等との連携」（86.7%）
 - ・ 博物館「関係部局や関係機関・団体等との連携」（66.7%）
 - ・ 青少年教育施設「関係部局や関係機関・団体等との連携」「障がい者の生涯学習活動に関するニーズの把握」「障がい者の生涯学習活動に関する事業・プログラム開発」「特別支援学校との連携」「施設・設備の充実」（ともに 75.0%）
 - ・ その他の施設「障がい者の生涯学習に関する体制の整備」「関係部局や関係機関・団体等との連携」（ともに 58.3%）



() 内は実数 (館)

IV. C：社会教育施設対象アンケート結果

【障がい者の生涯学習を推進する上での課題 その他】

◆人員（職員）確保 ◆特になし ◆発表の機会、場の保障・確保、民間団体との連携

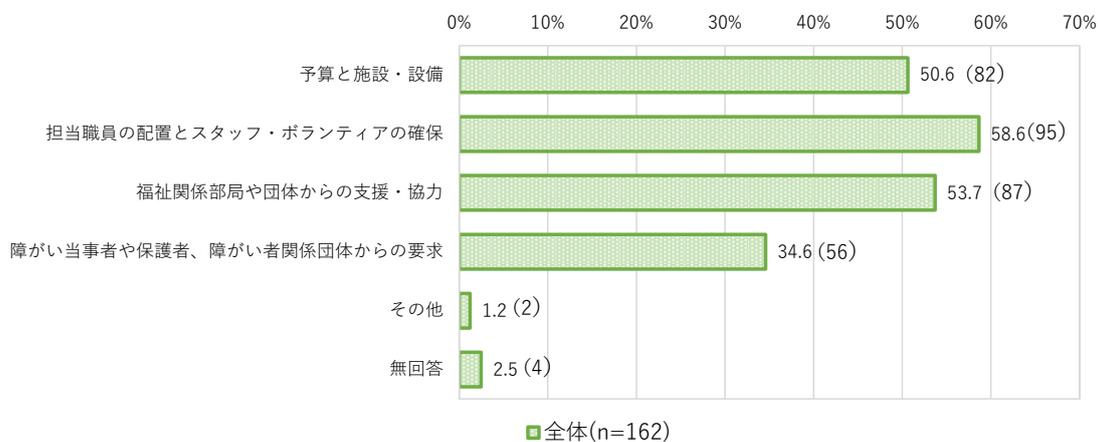
(上段：人 下段：%)

		標本数（人）	障がい者の生涯学習に関する体制の整備	関係部局や関係機関・団体等との連携	障がい者の生涯学習活動に関するニーズの把握	障がい者の生涯学習活動に関する事業・プログラム開発	講師及び指導者の確保・養成	特別支援学校との連携	生涯学習活動に関する情報提供	特別支援教育や障がい者福祉等に関する専門的知見を有する、コーディネーター等の配置	生涯学習機会の充実	施設・設備の充実	専門職員（社会教育主事）の専門性の向上	障がい者理解	ボランティアの確保、養成	その他	無回答
全体（単純集計）		162	95 58.6%	90 55.6%	110 67.9%	72 44.4%	74 45.7%	54 33.3%	43 26.5%	43 26.5%	48 29.6%	72 44.4%	48 29.6%	58 35.8%	66 40.7%	3 1.9%	5 3.1%
社会教育施設種	公民館	119	70 58.8%	59 49.6%	90 75.6%	56 47.1%	58 48.7%	35 29.4%	34 28.6%	34 28.6%	37 31.1%	50 42.0%	38 31.9%	41 34.5%	50 42.0%	2 1.7%	2 1.7%
	図書館	15	10 66.7%	13 86.7%	7 46.7%	6 40.0%	6 40.0%	4 26.7%	5 33.3%	1 6.7%	4 26.7%	8 53.3%	2 13.3%	6 40.0%	4 26.7%	0 0.0%	0 0.0%
	博物館	9	5 55.6%	6 66.7%	4 44.4%	4 44.4%	4 44.4%	5 55.6%	1 11.1%	2 22.2%	1 11.1%	3 33.3%	1 11.1%	5 55.6%	5 55.6%	1 11.1%	0 0.0%
	青少年教育施設	4	1 25.0%	3 75.0%	3 75.0%	3 75.0%	1 25.0%	3 75.0%	1 25.0%	1 25.0%	2 50.0%	3 75.0%	2 50.0%	2 50.0%	2 50.0%	0 0.0%	1 25.0%
	その他	12	7 58.3%	7 58.3%	5 41.7%	2 16.7%	4 33.3%	6 50.0%	1 8.3%	5 41.7%	3 25.0%	6 50.0%	4 33.3%	3 25.0%	4 33.3%	0 0.0%	2 16.7%

IV. C：社会教育施設対象アンケート結果

問8 今後、障がい者に対応した事業を推進していくために必要な条件（複数回答可）

- 今後、障がい者に対応した事業を推進していくために必要な条件では、「担当職員の配置とスタッフ・ボランティアの確保」(58.6%)の割合が最も高く、次いで「福祉関係部局や団体からの支援・協力」(53.7%)、「予算と施設・設備」(50.6%)となっています。
- 社会教育施設種別でみると、最も高いのは以下のとおりです。
 - ・ 公民館「担当職員の配置とスタッフ・ボランティアの確保」(58.8%)
 - ・ 図書館「福祉関係部局や団体からの支援・協力」(66.7%)
 - ・ 博物館「福祉関係部局や団体からの支援・協力」(88.9%)
 - ・ 青少年教育施設「担当職員の配置とスタッフ・ボランティアの確保」「福祉関係部局や団体からの支援・協力」(ともに50.0%)
 - ・ その他の施設「担当職員の配置とスタッフ・ボランティアの確保」(66.7%)



() 内は実数 (館)

【障がい者に対応した事業を推進していくために必要な条件 その他】

◆ 人員不足の解消 ◆ 施設の改修

(上段：人 下段：%)

	標本数 (人)	予算と施設・設備	担当職員の配置とスタッフ・ボランティアの確保	福祉関係部局や団体からの支援・協力	障がい当事者や保護者、障がい者関係団体からの要求	その他	無回答
全体 (単純集計)	162	82	95	87	56	2	4
		50.6%	58.6%	53.7%	34.6%	1.2%	2.5%
社会教育施設種	公民館	60	70	61	48	2	1
		50.4%	58.8%	51.3%	40.3%	1.7%	0.8%
	図書館	9	8	10	3	0	0
		60.0%	53.3%	66.7%	20.0%	0.0%	0.0%
	博物館	2	5	8	2	0	0
		22.2%	55.6%	88.9%	22.2%	0.0%	0.0%
青少年教育施設	1	2	2	1	0	1	
	25.0%	50.0%	50.0%	25.0%	0.0%	25.0%	
その他	7	8	5	2	0	2	
	58.3%	66.7%	41.7%	16.7%	0.0%	16.7%	

問9 障がい者の生涯学習推進について、ご意見をお聞かせください。(自由記述)

障がい者の生涯学習推進についてのご意見
<p>当市では、人権講演会なども主に同和問題が大きく中心となっており、比例して障がい者理解への取り組みも少ないように思う。当館事業でも、あえて障がい者にフォーカスした事業は現在行っていない。セミナー等参加希望があれば、支援には全力で臨みたいと考えているが、その機会は今のところ無い。もっと参加しやすい雰囲気をつくり、興味を持ってもらえるようにしたい。</p>
<p>生涯学習活動には、どのような事業（教室）があるのか、わからない。障がい者関係団体から、こんな事がしたい、とかこんな形で公民館を利用したいとの要望があれば、全面的に支援したいと思っています。</p>
<p>障がい者の家族から、コーディネーターさんへの連携関係やまわりからの見方などを注視して施設などの設備等 皆さんの協力体制が必要かと思えます。</p>
<p>障がいの程度がそれぞれ異なり、ひとくくりの扱いはできません。ケースバイケースでコミュニケーションを取りながら利用者にも理解してもらいながら推めていくのかな？</p>
<p>誰もが使いやすい館であることを目指していますので、利用したい、参加したいという意見があった時は、できる限り受け入れられるよう対応したいと思っています。</p>
<p>障がい者の生涯学習のニーズの把握が必要。そのためには具体的な実態調査やアンケートなどを実施し、具体的手だてを協議することが必要となる。それをもとに計画的な学習計画を立案していくべきと思う。調査時においては障がい者という個人情報にも配慮し、学力の実施にあたる前に「手話言語条例の制定」など法的な整備も求められる。手話通訳などの人材育成も不可欠で、実態把握に依じて予算の計上も必要となる。国や県が先頭に立ち、リードしていかなければ市町村だけでは対応は難しい。モデル地区も設け、具体的な成果や講師をつかんで対策も含め、徐々に市町村に展開していくべきと考える。</p>
<p>施設・設備のUD化（バリアフリー化も含め）に行政が大きく関わっていかなければ、やりたいこと等の要望が出て困難になることがほとんどである。予算化をするにあたって、調査をするだけでなく、障がい者のニーズに答えられる人やものに関わるお金の調査・計画・執行をできるようにしてほしい。</p>
<p>当施設にとって体験活動が主活動になるため障がい者の生涯学習に関するプログラムの開発が必要になってくると思う。</p>
<p>事前の就職面接会場の貸出や掃除会場の貸出し支援を行っており、その他利用可能な活動方法を支援学校と意見交換をしている。</p>
<p>障がい者の生涯学習には、我々の勉強不足と、障がい者の学習へのニーズを把握できていませんでした。公民館の利用は市民皆様が対象であると今回の調査で、再確認しました。色々な課題を出しあって前に進んでいきます。</p>
<p>これまで障がい者の学び支援に関わることがないのでどのように取り組むべきか具体的によくわからないのが現状です。</p>
<p>障がい者の方にも、年齢、障がいの程度・内容等いろいろな方がおられると思います。専門性があり理解あるスタッフが必要だと思います。</p>
<p>現段階で、コロナ禍の中で、活性化協議会としての活動も十分にできていないのに障がい者を対象にした行事や学習の場をもうけるのには、ハードルが高すぎると考えます。</p>

IV. C：社会教育施設対象アンケート結果

障がい者の生涯学習推進についてのご意見
<p>小さな自治体ですので、少ない対象者に対して、設備を整えるなどの推進は難しいです。対象者が申し出をしやすい窓口の設置と、申し出の内容をサポートできる情報収集と橋渡しなどが現実的ではないかと考えています。</p>
<p>どういものが学習支援となり得るのかを周知するために、具体的な事例集等があるとよいと思います。</p>
<p>日々の生活におわれ、また機会がなく本件についてあまり考えてきませんでした。今後、公民館でなにか出来るのか？考えて行きます。</p>
<p>障がい者に対して、地域がまだまだ理解が不十分であり、閉鎖的な面もあると感じる。地域での障がい者への生涯学習推進も重要だが、もっとトップダウンで障がい者の方々がいるいろんな場面で活躍できる機会を作りたい。</p>
<p>障がい者の生涯学習の推進には、スタッフ（受け入れ体制の拡充）が急務となる。また推進して行くには案内的知見を有している者の配置が必要である。全くの素人ができることではないと考えることから推進するには入念な準備が必要であるとする。</p>
<p>生涯学習推進するうえで、参加の条件等は特に設けていません。今後も障がい者が参加できる体制は確保していきたい。</p>
<p>学校との連携においては、特別支援学校や特別支援学級の児童・生徒への利活用を推進していきたい。</p>
<p>現在、開設している公民館の学級・講座には障がい者規制はしていないが、障がい者とおもえる人の参加は見えない。学級・講座に障がい者の人が参加しようと思える内容がないのかも知れないので今後関係者と協議して検討したい。また、いろいろな情報を収集して、障がい者の学習推進についても協議したいと思います。</p>
<p>障がい者のみを対象とした事業を開催する場合、参加者が集まるか分からない。地域（校区）に支援学校がなく、成人については積極的に参加できないのではないかとと思うので国体を対象に始めていきたいと検討している。</p>
<p>障がいの有無にかかわらず参加（交流）できる教室、講座の構築をしていきたい。障がいを理由に教室・講座への参加を断ることは今までも、これからも考えていない。基本的にどなたでも参加していただきたいと思う。障がい名が同じでも障がいの状況は様々なので、事前にどのような配慮が必要か打ち合わせる必要がある。障がい者の学び支援は賛成だが、障がい者だけを対象とした内容の企画は共生社会を進めることにはならないのではないかと。</p>
<p>障がい者の情報を保有して少なく、ニーズの把握が出来ていない、障がい者の学習機会の要望が公民館には出来ていません。障がい者学習の為に体制もなく、実行するスタッフ・知識・設備等もなく、現在では障がい者学習を実施できません。</p>
<p>私（指導員）の認識と学習不足で、障がい者の生涯学習について考えたり見通しを立てたりする姿勢が欠けていました。高齢者学級の運営上、参加者の交通手段について会議で要請したことはありますが、障がいのある方を講座の中心に据えての企画・運営ということを考えてはいませんでした。今後、学級の企画・運営において、考慮してまいりたいと思います。</p>
<p>障がい者が明るく、楽しく学べる学習内容を見つけていく必要があると考えます。</p>
<p>多くの公民館は人員削減の煽りを受け少ない人数で運営しているため、厳しい状況です。（障がいを持たれている方の学習活動までの対応が出来る体制でない事をご理解下さい）</p>

障がい者の生涯学習推進についてのご意見
<p>市の社会福祉課が主体となって今回初めて障がい者の方々の作品展示を行いました。歴史文化館（資料館）としては、企画展などの説明を行うことはできるが、事業化して障がい者の生涯学習を行うことは施設やスタッフ的に現状では難しいと思われます。今回のような展示するスペースの提供やその方法について歴史文化館としてできる事を行いたいと思います。</p>
<p>施設の特性上、特に障がい者に限定した事業は行っていませんが、障がい者芸術文化祭で、絵画の展示や、フェスティバルでの物販の提供をおこないました。障がい者の生涯学習を推進するための関連書籍の購入等を、今後も行っていきたい。</p>
<p>当施設の場合、先方の要望に全て応えることは不可能なこともあるが、対応できることは受け入れてきた。当施設の特徴を活用した学習支援はこれからも継続していきたい。公的な施設は要望に合わせて更に充実させ、障害を持つ方の満足度が向上していくことを望みます。</p>
<p>令和元年より本館の改修工事を行っております。その中で以前はなかった、入口のスロープ設置や障がい者用のトイレの新設などを行いました。本館は、歴史史料の展示が主ですが、来館者に夢を抱いていただく様にすることを第一目的としています。そんな意味でも障がい者の方々にも興味を持っていただけるように工夫・努力が必要と考えています。本館は「夢」を抱いていただき、生涯学習を充実したものになる様日々研修としていこうと考えています。</p>
<p>もともと利用の少ない公民館で、障がい者の利用も今までなかったが、今後は事前に知識を持とうと思いました。</p>
<p>障がい者に対する意識度や認知度は高まって来ているとは思いますが、講座や生涯学習として学ぶといった範囲までは残念ながら至っていない様に感じます。パラリンピックやパラスポーツ等を通して以前より確実に意識は上がっていると感じております。</p>
<p>障がい者の方々が学びになるような内容とはどんな事か？そこから必要な連携・宣伝・スタッフの確保など設備も含めて考えたいです。</p>
<p>障がいがある方を対象に生涯学習を提供するという意識が、私どもに定着していないという実態があると思います。今回の事業で障がいがある方の生涯学習活動という視点が広がっていくといいと思います。（ある方・ない方と分けるのではなく）放課後チャレンジ事業の夏休みの活動に聴覚に障害がある子どもさんが参加してくれました。地域の学校の児童と沢山会えるいい機会になったと感じています。チャレンジの子どもたちも幼稚園まで一緒に過ごしてきた子どもさんと久しぶりに一緒に活動ができていきいきしていました。</p>
<p>特に障がい者という目線での生涯学習の推進という点においては、少し意識が欠けている部分があったと反省しています。推進していくためには、自分自身の意識改革も必要だと思うし、周りの関係者、関係機関等との連携も必要不可欠だと感じました。</p>
<p>豊後大野市の7つの公民館で、本年度より「障がい者の学び支援事業」に取り組みます。会場は豊後大野市千歳公民館を中心に考えており、10月以降5回程度講座を開催する計画です。</p>
<p>利用履歴が皆無である事で対応が難しい。</p>
<p>今回このアンケートを経験して、現状はほぼ障がい者対応の策を講じてないことを痛感しました。今後、地域全体と障がい者の方々との現実的な交流機会を持つことで相互理解を図りながら改善すべきと思いました。</p>

IV. C：社会教育施設対象アンケート結果

障がい者の生涯学習推進についてのご意見
<p>障がい者の生涯学習は、社会教育の分野では取り残されてきた領域だと思います。施設が障がい者に対応する施設となっているか、講座内容の情報や講師など整備すべきことは山積みです。このたびこのような調査が行われることは、障がい者の皆さんには、一つの明るい兆しかもしれません。しかしながら、今、公民館は、コミュニティセンターへ移行しています。コミュニティセンターへの移行は、従来の公民館の機能を経済優先のように変化させているようにもあります。今のコロナのようなものです。青年団、婦人会、老人クラブのように、昔の社会教育中心を担っていた団体の衰退と同時に社会教育の有り様が変化してきました。と同時に地域の過疎高齢化と地域経済の活動の衰退が進む中、全国的に公民館がコミュニティとしての機能を持たせることにより、地域の活力や経済を生み出すための中心的な役割を持たせようとしています。このような中、このアンケート結果から得られるであろう障がい者への支援という目的が達成されているのか、はなはだ疑問を持たざるをえません。コミュニティセンターへの移行により従来の公民館としての機能は半減されるものと思います。その中で障がい者の生涯学習は困難を極めるものがあるかと思っています。そもそもこのコミュニティセンター化の流れを止められなかった大分県教育委員会は、このアンケート結果を各市町村長にどのように反映させようとしているのでしょうか。</p>
<p>障がい者の学習推進は「障がい者」「障がい者団体」という枠にこだわり一般の健常者普通に交流できる関係になることが今の目標と考え方。また障がい者の自立のためにも「学習」や「仕事」や「賃金」「作品評価」として生活の基盤となる収入を保障することも必要ではないかと考える。「障がい」を乗り越え一般の市民（人々）が共に働き、学ぶ場や意識の改善が望まれる。公共の施設としてもその努力を推進したい。</p>
<p>実施数が不十分であるため、今後は受け入れ団体を増やし、ノウハウを蓄積して充実させていく必要がある。</p>
<p>障がいがある人たちが生活している身近な場所（歩いていけそうな場所）で、余暇を楽しめるような活動や地域住民とふれあえるような活動ができる教室・講座を増やしていくようにしていかなければならないと思う。</p>
<p>図書館における視覚障害者等に対するサービスを目的とした「読書バリアフリー法」が制定され、当館でも職員が障害者向けサービスに関する研修を受講したが、現実的にはサービスを行うための専任のサービス担当者が部門の配置、電子書籍の導入など、ドラスティックなサービス拡充のための人員や予算がない。限られた人員や予算の中で工夫して取り組みをすることは出来るだろうか、大きく目を引くものがないためにアピール力が弱くなり、対象者にサービスを認知してもらう機会が少なければ、サービスの裾野を広げることも難しいと思う。</p>
<p>高齢者の生涯学習会は現在実施しているが、障がい者の学習会は、計画した事はありません、今後は必要に応じて行えるように考えたい。</p>
<p>本館では、障がい者の方の利用もありますし、教室・講座についても対応する準備はしています。現段階では、申込みはありませんが、設備の整備やボランティアの確保ができれば、より対応が可能となるので、そちらをお願いできればと思います。</p>
<p>地区公民館が障がい者を受け入れる為の支援する体制が出来ていない、施設及び設備が整備されておらず又スタッフやボランティアの確保も必要</p>
<p>障がい者にやさしい町づくりにする思いはつたわってきますが、小さな公民館では入り口も段差があり、まだ整備がととのっていません。</p>
<p>コミュニティセンターを利用するために館長だけでは例えば外国人や障がいのある方との接点の持ち方がわかりません。</p>

障がい者の生涯学習推進についてのご意見
<p>公民館はエレベーターの設置やバリアフリートイレの設置など完全にできている場所は多くない。そのため障がい者の生涯学習推進において、遅れてるといえる。そのため共生社会を実現するための「合理的配慮」が提供できていない。イベントや教室・講座のようなソフト面の充実の前に、ハード面をしっかりとしなければいけないと思う。</p>
<p>障がいに限らず、生涯学習推進を人生 100 年時代に向けて、国や県の政策としてどの課も進めていくことが、誰もが生きやすい社会になると思う。</p>
<p>当公民館はバリアフリーとうたいつつも、施設が古いため障がいをもたれた方は利用しづらい。玄関に手すりがなく障がい者用トイレにおいても段差があり車いすをつかわれている方には利用しづらい施設。</p>
<p>今回のアンケートにおいて、当施設では、取り組みについて具体的な内容はありません。今後、推進していく上で他の関係機関との連携が必要と考えます。体制づくりが大切です。生涯学習として、当施設で行うことは問題はなく情報等、ニーズの把握ができれば可能性を考えています。</p>
<p>障がい者が公民館で活動できる条件設備ができていない。定期的に特別支援学校の生徒が公民館のボランティア清掃を行っている。また校区団体（交通安全協会）は特別支援校生徒の交通安全指導（社会見学時）にあたっている。将来的には特別支援校生徒と公民館利用者の交流の場を持ちたいと思うが課題も多い。</p>
<p>公民館事業で障がい者理解をテーマにした講演会や学習会は行っていますが、当事者の学習についてあまり考えたことがありませんでした。地域にどのような方がおり、どのようなニーズがあるのかとどのように調べるのか、手法、事例があれば知りたい。</p>
<p>学習意欲のある方をサポートするのはできる限りやりたいと思う。公民館のスタンスとしてあるべきだと考える。公民館のエリアでは関係機関との日頃からのやりとりや、住民とのつながりの中で障がい者の方の情報がないので、アンテナを高くして見ていかなければならないと考えている。と同時に、障がい者の生涯学習推進について学ぶ機会に積極的に参加することが求められる。</p>
<p>各種教室では障がい者と健常者が一緒に学べるようにしている。障がい者だけを対象にした教室は特にはないし、施設的环境が車いすでの行動に適してない。色んな障害がある中で、何人かは健常者と一緒に教室に参加している。現在障がい者だけを対象とした教室はなく、障がい者を支援する為、又コミュニケーションをとるための学習教室（手話講習等）など、広く開催している。このアンケートの中の障がい者は手帳所持をもって言うのか？それにより回答が変わると思われる。むずかしいアンケートです。</p>
<p>条件を整えば取り組んでいきたいと思う。</p>
<p>当、南野津地区は人口 1,461 名で高齢化率 51.5%の地区です。高齢者向けの教室は開設しておりますが、特に障がい者の為の教室はありません。地区の単位が小さいので、もう少し大きい単位の施設や地区で「障がい者の生涯学習」の場を考えるべきだと思います。</p>
<p>この5年間で障がい者の方から施設の利用について問い合わせがあったのは1回だけである。障がい者の方が公民館を利用出来るもの、又はいろいろな講座が有って参加できるものと言う認識がないのかもしれない。地域の方、すべてに扉を開けているつもりになっているが、実際はそうっていないのが現実である。今まで向けていなかった、障がい者の生涯学習について、目を向けていかなければならないと思う。</p>

IV. C：社会教育施設対象アンケート結果

障がい者の生涯学習推進についてのご意見
<p>平素より実施している事業については、障がいの有無にかかわらず参加可能なものを選定しているが、障がい者をメインターゲットとした事業展開はできていない。今後障がい者の生涯学習を展開するにあたっては、障がい者のニーズの把握やそれに応じることのできる講師（指導者）はもとより、専門的な知識を持つスタッフの配置等が必要であると考え。そもそも福祉関係部局や団体からのアプローチが皆無であることが問題だと思っている。加えて、施設の老朽化が進み、最低限の対応しかできない状況にあり、障がい者の生涯学習事業を積極的に展開していくには心もとない状況にある。以上のことを考えると、障がい者の生涯学習事業を展開していくには、行政の意欲的・積極的関与が必要不可欠であると考え。</p>
<p>障がい者の生涯学習推進に対する課題意識、当事者意識が私自身に薄いことが一番の問題。</p>
<p>当館施設でどのような講座が可能か、プログラムの開発をしてほしい。</p>
<p>障がい者の生涯学習とはどんな事が必要か？障がい者の生涯学習にはどんなニーズがあるのか？障がい者の生涯学習推進の為に何をすれば良いのか？</p>
<p>障害者向けの生涯学習は、これまで本館においては実施をしていない。それで障害者に対する学習のニーズの把握ができていない。今後要望等が上がってくればその時点で検討したい。</p>
<p>「障がいのある方の学び支援に関わる経験はない」にしていますが、西有田公民館在職中に地域のまつりに自治会が出す各屋台に、隣接する県立日田支援の生徒さんに売り子として入ってもらった事を調整させてもらったことがあります。その経験から、それまでは無かった「ロビー展への支援学校児童・生徒の作品展」を開催しましたが、公民館と学校の調整だけで実際に児童や生徒さんと触れ合うことはほとんど有りませんでした。卒業してからもサークル活動のようにして、たまに会ってほっと一息付ける場所があると良いのではと思います。</p>
<p>「障がい者の学び支援」に関わる事業や講座は実施していませんが、障がい者個人の方や施設単位での図書館利用はあります。障がい者の生涯学習推進については、体制づくりやニーズの把握、学習機会の提供等が必要と考えます。</p>
<p>今年度、特別支援学校の生徒の就労体験の受け入れを行う予定です（10月24日～11月4日）。</p>
<p>日出町では障がい者の生涯学習のニーズについて、情報を把握していない。車いすやスロープ、多目的スペース（トイレなど）、駐車スペースなどの一般的な利用設備はある。教室や講座等について、制限等は設けていない。大事な事であり、するとなればするしかないが、現在の職員各々が抱える事務量を考えると、受け入れはかなりきついと思われる。</p>
<p>大分市の地区公民館では昨年度13館の協働作業で「指さしコミュニケーションボード」を作成し、現在活用している。今後も市町村単位で障がい者の学び支援の体制整備を行っていくことが重要であると考え。</p>
<p>障がい者の生涯学習活動に関するニーズをしっかりと把握することが大切だと考える。そしてそのニーズを実現するためにも講師及び指導者の確保・養成に力を入れる必要もあると考え。</p>
<p>障がい者自身、保護者や支援者などの周囲の方々のニーズを把握し、それに応じた事業の実施を検討する必要があると感じている。</p>
<p>公民館で、発達障がい（自分の名前を書ける程度）と思われる児童が主催講座に来られたことがあるが、保護者はもとより学校からも個人情報理由に一切の情報がもらえず苦慮したことがある。人員の少ない公民館等では解決しなければいけない壁がたくさんあると思った。</p>

V. D：生涯学習担当部局アンケート結果 （13市町村が回答）

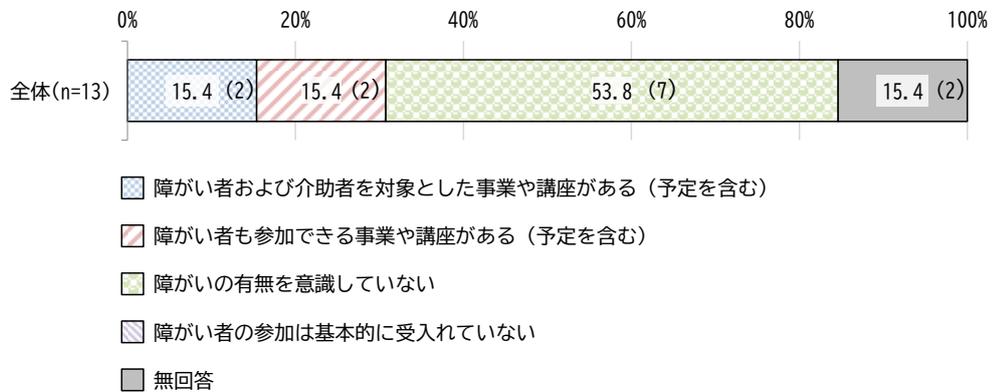
1. 事業や講座の現状について

問1 回答者の勤務地（省略）

問2 課主催の事業や講座について

（1）障がいのある方の参加について

●事業や講座への障がいのある方の参加では、「障がいの有無を意識していない」（53.8%）の割合が最も高く、次いで「障がい者および介護者を対象とした事業や講座がある（予定を含む）」「障がい者も参加できる事業や講座がある（予定を含む）」（ともに15.4%）となっています。



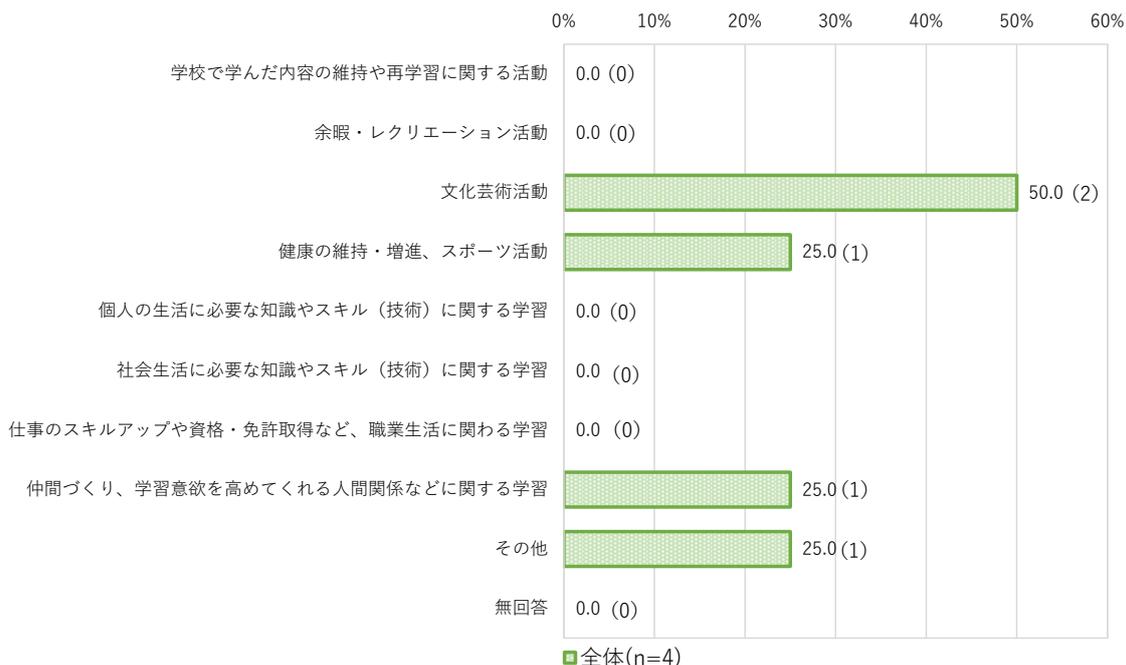
（ ）内は実数（市町村）

V. D：生涯学習担当部局アンケート結果

※問2（1）で「1」「2」と回答された方のみ

（2）－1 その事業や講座（プログラム）が提供する学習分野について（複数回答可）

●障がい者や介助者対象の事業や講座がある施設での提供学習分野では、「文化芸術活動」（50.0%）の割合が最も高く、次いで「健康の維持・増進、スポーツ活動」「仲間づくり、学習意欲を高めてくれる人間関係などに関する学習」「その他」（ともに25.0%）となっています。



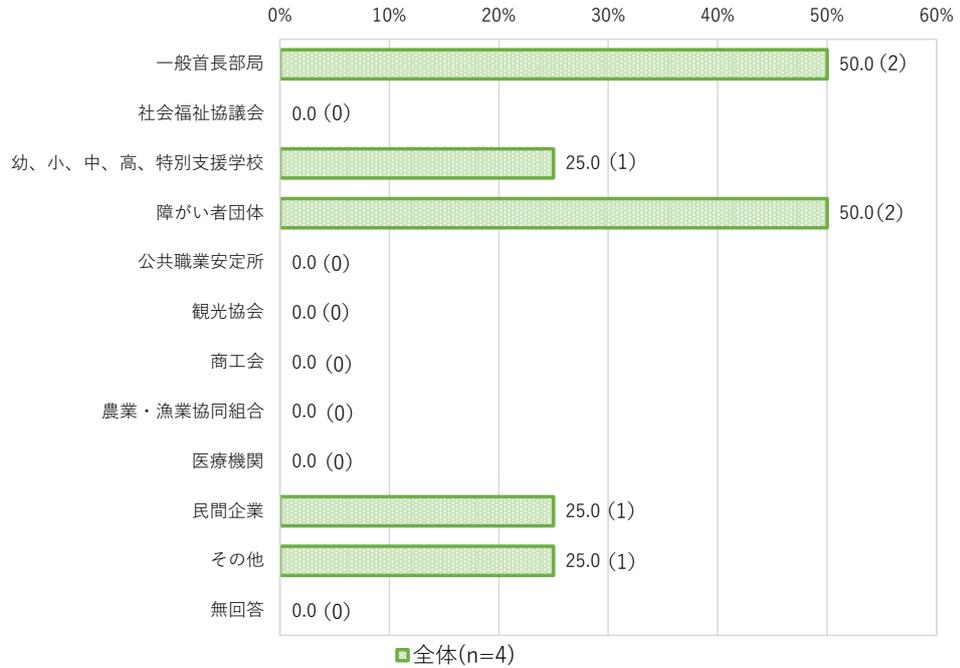
（ ）内は実数（市町村）

【提供学習分野 その他】

◆青少年健全育成、社会教育に関すること

(2) - 2 その事業や講座の連携・協働先（複数回答可）

●障がい者や介助者対象の事業や講座がある施設での講座の連携・協働先では、「一般首長部局」「障がい者団体」（ともに 50.0%）の割合が最も高く、次いで「幼、小、中、高、特別支援学校」「民間企業」「その他」（ともに 25.0%）となっています。



() 内は実数 (市町村)

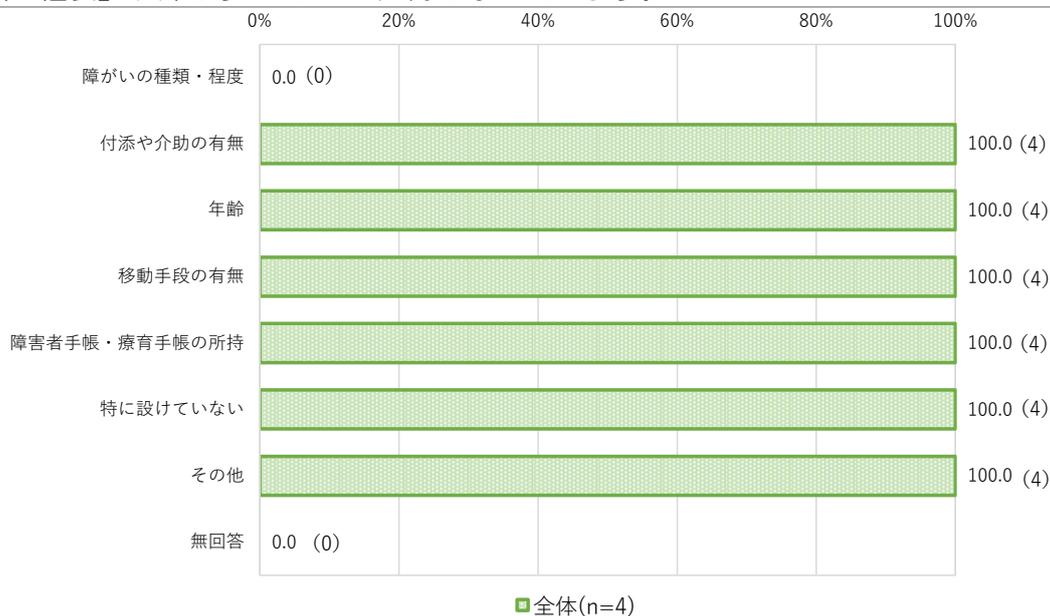
【講座の連携・協働先 その他】

◆民間団体（神楽保存会）

V. D：生涯学習担当部局アンケート結果

(2) - 3 事業や講座の参加条件について（複数回答可）

●障がい者や介助者対象の事業や講座がある施設での講座参加条件では、「障がいの種類・程度」以外はすべて100.0%となっています。



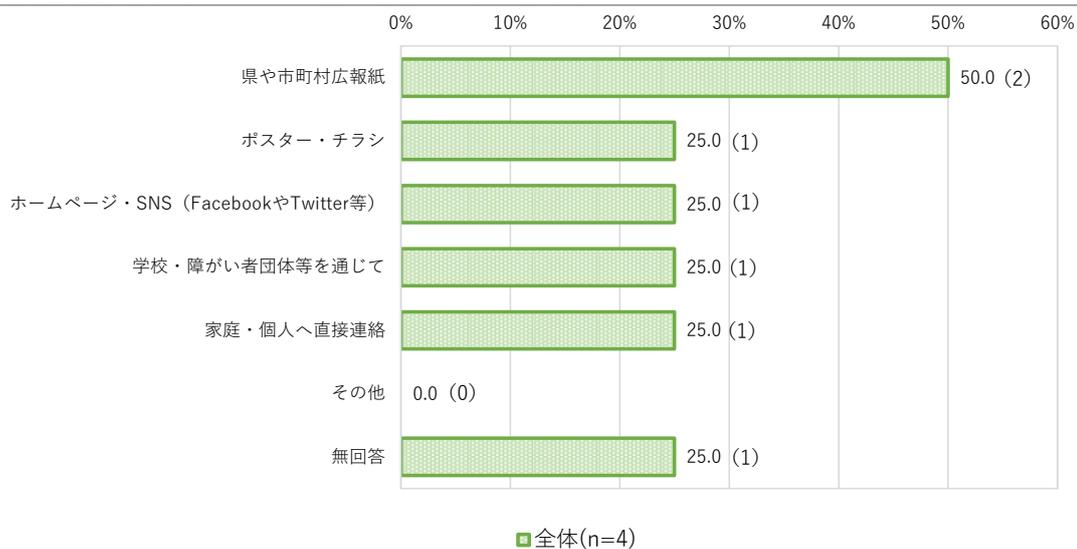
() 内は実数 (市町村)

【講座参加条件 その他】

- ◆市内在住者・市内支援センター等施設利用者

(2) - 4 事業や講座の広報手段（複数回答可）

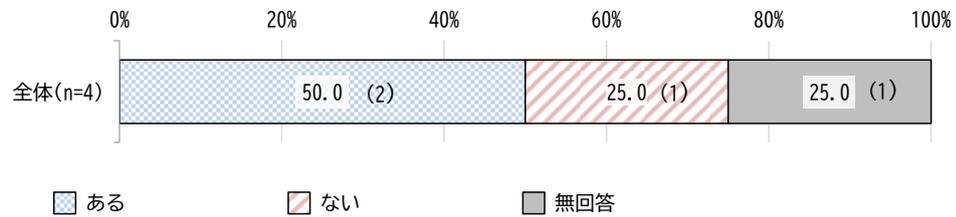
●障がい者や介助者対象の事業や講座がある施設での講座の広報手段では、「県や市町村広報紙」(50.0%)の割合が最も高く、次いで「ポスター・チラシ」「ホームページ・SNS (Facebook や Twitter 等)」「学校・障がい者団体を通じて」「家庭・個人への直接連絡」(ともに25.0%)となっています。



() 内は実数 (市町村)

(2) - 5 ボランティアの参加について

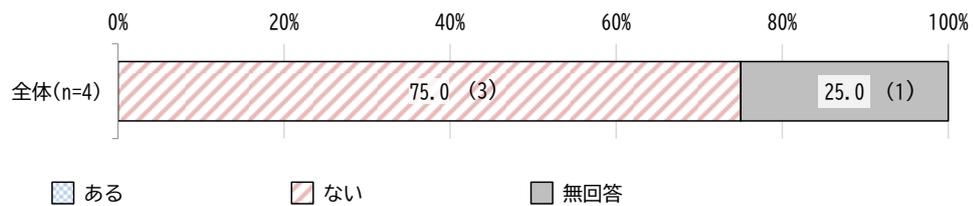
●障がい者や介助者対象の事業や講座がある施設でのボランティアの参加では、「ある」(50.0%)、「ない」(25.0%)となっています。



() 内は実数 (市町村)

(2) - 6 ボランティアを対象とした障がい特性の理解等を促すための事前研修等について

●障がい者や介助者対象の事業や講座がある施設での障がい特性の理解等を促すための事前研修等では、「ない」(75.0%)となっています。

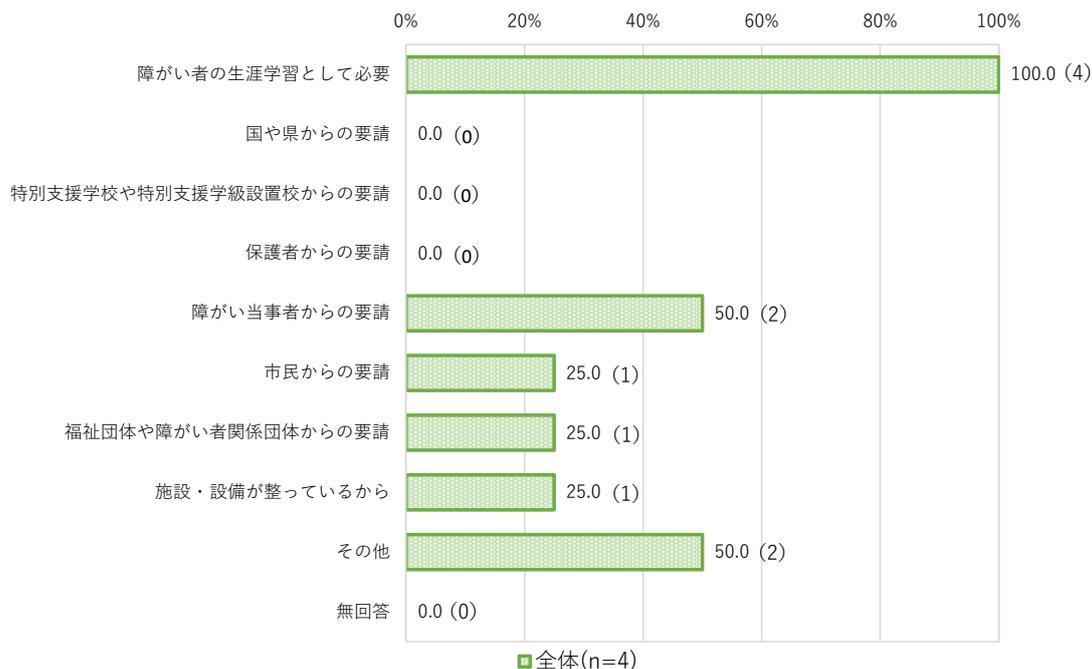


() 内は実数 (市町村)

V. D：生涯学習担当部局アンケート結果

(2) - 7 障がいのある方が参加できる事業や講座を実施する理由（複数回答可）

●障がい者や介助者対象の事業や講座がある施設での障がいのある方が参加できる事業や講座を実施する理由では、「障がい者の生涯学習として必要」（100.0%）の割合が最も高く、次いで「障がい当事者からの要請」「その他」（ともに50.0%）、「市民からの要請」「福祉団体や障がい者関係団体からの要請」「施設・設備が整っているから」（ともに25.0%）となっています。



()内は実数(市町村)

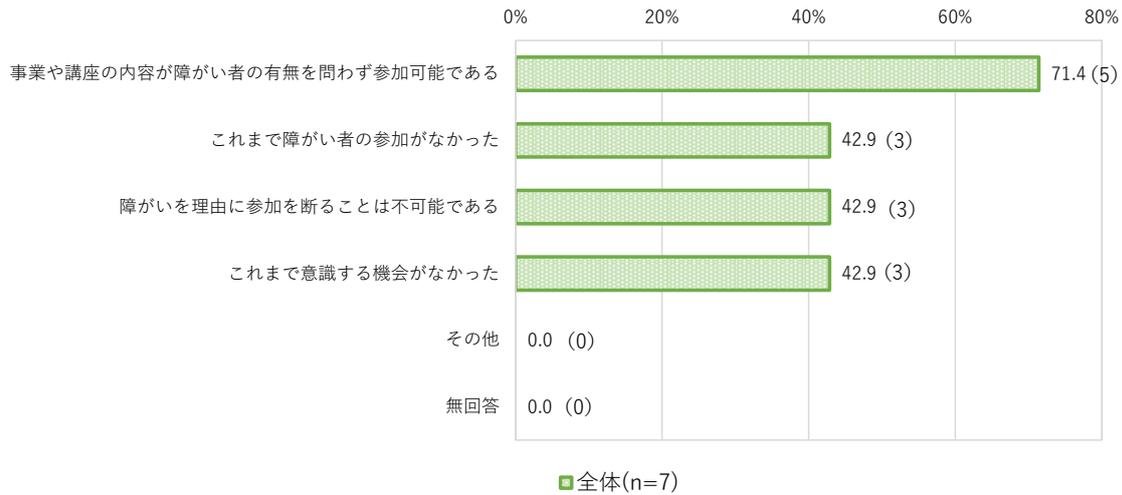
【障がいのある方が参加できる事業や講座を実施する理由 その他】

◆成人式への参加

◆国東市が現在実施している2つの事業は、国大祭、障芸祭のレガシー事業と位置づけ、障がいのあるなしに関わらず一緒に生涯学習（神楽、絵画アート）を楽しむインクルーシブ事業である。障がい者自らが「やってみたい。」という外向けの好奇心や欲求を実現するとともに、参加者相互の理解促進と社会交流が一度に実施できるコンテンツがたまたまこの形であった。

(3) ※問2(1)で「3. 障がいの有無を意識していない」と回答された方のみ
事業や講座において、障がいの有無を意識されていない理由（複数回答可）

●事業や講座において、障がいの有無を意識していない理由では、「事業や講座の内容が障がい者の有無を問わず参加可能である」（71.4%）の割合が最も高く、次いで「これまで障がい者の参加がなかった」「障がいを理由に参加を断ることは不可能である」「これまで意識する機会がなかった」（ともに42.9%）となっています。



()内は実数（市町村）

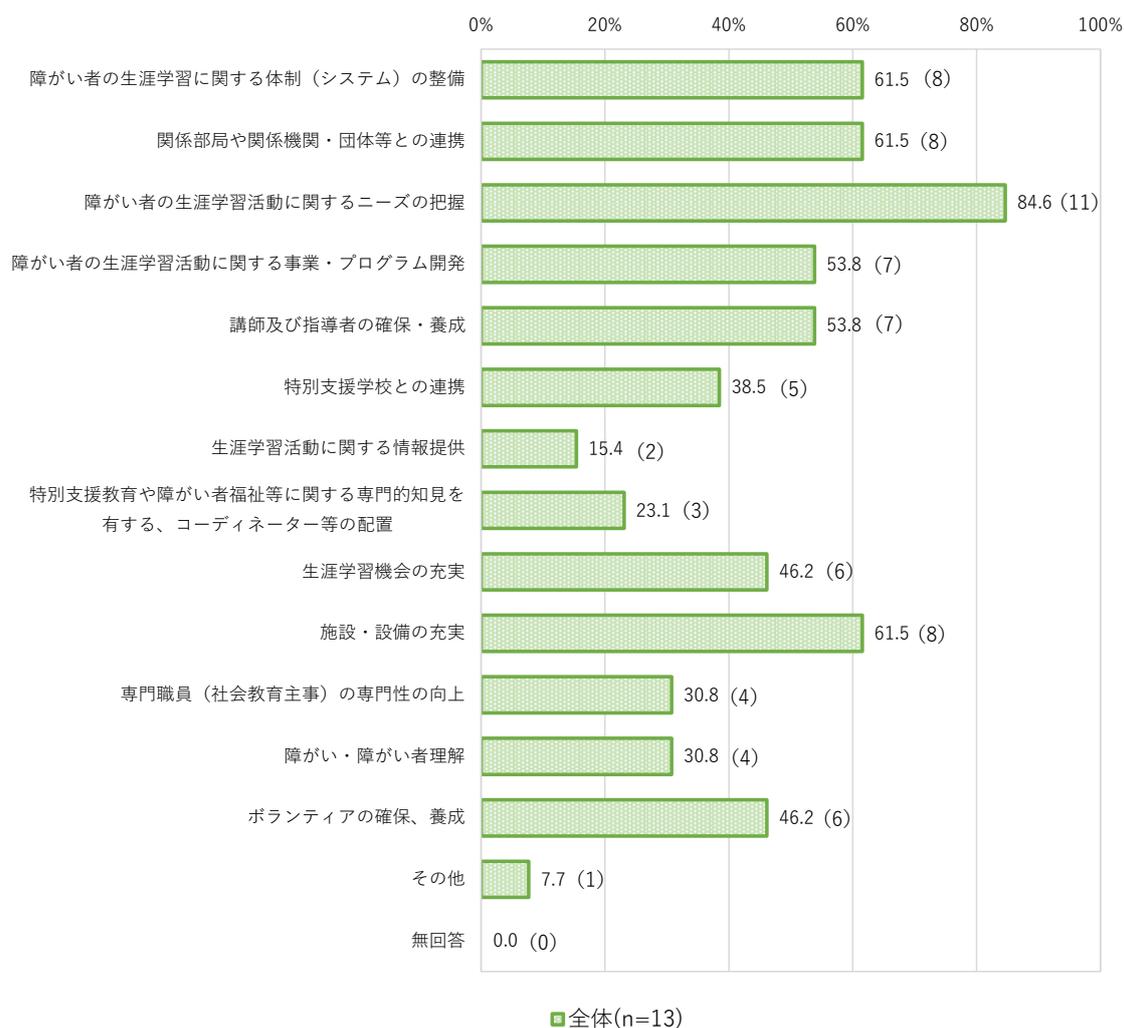
(4) ※問2(1)で「4. 障がい者の参加は基本的に受入れていない」と回答された方のみ
事業や講座において、障がいのある方の参加を基本的に受入れていない理由
（複数回答可）

●回答はありませんでした。

2. 今後の展望について

問3 今後、障がい者の生涯学習を推進する上での課題（複数回答可）

●今後、障がい者の生涯学習を推進する上での課題では、「障がい者の生涯学習活動に関するニーズの把握」（84.6%）の割合が最も高く、次いで「障がい者の生涯学習に関する体制（システム）の整備」「関係部局や関係機関・団体等との連携」「施設・設備の充実」（ともに61.5%）、「障がい者の生涯学習活動に関する事業・プログラム開発」「講師及び指導者の確保・養成」（ともに53.8%）となっています。



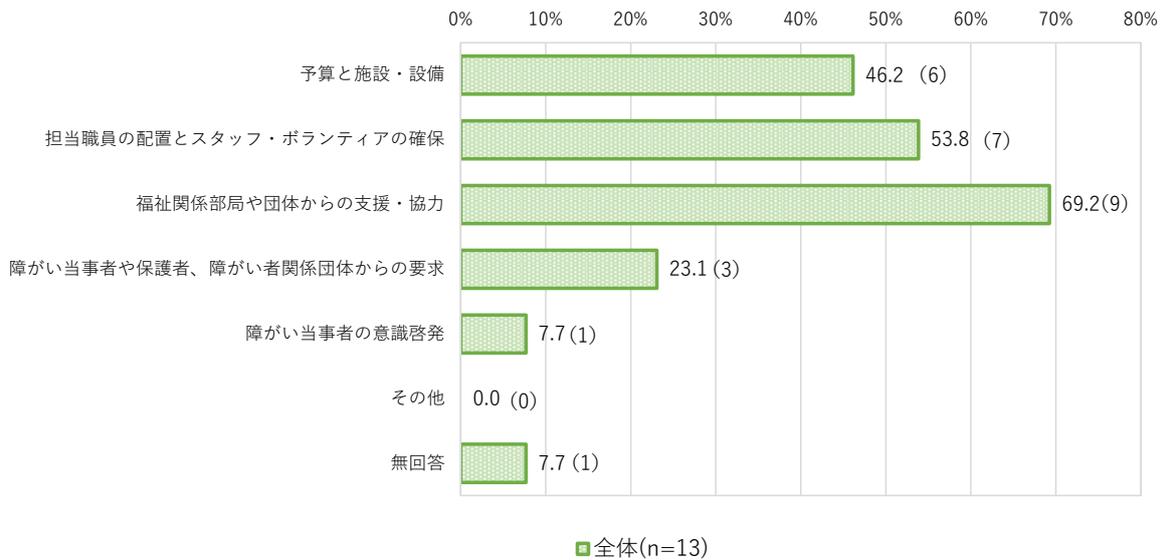
（ ）内は実数（市町村）

【障がい者の生涯学習を推進する上での課題 その他】

- ◆障がい者の生涯学習事業は、いわゆる福祉部門が推進する障がい者支援事業に属さないエアポケットに落ち込んだ部分を拾い上げたようなもの。障がい者の欲求に気づきにくい部分でもあるので、ぜひ自治体の事業への理解と事業推進の姿勢が必要であるとする。

問4 今後、障がい者に対応した事業を推進していくために必要な条件（複数回答可）

●今後、障がい者に対応した事業を推進していくために必要な条件では、「福祉関係部局や団体からの支援・協力」（69.2%）の割合が最も高く、次いで「担当職員の配置とスタッフ・ボランティアの確保」（53.8%）、「予算と施設・設備」（46.2%）となっています。



() 内は実数 (市町村)

【障がい者に対応した事業を推進していくための必要条件 その他】

◆2つに限らず、選択肢 1～5 全ての条件が必要だと考えます。

V. D：生涯学習担当部局アンケート結果

問5 障がい者の生涯学習推進について、ご意見をお聞かせください。（自由記述）

障がい者の生涯学習推進についてのご意見
障がい者に対する生涯学習推進は、必要かつこれまで社会教育担当部局としても着手できなかった分野である。一方で、従来、福祉担当部局で取り組みがなされている側面もあり、今後本格的に事業着手する際にはあらゆる意味での事業整理が必要である。
国連から日本政府に対し、「障がいのある子どもにインクルーシブ教育の権利を」と勧告されたが、日本の教育、社会の中で長らく行われている分離社会について、市民はどう考えているのか、当事者の声を聞き、話し合っていく場を持つべきだと思う。でなければ障がい者の生涯教育は推進されないと思う。
障がい者の生涯学習については、福祉部局の業務として認識していた。もちろん、一般的な業務において障がい者の方が参加したいと申し出があった場合には対応しているが、その場面を想定して企画・立案はしていない現状である。障がいのある方のみを対象とした事業は、今のところ実施するのは難しい。ただ、障がい者の方も参加できる事業の構築は図っていきたい。
まずは、事業や講座を実施する主体が障害のあるひとをはじめとする様々なひとの参加を意識することが必要だと考えます。
社会教育関係の会議や研修会等で、障がい者の生涯学習推進について取り上げて頂き、他自治体での取り組み事例や、体制等について学びたいです。
障害を持つ当事者の一人として「障がい者の生涯学習」において大切なことは、障がい者、健常者が一丸となって「全力で楽しむ」ことだと考えます。当事者は「障がいがあるから自分ではできない」と諦めてしまうケースが少なくありません。そこで、様々な生涯学習をとおして、全力で楽しむ機会があることは、スキルや経験だけではなく、当事者の好奇心向上、障がいと向き合う前向きな姿勢へと繋がるものであると考えます。

VI. 考察

今回の調査票の回収状況は、A：障がい当事者向けアンケートが66.6%（567人）、B：家族・職員・支援者等向けアンケートが72.4%（338人）、C：社会教育施設対象アンケートが73.0%（162館）、D：生涯学習担当部局用アンケートが72.2%（13市町村）となっています。

1. 障がい当事者及び家族・職員・支援者

障がい者本人が学びたいと思った時に相談できる人はいるという割合が高いものの、学ぼうとするときには手助けしてくれる人や制度、システム、施設等がわからないという回答も多いことから、手助けできる人員の確保や制度の充実、情報等を広く告知できるシステムづくり、施設的环境整備などが必要と思われます。また、学習活動への参加をしたくてもできない理由として、交通手段・移動手段がない、学びの機会・会場が少ない、設備の充実等を求める意見もありました。

障がい者本人が学ぶ場、機会についての情報について、『「身体を動かすこと」「健康に関すること」について』は「身近にある」の割合が高くなっていますが、『「文化や芸術」について』は「身近にない」及び「必要としていない・分からない」の割合が高くなっていることから、「文化や芸術」の学びの場づくりや広報活動が必要と考えられます。

学習活動を妨げるものとして、家族・職員・支援者等からは「機会や場の提供、交流の場がない」「金銭面、交通手段、移動手段の確保（肢体不自由）」「個別の障がい程度に応じた学習ではない」「特性にそれぞれ見合ったサポート体制がない」「支援者不足、障がいを理解して指導できる人がいない」という意見もあり、障がい者のニーズや特性にあった学習内容の提供や支援者のサポート体制の充実、県・国の機関や支援員の連携体制等も求められています。

障がい者本人が学びたい場所として「公民館」や「図書館」を選択しなかった理由では、「今まで利用したことがないから」に次いで「施設や設備についてよく知らないから」「家から遠い、行く手段がないなどの理由で行きづらいから」となっているため、安心して施設を利用していただくための施設整備と広報活動が必要です。

また、障がい者本人が学びの活動全般についてのその他の意見として「他人と会いたくない」「知っている人がいると嫌。話しかけられたくない」、「障害者を変な目で見ないところなら、何でもやりたい」「特に精神は見た目でわからない人も多い」等の意見もあることから、健常者の障がいや障害者への理解推進が求められています。

大分県で障がいのある方の生涯学習を充実させるために優先的に取り組むべきこととして、家族・職員・支援者等では「障がいや障がい者に対する理解と合理的配慮の提供」、次いで「障がいのある人の学びを支援する人たちを増やしていく取組の充実」、「障がいのある人やその家族が学びの機会や場についての情報が得られる仕組みづくり」の割合が高くなっていますが、その他に「ワンストップで相談（聞ける）できる場所」「幼少期から障がい者とともに育つ環境づくり」という意見もみられました。

2. 社会教育施設

障がいのある方の学び支援に関わる事業や体制では、「事業」「担当者」「組織」ともに「無し」の割合が「有り」の割合を大きく上回っており、特に「担当者」及び「組織」では「無し」の割合が9割を超えて高くなっています。また障がいのある方の学び支援に関わる経験が「ある」との回答は3割を割っており、障がいのある方の学び支援についての組織的な事業体制があまり整っていないと考えられます。

障がいのある方の学び支援の経験がない理由では、「障がいの有無にかかわらず指導可能な講師や指導者の確保、育成ができていない」の割合が最も高く、次いで「障がいのある方が使いやすい施設・設備の整備が不十分である」、「障がいの有無にかかわらず参加可能な講座内容となっていない」となっているため、指導者の確保・育成、施設の整備、講座内容の充実が求められています。その他に「ニーズ自体を聞かない」「対象になる方が少ない」「公民館が主催する講座・体制は整備されていない」という意見もありました。

事業や講座の広報活動についても、「ポスター・チラシ」「ホームページ・SNS（FacebookやTwitter等）」「学校・障がい者団体等を通じて」や「公民館だより」「社会福祉協議会にチラシ配置」等を行っているものの、「広報していない」という意見もあることから、広報活動の更なる推進が必要と思われます。

今後、障がい者の生涯学習を推進する上での課題では、「障がい者の生涯学習活動に関するニーズの把握」の割合が最も高く、次いで「障がい者の生涯学習に関する体制の整備」、「関係部局や関係機関・団体等との連携」となっており、その他に「人員（職員）確保」「発表の機会、場の保障・確保」「民間団体との連携」という意見もあがっています。

今後、障がい者に対応した事業を推進していくために必要な条件では、「担当職員の配置とスタッフ・ボランティアの確保」の割合が最も高く、次いで「福祉関係部局や団体からの支援・協力」、「予算と施設・設備」となっており、その他に「人員不足の解消」「施設の改修」という意見もみられました。

3. 生涯学習担当部局

事業や講座への障がいのある方の参加では、「障がいの有無を意識していない」の割合が最も高く、次いで「障がい者および介護者を対象とした事業や講座がある（予定を含む）」「障がい者も参加できる事業や講座がある（予定を含む）」となっています。

障がい者や介助者対象の事業や講座がある施設での障がい特性の理解等を促すための事前研修等では、「ない」が7割を超えて高くなっています。

障がい者や介助者対象の事業や講座がある施設での障がいのある方が参加できる事業や講座を実施する理由では、「障がい者の生涯学習として必要」の割合が最も高く、次いで「障がい当事者からの要請」「その他」となっています。

事業や講座において、障がいの有無を意識していない理由では、「事業や講座の内容が障がい者の有無を問わず参加可能である」の割合が最も高く、次いで「これまで障がい者の参加がなかった」「障がいを理由に参加を断ることは不可能である」「これまで意識する機会がなかった」となっています。

今後、障がい者の生涯学習を推進する上での課題では、「障がい者の生涯学習活動に関するニーズの把握」の割合が最も高く、次いで「障がい者の生涯学習に関する体制（システム）の整備」「関係部局や関係機関・団体等との連携」「施設・設備の充実」となっており、その他として「障がい者の欲求に気づきにくい部分でもあるので、ぜひ自治体の事業への理解と事業推進の姿勢が必要であると考え」という意見もみられました。

今後、障がい者に対応した事業を推進していくための必要条件では、「福祉関係部局や団体からの支援・協力」の割合が最も高く、次いで「担当職員の配置とスタッフ・ボランティアの確保」、「予算と施設・設備」となっています。

障がい者の生涯学習活動のニーズを把握し、体制を整えるためにも、障がい特性の理解等を促すための研修や人材の確保等が必要です。

Ⅶ. 参考資料

1. 調査票

①本人（障がい当事者）向けアンケート

1. 回答者（あなた）の基本情報について

問1 あなたの性別を次の1～4の中から1つ選んでください。

1. 男	2. 女
3. その他 (男女の2択では選べない場合)	4. 回答しない (回答できない、したくない場合)

問2 あなたの年齢を次の1～6の中から1つ選んでください。

1. 10代	2. 20代	3. 30代
4. 40代	5. 50代	6. 60代以上

問3 あなたが住んでいる市町村を次の1～18の中から1つ選んでください。

1. 中津市	2. 豊後高田市	3. 宇佐市
4. 別府市	5. 杵築市	6. 国東市
7. 菊池町	8. 日出町	9. 大分市
10. 臼杵市	11. 津久野市	12. 由布市
13. 庄原市	14. 竹田市	15. 豊後大野市
16. 日田市	17. 九層町	18. 玖波町

問4 あなたの障がいの種類について、次の1～8の中からあてはまるものすべてを選んでください。

1. 身体障がい（視覚）	2. 身体障がい（聴覚）
3. 身体障がい（肢体不自由）	4. 身体障がい（内部）
5. 知的障がい	6. 精神障がい
7. 発達障がい	8. 難病（ ）
9. その他（ ）	

A. 本人（障がい当事者）向けアンケート

令和4年度 障がいの生涯学習に関するアンケート調査にご協力をお願いします。

県民の皆様へ

本アンケートの調査は、大分県内にお住まいの、特別支援学校の生徒・保護者・教職員、普通学校の生徒・保護者・教職員、公民館や図書館といった社会教育施設や各市町村の生涯学習を担当する部署にお勤めの方、障がいの種類や支援施設を利用している方と職員の方です。

ぜひご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

令和4年9月 大分県教育庁社会教育課 課長 若尾 基弘

【アンケート調査のご挨拶】

○この調査は匿名形式です。ご回答いただいたことにより、個人の特定ができません。調査結果は、調査目的以外に活用しません。調査終了後、調査結果を公表させていただきます。

○ご回答は、質問ごとの複数回答（数字）を記入してください。

○回答によっては、質問の○をつけていただくものもありますので、ご注意ください。

○本人が自分で回答しても、家族や周囲の方のサポートを受けながら回答してもよいです。

○調査後の扱いについて

①特別支援学校の生徒・保護者の情報 → 担任の先生にお届けください。

②障がい児支援方支援協会の関係者 → 協会の職員の方にお渡しください。

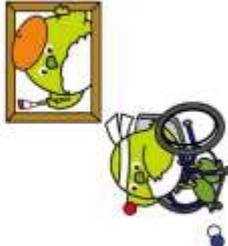
③社会教育関係施設、生涯学習担当部署の関係者 → 返信用封筒に入れて郵送してください。

※郵送（郵送）期間：9月28日（水）

【お問い合わせ】

＜調査の進め方について＞
大分県教育庁社会教育課
担当 若尾 基弘
電話 097-506-5526 096-214-6014
FAX 097-506-1798 096-314-9015

＜調査結果の取りまとめについて＞
株式会社 障がい者支援センター
〒860-0801 大分県大分市南大分1-1-1
電話 097-506-5526 096-214-6014
FAX 097-506-1798 096-314-9015



問5 あなたが持っている障害者手帳について、次の1～4の中からあてはまるものを選んでください。

- | | |
|----------------|-----------|
| 1. 身体障害者手帳 | 2. 療育手帳 |
| 3. 精神障害者保健福祉手帳 | 4. 持っていない |

問6 あなたは、日中、おもしろいような活動をしていますか。次の1～12の中からあてはまるものを選んでください。

- | |
|------------------------------------|
| 1. 特別支援学校、専修学校（専門学校）、大学等に通っている |
| 2. 企業や障がい福祉サービス事業所で一般の従業員と一緒に働いている |
| 3. 特別社会で働いている |
| 4. 自営業をしている |
| 5. 障がい者のための通所サービスを利用している |
| 6. 介護保険の通所サービスを利用している |
| 7. 病院などのリハビリテーションを利用している |
| 8. リハビリテーションを受けている |
| 9. ボランティアなどの社会活動をしている |
| 10. 保健指導、育児、介護などを行っている |
| 11. 家庭内で通っている |
| 12. その他（ ） |

問7 あなたの生活状況について、次の1～5の中から1つを選んでください。

- | | |
|------------|-----------|
| 1. 専修と同様 | 2. ひとり暮らし |
| 3. グループホーム | 4. 入居施設 |
| 5. その他（ ） | |

2. 学び（学習活動）への思い・現状について

問8 あなたは、学びに関する次の1～10それぞれの項目についてどのように思っていますか。次のA～Fの中から最もあてはまるものを1つ選んでください。

※それぞれの項目の「学び」には、学習・文化芸術・スポーツ活動が含まれます。

	はい	いいえ	わからない
1. 学習活動への参加をしたいと思ってもできないことがありますか →A「はい」、おもしろいのは、それはどんな理由ですか。 よろしければお書きください	A	I	U
2. 学びたいと思った時に相談できる人はいませんか	A	I	U
3. 学びたいと思うときに手助けしてくれる人や制度、システム、施設等がありますか →A「はい」、おもしろいのは、それはどんなサポートですか。 よろしければお書きください	A	I	U
4. 学ぶ前に出かけていこうとする気持ちがありますか	A	I	U
5. 一緒に学ぶ友人や仲間がいますか	A	I	U
6. 障がいのある人もおもしろいと思いませんか	A	I	U
7. 学びに必要な費用（お金）が負担になっていますか	A	I	U
8. 外出すること自体が難しいと思っていますか	A	I	U
9. 学校卒業後も自分の学びを続けたいと思っていますか	A	I	U
10. 障がいがあることで学ぶ前に参加する機会が出ないことがありますか	A	I	U

問9 あなたは、この1年間くらの間に、以下のような学び(学習活動)をしましたか。
次の1～10の中からあてはまるものをすべて選んでください。

1. 学校で学んだ内容の暗記や暗写に関する活動 → 辞書や辞書、文法、歴史、自然科学、社会知識などの学習
2. 単語・レクリエーション活動 → 漢字検定、国語の勉強、同窓会活動、旅行や合唱など
3. 文化芸術活動 → 絵画、彫刻、楽器(生け花)、彫刻、造形、音楽、演劇などの表現や鑑賞活動
4. 健康の維持・増進、スポーツ活動 → ウォーキング、ランニング、自転車、ダンス、ヨガ、水泳、陸技、各種球技や格闘スポーツなど → 個人の生活に必要な知識やスキル(技術)に関する学習
5. 料理、美術、英字・図解法、園芸、編み物、家庭学習、読書・動画、角座、卓球教育など → 料理に必要知識やスキル(技術)に関する学習
6. 社会生活に必要な知識やスキル(技能)に関する学習 → 金融の管理、資料、連絡や発信に関すること、税や社会保険、語学、英語、ボランティア活動のために必要な知識、異文化生活でのルール、マナー、ITスキル、情報モラル
7. 仕事のスキルアップや資格・免許取得など、職業生活に関わる学習 → 労務体系、管理実習、仕事に関係のある知識の習得や同僚の研修、音楽体験など
8. 仲間づくり、学習意欲を高めてくれる人間関係などに属する学習 → コミュニケーション能力を高めて、集団生活のルール・マナーを身に付ける場、仲間やさまざまな人々たちとの関わりによって成長する場
9. その他()
10. 他にしている() → 家庭()

問9で1～9を選んだ方にお伺いします。
問10 問9で1～9を選んだ方(学習活動をした方)は、なぜその活動に取り組もうと思いましたが、次の1～10の中からあてはまるものをすべて選んでください。

1. さまざまな学びや経験を通じて成長するため
2. 暮らしの中で生じる課題の解決を図るため
3. 仕事に効いて欲しいと思ったから
4. 地域や社会における活動に生かすため
5. 健康の維持や増進のため
6. 他人の交流したり友人を助たりするため
7. 教養を深め、入主や生活を豊かにするため
8. その活動が好き、または興味があったから
9. その他()
10. 他に理由は無い

問11 問9で1～9を選んだ方(学習活動をした方)は、どこでその活動をしましたか。
次の1～10の中からあてはまるものをすべて選んでください。

1. 自宅(家、テレビやラジオ、インターネットなど)
2. 自分が卒業した学校の施設などが主催する学びの場
3. 関心者が自主的に行っている集まり・サークル
4. 職場の教育・研修
5. 滞りも福祉サービス事務所などの講座や余暇活動
6. 公民館、生涯学習・社会教育センターなど公的機関における講座や教室
7. 図書館、博物館、美術館
8. カルチャーセンター・スポーツクラブなど民間の講座や教室
9. 学校の講座や教室
10. その他()

3. 学びにつながる情報・機会について

問12 あなたは、さまざまな情報を、主にどこから入手していますか。次の1～8の中からあてはまるものをすべて選んでください。

1. 新聞・雑誌・本	2. テレビ・ラジオ
3. インターネット	
4. 市町村の発行する広報紙、ポスター、チラシなど	
5. 相談支援センター・福祉センターなどが発行する広報紙、ポスター、チラシなど	
6. 地域の図書館や展示板	
7. その他()	
8. 特になし	

問13 (1) あなたが、次のようなことを学びたいと思った時、その情報は身近にあると思えますか。次の1～5のそれぞれの項目について、ア～ウの中から最もあてはまるものを1つ選んでください。

学習についての情報	あ	い	か から ない
1. 「知りたいこと」「知識をつけたいこと」について	ア	イ	ウ
2. 「身につけたい技術」について	ア	イ	ウ
3. 「文化や芸術」について	ア	イ	ウ
4. 「身体を動かすこと」「健康に関すること」について	ア	イ	ウ
5. 「仲間と学ぶこと」「交流すること」について	ア	イ	ウ

問13 (2) あなたが、次のようなことを学びたいと思った時、その場や機会は身近にあると思えますか。次の1～5のそれぞれの項目について、ア～ウの中から最もあてはまるものを1つ選んでください。

場や機会 (プログラム・講座など)	あ	い	か から ない
1. 「知りたいこと」「知識をつけたいこと」について	ア	イ	ウ
2. 「身につけたい技術」について	ア	イ	ウ
3. 「文化や芸術」について	ア	イ	ウ
4. 「身体を動かすこと」「健康に関すること」について	ア	イ	ウ
5. 「仲間と学ぶこと」「交流すること」について	ア	イ	ウ

問14 あなたが住んでいる地域の中で、「学び」の場所に限らず、学校や職場、病院などの医療・福祉関係施設以外に気軽に立ちかけられる場所がありますか。

1. ある (どんな場所ですか)	
2. ない	
3. 分からない	

4. 今後の学びのあり方について

問15 あなたが、今後してみたいと思う学びはどれですか。次の1～10の中からあてはまるものすべてを選んでください。

1. 学校で学んだ内容の補強や再学習に関する活動 →計算や漢字、文法、歴史、自然科学、社会問題などの学習
2. 動画・レクリエーション活動 →漫画家、作曲家の体験、回答活動、旅行や合宿など
3. 文化芸術活動 →絵画、音楽、舞踊（生け花）、彫刻、油絵、書道、演劇などの表現や鑑賞活動
4. 健康の維持・増進、スポーツ活動 →ウォーキング、ランニング、自転車、ダンス、ヨガ、水泳、読書、各種障がい者スポーツなど
5. 個人の生活に必要な知識やスキル（財源）に関する学習 →料理、美容、英語、漢字・書道、読書、読み聞、家庭学習、防災・防犯、介護、幼児教育など
6. 社会生活に必要な知識やスキル（技能）に関する学習 →電気の修理、楽器、調理や発財に関すること、防犯や社会保険、政治、芸術、ボランティア活動のために必要な知識、異国生活でのルール、マナー、ITスキル、情報モラル
7. 仕事のスキルアップや資格・免許取得など、働き先で求められる学習 →正社社員、派遣社員、仕事に高度のある知識の習得や資格の取得、働き先関係など
8. 仲間づくり、学習意欲を高めてくれる人間関係などに関する学習 →コミュニケーション能力を高めたり、異国生活のルール・マナーを学んだりする場、料理やさまざまな人たちの関わりによって成長する場
9. その他（ ）
10. 他にない →10を選んで方は問20へ進んで下さい

※問15で1～9を選んでの方にお伺いします。

問16 問15で1～9を選んで方（学びをしたい方）は、どこで学んでみたいですか。次の1～10の中からあてはまるものすべてを選んでください。

1. 自宅（本、テレビやラジオ、インターネットなど）
2. 自分が卒業した学校の同級生などが主催する学びの場
3. 同好者が自主的にやっている集まり・サークル
4. 職業の教育・研修
5. 障がい福祉サービス事業所などの講座や体験活動
6. 公民館、生涯学習・社会教育センターなど公的機関における講座や教室
7. 図書館、博物館、美術館
8. カルチャーセンター・スポーツクラブなど民間の講座や教室
9. 学校の講座や教室
10. その他（ ）

問17 問15で3（文化芸術活動）を選んだ方は、どのような活動に取り組みたいですか。次の1～7の中からあてはまるものすべてを選んでください。

1. 絵画	2. 舞踊	3. 筆道
4. 彫刻・造形	5. 音楽	6. 演劇
7. その他（ ）		

問18 問15で4（スポーツ活動）を選んだ方は、どのような活動に取り組みたいですか。次の1～14の中からあてはまるものすべてを選んでください。

1. ウォーキング	2. 自転車
3. 水泳	4. アーチERY
5. 卓球・サウンドテーブルテニス	6. フライングディスク
7. ボッチャ	8. ボウリング
9. バスケットボール・輪投げバスケットボール	10. ソフトボール・グラウンドソフトボール
11. ダンス・ヨガ	12. バレーボール
13. サッカー	14. 球上競技（具体的な種目があれば）
15. その他（ ）	

問19 問16で6（公衆館など）、7（図書館など）を選択しなかった方に答えます。
6、7を選択しなかった理由として次の1～8の中からあてはまるものをすべて選んでください。

1. 今まで利用したことがないから
2. 施設や設備が使いにくい、または使いにくそうだから
3. 施設や設備についてよく知らないから
4. 家族や友人で利用している人がいないため、情報が少ないから
5. 家から遠い、行く手段がないなどの理由で行きづらいから
6. 過去に利用した際に、困ることや利便に思ったことがあったから
→具体的にどのようなことが教えてください
7. その他（ ）
8. 特になし

問20 あなたが今後、学びをする上で必要なものは何ですか。次の1～11の中からあてはまるものをすべて選んでください。

1. 活動に関する情報（どのような活動がいつどこであるのか、参加費など）
2. 会場までの送り迎え
3. 一緒に取り組む仲間や相談相手
4. 家族や身近な支援者の理解
5. 先生や指導者
6. 先生や指導者以外にサポートしてくれるボランティア
7. 文字通訳、手話、点字、ノートタイクなどの情報保障
8. 建物やトイレなど、設備のバリアフリー
9. 設備がア
10. 活動用の補具類（具体的に： ）
11. その他（ ）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

②家族・職員・支援者向けアンケート

1. 回答者の基本情報について

問1 あなたは、この調査にどのような立場で回答されますか。次の1～5の中から1つ選んでください。

1. 障がい者の家族として	2. 特別支援学校等の教職員として
3. 障がい者に関わる公的機関の職員として	4. 障がい者に関わる民間機関の職員として
5. 障がい者を支援するボランティアとして	

問2 あなたが任んでいる市町村を次の1～18の中から1つ選んでください。

1. 中津市	2. 豊後高田市	3. 宇佐市	4. 別府市
5. 杵築市	6. 国東市	7. 盛岡村	8. 日出町
9. 大分市	10. 臼杵市	11. 津久見市	12. 由布市
13. 佐伯市	14. 竹田市	15. 豊後大野市	16. 日田市
17. 九重町	18. 玖波町		

問3 あなたが日頃主に関わっている人の障がいの種類について、次の1～9の中からあてはまるものをすべて選んでください。

1. 身体障がい（視覚）	2. 身体障がい（聴覚）
3. 身体障がい（肢体不自由）	4. 身体障がい（内部）
5. 知的障がい	6. 精神障がい
7. 発達障がい	8. 難病
9. その他（ ）	

大分県教育委員会

令和4年度 障がいの生進学習に関するアンケート調査にご協力をお願いします。

B. 家族・職員・支援者向けアンケート

県民の皆様へ

皆様から、大分県社会教育の推進にご協力をお願いいたしております。大分県では、令和4年度から、障がいがある方が学校を卒業した後に地域の中学・高等学校や回覧所といった社会教育施設や各市町村の生涯学習を担うする事業にお勤めの方、障がい者就業支援施設を利用している方と職員の皆様です。

ぜひご協力をいただきますようお願いいたします。

令和4年9月 大分県教育庁社会教育課長 藤山 貴仁

【アンケート調査のご説明】

○この調査は匿名形式です。ご回答いただいたことにより、個人の特定はできません。特定されることはありません。

○ご回答いただいた内容は、調査目的以外に使用しません。調査終了後、責任をもって処分します。

○ご回答は、簡易アンケートの調査票の裏面（裏表）に記入してください。

○回答によっては、希望の○をつけていただくものもありますので、ご注意ください。

○本人が自分で回答しても、家族や親戚の方のサポートを受けながら回答してもよいです。

○自治体の窓口について

◎特別支援学校の生徒・保護者の皆様 → 担任の先生にお渡しください。

◎障がい者支援施設の利用者の皆様 → 施設の運営の場にお渡しください。

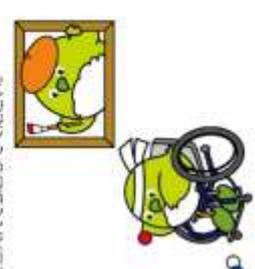
◎社会教育推進施設、生涯学習担当当該の障がい者 → 関係機関へお渡しください。

※回答（郵送）期限：9月28日（水）

【お問合せ先】

<調査の進め方について>
大分県教育庁社会教育課
担当 藤原 華木
電話 097-506-5526
FAX 097-506-1798

<調査の進め方について>
障がいの生進学習に関するアンケート調査
実施団体 九州みらい普及所
担当 藤原 華木
電話 096-214-6014
FAX 096-314-6015



問5 障がいのある人にとって、次の1～11のうち、どのような生涯学習活動があると良いと思いますか。優先度の高いものを3つ以内で選んでください。

1.	学校で学んだ内容の維持や再学習に関する活動 (計算や漢字、文法、歴史、自然科学、社会問題などの学習)
2.	余暇・レクリエーション活動 (運動会、地域の祭り、同窓会活動、旅行や合宿など)
3.	文化芸術活動 (絵画、書道、華道、能楽、演劇、音楽、舞踊などの鑑賞や鑑賞者活動)
4.	健康の維持・増進、スポーツ活動 (ウォーキング、ランニング、自転車、ダンス、ヨガ、水泳、剣道、空手道がいまスポーツなど)
5.	個人の生活に必要な知識やスキル(技術)に関する学習 (料理、美容、医学・健康法、英語、前科者、単身生活、防災・防災、介護、幼少児童など)
6.	社会生活に必要な知識やスキル(技術)に関する学習 (金融の知識、奨励、資格や免許に関すること、世や社会制度、政治、法律、ボランティア活動のために必要な知識、単身生活でのルール、マナー、ITスキル、英語スキル)
7.	仕事のスキルアップや資格・免許取得など、職業生活に関わる学習 (就労体験、職業探求、仕事に関係のある知識の習得や資格の取得、職業体験など)
8.	仲間づくり、学習意欲を高めてくれる人間関係などに関する学習 (コミュニケーション能力を高めるための単身生活のルール・マナーを学ぶための講座、仲間やほまきや友人たちとの関わりによって成長する場)
9.	障がい者交流する人材を育成するための学習
10.	障がい者理解や権利擁護に関する学習
11.	その他()

2. 学びにつながる情報や機会について

問4 (1) 障がいのある人が次のようなことを学びたいと思った時、その情報は身近にあると思いますか。次の1～5のそれぞれの項目について、ア～ウの中から最もあてはまるものを1つ選んでください。

学習についての情報	ある	ない	わからない
1. 「知りたいこと」「知識をつけたいこと」について	ア	イ	ウ
2. 「身につけたい技術」について	ア	イ	ウ
3. 「文化や芸術」について	ア	イ	ウ
4. 「身体を動かすこと」「健康に関すること」について	ア	イ	ウ
5. 「仲間と学び合うこと」「交流すること」について	ア	イ	ウ

問4 (2) 障がいのある人が次のようなことを学びたいと思った時、その場や機会が身近にあると思いますか。次の1～5のそれぞれの項目について、ア～ウの中から最もあてはまるものを1つ選んでください。

学習場や機会(プログラム・講座など)	ある	ない	わからない
1. 「知りたいこと」「知識をつけたいこと」について	ア	イ	ウ
2. 「身につけたい技術」について	ア	イ	ウ
3. 「文化や芸術」について	ア	イ	ウ
4. 「身体を動かすこと」「健康に関すること」について	ア	イ	ウ
5. 「仲間と学び合うこと」「交流すること」について	ア	イ	ウ

問6 障がいのある人が生涯学習活動を続けていく上で、次の1～10それぞれの項目についてどのような思いがありますか。ア～エの中から最もあてはまるものを1つ選んでください。

	とても思ひ	思う	あまり思ひない	思ひない	わからない
1. 学習活動への参加を促すものがある →ア、イを思ふ場合、それはどのようなものですか。よろしければお書きください。	ア	イ	ウ	エ	オ
2. 学びたいと思った時に気軽に相談できる相手がいる	ア	イ	ウ	エ	オ
3. 学ぼうとするときに手助けしてくれる人や知識、システム、施設などの支援・サポートがある →ア、イを思ふ場合、それはどのようなサポートですか。よろしければお書きください。	ア	イ	ウ	エ	オ
4. 学ぼうとする障がい者に対する社会の理解がある	ア	イ	ウ	エ	オ
5. 学ぶ場に出かけていこうとする気持ちがある	ア	イ	ウ	エ	オ
6. 一緒に学ぶ友人、仲間がいる	ア	イ	ウ	エ	オ
7. 障がいのある人もない人も一緒に学ぶ機会がある	ア	イ	ウ	エ	オ
8. 学びに必要な費用が負担になっている	ア	イ	ウ	エ	オ
9. 外出すること自体に困難を感じる	ア	イ	ウ	エ	オ
10. 障がいのある人自身に卒業後も学びたいという意欲がある	ア	イ	ウ	エ	オ

3. 今後の学びのあり方について

問7 障がいのある人の生涯学習活動が行われる場として、今後どのような場で行われる機会が増えていくと良いと思いますか。次の1～12の中から、あてはまるものをすべて選んでください。

1. 自宅での学習活動（本、DVDなど）
2. テレビやラジオを活用した学習活動
3. インターネットを活用した学習活動
4. 自分が卒業した学校の同窓会などが主催する学びの場
5. 同好者が自主的にやっている集まり・サークル
6. 職場の教育・研修
7. 障がい福祉サービス事務所などの講座や余暇活動
8. 公衆館等の公的施設における講座や教室
9. 図書館、博物館、美術館で行われる講座や教室
10. カルチャースタター・スノークラブなど民間の場で行われる講座や教室
11. 大学や専門学校等で行われる講座や教室
12. その他（ ）

問8 本県において、障がいのある人の生涯学習を充実させていくにあたって、優先的に取り込むべきだと思うことは何ですか。次の1～8の中から3つ以内で選んでください。

1. 障がいや障がい者に対する理解と合理的配慮の提供
2. 障害者権利条約や障害者差別解消法等の法律や制度の周知・理解
3. 障がいのある人を対象とした講座や学習・体験プログラムの提供機会の充実
4. 障がいの有無に関わらず、誰もが参加できる講座や学習・体験プログラムの提供機会の充実
5. 障がいのある人の学びを支援する人々を確保していく取組の充実
6. 障がいのある人やその家族が学びの機会や場についての情報が得られる仕組みづくり
7. 障がいのある人やその家族が学びの機会や場について相談できる体制づくり
8. その他（ ）

2. 事業や講座の現状について

問3 貴施設における、「障がい者の学び支援」に関わる事業や体制において、次の1～3の項目について、ア「有り」、イ「無し」からそれぞれ1つ選んでください。

	有り	無し
1. 障がい者の学び支援に関わる「事業」	ア	イ
2. 障がい者の学び支援に関わる「担当費」(併任・専任含む)	ア	イ
3. 障がい者の学び支援に関わる「組織」	ア	イ

問4 貴施設では「障がい者の学び支援」に関わる経験がありますか。

1. 経験がある 一問5へ	2. 経験がない 一問6へ
---------------	---------------

※問4で「障がいのある方の学び支援に関わる経験がある」と回答された施設に伺います。

問5 (1) 具体的に経験した学習支援は何ですか。次の1～9の中からあてはまるものすべてを選んでください。

1. 学校で学んだ内容の維持や再学習に関する活動 → 教材や漢字、歴史、自然科学、社会問題などの学習	
2. 赤痢・レクリエーション活動 → 運動会、地域の交流り、同級生活動、研修や合宿など	
3. 文化芸術活動 → 絵画、書道、音楽、舞蹈などの表現や鑑賞活動	
4. 健康の維持・増進、スポーツ活動 → ウォーキング、ランニング、ダンス、ヨガ、自転車、水泳、競技、西洋将棋や囲碁スポーツなど	
5. 個人の生活に必要な知識やスキル(技術)に関する学習 → 料理、美容、医学・健康法、製菓、編み物、家庭生活、防災・救急、介護、幼児保育など	
6. 社会生活に必要な知識やスキル(技術)に関する学習 → 金融の管理、契約、資格や免許に関すること、税に関すること、社会福祉、法律、ボランティア活動のために必要な知識、集団生活でのルール、マナー、ITスキル、情報モラル	
7. 仕事のスキルアップや資格・免許取得など、職業生活に関わる学習 → 職業体験、職業探求、仕事に必要のある知識の取得や資格の取得、職業体験など	
8. 仲間づくり、学習意欲を高めるための人間的発達などに関する学習 → 仲間と学び合う場、さまざまな人たちとの関わりによって成長する場	
9. その他()	

(2) 利用している(利用したことがある)方の障がい種別について、次の1～8の中からあてはまるものすべてを選んでください。

1. 視覚障がい	2. 聴覚障がい
3. 肢体障がい(車いす、ストレッチャーあり)	4. 肢体障がい(車いす、ストレッチャーなし)
5. 知的障がい	6. 精神障がい
7. 発達障がい	8. その他()

(3) 利用している(したことがある)方の貴施設までの移動手段について、次の1～4の中からあてはまるものすべてを選んでください。

1. 保護者が車で送迎	
2. 就労施設や就労後サービス施設などの職員がバス又は車で送迎	
3. 利用者が運転または徒歩、自転車など自力で移動	
4. その他()	

(4) 利用内容について、次の1～5の中からあてはまるものすべてを選んでください。

1. 公民館主催教室・講座	
2. 公民館主催講座会・イベント	
3. 障がいのある方が講師を務める教室・講座、サークル等	
4. 講師(利用部)は名()	
5. その他()	

(5) 事業や講座の参加条件について、次の1～7の中からあてはまるものすべてを選んでください。

1. 障がいの種類・程度	2. 付添や介助の有無
3. 年齢	4. 移動手段の有無
5. 障害者手帳・療育手帳の所持	6. 指に設けていない
7. その他()	

(6) 事業や関係の広報手段について、次の1～6の中からあてはまるものをすべて選んでください。

1. 県や市町村広報紙
2. ポスター・チラシ
3. ホームページ・SNS (Facebook や Twitter 等)
4. 学校・障がい者団体等を通じて
5. 家庭・個人へ直接連絡
6. その他 ()

(7) ボランティアの参加はありますか (ありました) か。

1. ある (あった)
2. ない

(8) ボランティア等を対象とした障がい特性の理解等を促すための事前研修等がありますか (ありました) か。

1. ある (あった)
2. ない

※問4で「障がいのある方の学び支援に関わる経験がない」と回答された施設に同じです。

問6 その理由として考えられるものを次の1～9の中からあてはまるものをすべて選んでください。

1. 障がいのある方へ適切な情報が届いていない
2. 施設の情報がかかりにくい、理解しにくいものになっている
3. 障がいの有無にかかわらず参加可能な講座内容となっていない
4. 障がいの有無にかかわらず指導可能な講師や指導者の確保、育成ができていない
5. 施設側の障がいに関する理解が十分できていない
6. 教室・講座の受講者及び施設利用者との障がいに関する理解が十分できていない
7. 障がいのある方が使いやすい施設・設備の整備が不十分である
8. 筆談、要約筆記、手話通訳などの意思疎通の配慮ができていない
9. その他 ()

3. 今後の展望について

問7 今後、障がい者の生涯学習を推進する上で、どのような課題があると思いますか。次の1～14の中からあてはまるものをすべて選んでください。

1. 障がい者の生涯学習に関する体制の整備
2. 関係部局や関係機関・団体等との連携
3. 障がい者の生涯学習活動に関するニーズの把握
4. 障がい者の生涯学習活動に関する事業・プログラム開発
5. 講師及び指導者の確保・養成
6. 特別支援学校との連携
7. 生涯学習活動に関する情報提供
8. 特別支援教育や障がい者福祉等に関する専門的知識を有する、コーディネーター等の配置
9. 生涯学習機会の実現
10. 施設・設備の充実
11. 専門機関 (社会教育主事) の専門性の向上
12. 障がい・障がい者理解
13. ボランティアの確保、養成
14. その他 ()

問8 今後、障がい者に対応した事業を推進していくために必要な条件は何だと思いますか。次の1～5の中からあてはまるものを2つ選んでください。

1. 予算と施設・設備
2. 担当職員との連携とスタッフ・ボランティアの確保
3. 福祉関係団体や団体からの支援・協力
4. 障がい当事者や保護者、障がい者関係団体からの要求
5. その他 ()

問9 随がいきの生涯学普普基について、ご意見をお聞かせください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

④生涯学習担当部局用アンケート

⑤ 大分県教育委員会

D. 生涯学習担当部局用アンケート

令和4年度 障がい者の生涯学習に関するアンケート調査にご協力をお願いします。

県民の皆様へ

ご頃から、大分県社会教育の推進にご理解とご協力をお願いいたします。

大分県では、令和4年度から、障がいがある方が学校を卒業した後に地域の若者、仲間や友人と交流したりする活動を支援する取り組みを強めました。

この取り組みを充実したものにするために、障がいがある方々の学びについての今の状況や取り組んでみたいことについて知りたいと考え、このアンケートを行うことにしました。

本アンケートの対象は、大分県内にお住まいの、特別支援学校の生徒、保護者、教職員、公務員や回着型といった社会教育施設や各市町村の生涯学習を担当する部署にお勤めの方、障がい者就業支援施設を利用している方と職員の皆様です。

ぜひご協力をいただきますようお願いいたします。

令和4年9月 大分県教育庁生涯学習課長 高田 真二

【アンケート調査のご説明】

○この調査は秘密形式です。ご回答いただいたことにより、個人のお名前やご住所、調査結果が発表されることはありません。

○ご回答いただいた内容も、調査目的以外に使用しません。調査終了後、質問をもちかえります。

○ご回答は、回答ごとの選択式の番号（数字）に○を付けてください。

質問によっては、複数の○をつけていただくものもありますので、ご注意ください。

○本人が自分で回答しても、家族や周囲の方のサポートを受けながら回答してもよいです。

○回答後の扱いについて

○特別支援学校の生徒・保護者の皆様 → 回答の発生にお返しください。

○障がい者就業支援施設の利用者の皆様 → 施設の種類の方向にお返しください。

大分県教育庁生涯学習課 生涯学習担当課の皆様 → 活用期間に入らせてお返しください。

※回答（郵送）期限：9月28日（水）

【お問合せ先】

＜調査の進捗について＞
大分県教育庁生涯学習課
担当 岩瀬、鈴木
電話 097-506-5526
FAX 097-506-1798

＜調査の記入方法等について＞
株式会社九州みらい屋教育
担当 岩瀬
電話 096-214-6014
FAX 096-314-6015



1. 回答者の基本情報について

問1 あなたが勤務している市町村を次の1～18の中から1つ選んでください。

1. 中津市	2. 豊後高田市	3. 宇佐市	4. 忍原市
5. 杵築市	6. 国東市	7. 姫島村	8. 日出町
9. 太田市	10. 臼杵市	11. 津久保市	12. 臼杵市
13. 佐伯市	14. 臼杵市	15. 豊後大野市	16. 臼杵市
17. 九重町	18. 玖珠町		

2. 事業や講座の現状について

問2 県民主催の事業や講座について伺います。

(1) 事業や講座について、障がいのある方の参加はどのようになっていますか。

次の1～4の中からあてはまるものを1つ選んでください。

1. 障がい者および介護者を対象とした事業や講座がある（予定を含む）	→ (2) へ
2. 障がい者が参加できる事業や講座がある（予定を含む）	→ (3) へ
3. 障がい者の参加を促進していない	→ (4) へ
4. 障がい者の参加は基本的に受け入れていない	→ (4) へ

(2) - 7 障がいのある方が参加できる事業や講座を実施する理由は何ですか。次の1～9の中からあてはまるものすべてを選んでください。

1. 障がい者の生涯学習として必要
2. 地域からの要請
3. 特別支援学校や特別支援学校設置校からの要請
4. 保護者からの要請
5. 障がい当事者からの要請
6. 市民からの要請
7. 福祉団体や障がい者関係団体からの要請
8. 施設・設備が整っているから
9. その他()

※問2(1)で「3. 障がいの有無を考慮していない」と回答した方にのみ。

(3) 事業や講座において、障がいの有無を考慮されていない理由は何ですか。次の1～5の中からあてはまるものすべてを選んでください。

1. 事業や講座の内容が障がい者の習熟を妨げず参加可能である
2. これまで障がい者の参加がなかった
3. 障がい者理由に参加を断ることは不可解である
4. これまで要請する機会がなかった
5. その他()

※問2(1)で「4. 障がいの参加は基本的に受入れていない」と回答した方にのみ。

(4) 事業や講座において、障がいのある方の参加を基本的に受入れていない理由は何ですか。次の1～6の中からあてはまるものすべてを選んでください。

1. 事業予算、施設、設備の不足
2. 事業や講座を担うことができる職員やスタッフ・ボランティアの不足
3. 障がい当事者や保護者、障がい者関係の施設・関係団体からの要請不足
4. 障がい者については施設が担当
5. 対象となる障がい者の把握不足
6. その他()

3. 今後の展望について

問3 今後、障がい者の生涯学習を推進する上で、どのような課題があると思いますか。次の1～14の中からあてはまるものすべてを選んでください。

1. 障がい者の生涯学習に関する体系（システム）の整備
2. 関係部局や関係機関・団体等との連携
3. 障がい者の生涯学習活動に関するニーズの把握
4. 障がい者の生涯学習活動に関する事業・プログラム開発
5. 講師及び指導者の確保・養成
6. 特別支援学校との連携
7. 生涯学習活動に関する情報提供
8. 特別支援教育や障がい者福祉等に関する専門的知識を有する、コーディネーター等の配置
9. 生涯学習機会の充実
10. 施設・設備の充実
11. 専門機関（社会教育主催）の専門性の向上
12. 障がい・障がい者理解
13. ボランティアの確保、養成
14. その他()

問4 今後、障がい者に対応した事業を推進していくために必要な条件は何だと思いますか。次の1～6の中からあてはまるものを2つを選んでください。

1. 予算と施設・設備
2. 担当職員やスタッフ・ボランティアの確保
3. 福祉関係団体や団体からの支援・協力
4. 障がい当事者や保護者、障がい者関係団体からの要求
5. 障がい当事者の意識啓発
6. その他()

問5 随がいきの生涯学普普基について、ご意見をお聞かせください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

令和4年度「障がい者の生涯学習」に関する実態およびニーズ調査

編集・発行 大分県 教育庁 社会教育課 令和4年 11月
〒870-8501 大分県大分市府内町 3-10-1
Tel:097-506-5524 Fax:097-506-1798